

令和4年度

出会いから結婚・子育てまでの
切れ目ない支援のための
県民意識調査報告書

高 知 県

目 次

ページ

I	調査の設計	1
II	調査結果の見方	3
III	調査対象者の特性	5
	1. 広域市町村圏別の配布・回収状況	5
	2. 対象者の特性	5
IV	調査結果のあらまし	9
V	調査結果〔解説・グラフ〕	16
	〔1〕「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について	
	1. 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか	16
	〔2〕「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて	
	2. 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を 実現するために特に力を入れるべき施策	18
	3. 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する関心度	30
	4. 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由	54
	〔3〕出会い・結婚について	
	5. 交際相手との出会いを求めるために行いたいこと	56
	6. 現在結婚を選択していない理由	60
	7. 「適当な相手」に求める条件	76
	8. 出会いや結婚に関する行政の支援で必要と思うもの	92
	〔4〕子育てについて	
	9. 理想的な子どもの人数	104
	10. 現実的に持ちたいと考えている子どもの人数	106
	11. 理想の数だけ子どもを持たない理由	108
	12. 理想の数だけ子どもを持てる環境	120
	13. 妊娠期から乳幼児期の子育て支援でもっと充実してほしい取り組み	132
	14. 子育てに孤立や孤独を感じる方への必要なサポートの場	144
	15. ファミリー・サポート・センター事業への参加の有無	156

〔5〕女性の活躍とワークライフバランスについて

16. 女性が職場で活躍するのに必要なもの……………	158
17. 働きやすい職場環境づくりのために必要な支援……………	170
18. 男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援……………	182
19. 1日あたりの家事・育児にかかる時間……………	184
20. 男性の家庭や地域への参画を進めるのに必要な取組……………	198
VI 調査結果〔統計表〕……………	200
VII 自由回答〔少子化対策等に関する意見・感想〕……………	257
VIII 自由回答〔各設問【その他】の内容〕……………	276
IX 調査結果〔単純集計結果〕……………	285
X 参考資料〔調査票〕……………	311

I 調査の設計

1. 調査の目的

この調査は、県民の皆様のお考えをお聞きし、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料とさせていただくことを目的として行うものです。

2. 調査の事項

【1. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について】

高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

【2. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて】

『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策／高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する関心度／「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

【3. 出会い・結婚について】

交際相手との出会いを求めるために行いたいこと／現在結婚を選択していない理由／「適当な相手」に求める条件／出会いや結婚に関する行政の支援で必要と思うもの

【4. 子育てについて】

理想的な子どもの人数／現実的に持ちたいと考えている子どもの人数／理想の数だけ子どもを持たない理由／理想の数だけ子どもを持てる環境／妊娠期から乳幼児期の子育て支援でもっと充実してほしい取り組み／子育てに孤立や孤独を感じる方への必要なサポートの場／ファミリー・サポート・センター事業への参加の有無

【5. 女性の活躍とワークライフバランスについて】

女性が職場で活躍するのに必要なもの／働きやすい職場環境づくりのために必要な支援／男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援／1日あたりの家事・育児にかかる時間／男性の家庭や地域への参画を進めるのに必要な取組

3. 調査の対象

高知県内全域の18歳以上の県民4,000人
(各市町村の「選挙人名簿」より抽出)

4. 対象者の抽出方法

層化二段無作為抽出法

5. 調査の方法

郵送法

6. 調査の期間

令和4年8月29日（月）～9月12日（月）までの15日間

7. 実査および集計

株式会社 トミーコーポレーション

:

8. 調査票配布数と回収状況

配 布 数 4, 0 0 0 票

有効回収数 1, 1 4 3 人（郵送回答：8 3 2 人、WEB回答：3 1 1 人）

有効回収率 2 8 . 6 %



Ⅱ 調査結果の見方

1. 「V 調査結果〔解説・グラフ〕」は「VI 調査結果〔統計表〕」に基づき、要点のみを記述してあるので、「VI 調査結果〔統計表〕」をあわせて参照すること。

2. 「VI 調査結果〔統計表〕」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（％）算出の基礎となっている。

3. 「VI 調査結果〔統計表〕」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（％）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

なお、回答率は、小数第2位を四捨五入し、表示している。

4. 質問への回答方法は「1つだけ○印」、「あてはまるもの全てに○印」などの方法を採用している。したがって、複数回答の質問は比率を合計すると100%以上になる。

5. 設問によっては、該当者の人数を母数として回答率を算出した。

6. 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析した。

F1	性	別	…	男性、女性、その他の3種類に分類					
F2	年	代	別	… 18歳～24歳、25歳～29歳、30歳～34歳、35歳～39歳の4階層に分類					
F3	職	業	別	… 農林業、漁業、商工サービス業自営、事務職、技術職、労務職、管理職、自由業、主婦・主夫、学生、無職、その他の12種類に分類					
F4	詳	細	職	業	別	… 雇用者（正規の職員・従業員）、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）、雇用者（パート、アルバイト）、雇用者（契約社員、嘱託）、会社・団体等の役員、自営業主、家族従業者（自家営業の手伝い）、家庭内職者、無職（主婦、主夫、学生を含む）、その他の10種類に分類			
F5	世	帯	別	… 単身世帯（一人住まい）、夫婦（事実婚を含む）のみの世帯、親と子の世帯（二世帯世帯）、三世帯世帯（親、子、孫の世帯）、その他の5種類に分類					
F6	結	婚	の	有	無	… 結婚している（事実婚を含む）、未婚で交際中、未婚で交際していない人はいない、交際未経験、離別・死別の5種類に分類			
F7	夫	婦	共	働	き	の	有	無	… はい、いいえの別
F8	お	子	さ	ん	の	数	別	… 子どもなし、1人、2人、3人、4人、5人以上の6種類に分類	

F9 末子の子どもの状況別 … 未就学児、小学生、中学生以上の3種類に分類

F10 広域市町村圏別 … 高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏の1市7広域圏に分類

※ 対象者の職業別、広域市町村圏別は次のとおりである。

◆職業別

農 林 業	}	(主婦・主夫の場合は家庭内の仕事と田畑、漁業に出る時間を比較して多い方を選択)
漁 業		
商工サービス業自営		(商店や工場などを自分でやっている人、家族従業者を含む)
事 務 職		(勤め人や公務員で主に事務系の仕事の人、管理者以上を除く)
技 術 職		(主に技術系の仕事の人、看護師、保育士など、管理者以上を除く)
労 務 職		(現場従業員、工員、運転手、店員、日雇い、大工など)
管 理 職		(勤め人・公務員で課長以上の場合、校長・教頭など)
自 由 業		(医師、弁護士、画家、僧侶、大学教授など)
主 婦・主 夫		(家庭内の仕事が一日で最も多い場合)
学 生		(高校、短大、大学、その他の学校在学中)
無 職		(年金などで生活しているか、自分の収入がなく、または働いていない場合)
そ の 他		(上のいずれにも属さないもの)

◆広域市町村圏別

高 知 市	
安 芸 広 域 圏	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村馬路村、芸西村
南国・香美広域圏	南国市、香南市、香美市
嶺 北 広 域 圏	本山町、大豊町、土佐町、大川村
仁 淀 川 広 域 圏	土佐市、いの町、日高村
高 吾 北 広 域 圏	佐川町、越知町、仁淀川町
高 幡 広 域 圏	須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町
幡 多 広 域 圏	宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町

Ⅲ 調査対象者の特性

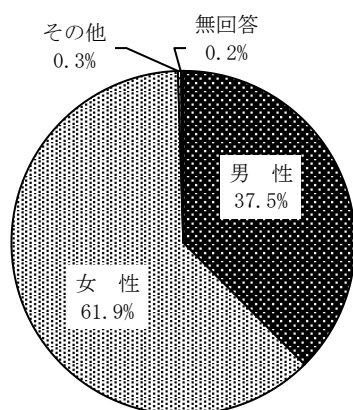
※構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が 100%にならない場合もある。

1. 広域市町村圏別の配布・回収状況

広域市町村圏	配布数（人）	有効回収状況		
		回答数（人）	回収率（%）	構成比（%）
高知市	1,840	550	29.9	48.6
安芸広域圏	268	78	29.1	6.9
南国・香美広域圏	600	164	27.3	14.5
嶺北広域圏	65	18	27.7	1.6
仁淀川広域圏	310	73	23.5	6.5
高吾北広域圏	134	40	29.9	3.5
高幡広域圏	303	76	25.1	6.7
幡多広域圏	480	132	27.5	11.7
無回答		12		1.0
合 計	4,000	1,143	28.6	100.0

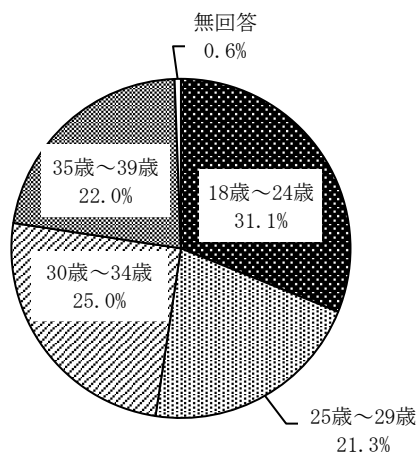
2. 対象者の特性

F 1 性別



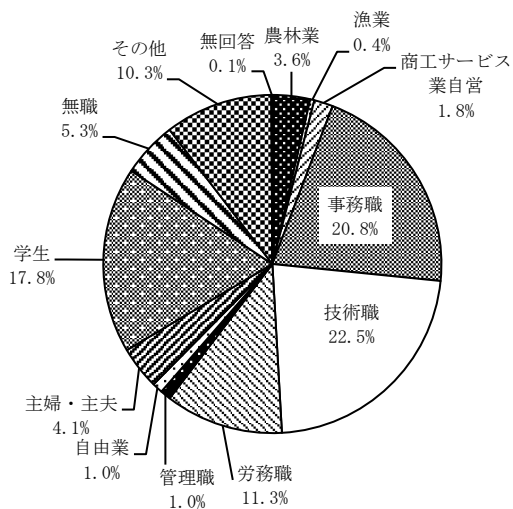
区 分	回答数（人）	構成比（%）
男 性	429	37.5
女 性	708	61.9
その他	4	0.3
無回答	2	0.2
合 計	1,143	100.0

F 2 年代別



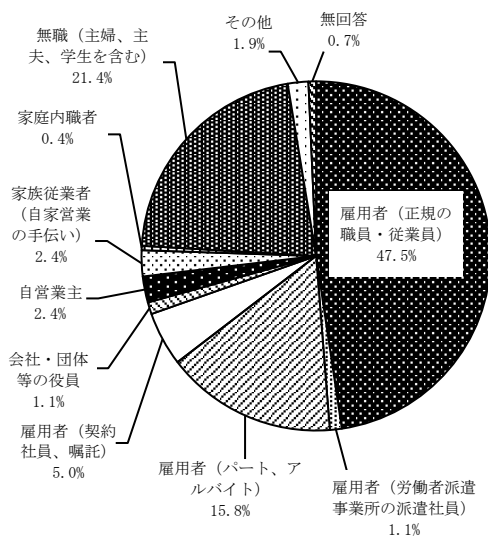
区 分	回答数（人）	構成比（%）
18 歳～24 歳	355	31.1
25 歳～29 歳	243	21.3
30 歳～34 歳	286	25.0
35 歳～39 歳	252	22.0
無回答	7	0.6
合 計	1,143	100.0

F 3 職業別



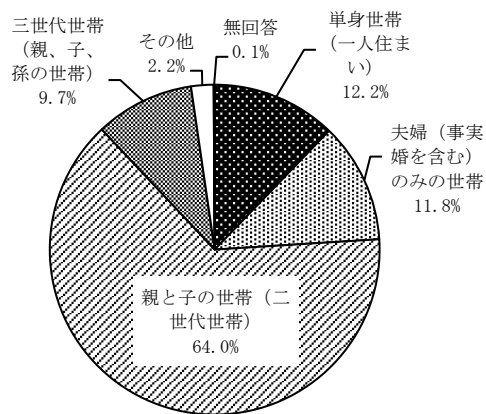
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
農林業	41	3.6
漁 業	5	0.4
商工サービス業	21	1.8
事務職	238	20.8
技術職	257	22.5
労務職	129	11.3
管理職	11	1.0
自由業	11	1.0
主婦・主夫	47	4.1
学 生	203	17.8
無 職	61	5.3
その他	118	10.3
無回答	1	0.1
合 計	1,143	100.0

F 4 詳細職業別



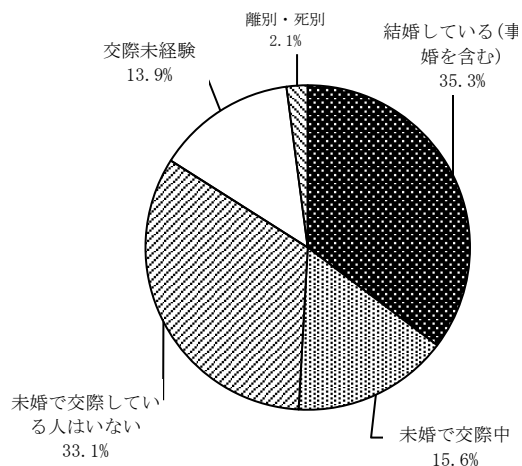
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
雇用者（正規の職員・従業員）	543	47.5
雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）	13	1.1
雇用者（パート、アルバイト）	181	15.8
雇用者（契約社員、嘱託）	57	5.0
会社・団体等の役員	13	1.1
自営業主	28	2.4
家族従業者（自家営業の手伝い）	28	2.4
家庭内職者	5	0.4
無職（主婦、主夫、学生を含む）	245	21.4
その他	22	1.9
無回答	8	0.7
合 計	1,143	100.0

F 5 世帯別



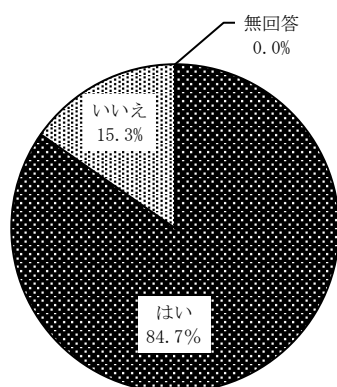
区 分	回答数（人）	構成比（%）
単身世帯（一人住まい）	139	12.2
夫婦（事実婚を含む）のみの世帯	135	11.8
親と子の世帯（二世帯世帯）	732	64.0
三世帯世帯（親、子、孫の世帯）	111	9.7
その他	25	2.2
無回答	1	0.1
合 計	1,143	100.0

F 6 結婚の有無



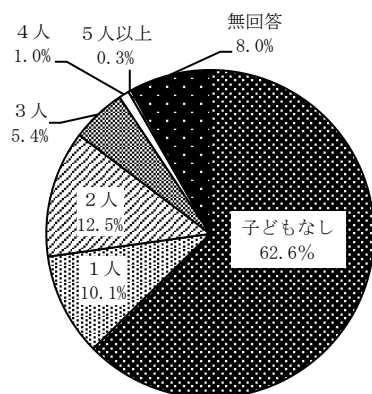
区 分	回答数（人）	構成比（%）
結婚している（事実婚を含む）	404	35.3
未婚で交際中	178	15.6
未婚で交際している人はいない	378	33.1
交際未経験	159	13.9
離別・死別	24	2.1
無回答	0	0.0
合 計	1,143	100.0

F 7 夫婦共働きの有無



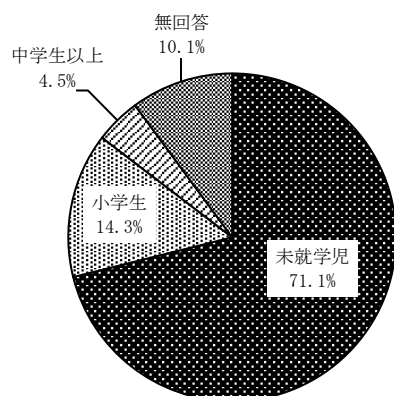
区 分	回答数（人）	構成比（%）
はい	342	84.7
いいえ	62	15.3
無回答	0	0.0
合 計	404	100.0

F 8 お子さんの数別



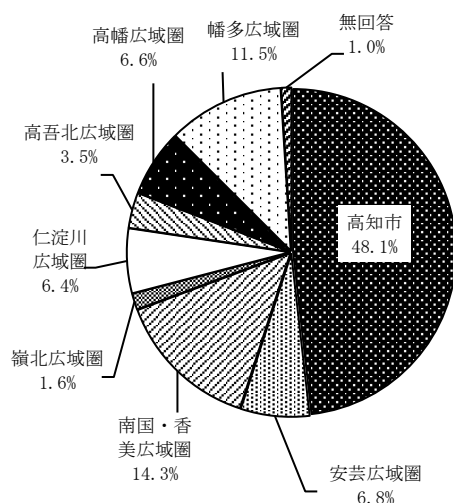
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
子どもなし	715	62.6
1人	116	10.1
2人	143	12.5
3人	62	5.4
4人	12	1.0
5人以上	3	0.3
無回答	92	8.0
合 計	1,143	100.0

F 9 末子の子ども状況別



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
未就学児	239	71.1
小学生	48	14.3
中学生以上	15	4.5
無回答	34	10.1
合 計	336	100.0

F 10 広域市町村圏別



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	550	48.1
安芸広域圏	78	6.8
南国・香美広域圏	164	14.3
嶺北広域圏	18	1.6
仁淀川広域圏	73	6.4
高吾北広域圏	40	3.5
高幡広域圏	76	6.6
幡多広域圏	132	11.5
無回答	12	1.0
合 計	1,143	100.0

IV 調査結果のあらまし

【1. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について】

問1 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

「どちらともいえない」が37.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」26.1%、「ややそう思う」17.4%と続いている。

【2. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて】

問2 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策

【1位】

「ワークライフバランスの推進」が24.6%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」20.0%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」16.5%と続いている。

【2位】

「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が27.4%と最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」21.1%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」15.0%と続いている。

【3位】

「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が18.0%とわずかな差で最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」17.6%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」17.1%と続いている。

問3 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する関心度

1. 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

「関心がない」45.8%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」21.1%、「関心がある」17.8%と続いている。

2. 高知で恋しよ！！応援サイト

「関心がない」59.2%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」11.7%と続いている。

3. 高知で恋しよ！！マッチング

「関心がない」62.0%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」12.4%と続いている。

4. 高知で恋しよ！！イベント

「関心がない」59.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.2%、「関心がある」11.9%と続いている。

5. 婚活サポーター（サブサポーター）

「関心がない」65.1%と最も高く、次いで「関心がある」13.4%、「活用したことがない：関心がない」13.3%と続いている。

6. こうち子育て応援の店

「関心がない」が40.9%と最も高く、次いで「関心がある」34.0%、「活用したことがない：関心がある」12.9%と続いている。

7. 高知の子育て応援サイト「こうちプレマnet」

「関心がない」が46.4%と最も高く、次いで「関心がある」32.2%、「活用したことがない：関心がある」10.3%と続いている。

8. 子ども食堂

「活用したことがない：関心がある」が42.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」19.4%、「関心がない」17.8%、「関心がある」14.8%と続いている。

9. 子育て世代包括支援センター

「関心がない」が37.6%と最も高く、次いで「関心がある」26.3%、「活用したことがない：関心がある」20.7%、「活用したことがない：関心がない」9.7%と続いている。

10. 地域子育て支援センター

「関心がない」が32.3%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がある」22.3%、「関心がある」21.2%、「活用したことがある」11.6%、「活用したことがない：関心がない」11.5%と続いている。

11. ファミリー・サポート・センター

「関心がない」が37.4%と最も高く、次いで「関心がある」27.5%、「活用したことがない：関心がある」21.6%、「活用したことがない：関心がない」11.0%と続いている。

12. 産後ケア事業

「関心がない」が40.2%と最も高く、次いで「関心がある」29.6%、「活用したことがない：関心がある」18.5%、「活用したことがない：関心がない」8.0%と続いている。

問4 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

「すでに付き合っている人がいるから」が19.8%と最も高く、次いで「結婚するつもりがないから」16.3%、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」15.9%と続いている。

また、「その他」と回答した割合も24.2%と高くなっている。

【3. 出会い・結婚について】

問5 交際相手との出会いを求めるために行いたいこと

「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が42.6%と最も高く、次いで「職場や仕事の関係で出会いを求める」29.4%、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動に入ったり、習い事をはじめめる」20.5%と続いている。

問6 現在結婚を選択していない理由

【1位】

「適当な相手にまだめぐり会わないから」が26.9%と最も高く、次いで「安定した就労収入でないから」12.4%、「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」12.0%と続いている。

【2位】

「安定した就労収入でないから」が13.1%と最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」11.7%と続いている。

【3位】

「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が12.4%と最も高く、「結婚を選択する必要性をまだ感じていないから」12.3%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%と続いている。上位はほとんど差がない。

【「2」を選択した場合の希望の年齢】

「25歳～28歳」が54.1%と半分以上を占めている。

問7 「適当な相手」に求める条件

【1位】

「価値観が近いこと」が58.4%と半分以上を占めている。

【2位】

「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が18.2%と最も高く、「コミュニケーション力があること」16.2%、「家事や育児へ積極的に取り組むこと」15.9%と続いている。

【3位】

「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が17.9%と最も高く、次いで「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」14.3%、「共通の趣味があること」13.6%と続いている。

【「3」を選択した場合の希望の年収】

「年収500万円」が38.1%と最も高く、次いで「年収300万円」13.4%、「年収600万円」12.4%と続いている。

問8 出会いや結婚に関する行政の支援で必要と思うもの

【1位】

「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が36.2%と最も高く、次いで「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」22.2%、「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」10.8%と続いている。

【2位】

「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が19.0%と最も高く、次いで同率で「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が17.1%と高く、「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」11.5%と続いている。

【3位】

「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が16.6%と最も高く、次いで「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」12.3%、同率で「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が11.5%と続いている。

【4. 子育てについて】

問9 理想的な子どもの人数

「2人」が50.7%と最も高く、次いで「3人」30.3%、「1人」7.6%と続いている。

問10 現実的に持ちたいと考えている子どもの人数

「2人」が50.1%と最も高く、次いで「3人」18.5%、「1人」15.7%と続いている。

問11 理想の数だけ子どもを持たない理由

【1位】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が53.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」9.2%、「年齢的にこれ以上子どもを持つことは難しいと感じるから」7.7%と続いている。

【2位】

「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が17.9%と最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」16.7%、「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」16.1%と続いている。

【3位】

「将来の社会に漠然とした不安があるから」が19.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」14.9%、「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」13.4%と続いている。

問12 理想の数だけ子どもを持てる環境

【1位】

「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が17.9%と最も高く、次いで「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」17.6%、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」14.6%と続いている。

【2位】

「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が21.7%と最も高く、次いで同率で「育児と仕事を両立できる職場環境がある」と「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が14.3%、「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」8.6%と続いている。

【3位】

「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が18.2%と最も高く、次いで、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」12.2%、「育児と仕事を両立できる職場環境がある」11.3%と続いている。

問13 妊娠期から乳幼児期の子育て支援でもっと充実してほしい取り組み

【1位】

「子育ての負担を軽減する家事支援」が16.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」13.4%、「不妊治療に関する経済的支援」12.8%と続いている。

【2位】

「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が14.9%と最も高く、次いで「子育ての負担を軽減する家事支援」14.3%、「子育て支援センターの土日開所」12.8%と続いている。

【3位】

「父親の家事・育児参画を促進する講座」が13.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」11.0%、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」10.7%と続いている。

問14 子育てに孤立や孤独を感じる方への必要なサポートの場

【1位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が28.0%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」13.7%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」12.5%と続いている。

【2位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が20.5%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」18.2%、「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」11.3%と続いている。

【3位】

「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」が15.2%と最も高く、次いで「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」14.6%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」11.6%と続いている。

問15 ファミリー・サポート・センター事業への参加の有無

「現時点ではわからない」が45.8%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」28.3%、「ファミリー・サポート・センターに限らず、地域の子育て援助活動に関わってみたい」11.3%と続いている。

【5. 女性の活躍とワークライフバランスについて】

問16 女性が職場で活躍するのに必要なもの

【1位】

「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が49.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.3%、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」10.9%と続いている。

【2位】

「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が25.5%と最も高く、次いで「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」20.2%、「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」13.2%と続いている。

【3位】

「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が21.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.7%、「職場にキャリアアップにつながる人材育成の仕組みが整っていること」12.2%と続いている。

問17 働きやすい職場環境づくりのために必要な支援

【1位】

「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が47.2%と最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」21.3%、「時間単位で取得できる年次有給休暇」9.2%と続いている。

【2位】

「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が25.5%と最も高く、次いで「時間単位で取得できる年次有給休暇」22.7%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」15.5%と続いている。

【3位】

「育児休業取得後の復職に向けたサポート」20.1%が最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」19.5%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」13.5%と続いている。

問18 男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援

「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が40.0%と最も高く、次いで「休業中の収入を補填する制度」が34.5%、「上司・管理職等を対象とした研修の開催」8.1%と続いている。

問19 1日あたりの家事・育児にかかる時間

1. 家事・育児に要する時間【平日】

「9時間以上」が19.6%と最も高く、次いで「5時間以上～6時間未満」が12.2%、「6時間以上～7時間未満」が11.9%と続いている。

2. 家事・育児に要する時間【休日】

「9時間以上」が56.8%と最も高く、次いで「8時間以上～9時間未満」が6.8%、「5時間以上～6時間未満」が6.5%と続いている。

問20 男性の家庭や地域への参画を進めるのに必要な取組

「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が22.0%と最も高く、次いで「職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）」18.5%、「父親同士が交流できる仲間づくりの場」14.2%と続いている。

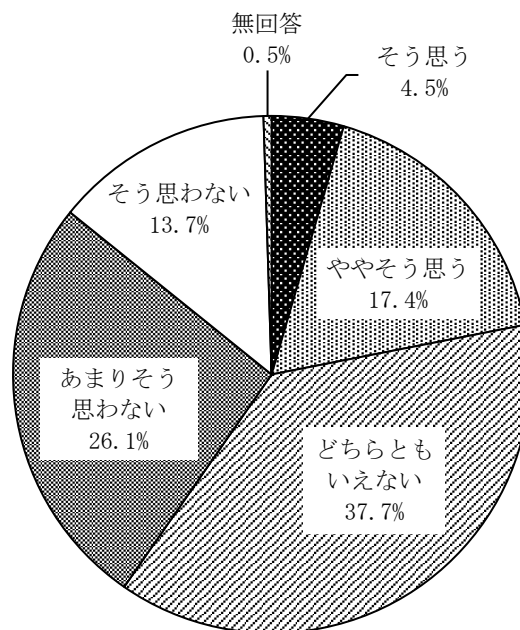
V 調査結果〔解説・グラフ〕

【１．「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について】

問１ あなたは、高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思いますか。（１つだけ○印）

「どちらともいえない」が 37.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」26.1%、「ややそう思う」17.4%と続いている。

《 総 合 》



【性別】

男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「どちらともいえない」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏では「どちらともいえない」が、嶺北広域圏、幡多広域圏では「あまりそう思わない」が最も高くなっている。

そう思う

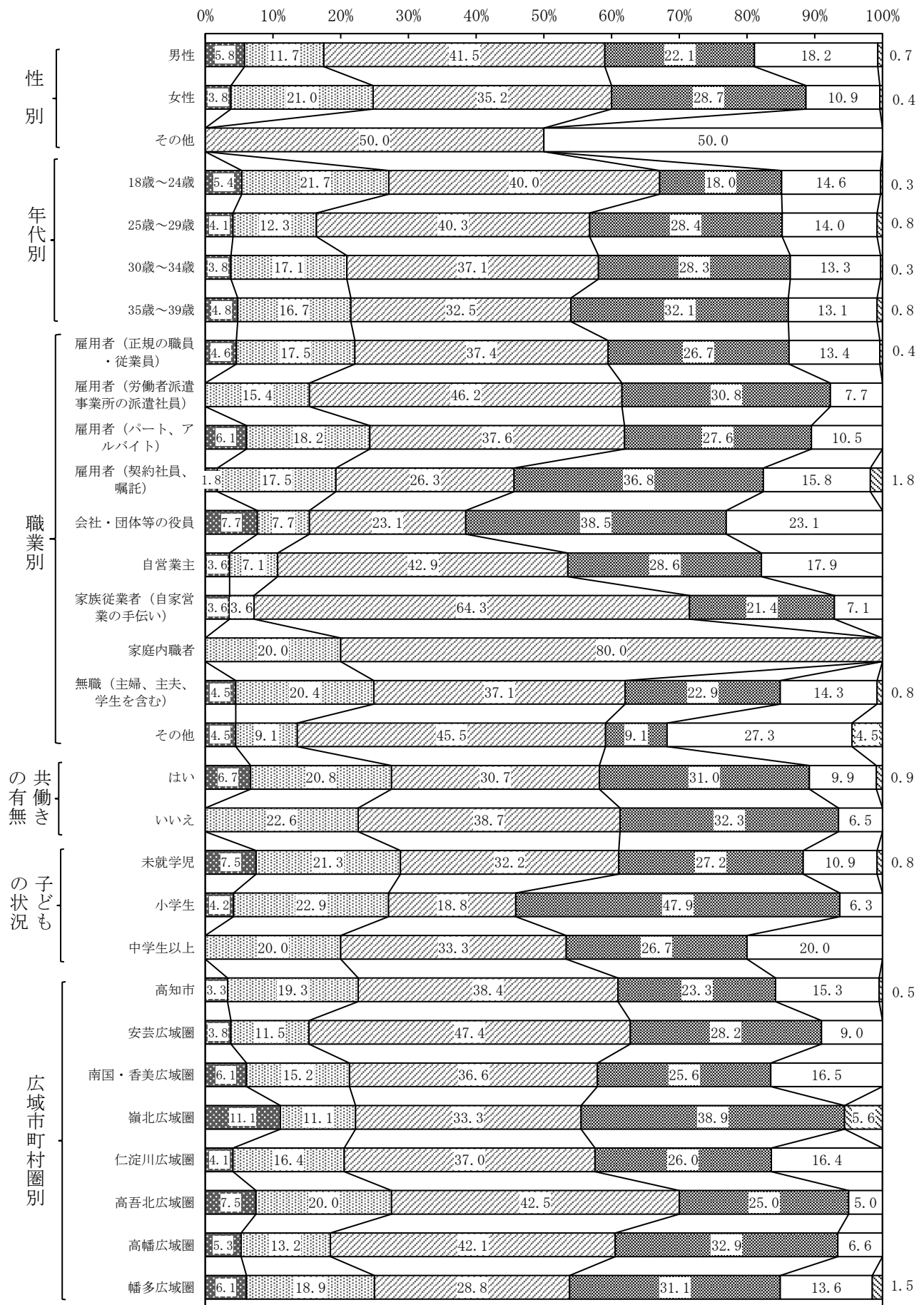
 ややそう思う

 どちらともいえない

 あまりそう思わない

 そう思わない

 無回答

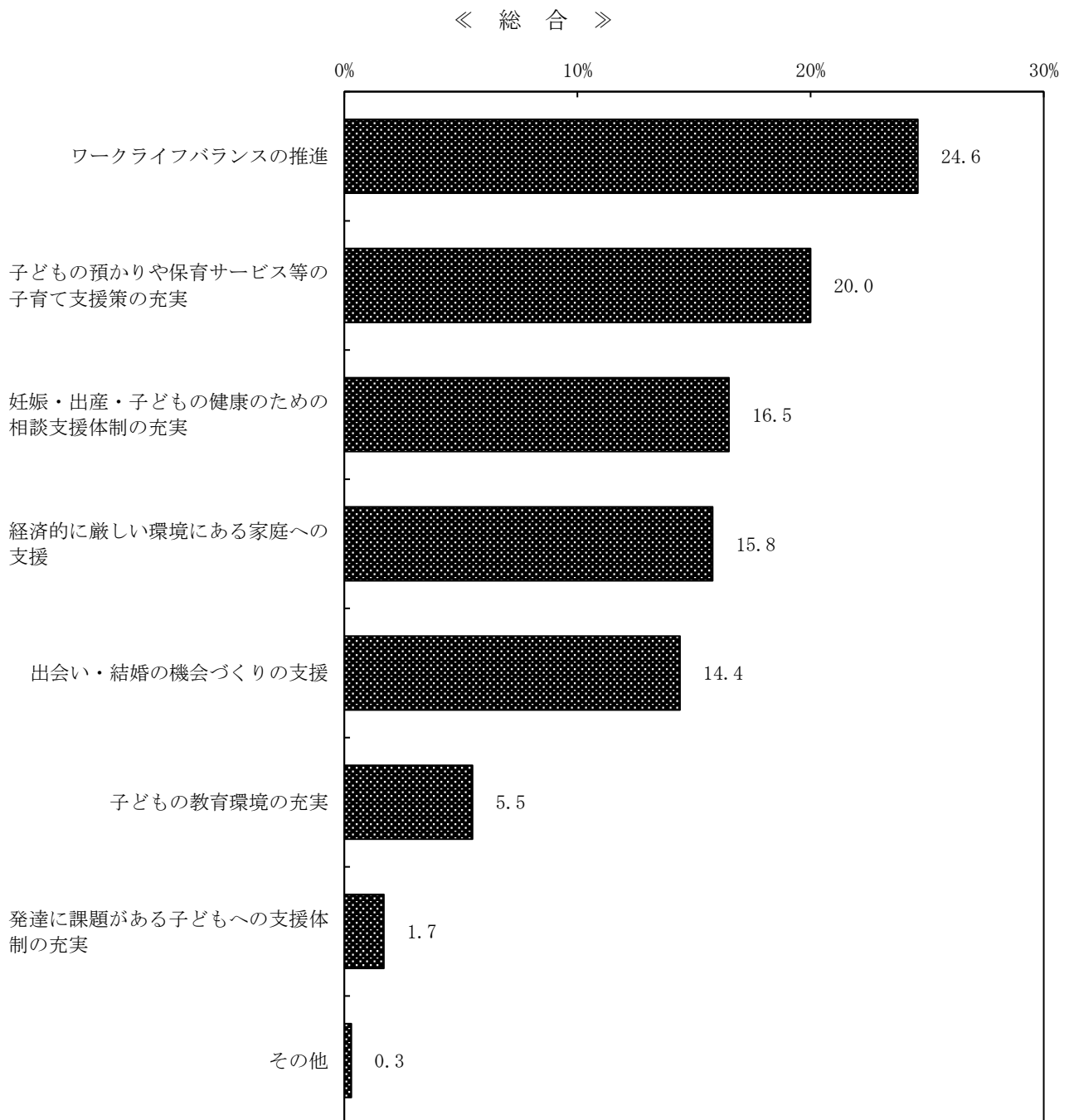


【2. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への取り組みについて】

問2 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【1位】

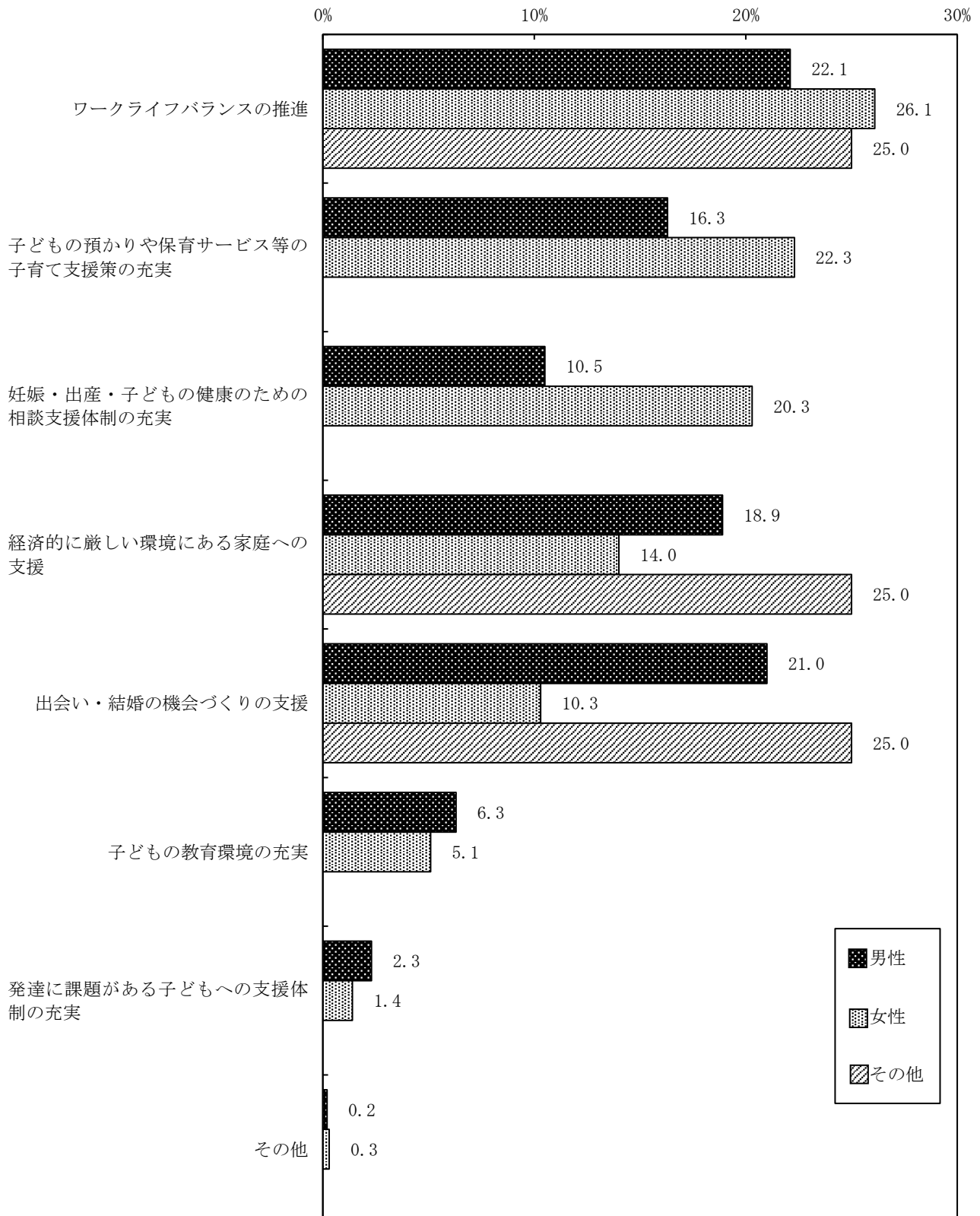
「ワークライフバランスの推進」が24.6%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」20.0%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」16.5%と続いている。



【性別】

男女ともに「ワークライフバランスの推進」が最も高く、次いで男性では「出会い・結婚の機会づくりの支援」21.0%、「経済的に厳しい環境にある家庭への支援」18.9%と続いている。女性では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」22.3%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」20.3%と続いている。

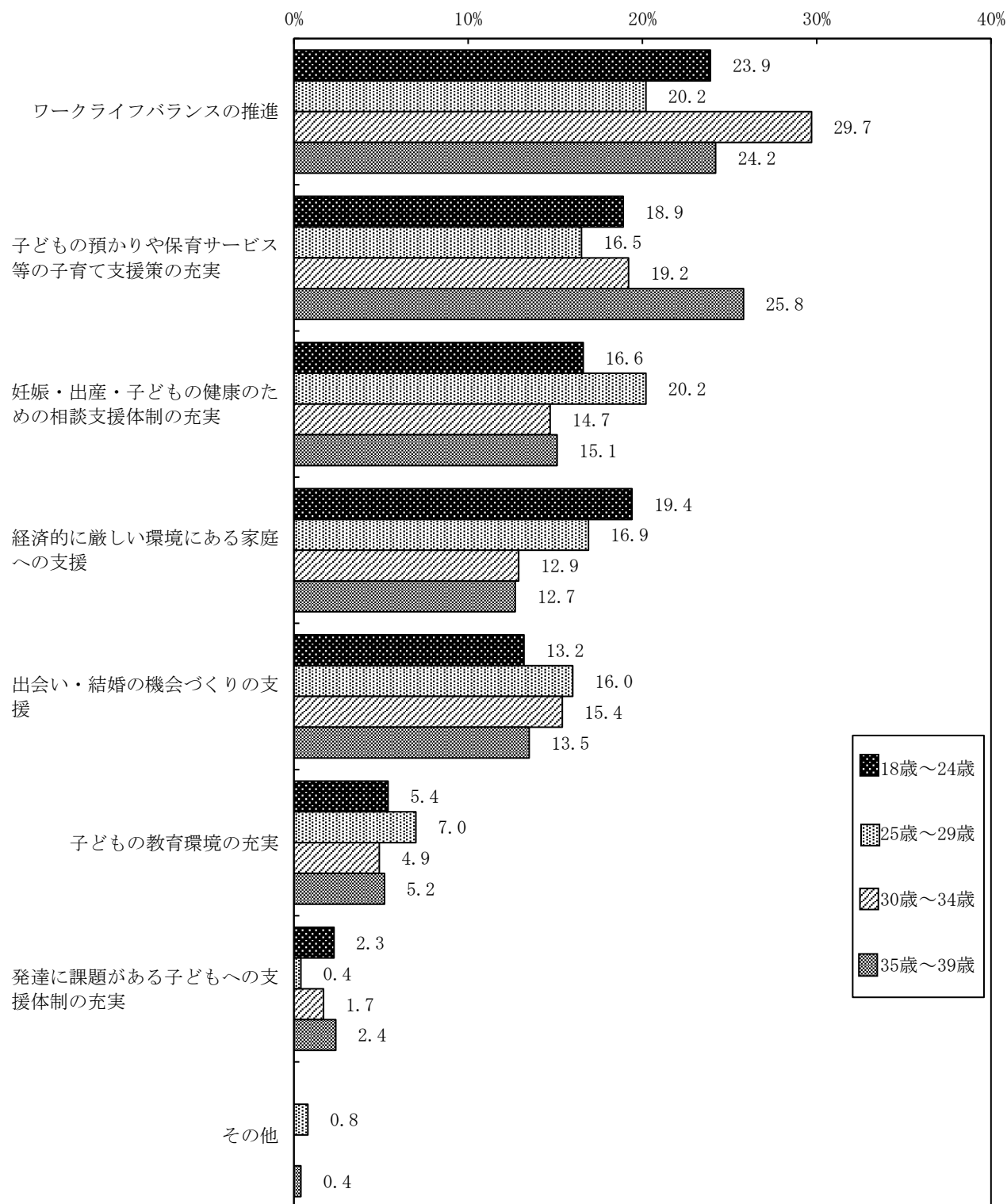
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳、30 歳～34 歳では「ワークライフバランスの推進」が、同率で 25 歳～29 歳では「ワークライフバランスの推進」、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」が、35 歳～39 歳では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が最も高くなっている。

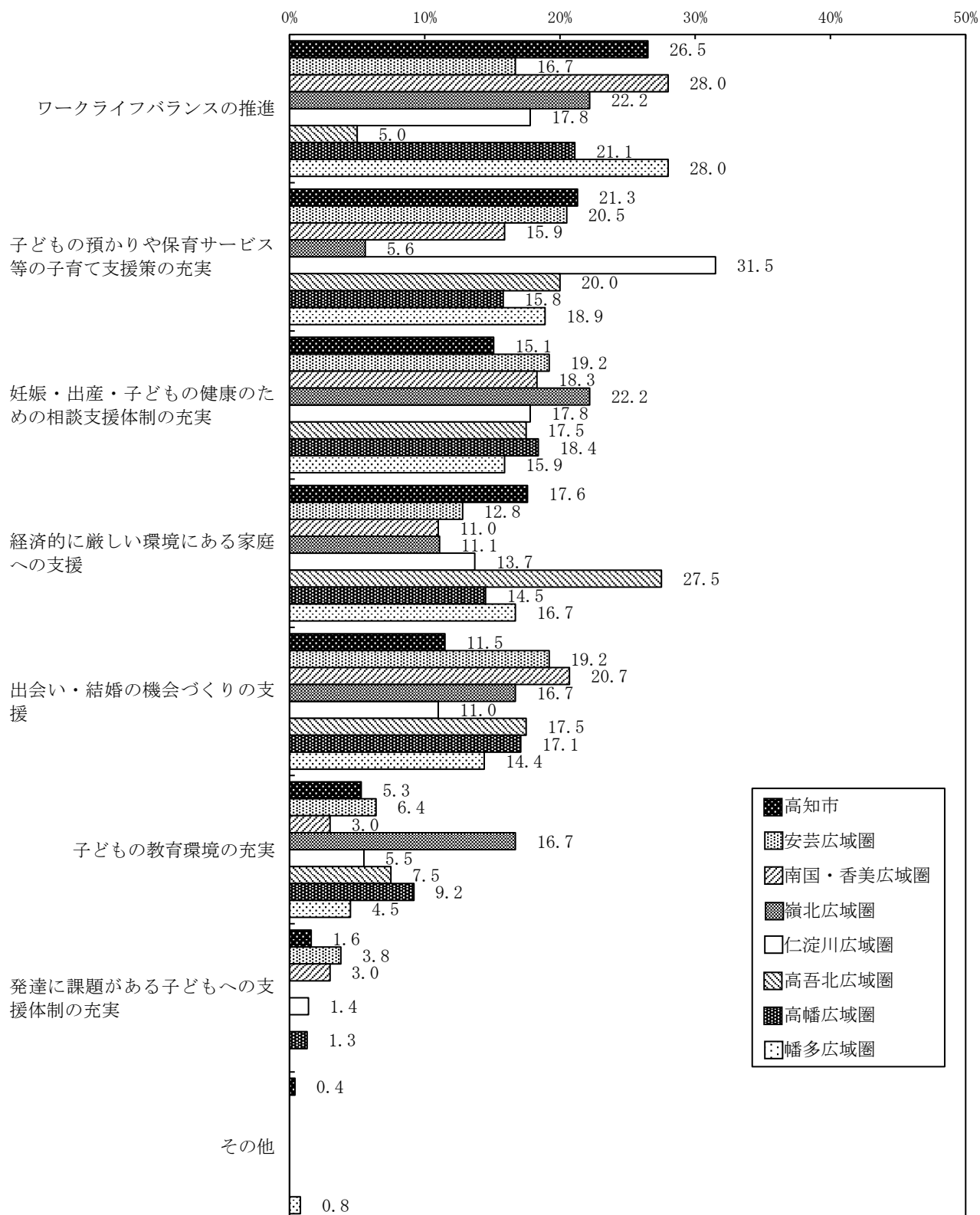
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、南国・香美広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏では「ワークライフバランスの推進」が最も高く、嶺北広域圏では同率で「ワークライフバランスの推進」と「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」が、安芸広域圏、仁淀川広域圏では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が、高吾北広域圏では「経済的に厳しい環境にある家庭への支援」が最も高くなっている。

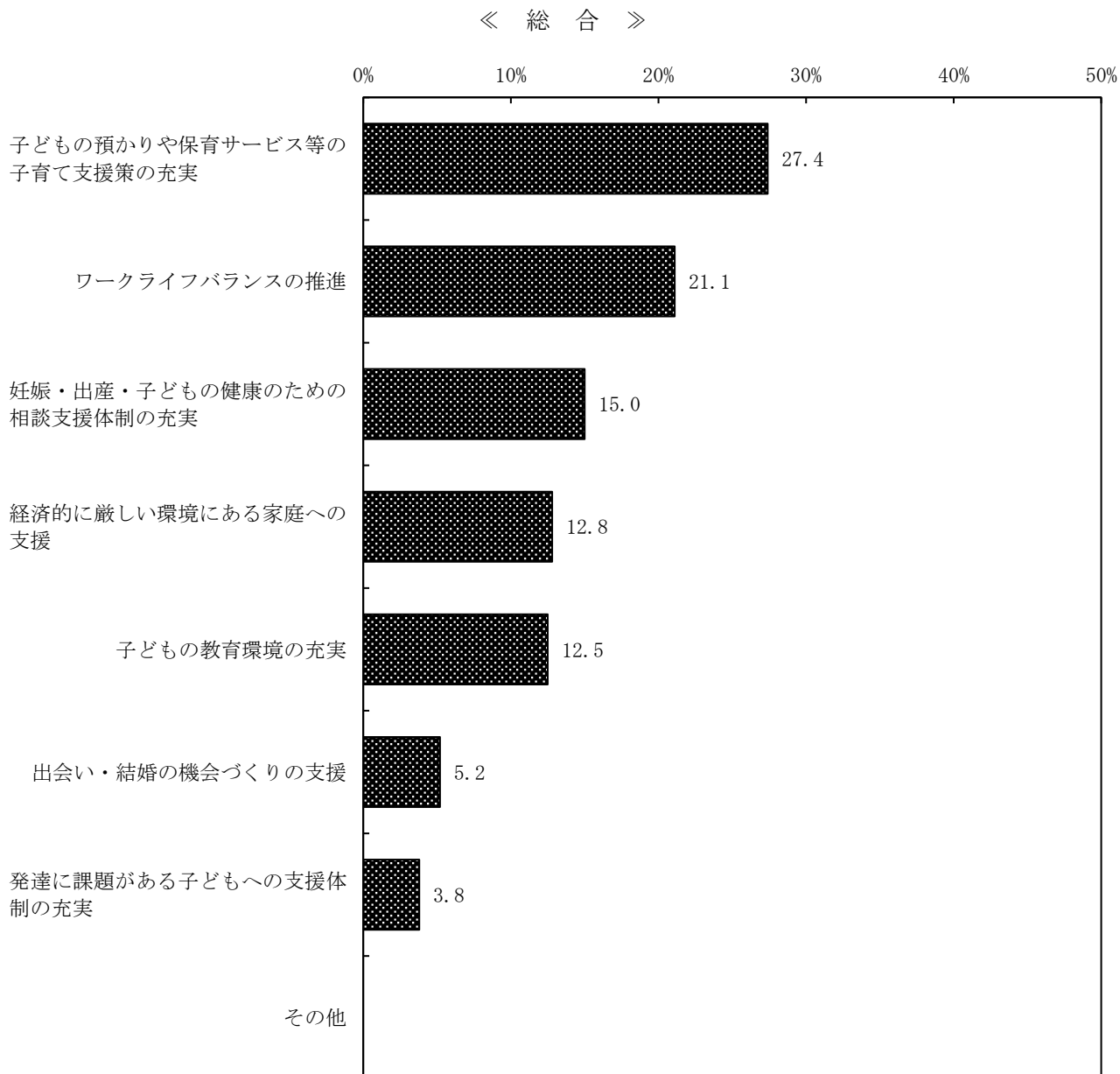
《広域市町村圏別》



問2 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」ができるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思われますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

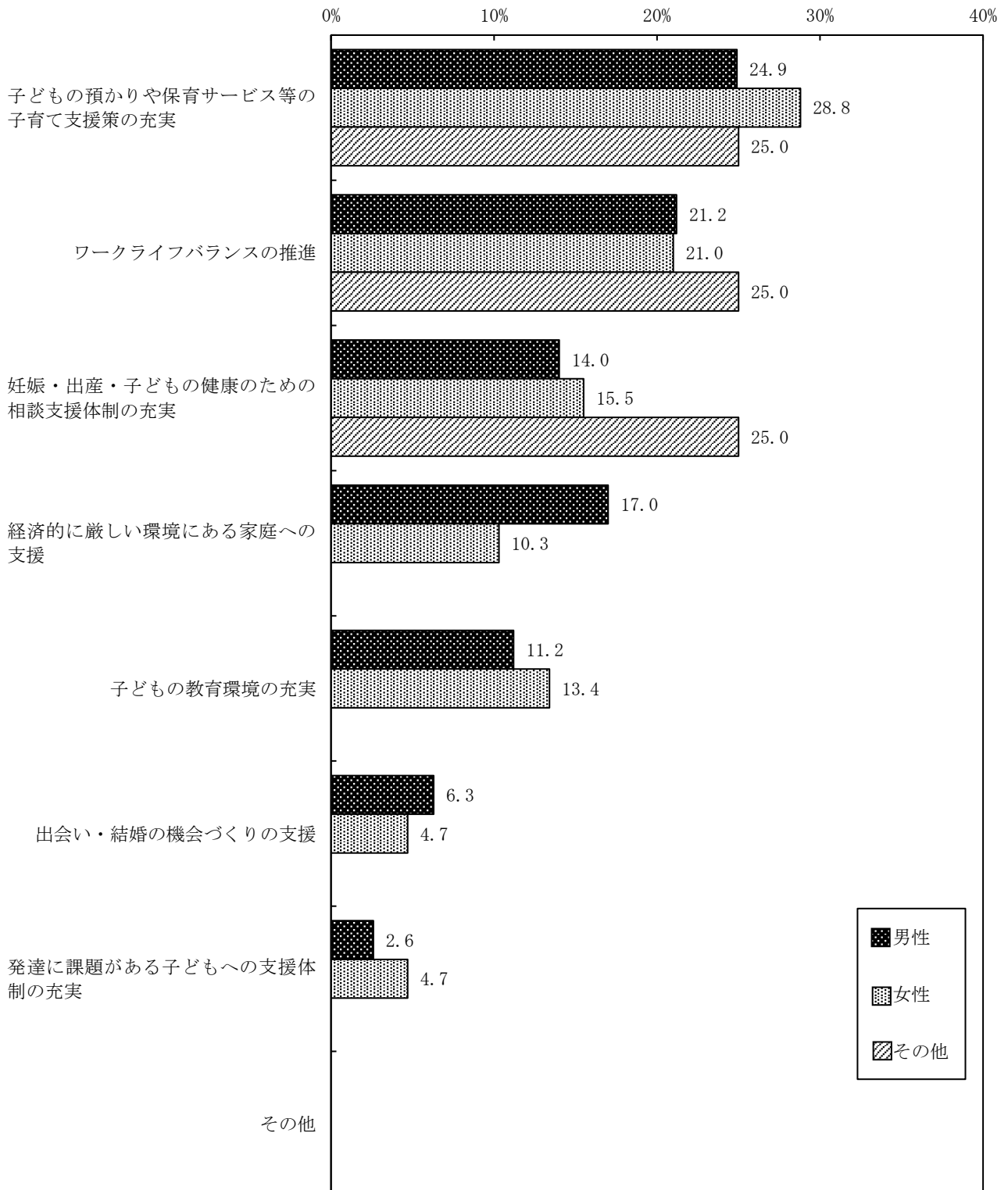
「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が27.4%と最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」21.1%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」15.0%と続いている。



【性別】

男女ともに「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」が、男性では「経済的に厳しい環境にある家庭への支援」が、女性では「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」と続いている。

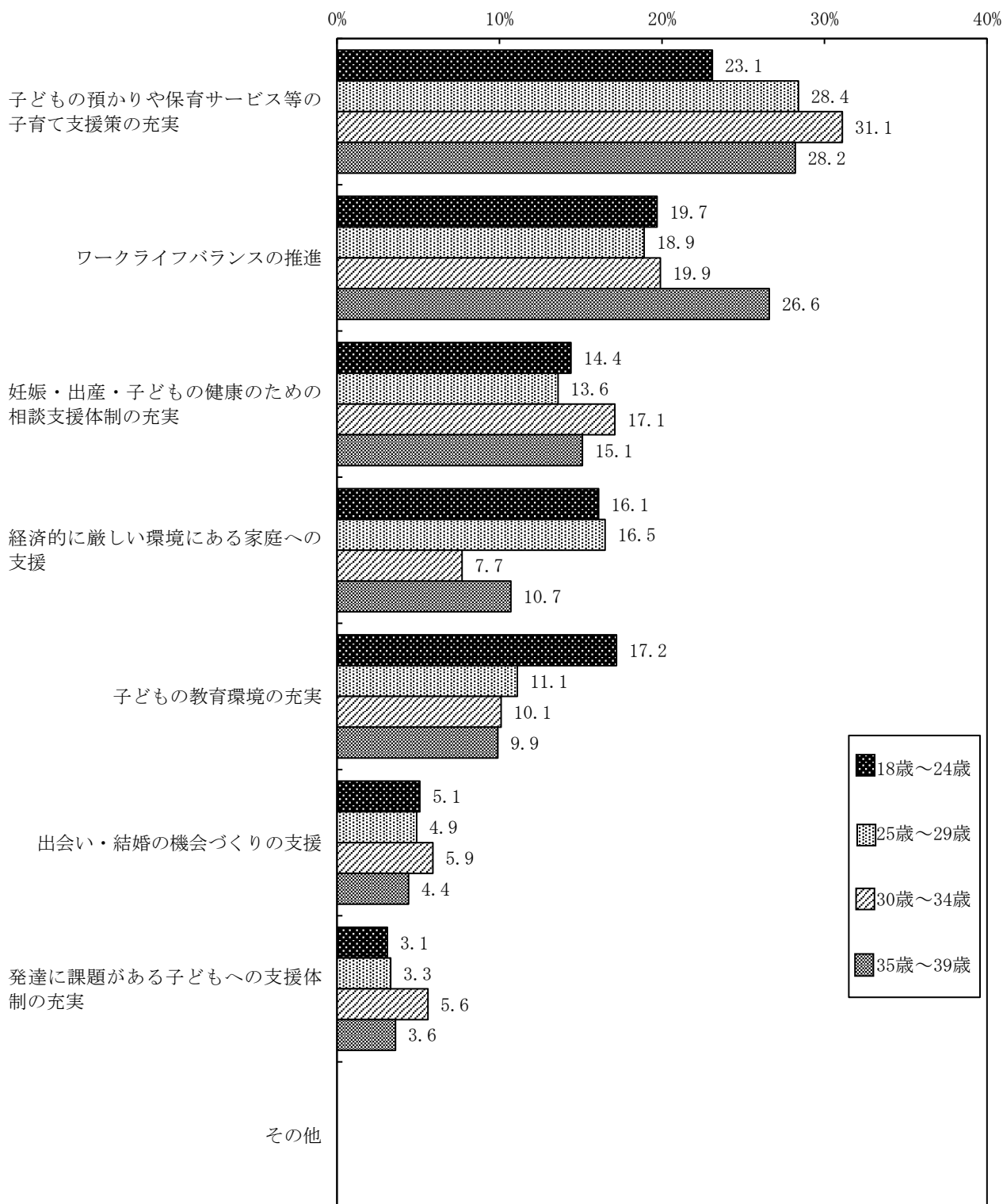
《 性 別 》



【年代別】

すべての年代で「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」が続いている。

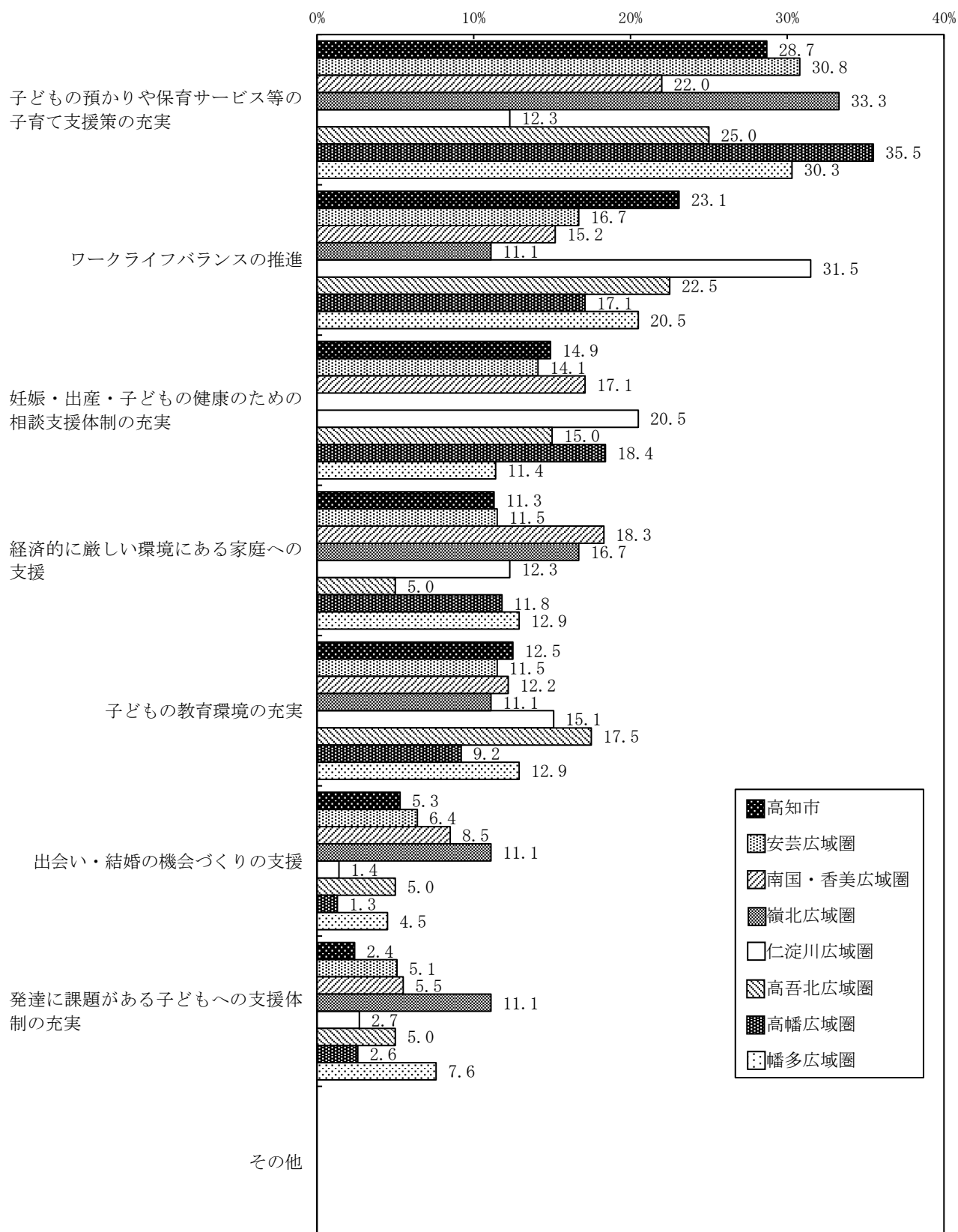
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

仁淀川広域圏を除くすべての広域市町村圏では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が最も高く、仁淀川広域圏では「ワークライフバランスの推進」が最も高くなっている。

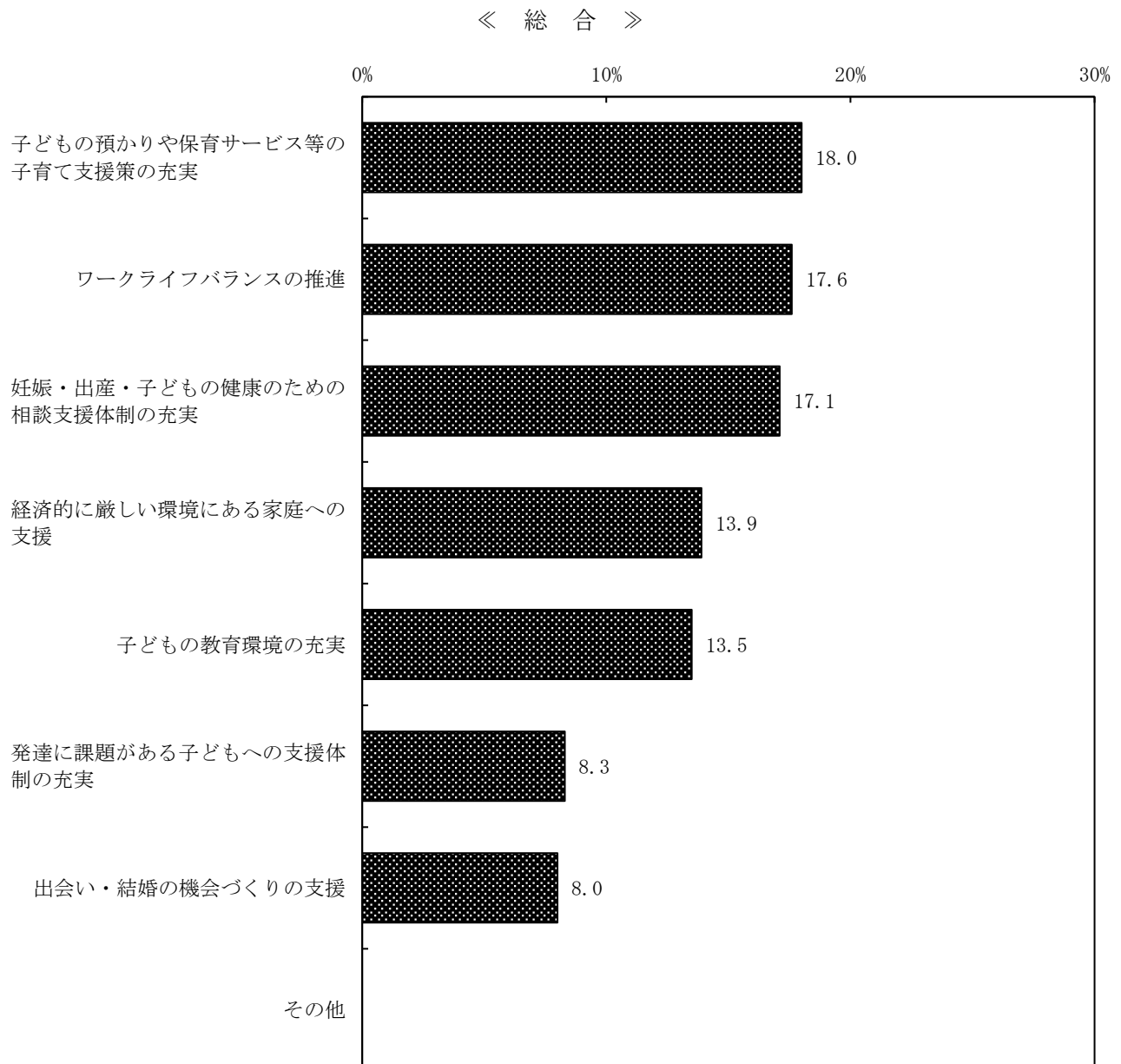
《 広域市町村圏別 》



問2 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」ができるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

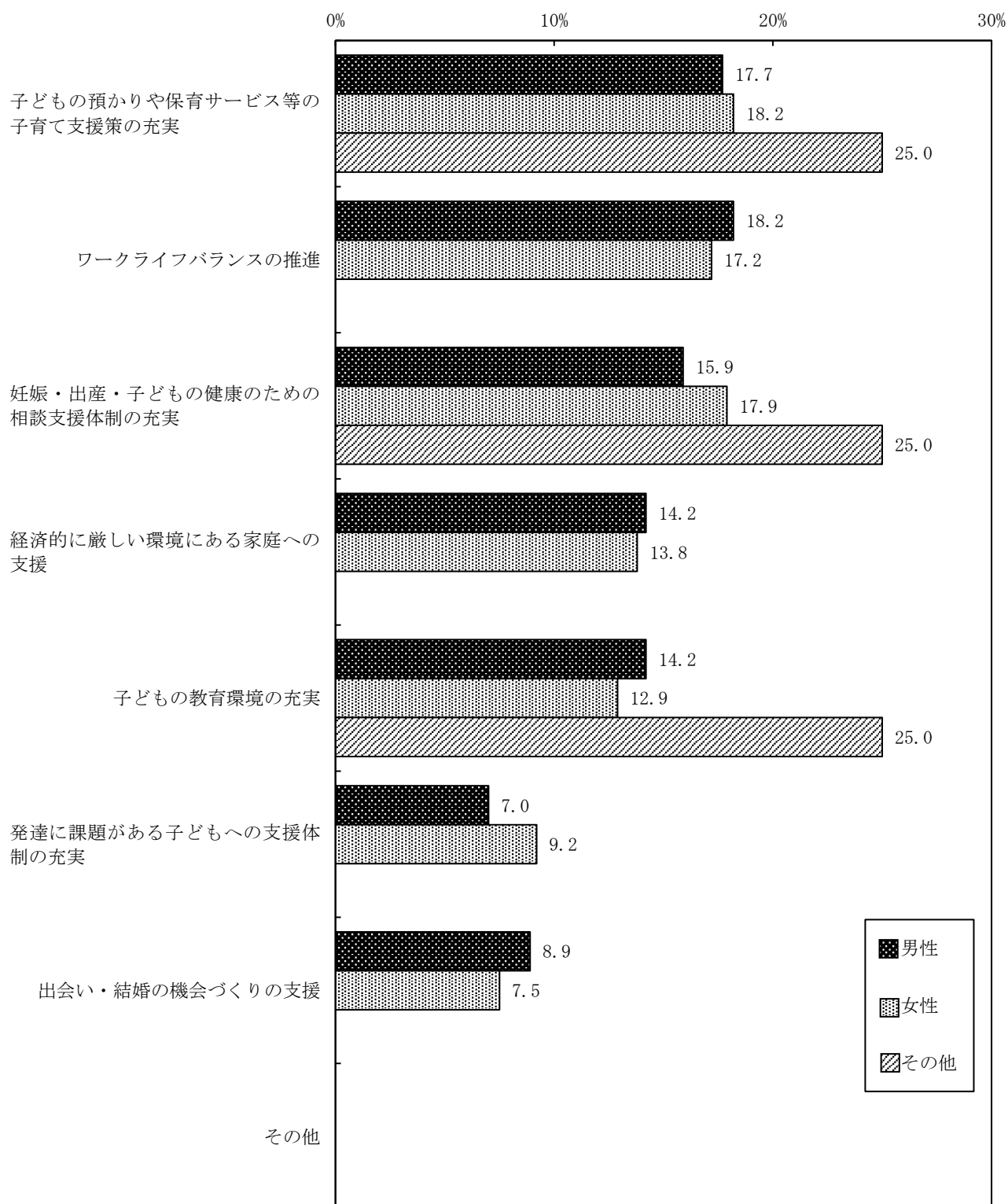
「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が18.0%とわずかな差で最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」17.6%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」17.1%と続いている。



【性別】

男性では「ワークライフバランスの推進」が 18.2%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が、女性では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が 18.2%と最も高く、ついで「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」と続いている。

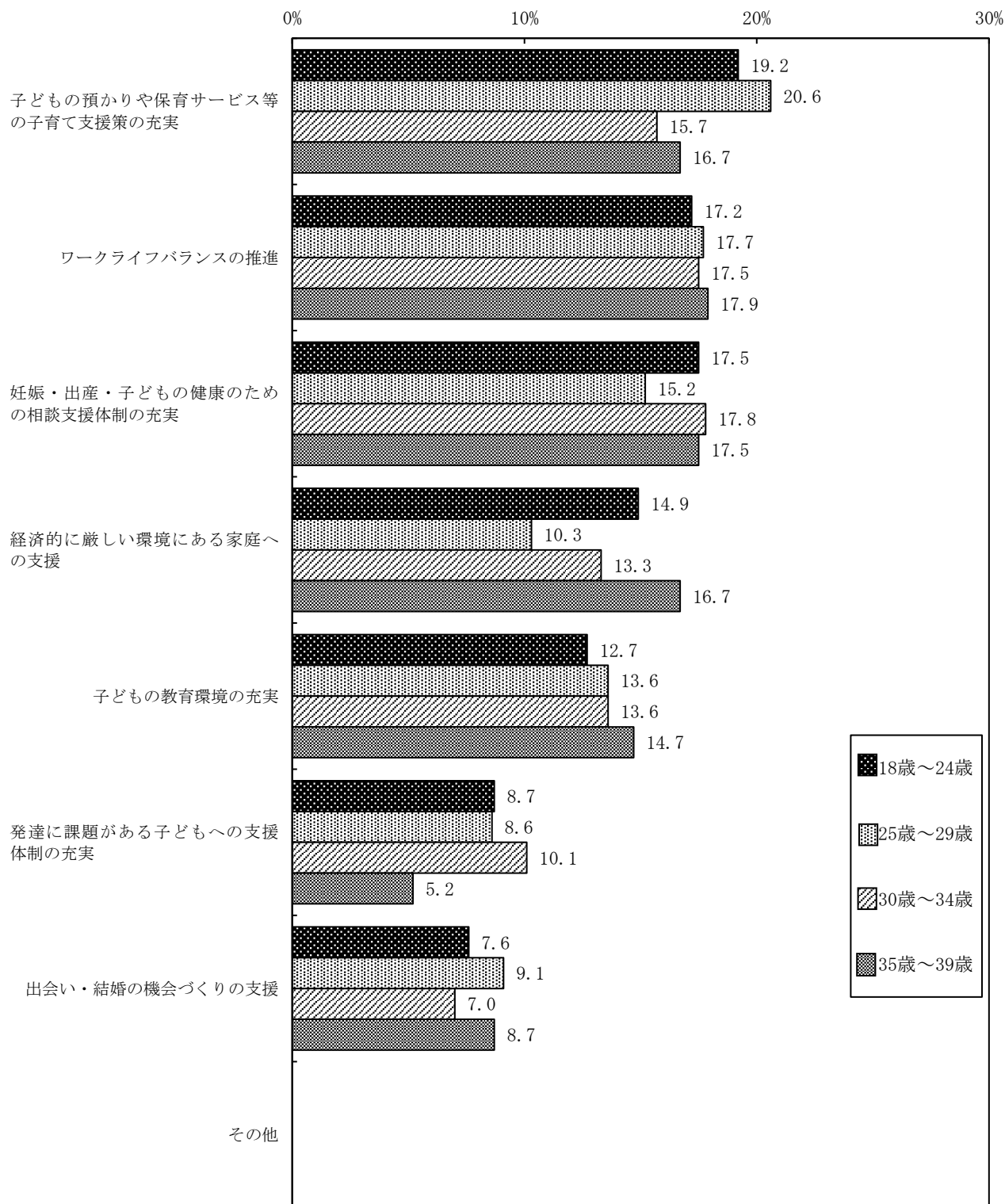
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳、25 歳～29 歳では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が最も高く、30 歳～34 歳では「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」が、35 歳～39 歳では「ワークライフバランスの推進」が最も高くなっている。

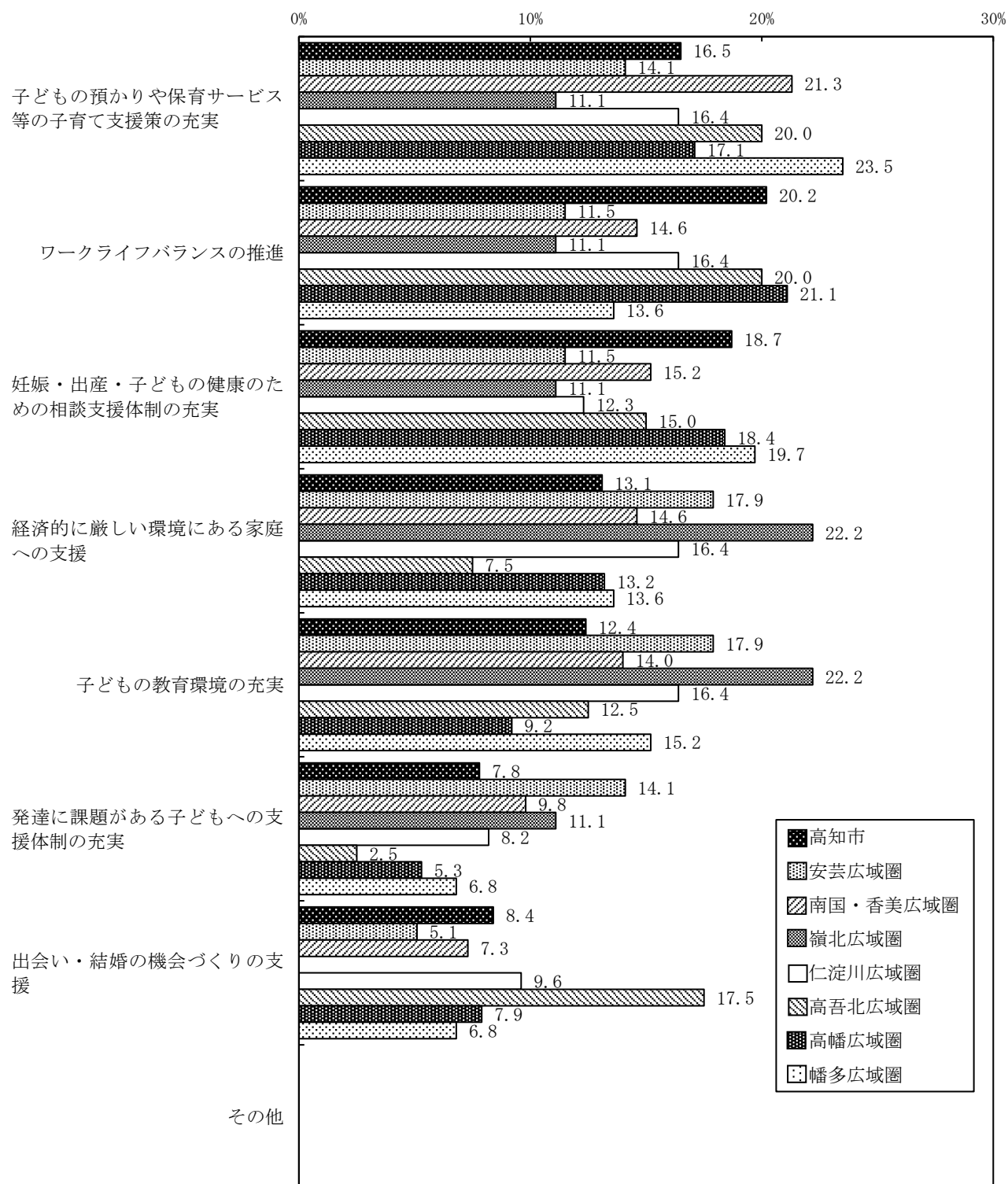
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、高幡広域圏では「ワークライフバランスの推進」が最も高く、安芸広域圏、嶺北広域圏では同率で「子どもの教育環境の充実」と「経済に厳しい環境にある家庭への支援」が、南国・香美広域圏、幡多広域圏では「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が、仁淀川広域圏では同率で「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」と「ワークライフバランスの推進」と「子どもの教育環境の充実」と「経済に厳しい環境にある家庭への支援」が、高吾北広域圏では同率で「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」と「ワークライフバランスの推進」が最も高くなっている。

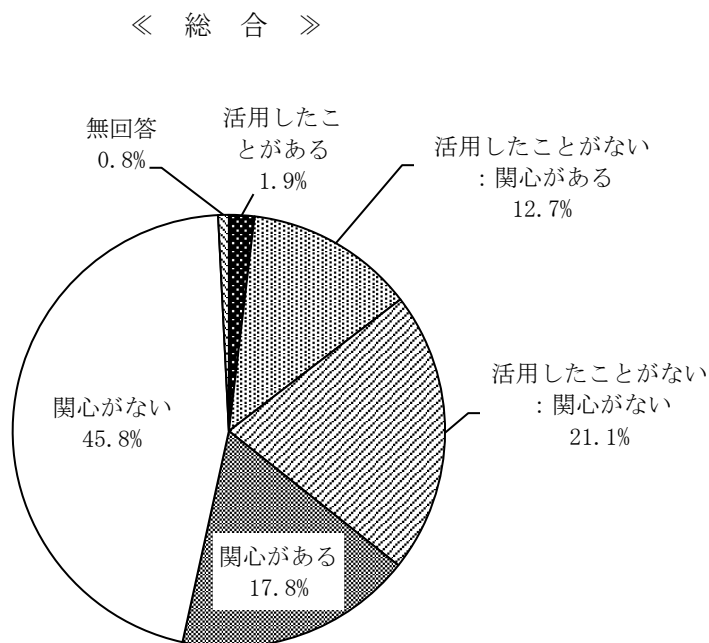
《広域市町村圏別》



問3 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている下記の事業について知っていますか。また、あなたの関心度はいかがですか。各事業について、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

1. 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

「関心がない」45.8%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」21.1%、「関心がある」17.8%と続いている。



【性別】

男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男女とも「活用したことがない：関心がない」と続いている。

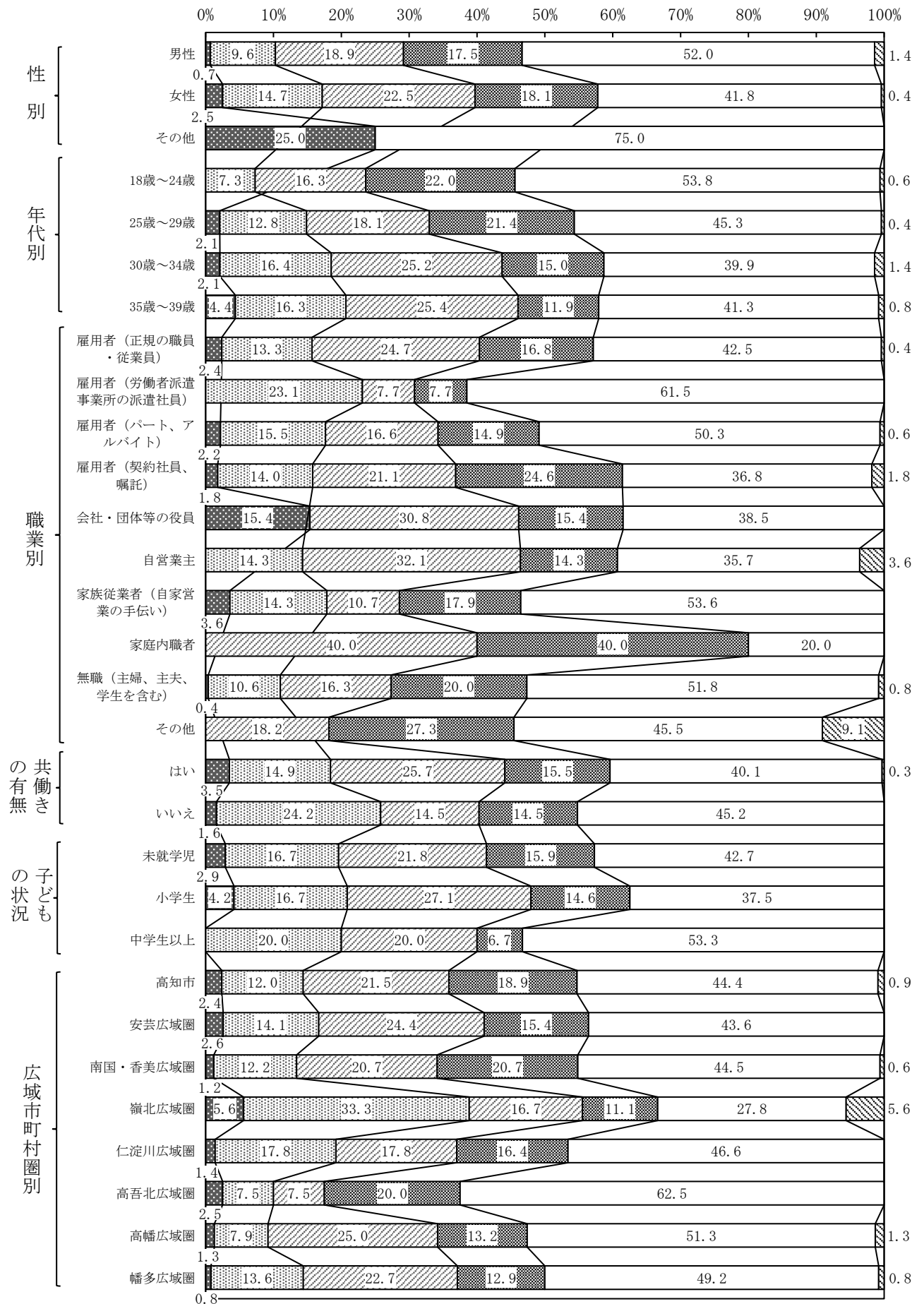
【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

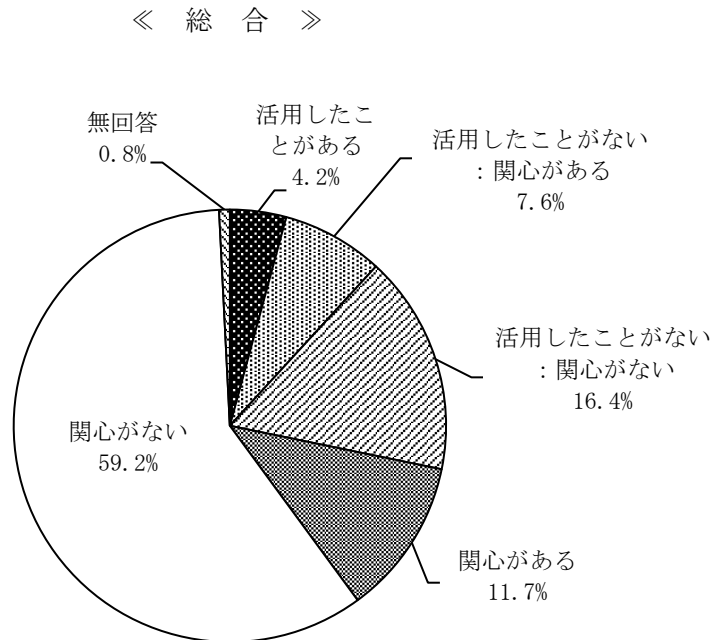
嶺北広域圏では「活用したことがない：関心がある」が最も高くなっているが、その他のすべての広域市町村圏では「関心がない」が最も高くなっている。

活用したことがある
 活用したことがない：関心がある
 活用したことがない：関心がない
 関心がない
 無回答



2. 高知で恋しよ！！応援サイト

「関心がない」59.2%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」11.7%と続いている。



【性別】

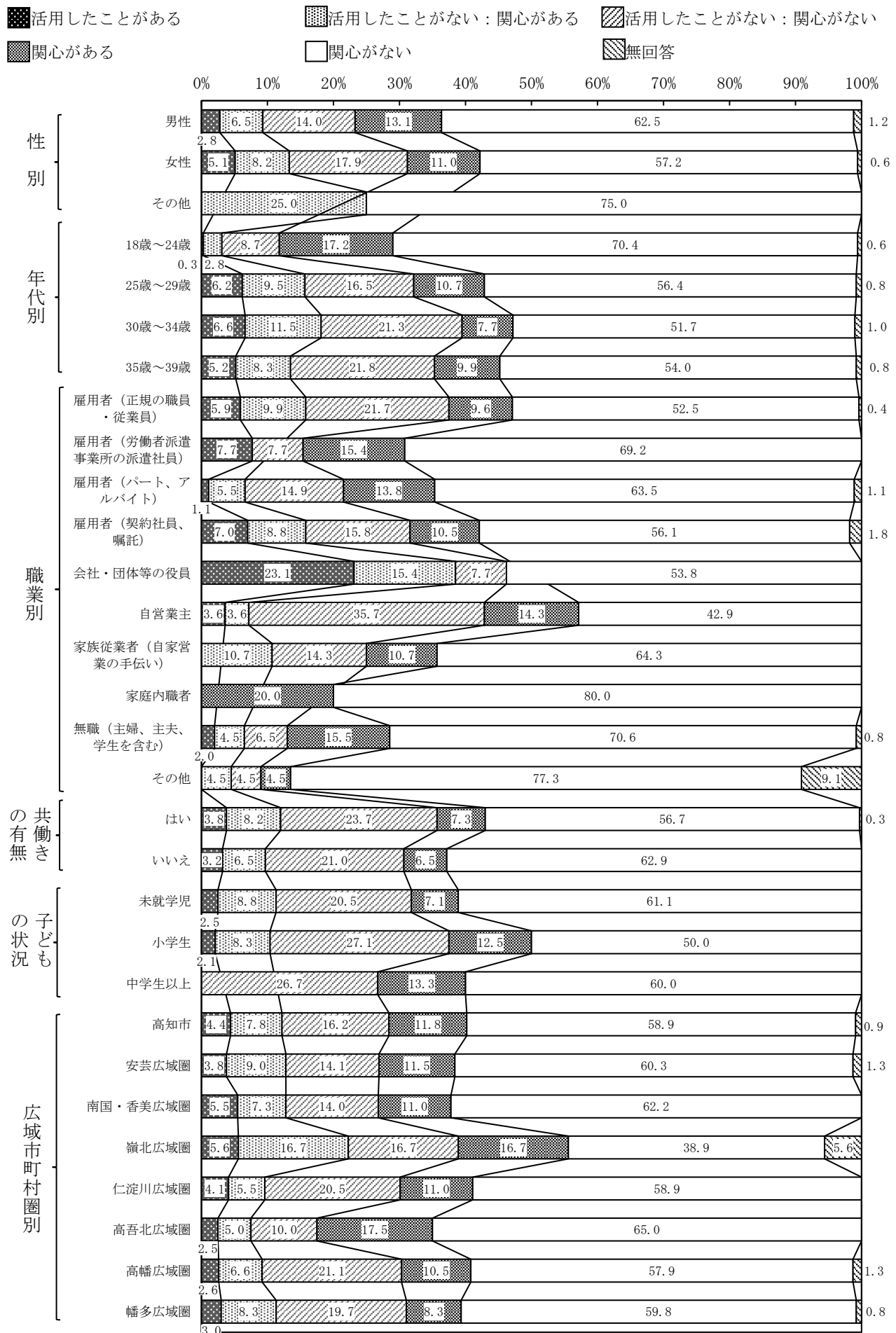
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男女とも「活用したことがない：関心がない」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

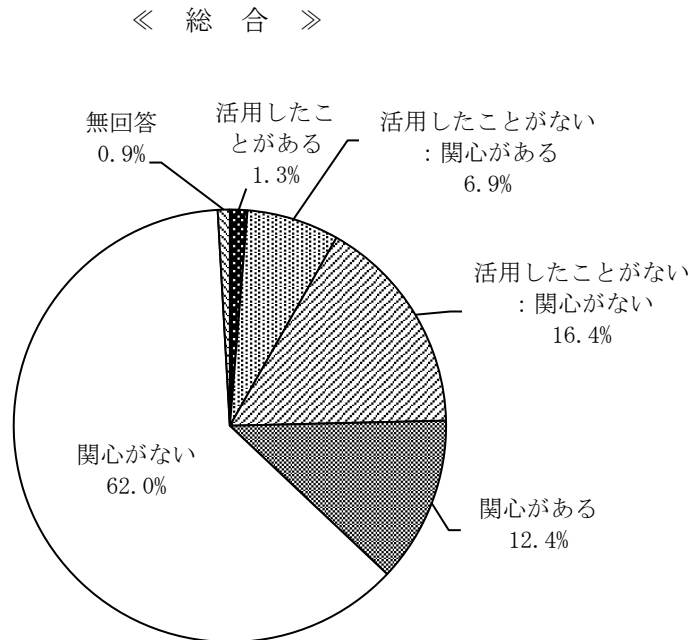
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「関心がない」が最も高くなっている。



3. 高知で恋しよ！！マッチング

「関心がない」62.0%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」12.4%と続いている。



【性別】

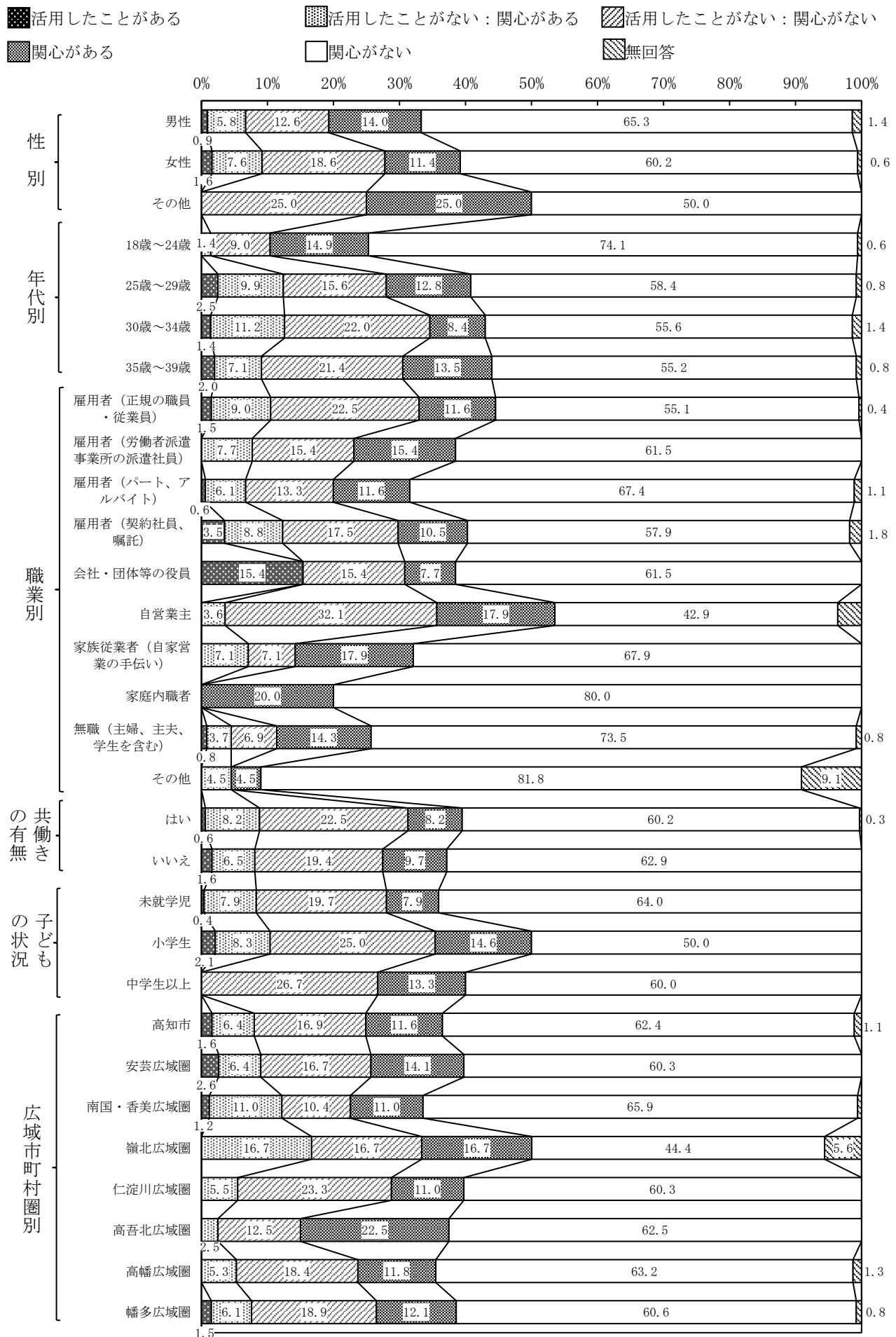
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男性では「関心がある」が、女性では「活用したことがない：関心がない」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

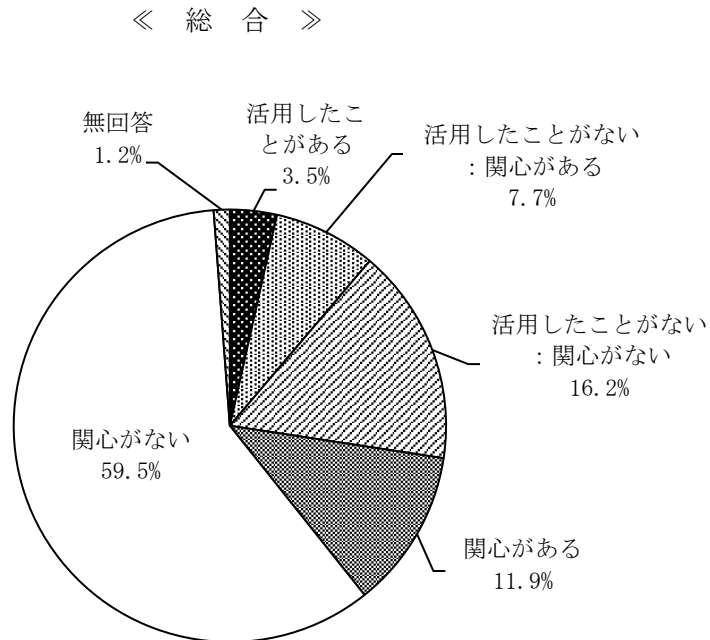
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「関心がない」が最も高くなっている。



4. 高知で恋しよ！！イベント

「関心がない」59.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.2%、「関心がある」11.9%と続いている。



【性別】

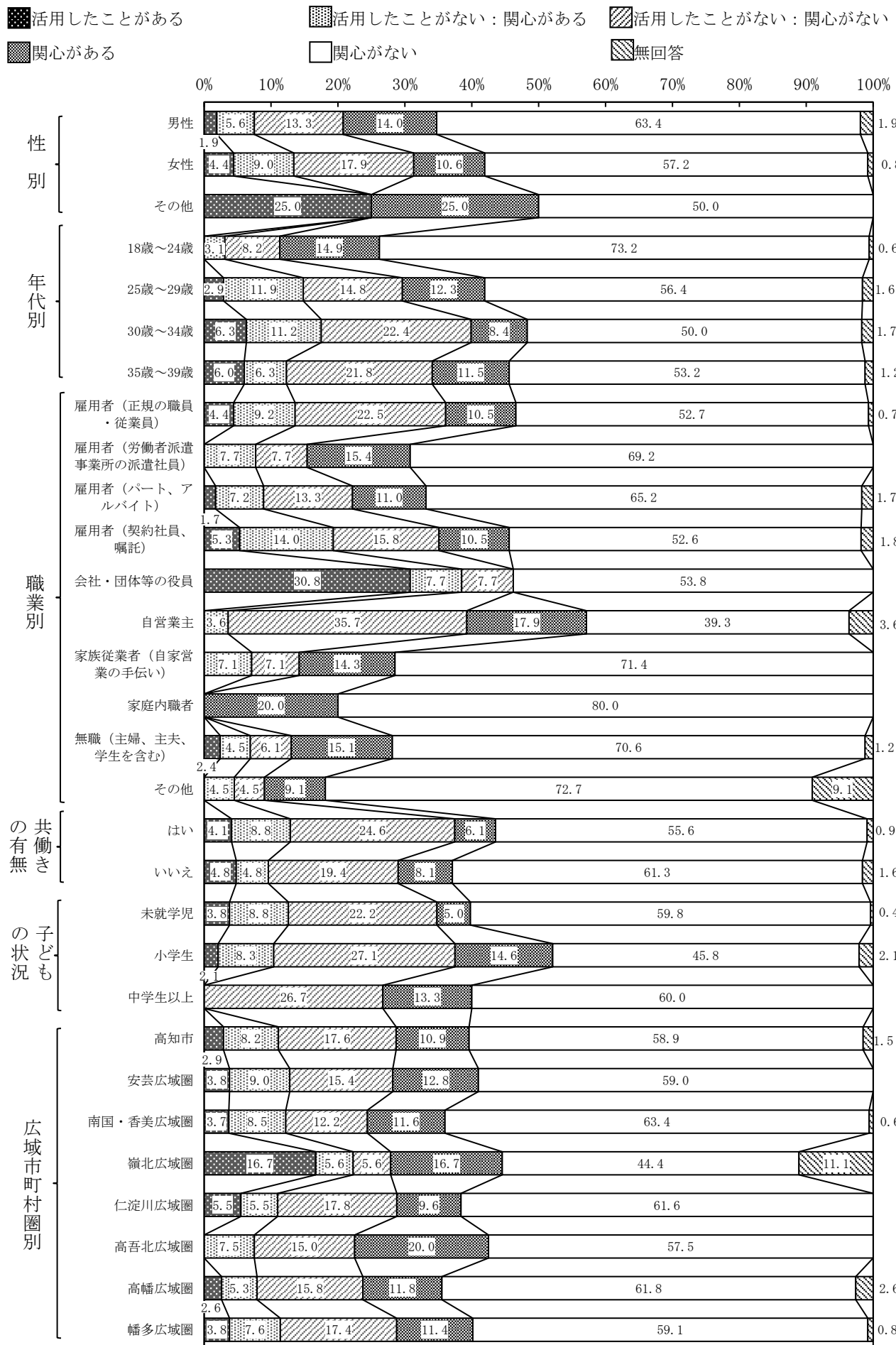
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男性では「関心がある」が、女性では「活用したことがない：関心がない」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

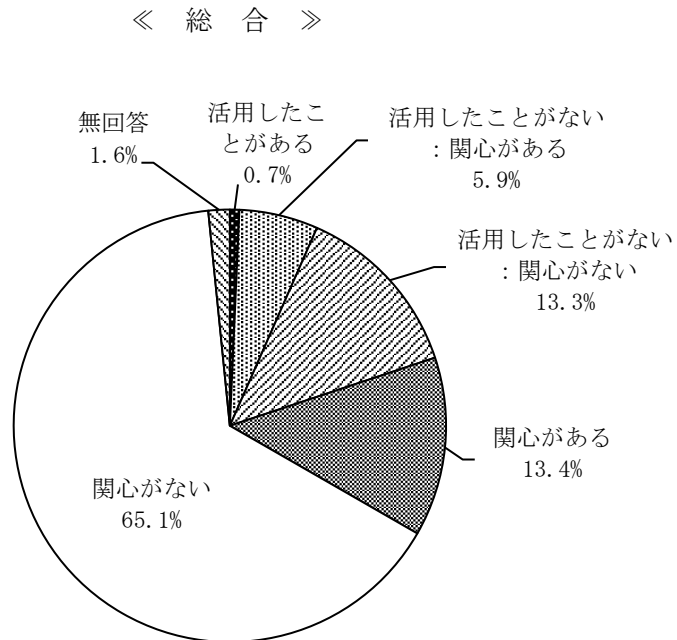
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「関心がない」が最も高くなっている。



5. 婚活サポーター（サブサポーター）

「関心がない」65.1%と最も高く、次いで「関心がある」13.4%、「活用したことがない：関心がない」13.3%と続いている。



【性別】

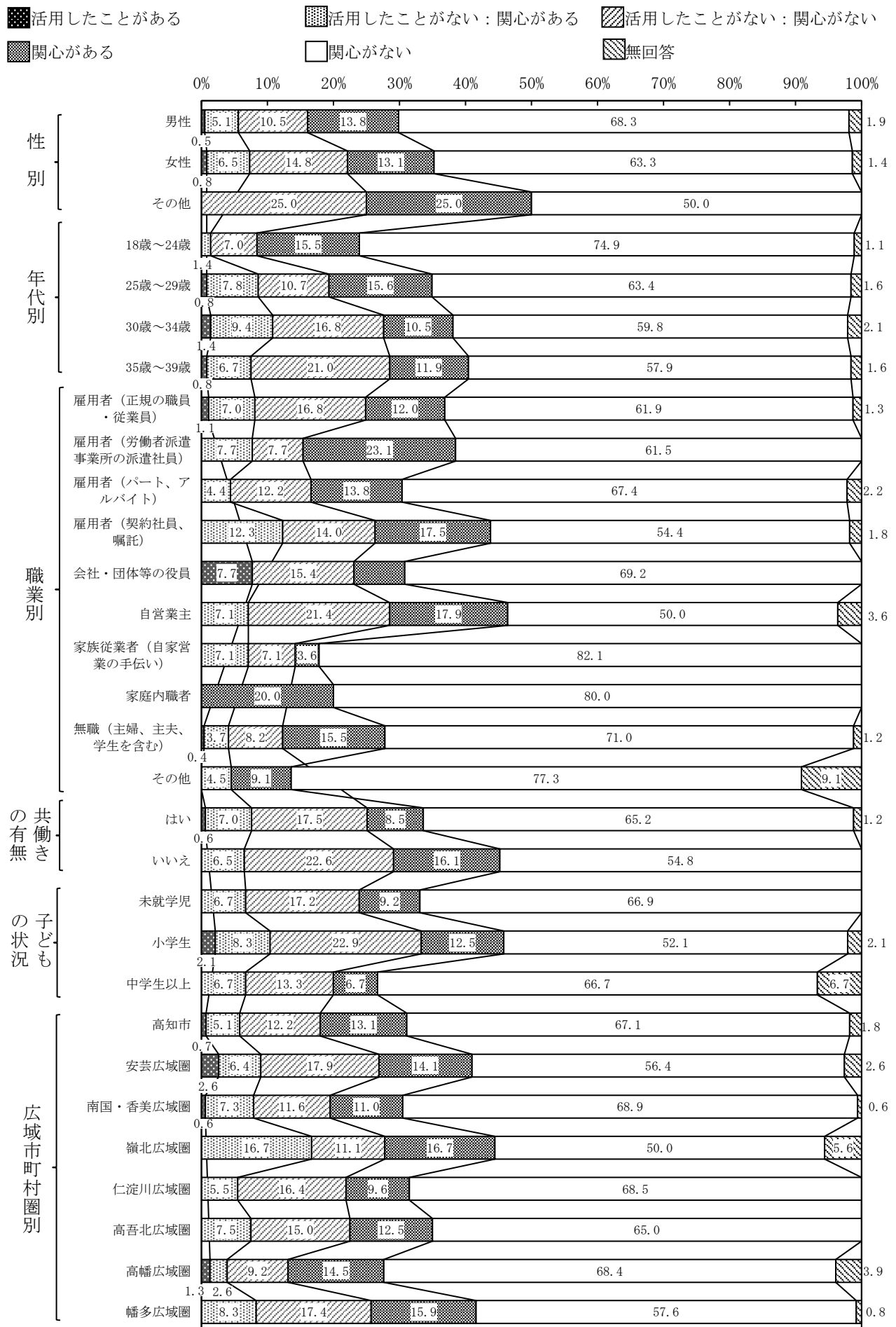
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男性では「関心がある」が、女性では「活用したことがない：関心がない」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

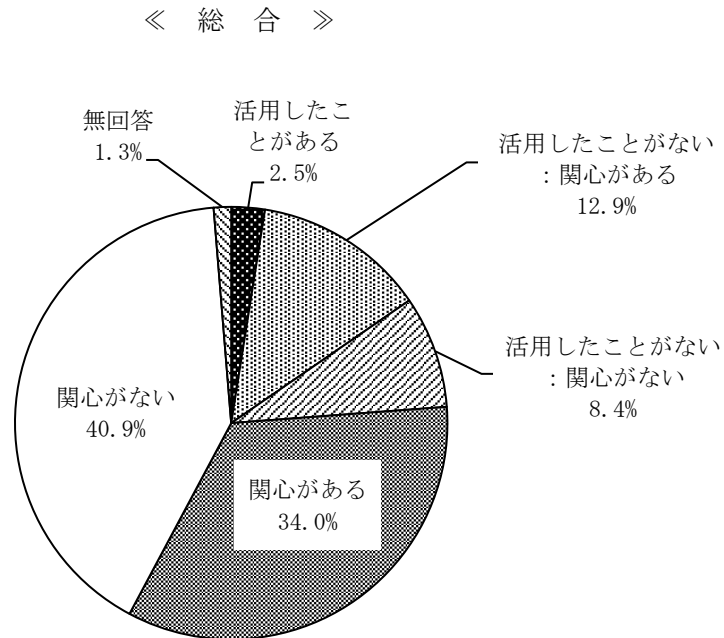
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「関心がない」が最も高くなっている。



6. こうち子育て応援の店

「関心がない」が 40.9%と最も高く、次いで「関心がある」34.0%、「活用したことがない：関心がある」12.9%と続いている。



【性別】

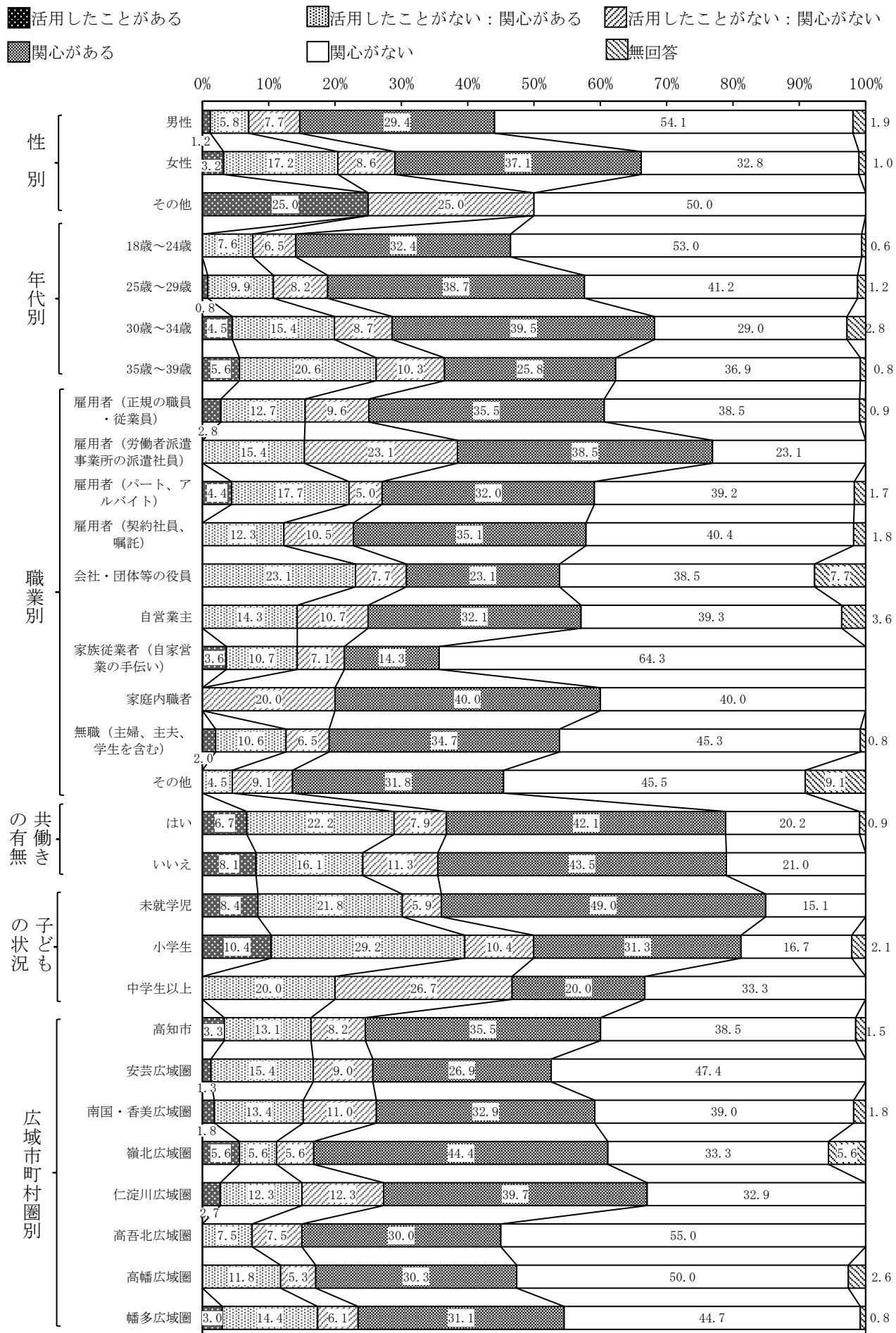
男性は「関心がない」が、女性では「関心がある」が最も高く、次いで男性では「関心がある」女性では「関心がない」と続いている。

【年代別】

30 歳～34 歳で「関心がある」が最も高く、その他のすべての年代では「関心がない」が最も高い。

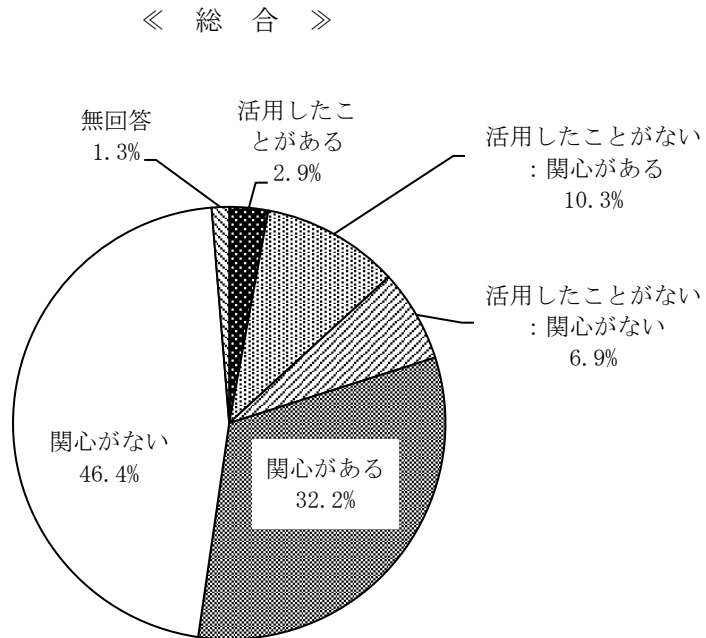
【広域市町村圏別】

嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「関心がある」が最も高いが、その他の広域市町村圏では「関心がない」が最も高い。



7. 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

「関心がない」が 46.4%と最も高く、次いで「関心がある」32.2%、「活用したことがない：関心がある」10.3%と続いている。



【性別】

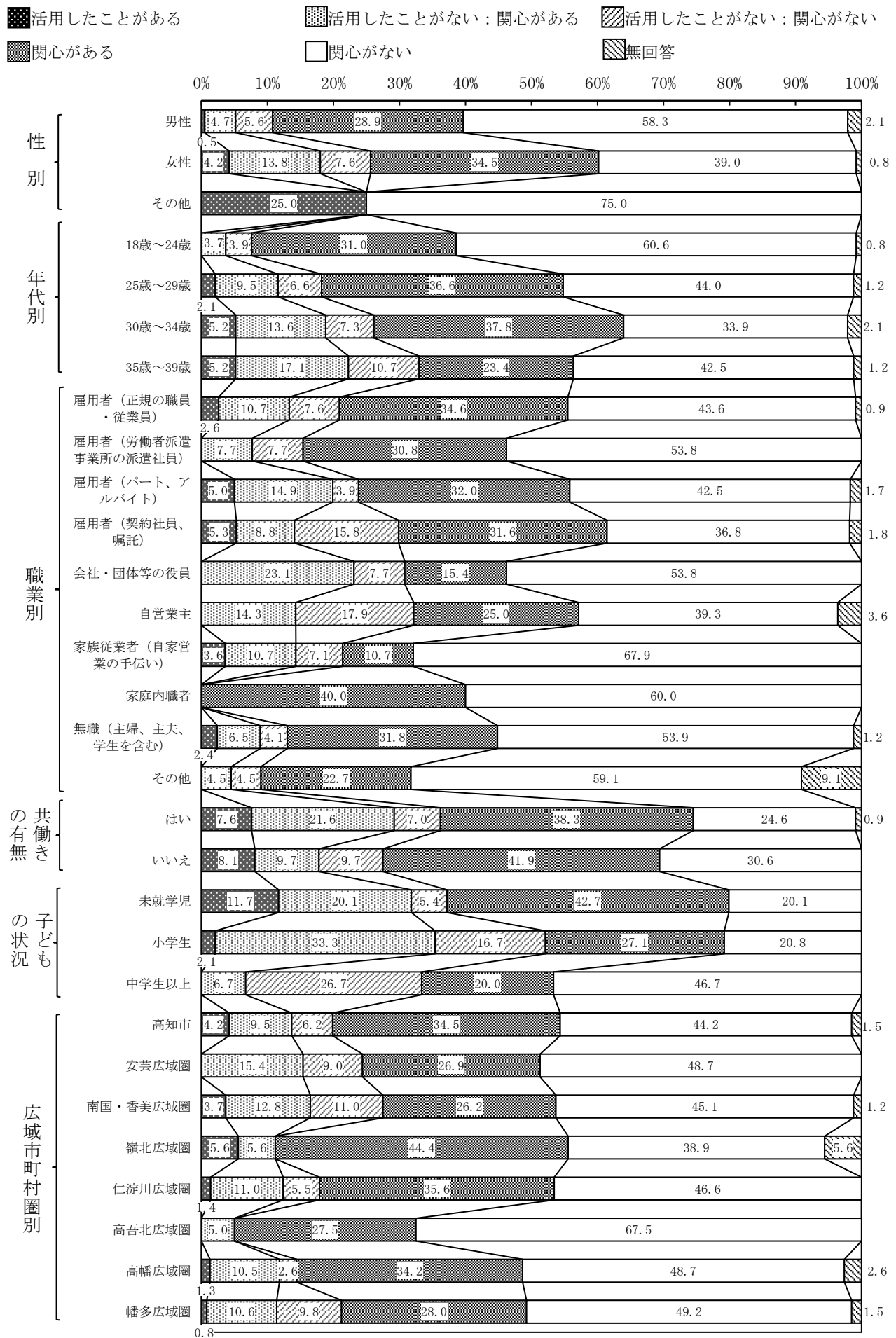
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男女とも「関心がある」と続いている。

【年代別】

30 歳～34 歳で「関心がある」が最も高く、その他のすべての年代では「関心がない」が最も高くなっている。

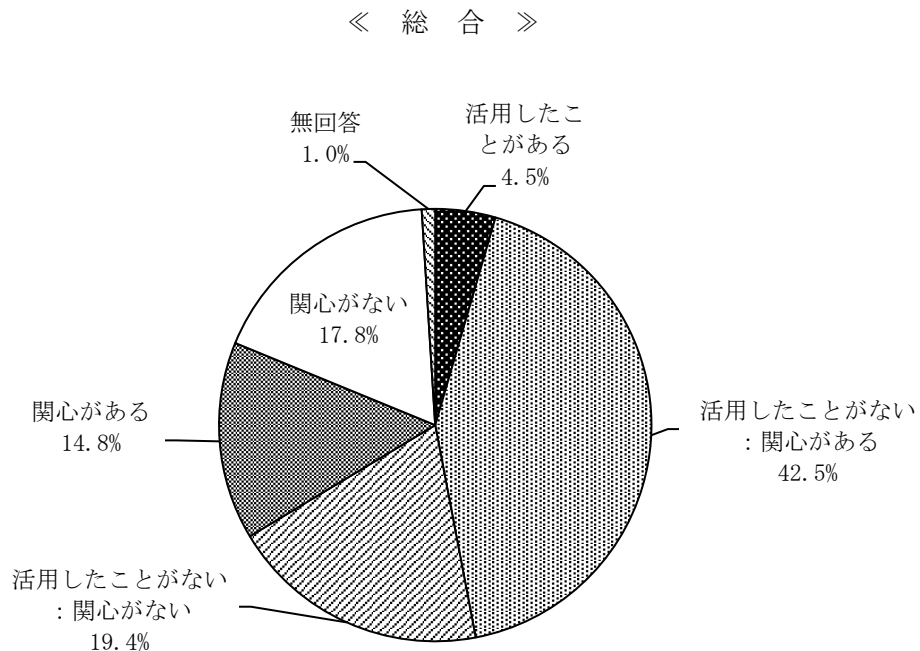
【広域市町村圏別】

嶺北広域圏では「関心がある」が最も高く、その他の広域市町村圏では「関心がない」が最も高くなっている。



8. 子ども食堂

「活用したことがない：関心がある」が 42.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」19.4%、「関心がない」17.8%と続いている。



【性別】

男女とも「活用したことがない：関心がある」が最も高く、次いで男性では「関心がない」が、女性では「活用したことがない：関心がない」と続いている。

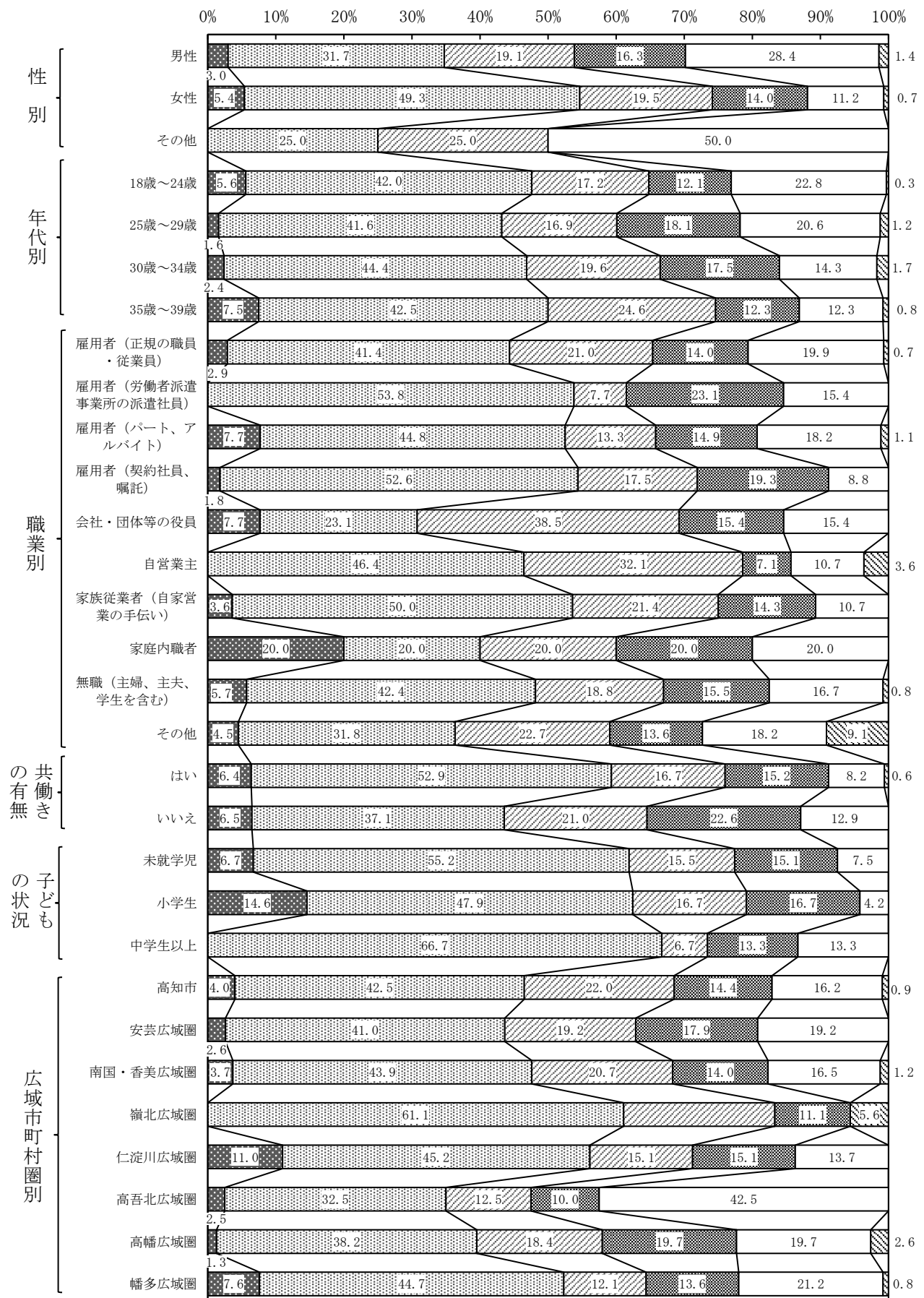
【年代別】

すべての年代で「活用したことがない：関心がある」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

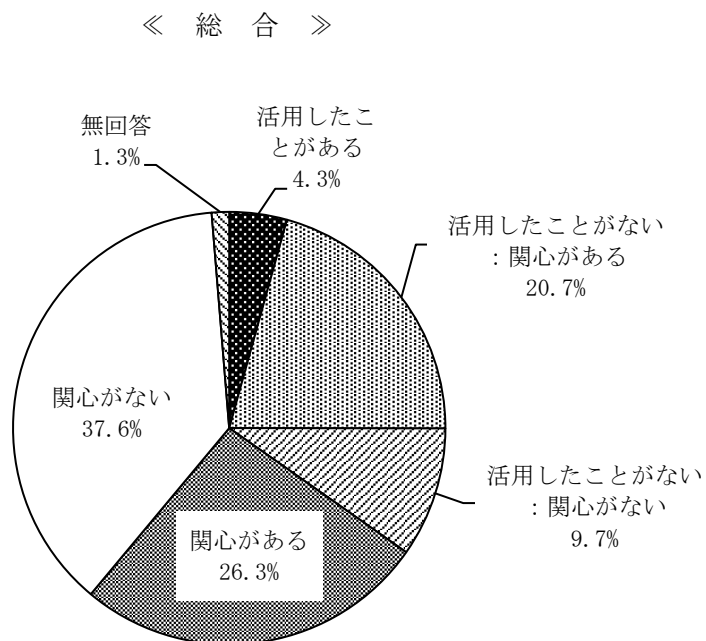
高吾北広域圏では「関心がない」が最も高く、その他の広域市町村圏では「活用したことがない：関心がある」が最も高くなっている。

活用したことがある
 活用したことがない：関心がある
 活用したことがない：関心がない
 関心がない
 無回答



9. 子育て世代包括支援センター

「関心がない」が 37.6%と最も高く、次いで「関心がある」26.3%、「活用したことがない：関心がある」20.7%と続いている。



【性別】

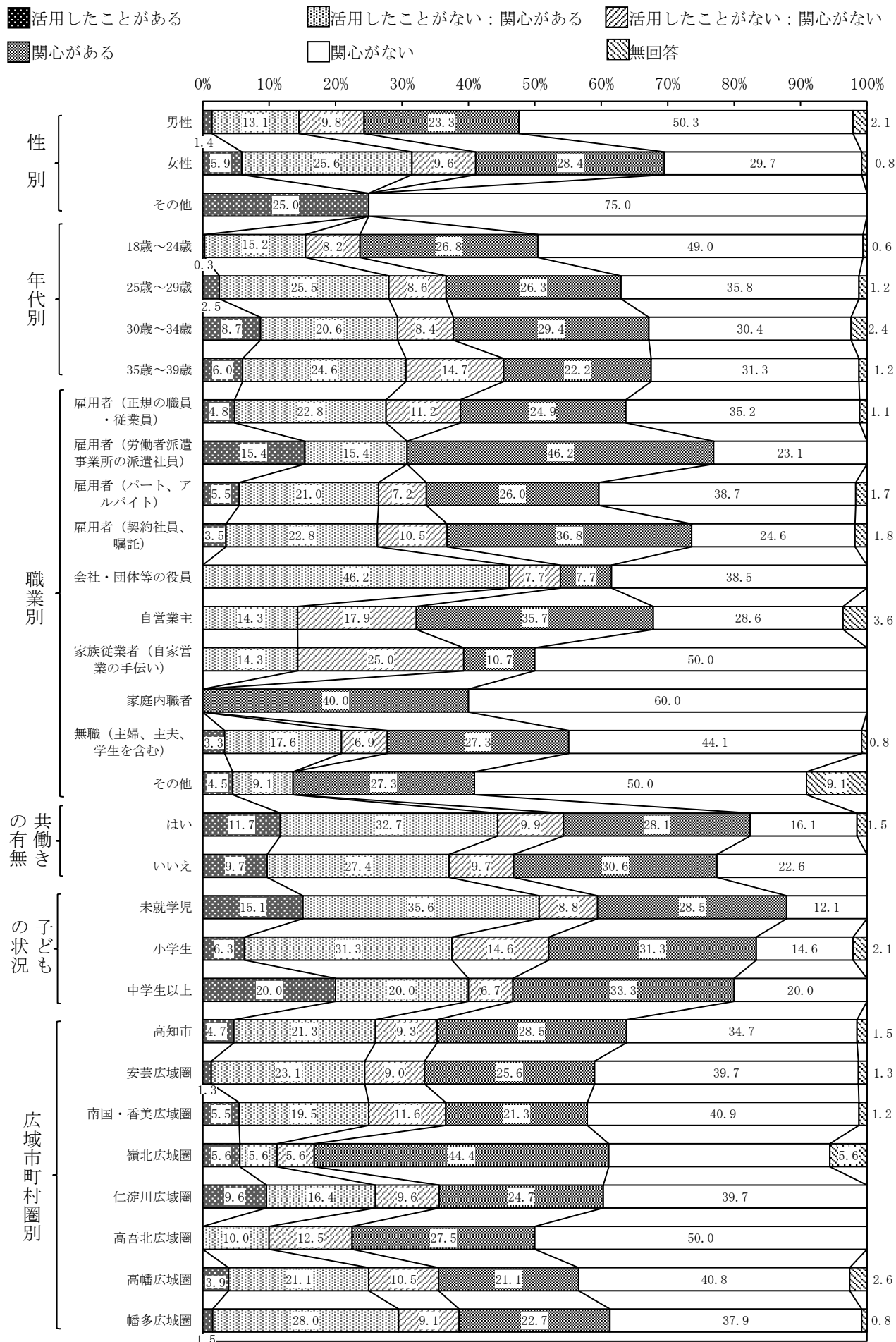
男女ともに「関心がない」が最も高く、次いで男女とも「関心がある」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

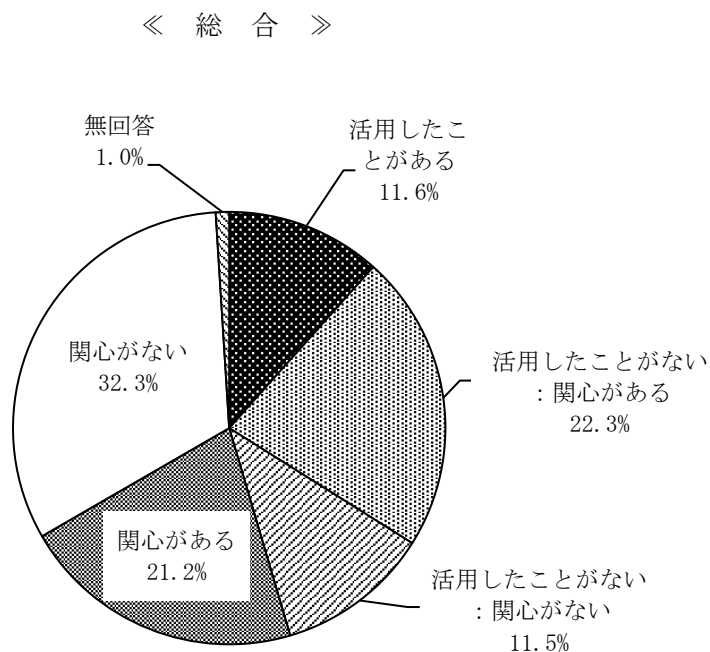
【広域市町村圏別】

嶺北広域圏では「関心がある」が最も高く、その他の広域市町村圏では「関心がない」が、次いで「関心がある」と続いている。



10. 地域子育て支援センター

「関心がない」が 32.3%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がある」22.3%、「関心がある」21.2%と続いている。



【性別】

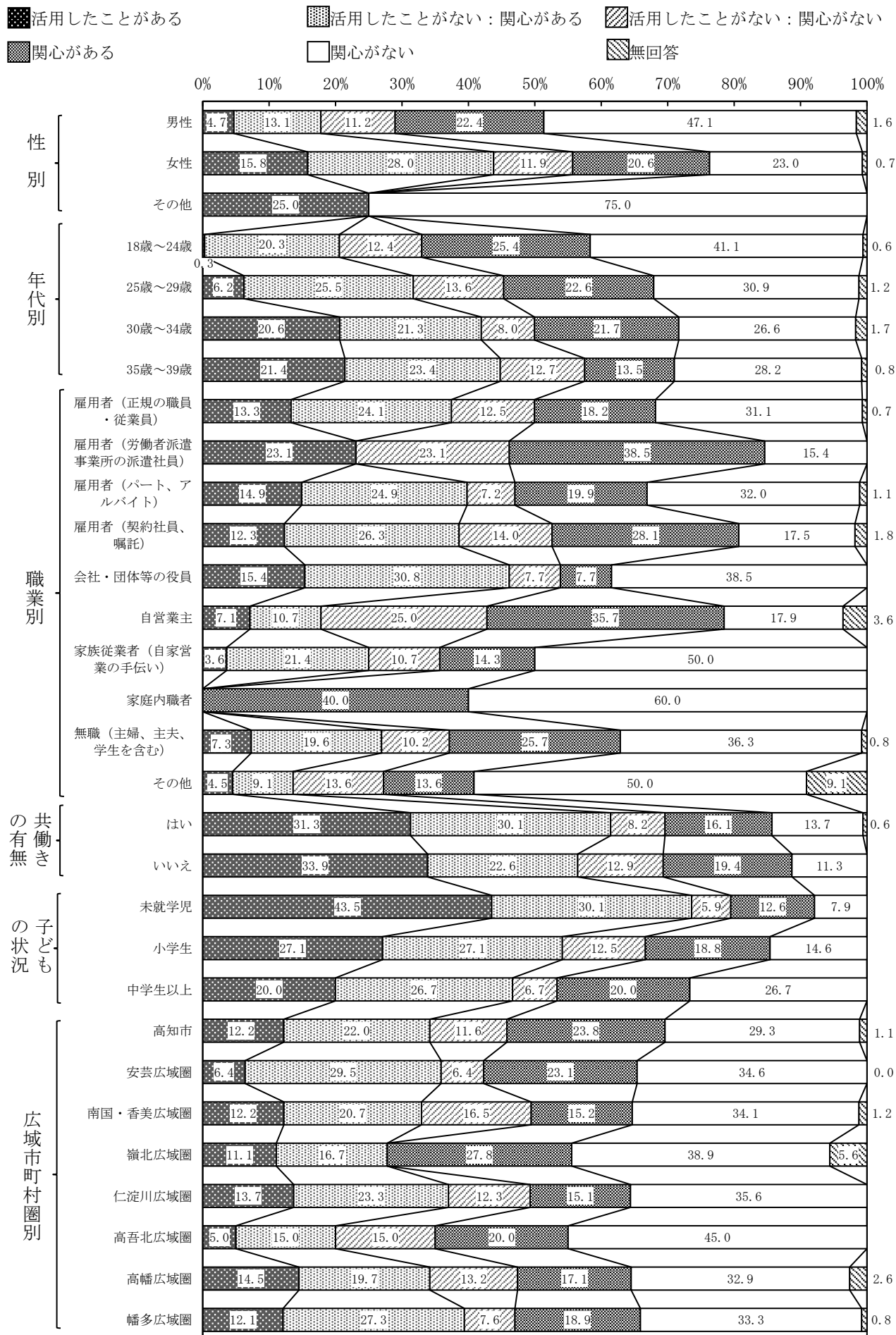
男性では「関心がない」が、女性では「活用したことがない：関心がある」が最も高く、次に男性では「関心がある」が、女性では「関心がない」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

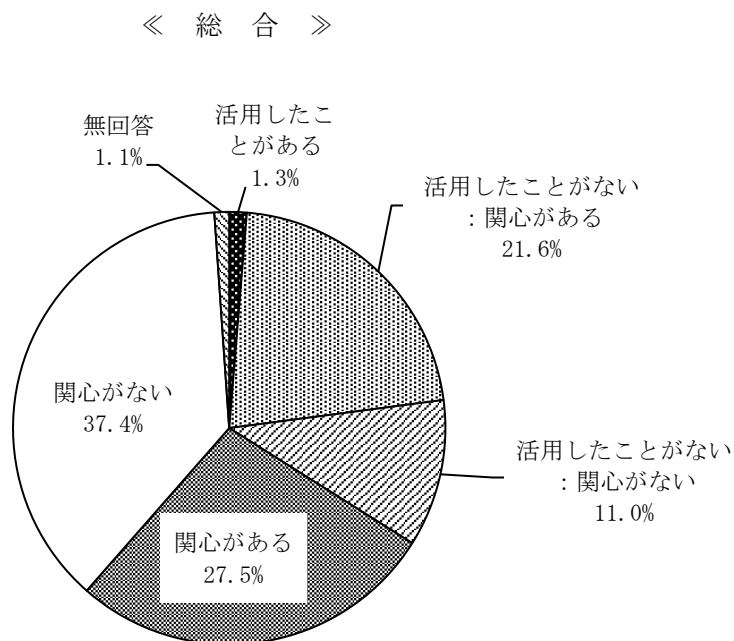
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏では「関心がない」が最も高く、次いで「活用したことがない：関心がある」、「関心がある」と続いている。



11. ファミリー・サポート・センター

「関心がない」が 37.4%と最も高く、次いで「関心がある」27.5%、「活用したことがない：関心がある」21.6%と続いている。



【性別】

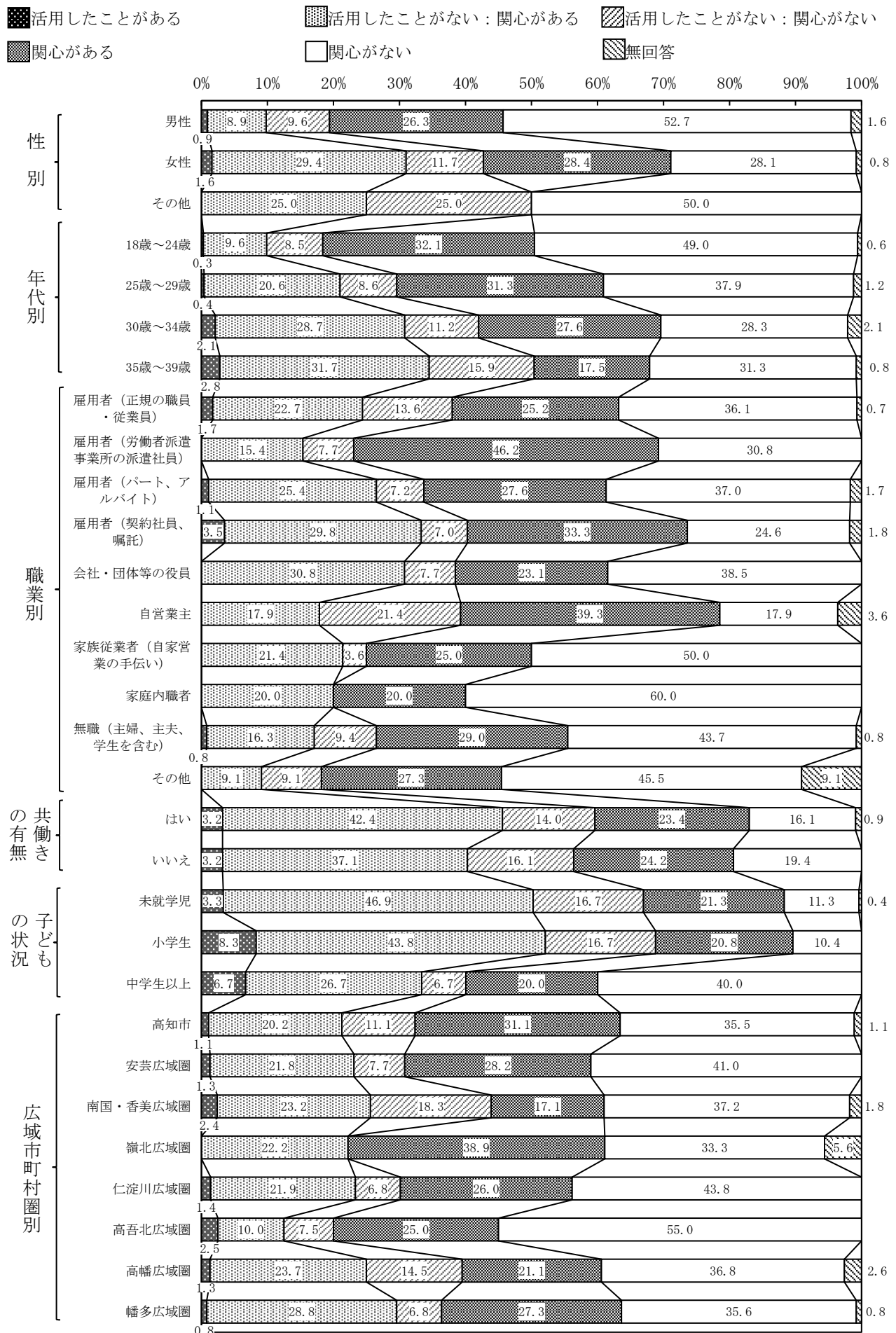
男性では「関心がない」が、女性では「活用したことがない：関心がある」が最も高くなっている。

【年代別】

18 歳～24 歳、25 歳～29 歳では「関心がない」が最も高く、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳では「活用したことがない：関心がある」が最も高くなっている。

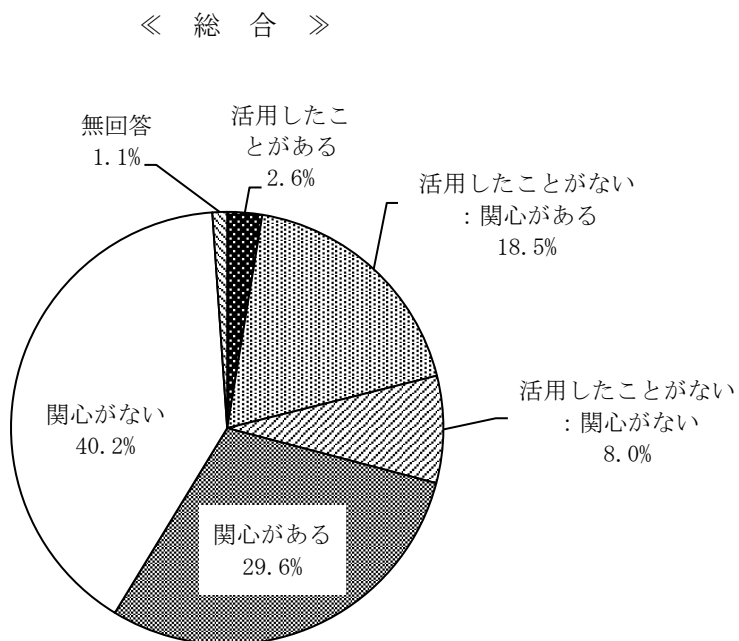
【広域市町村圏別】

嶺北広域圏では「関心がある」が、その他の広域市町村圏では「関心がない」が最も高くなっている。次いで、その他の広域市町村圏では「関心がある」、「活用したことがない：関心がある」と続いている。



12. 産後ケア事業

「関心がない」が 40.2%と最も高く、次いで「関心がある」29.6%、「活用したことがない：関心がある」18.5%と続いている。



【性別】

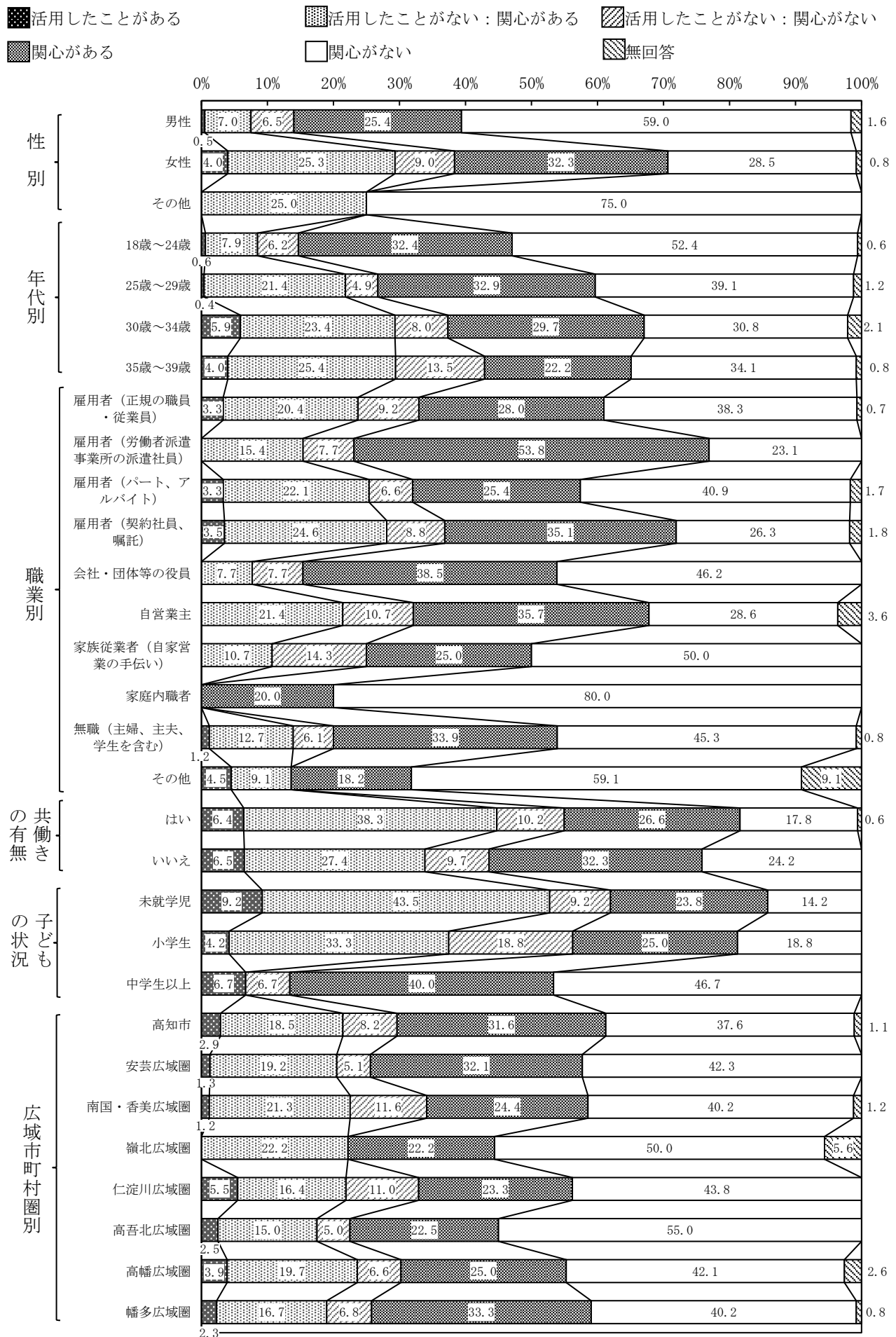
男性では「関心がない」が、女性では「関心がある」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「関心がない」が最も高くなっている。

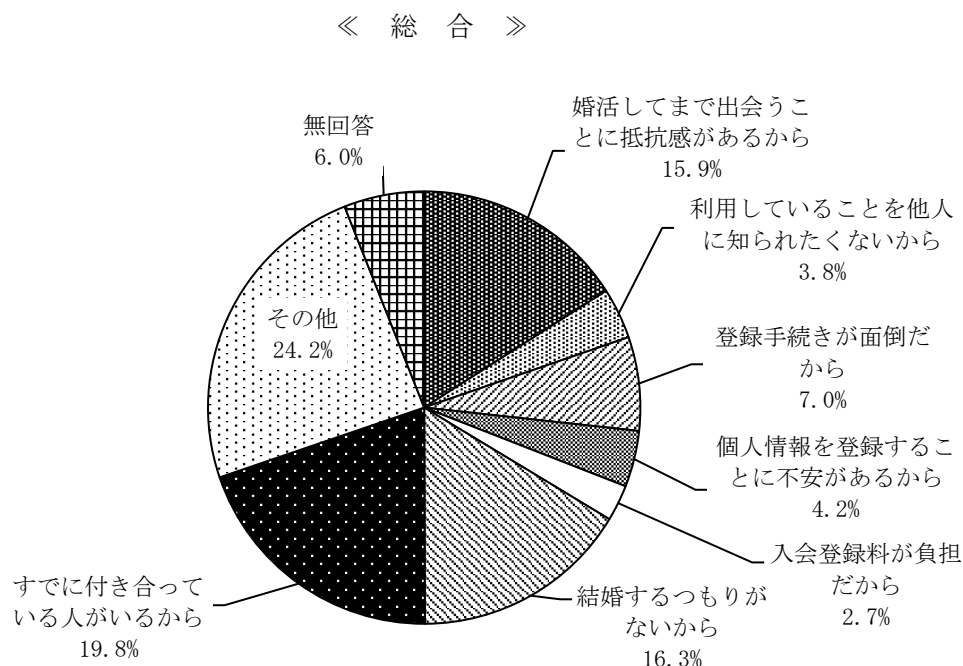
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「関心がない」が最も高く、次いですべての広域市町村圏で「関心がある」と続いている。



問4 問3で「3. 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引合せシステム）」について、「知っている（活用したことがない：関心がない）」または「知らない（関心がない）」と回答した方のみお答えください。
 関心がないとしたのは、どのような理由からですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（ひとつだけ○印）

「すでに付き合っている人がいるから」が 19.8%と最も高く、次いで「結婚するつもりがないから」16.3%、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」15.9%と続いている。
 また、「その他」と回答した割合も 24.2%と高くなっている。



【性別】

男女とも「その他」が最も高くなっているが、男性では「結婚するつもりがないから」が、女性では「すでに付き合っている人がいるから」が2番目に高くなっている。

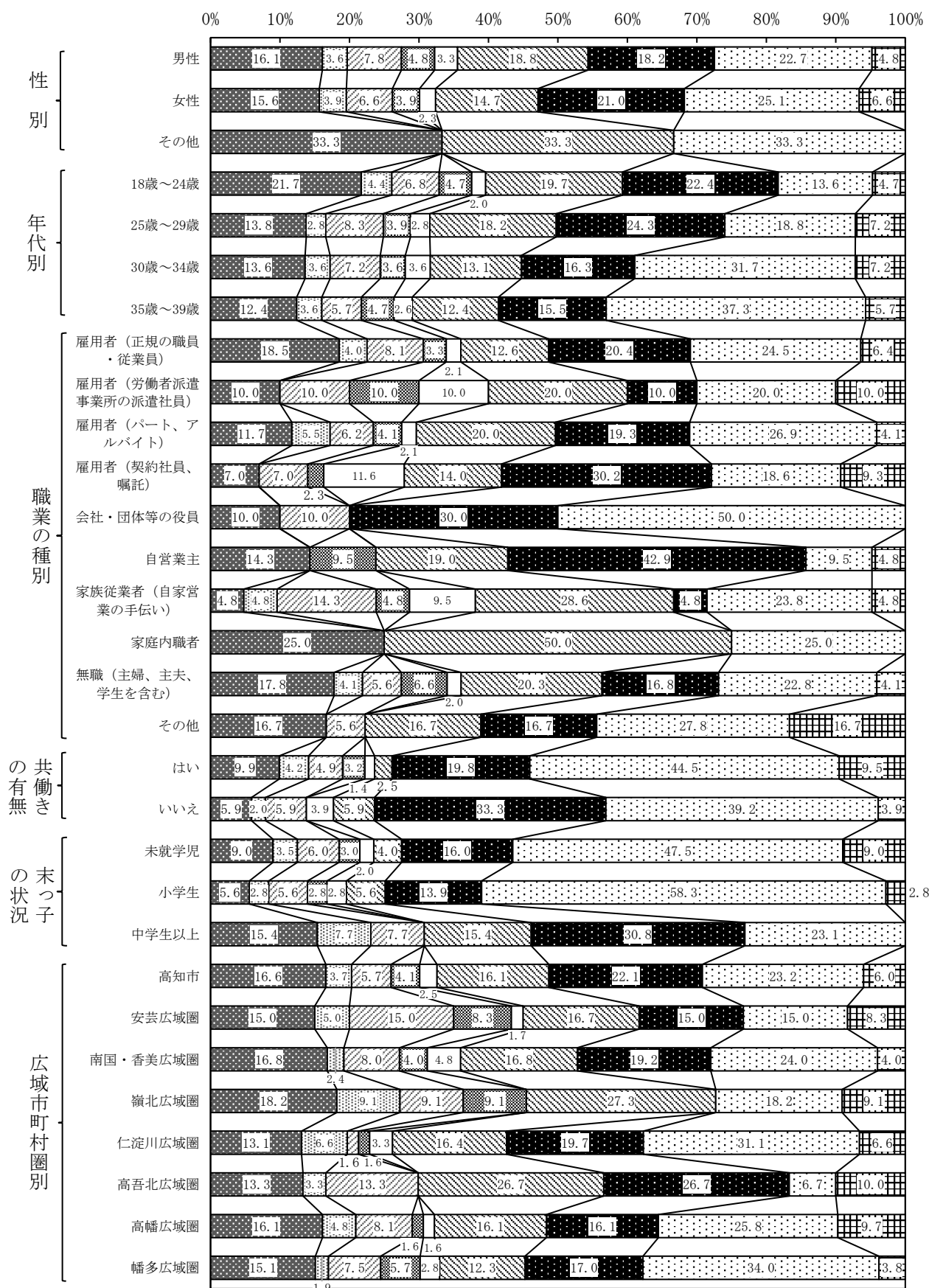
【年代別】

18歳～24歳、25歳～29歳では「すでに付き合っている人がいるから」が最も高く、30歳～34歳、35歳～39歳で「その他」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

高吾北広域圏では同率で「結婚するつもりがないから」と「すでに付き合っている人がいるから」が最も高いが、安芸広域圏、嶺北広域圏では「結婚するつもりがないから」が、高知市、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏では「その他」が最も高くなっている。

- 婚活してまで出会うことに抵抗感があるから
- 登録手続きが面倒だから
- 入会登録料が負担だから
- すでに付き合っている人がいるから
- 無回答
- 利用していることを他人に知られたくないから
- 個人情報登録することに不安があるから
- 結婚するつもりがないから
- その他

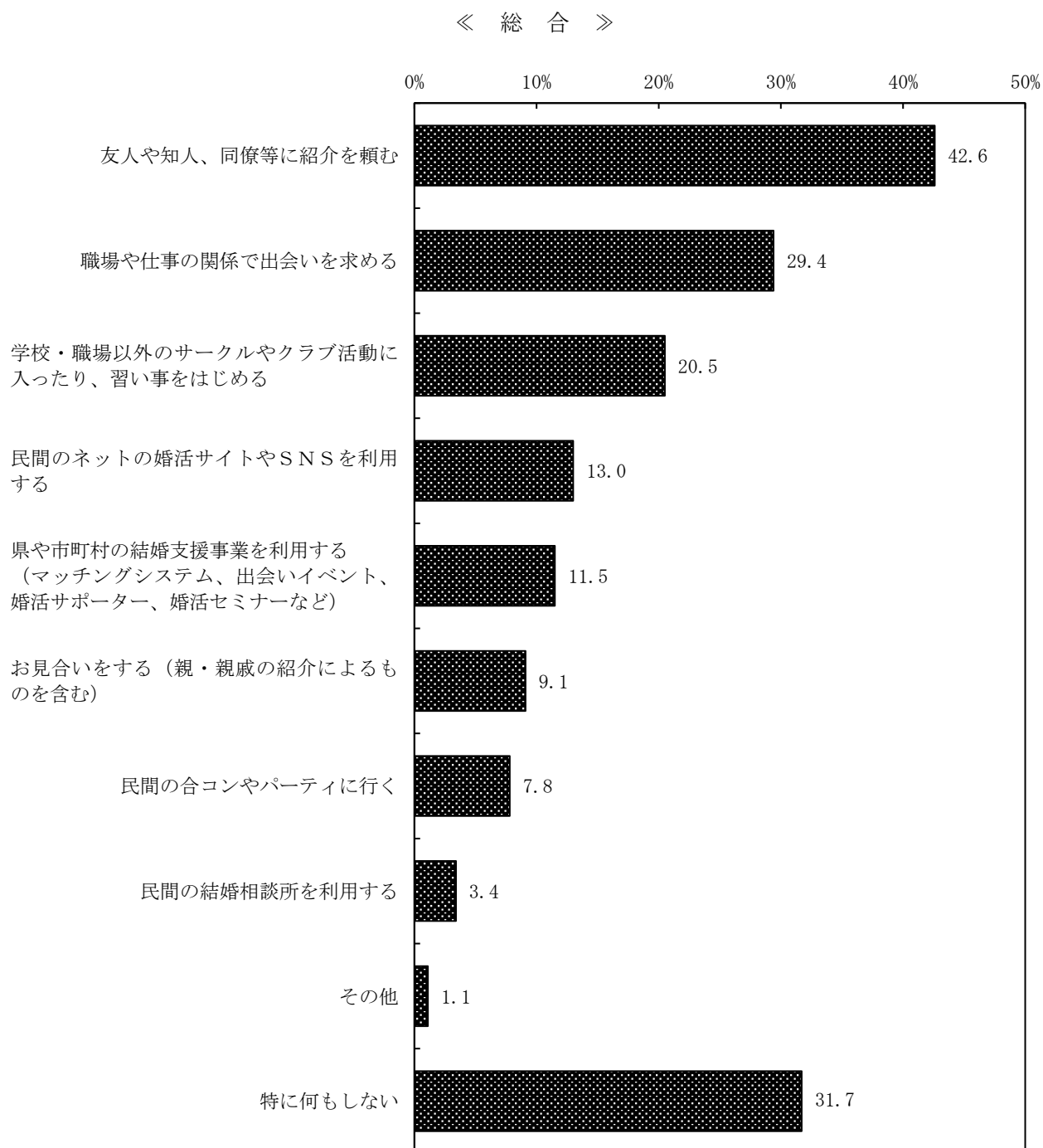


【３．出会い・結婚について】

問５ Ｆ６で「３．未婚で交際している人はいない」または「４．交際未経験」と回答した方のみ
お答えください。

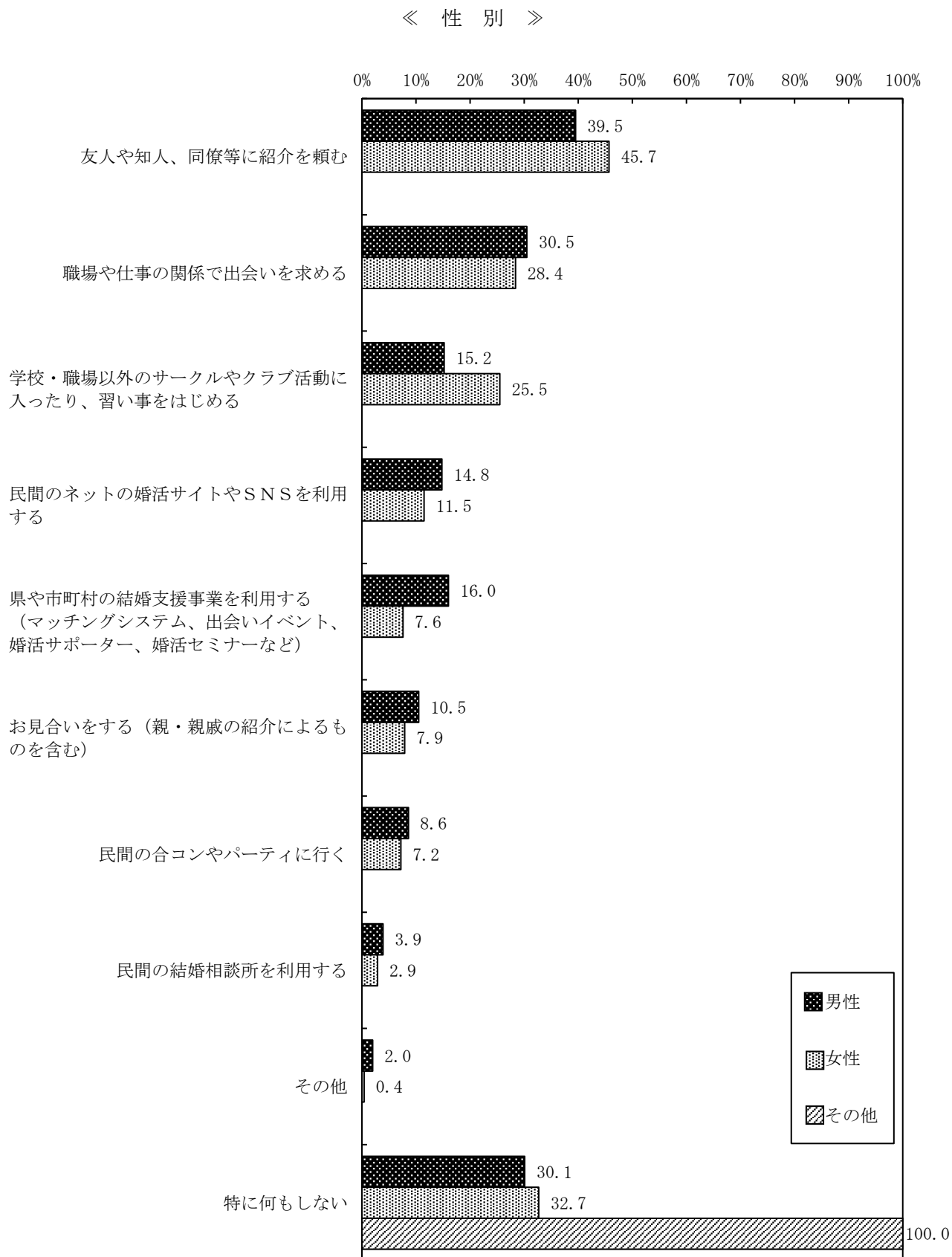
交際相手との出会いを求めるとしたら、どのようなことを行いたいと思いますか。（あては
まるものすべてに○印）

「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が 42.6%と最も高く、次いで「職場や仕事の関係で出会いを
求める」29.4%、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動に入ったり、習い事をはじめる」20.5%
と続いている。



【性別】

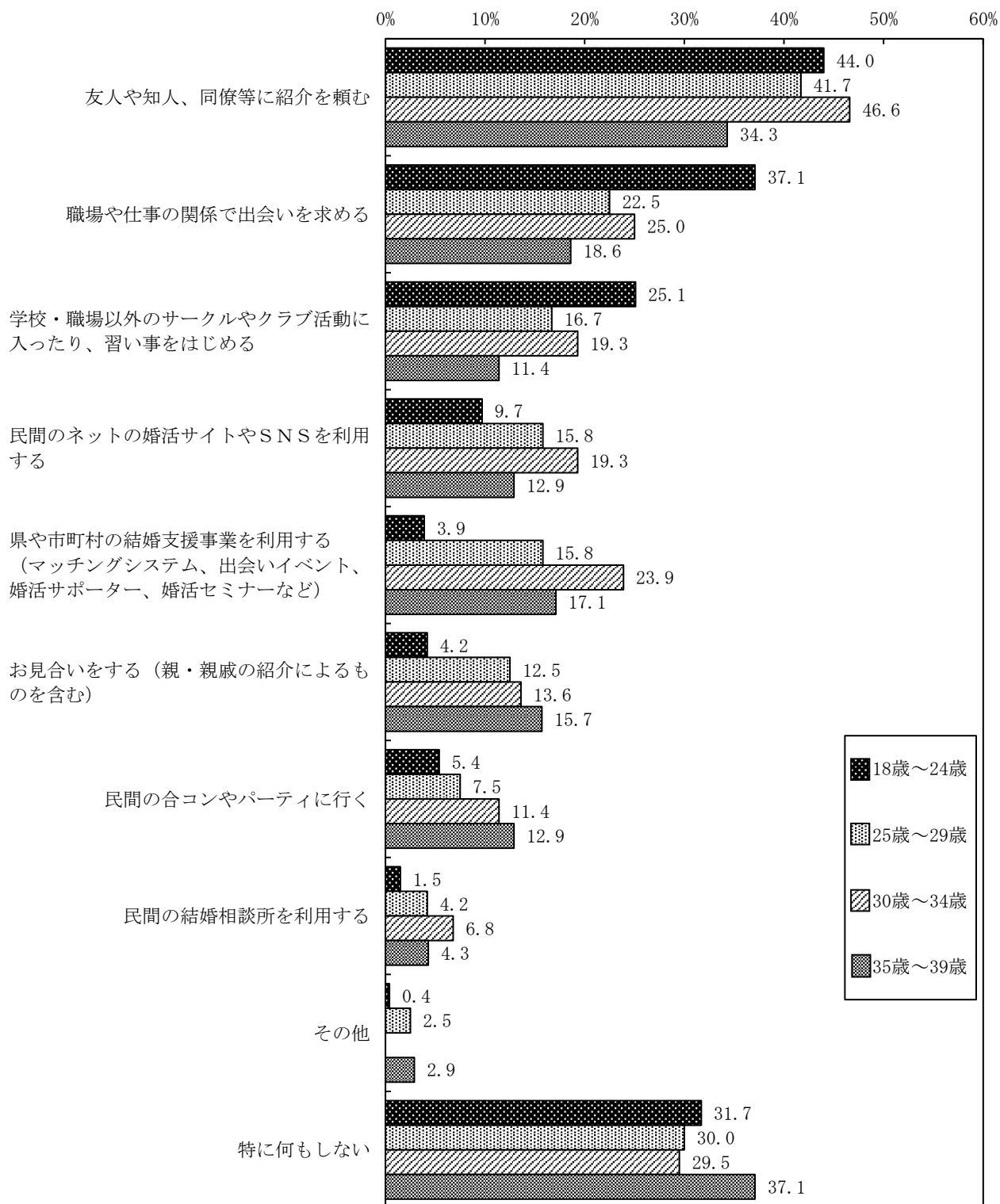
男性 39.5%、女性 45.7%で男女とも「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が最も高くなっている。



【年代別】

18 歳～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳では「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が最も高く、35 歳～39 歳では「特に何もしない」が最も高くなっている。

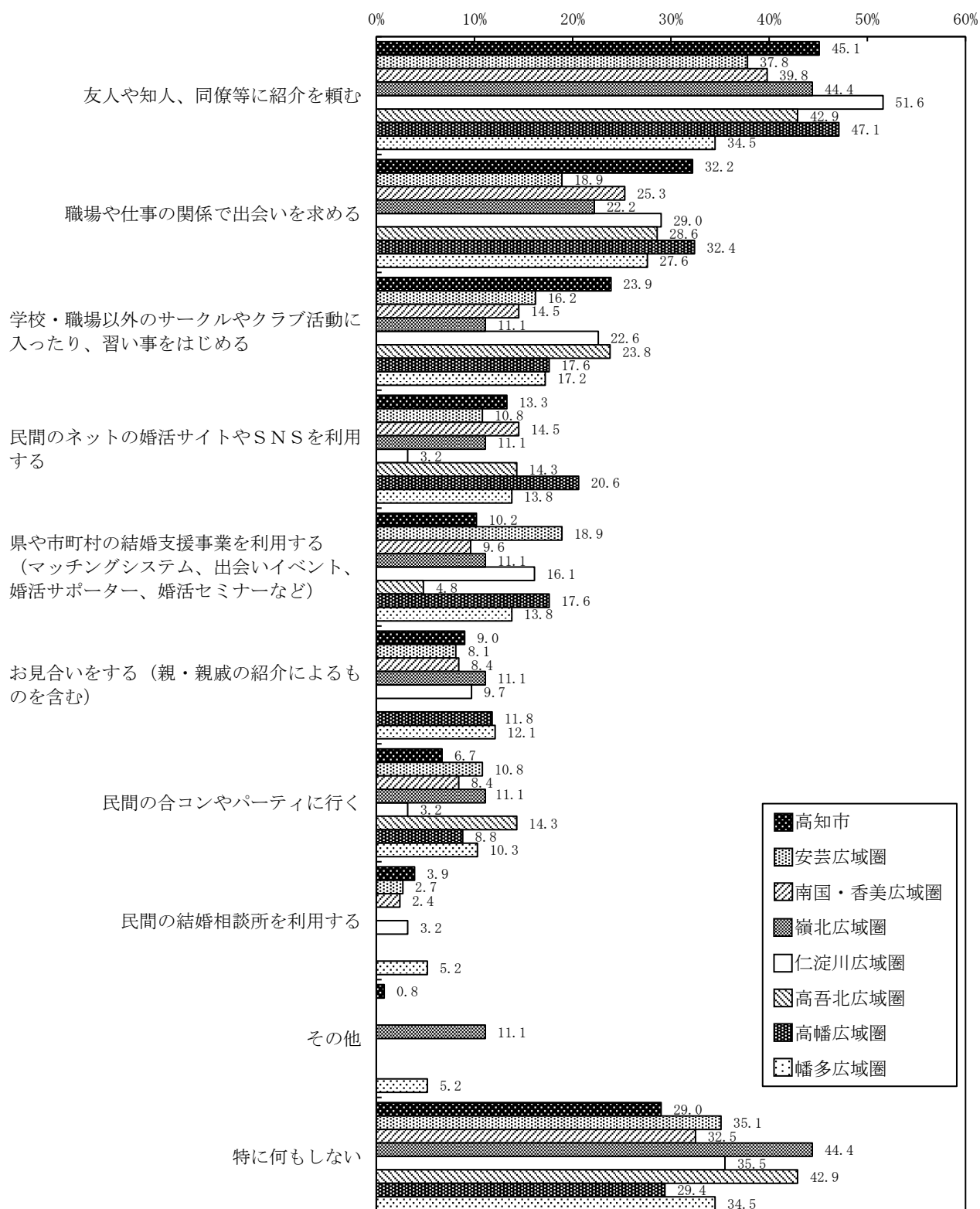
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



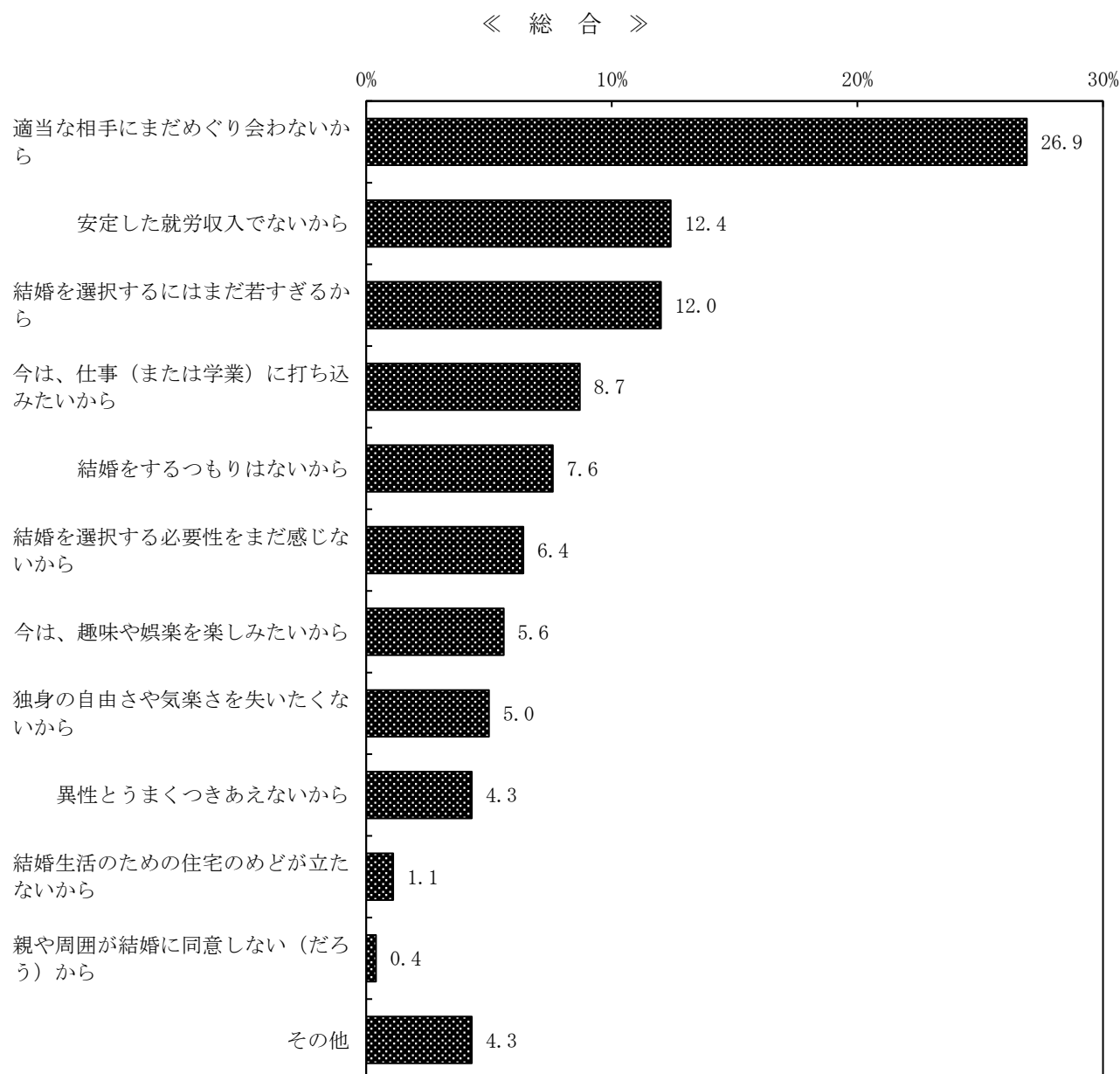
問6 F6で「2. 未婚で交際中」、「3. 未婚で交際している人はいない」または「4. 交際未経験」と回答した方のみお答えください。

あなたが現在結婚を選択していないのは、どのような理由からですか。理由として大きなものから順に3位まで番号を記入してください。

なお、「2」を選択された場合は、①～⑤のいずれかひとつに○印をつけてください。

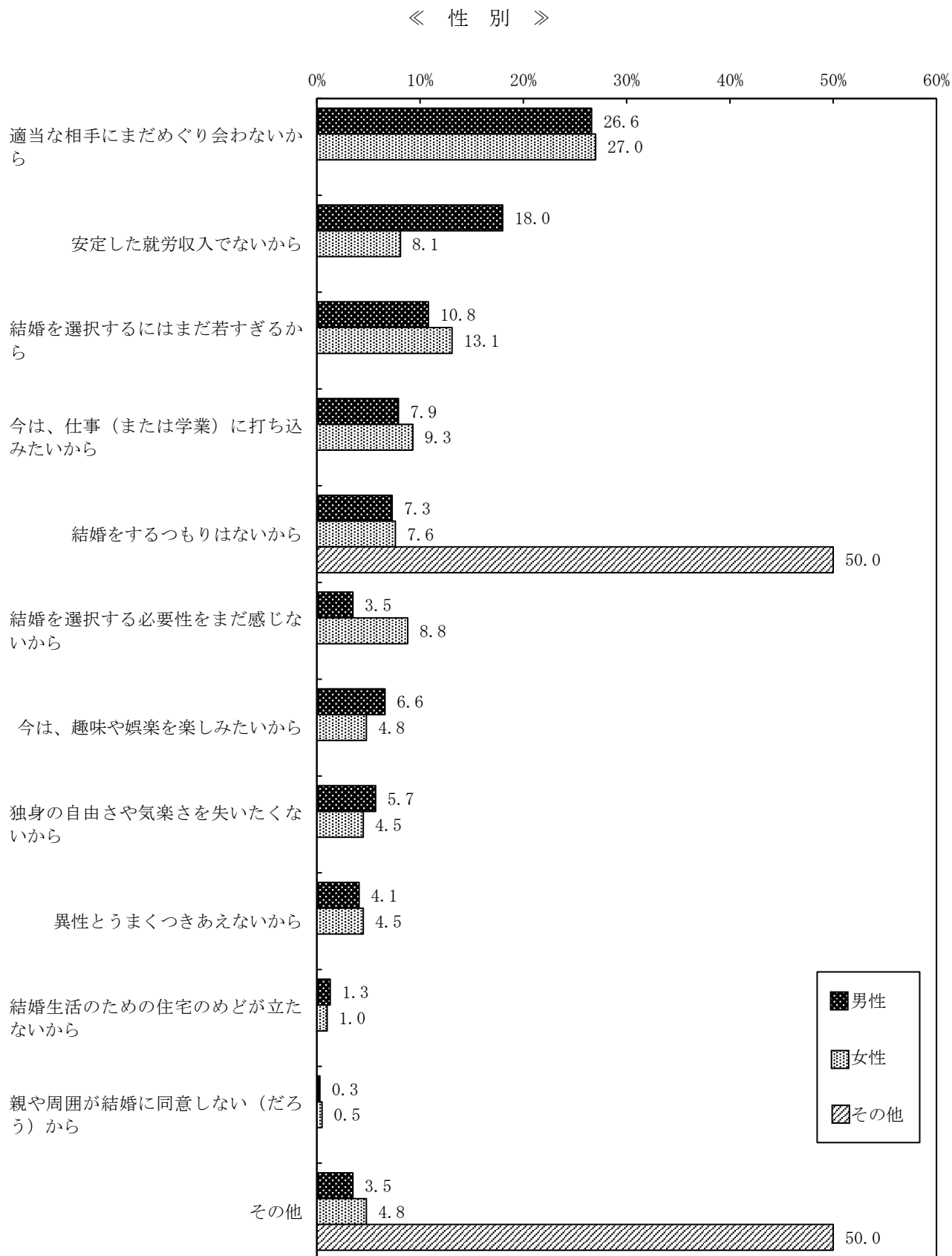
【1位】

「適当な相手にまだめぐり会わないから」が26.9%と最も高く、次いで「安定した就労収入でないから」12.4%、「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」12.0%と続いている。



【性別】

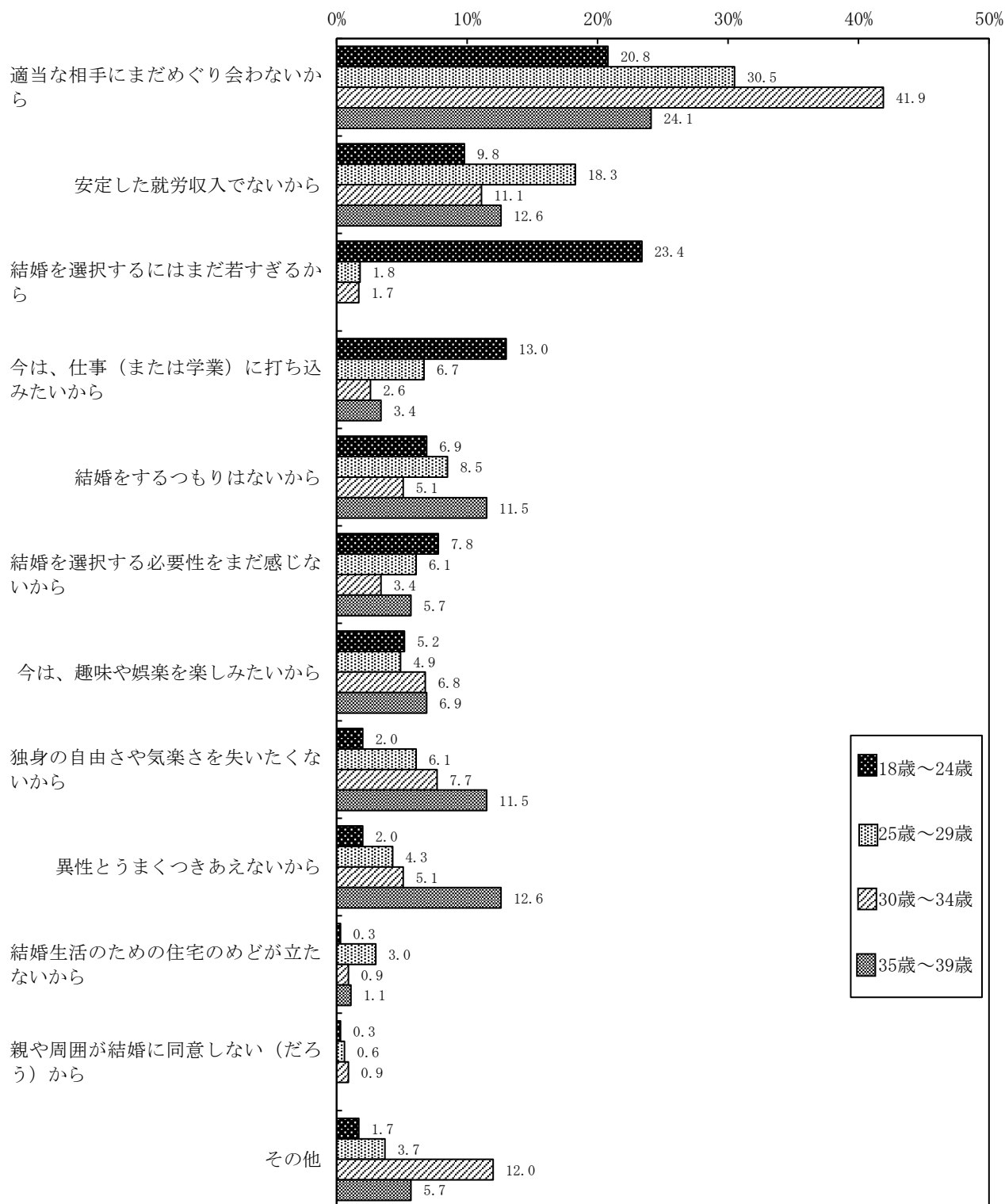
男性 26.6%、女性 27.0%で男女とも「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。



【年代別】

18 歳～24 歳では「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」が最も高く、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳では「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

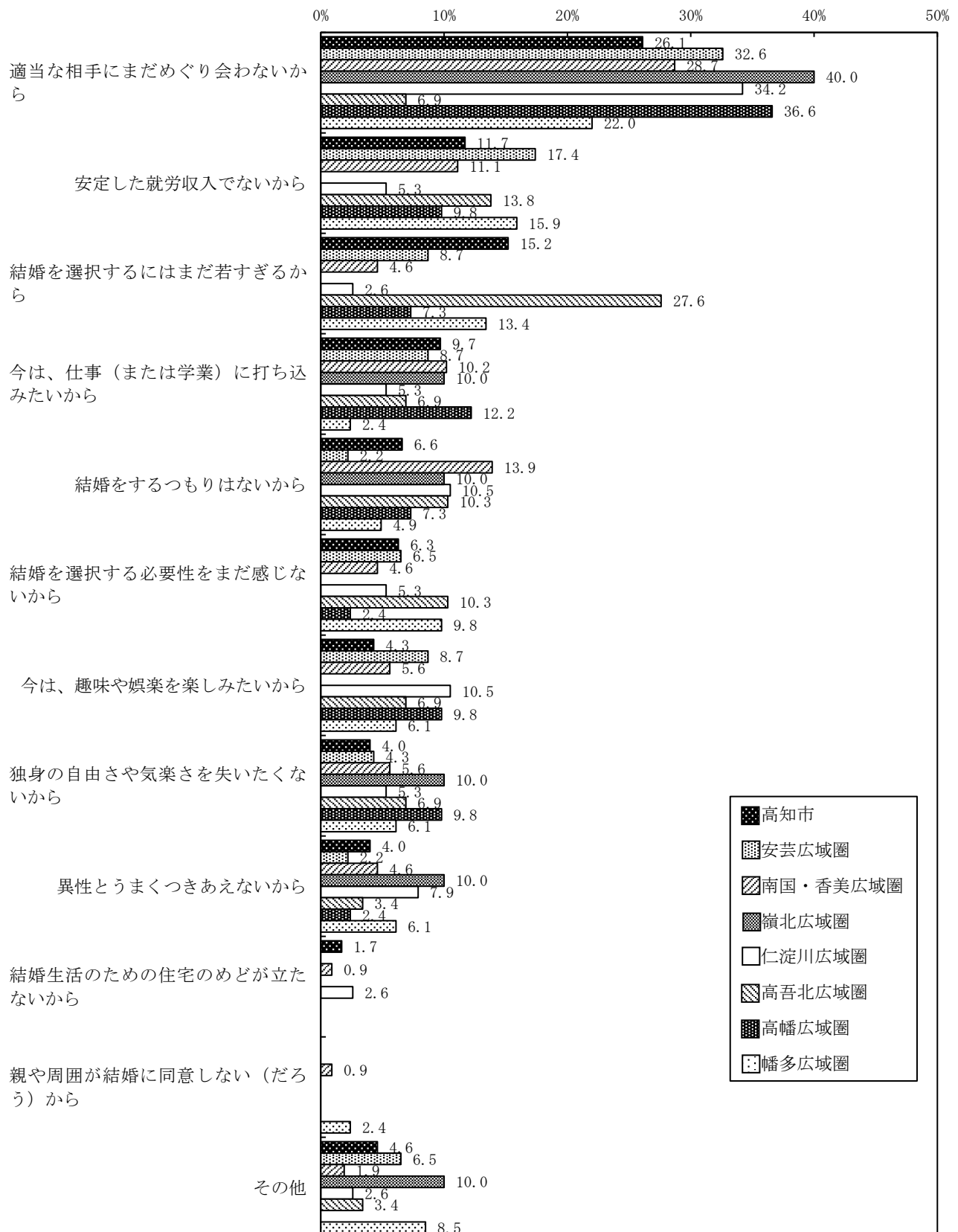
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高吾北広域圏では「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」が最も高く、その他のすべての広域市町村圏では「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

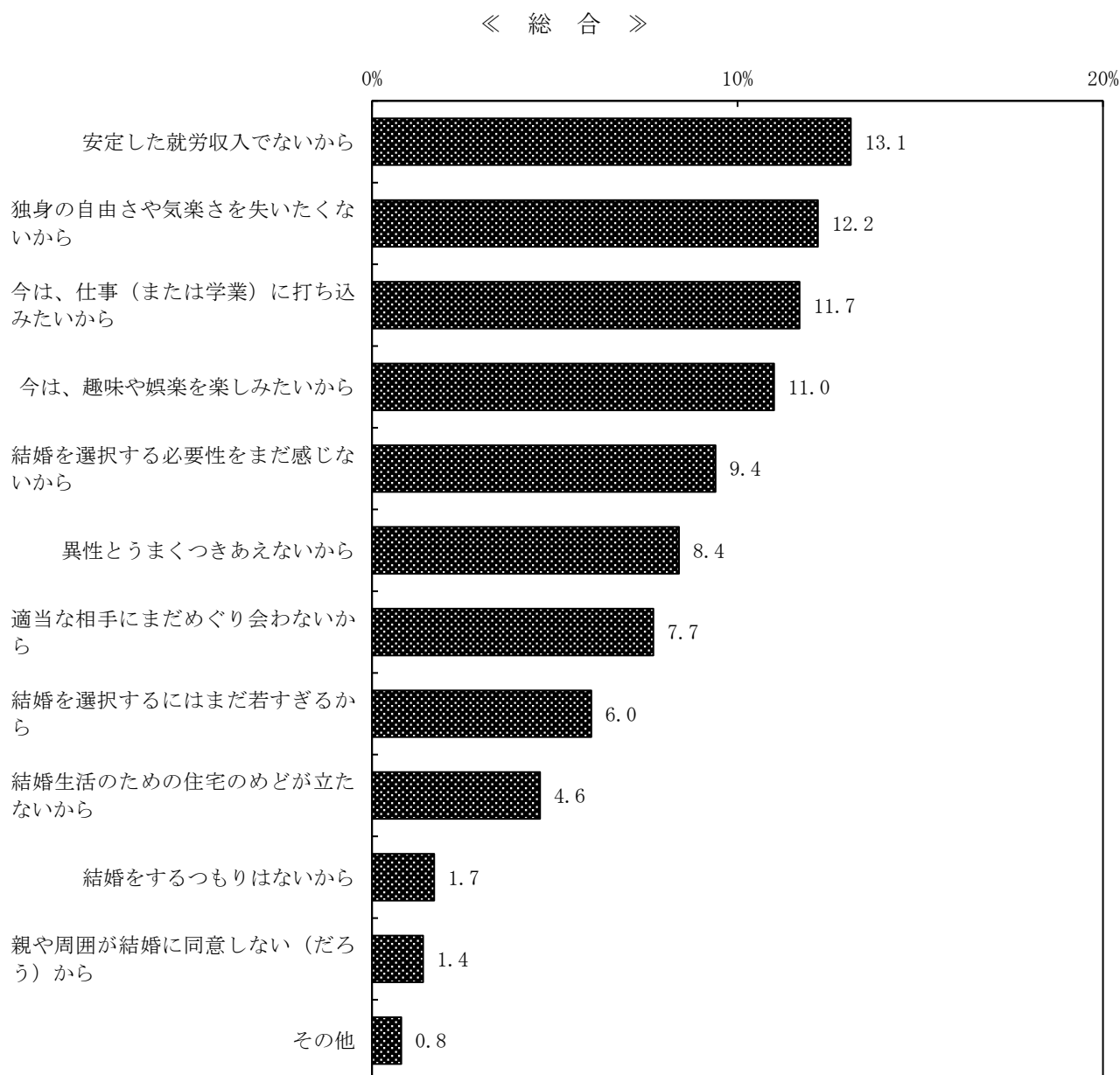


問6 F6で「2. 未婚で交際中」、「3. 未婚で交際している人はいない」または「4. 交際未経験」と回答した方のみお答えください。

あなたが現在結婚を選択していないのは、どのような理由からですか。理由として大きなものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

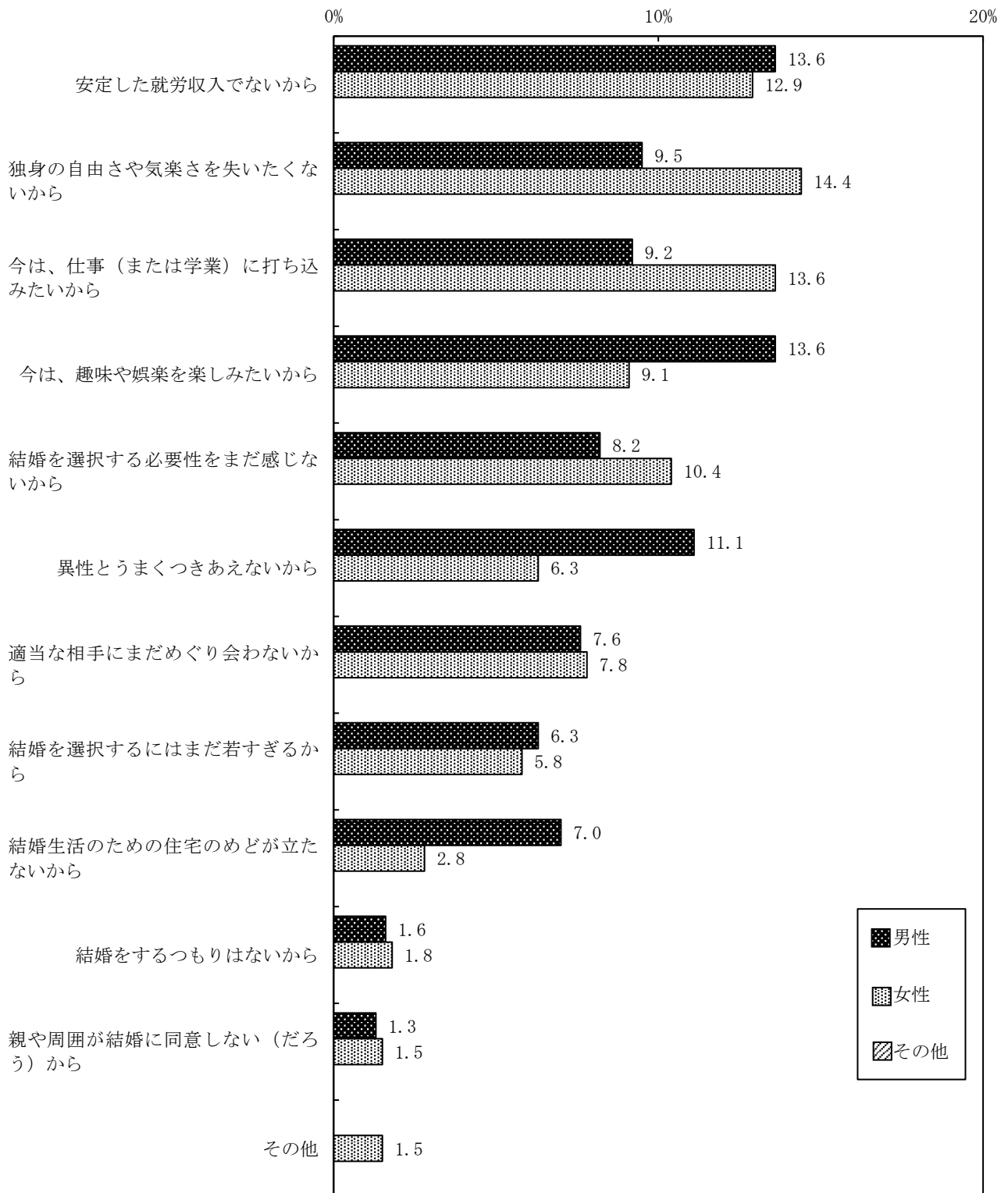
「安定した就労収入でないから」が13.1%と最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」11.7%と続いている。



【性別】

男性では同率で「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」と「安定した就労収入でないから」が13.6%で、女性では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が14.4%で最も高くなっている。

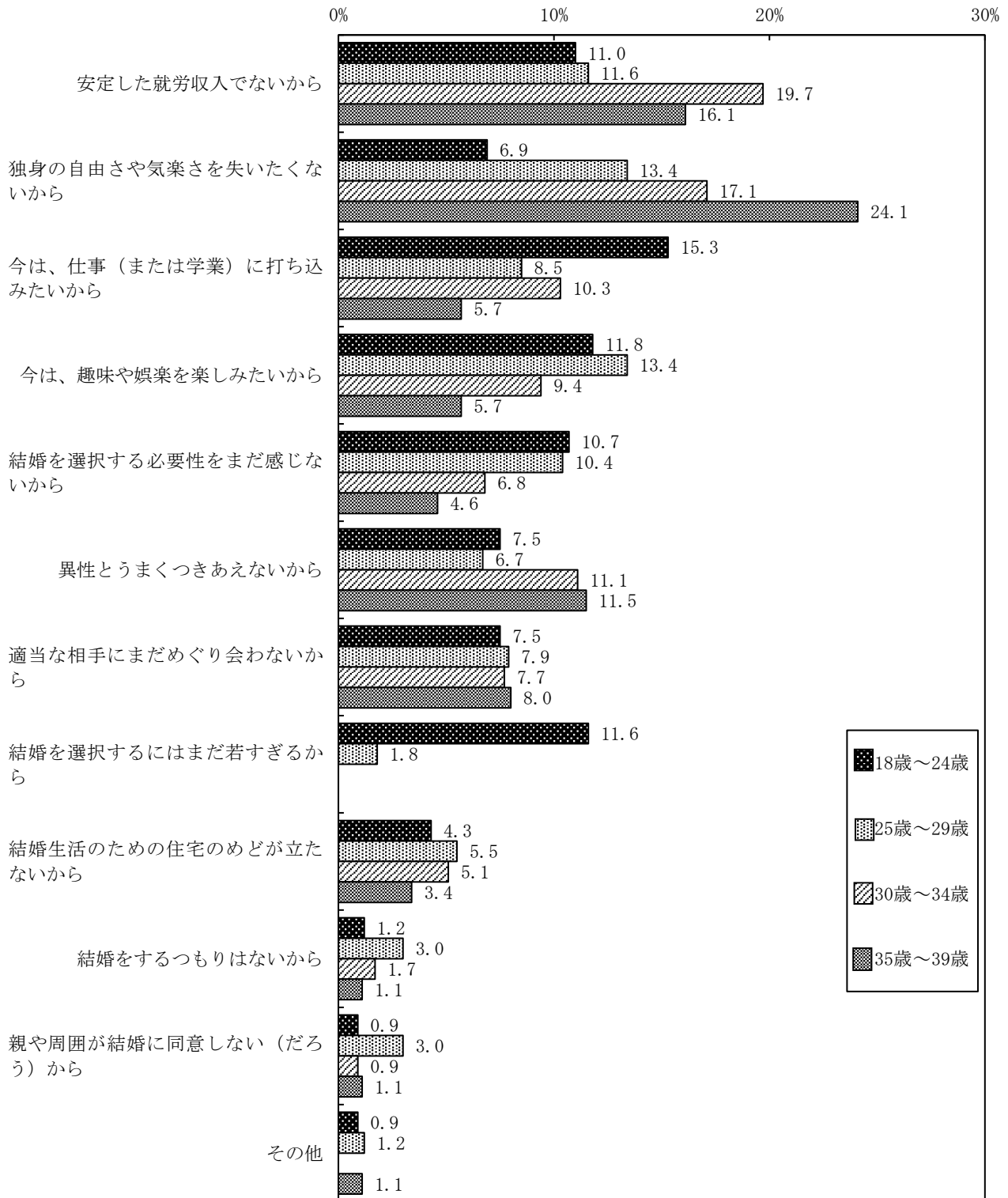
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳では「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が最も高く、25 歳～29 歳では同率で「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」と「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が、30 歳～34 歳では「安定した就労収入でないから」が、35 歳～39 歳では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が最も高くなっている。

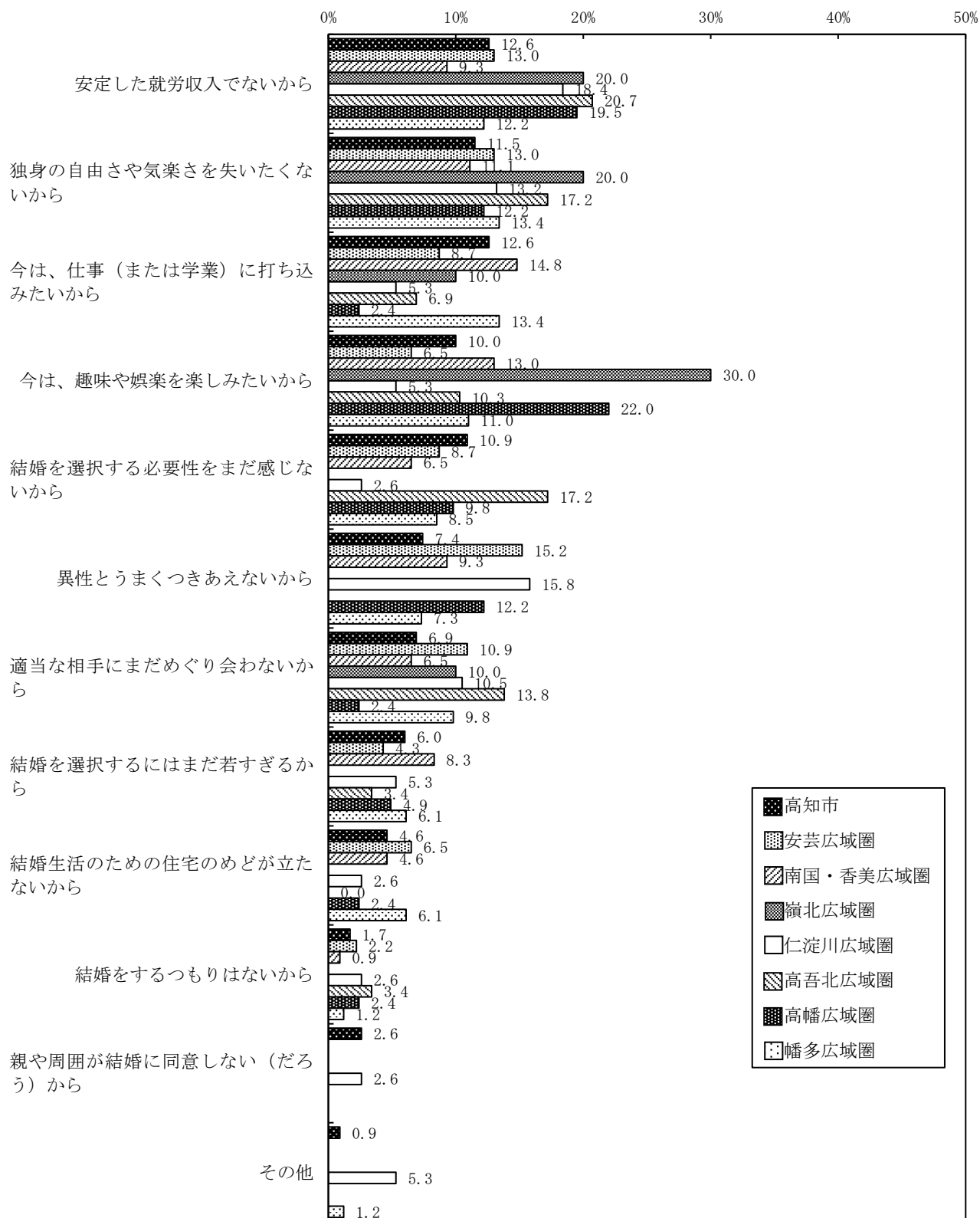
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では同率で「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」と「安定した就労収入でないから」が、安芸広域圏では「異性とうまくつきあえないから」が、南国・香美広域圏では「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が、嶺北広域圏、高幡広域圏では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が、幡多広域圏では同率で「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」と「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



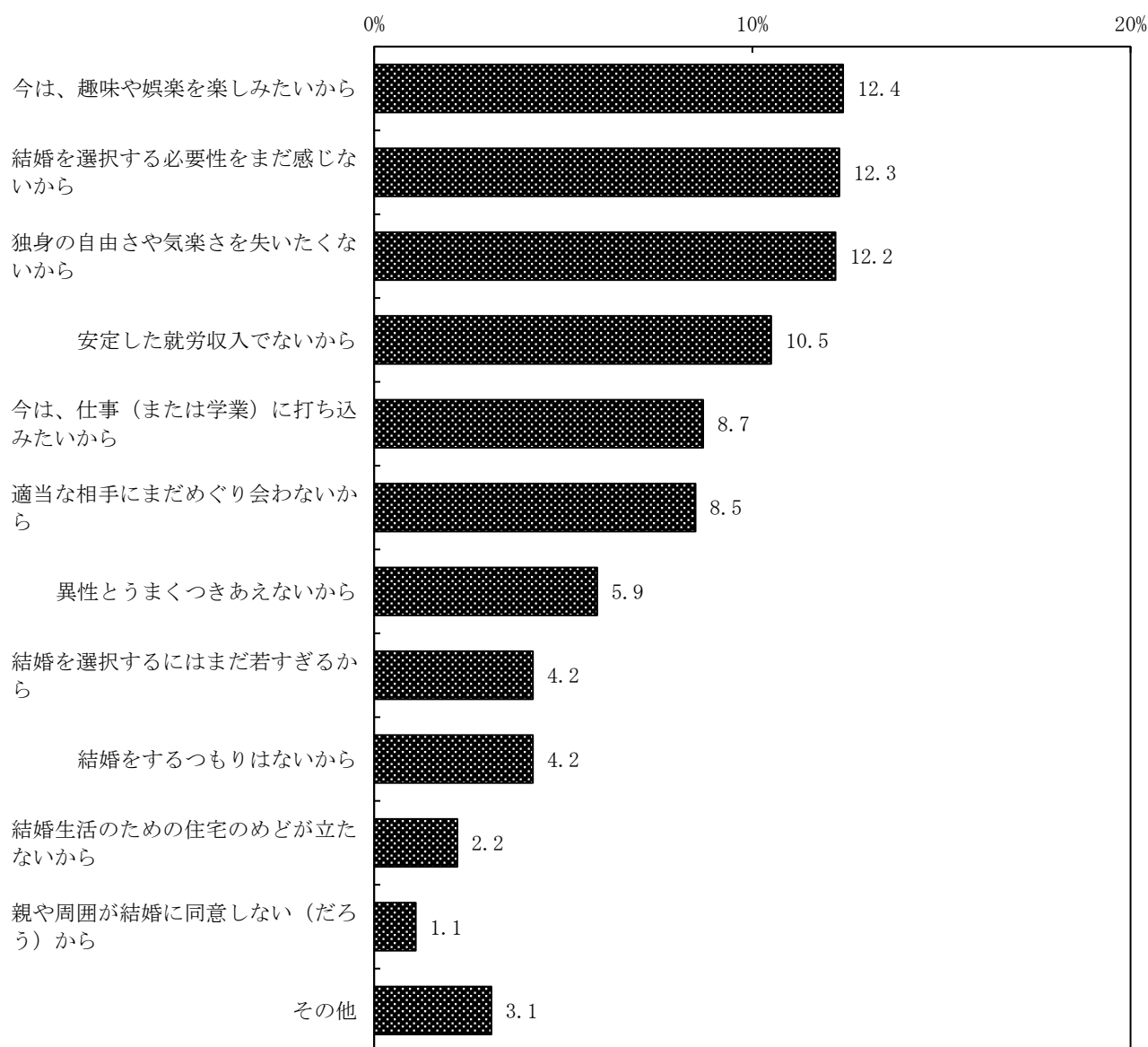
問6 F6で「2. 未婚で交際中」、「3. 未婚で交際している人はいない」または「4. 交際未経験」と回答した方のみお答えください。

あなたが現在結婚を選択していないのは、どのような理由からですか。理由として大きなものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が12.4%と最も高く、「結婚を選択する必要性をまだ感じてないから」12.3%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%と続いている。上位はほとんど差がない。

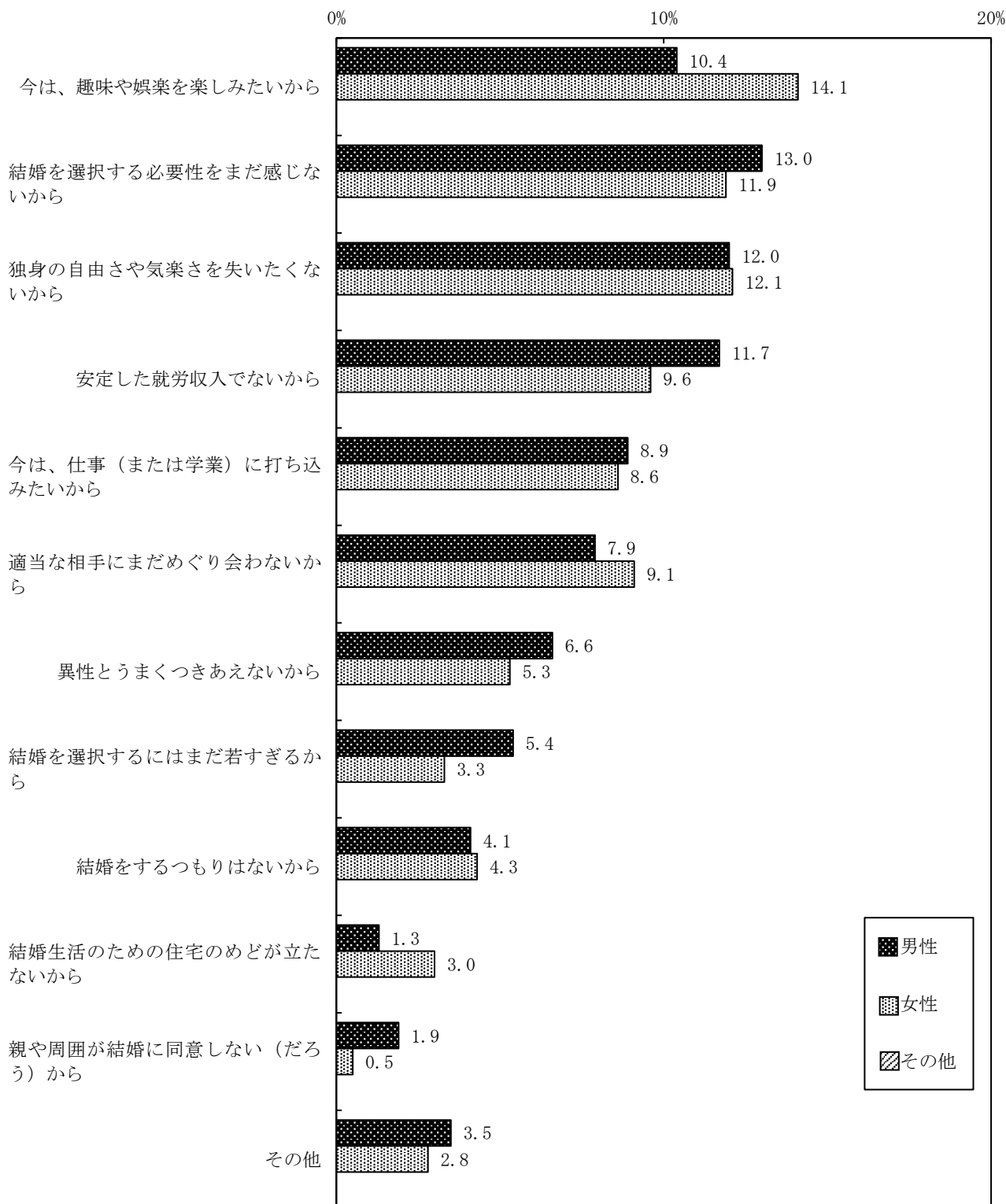
《 総 合 》



【性別】

男性では「結婚を選択する必要性をまだ感じないから」が 13.0%で、女性では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が 14.1%で最も高くなっている。

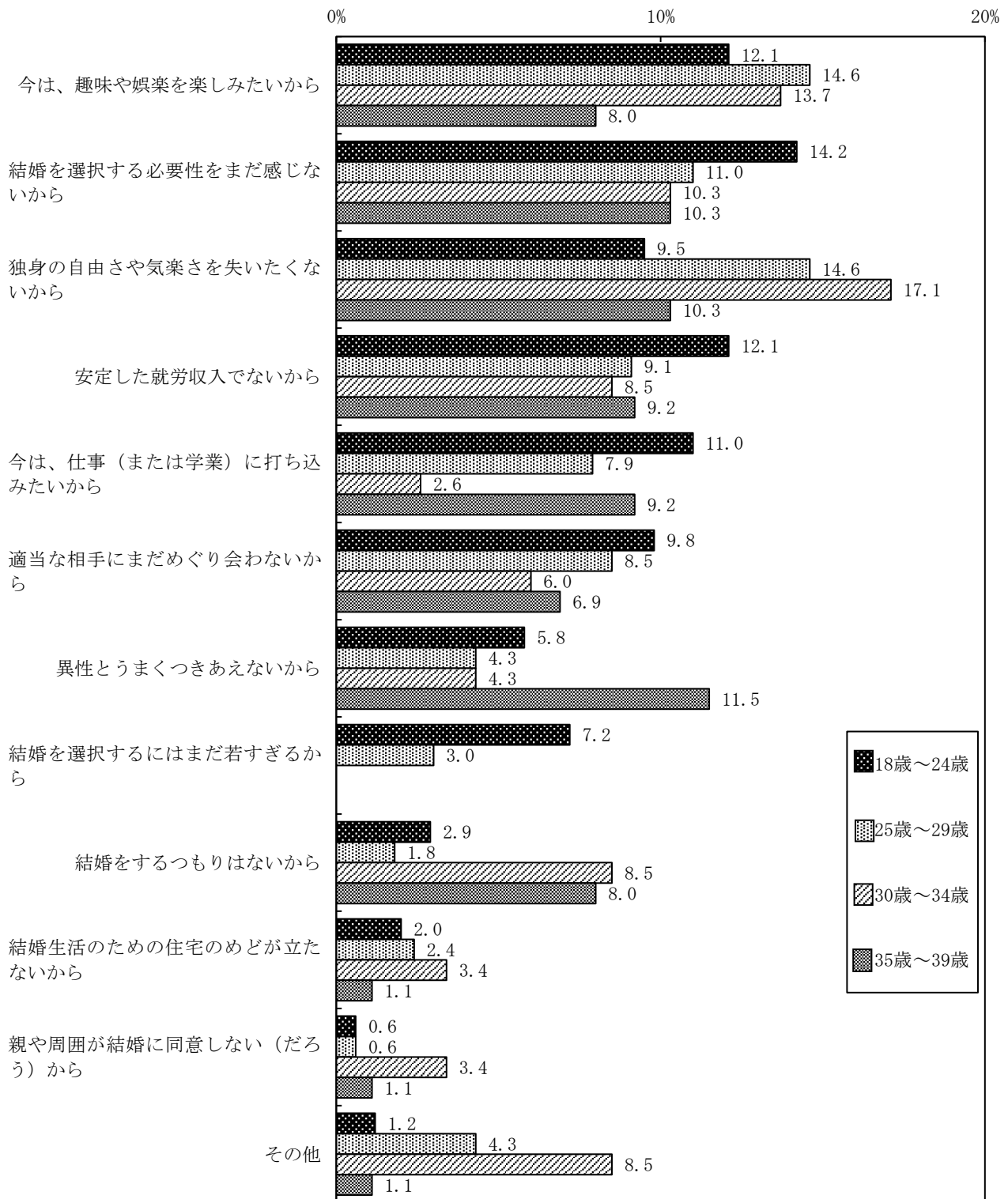
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳では「結婚を選択する必要性をまだ感じないから」が最も高く、25 歳～29 歳では同率で「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」と「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が、30 歳～34 歳では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が、35 歳～39 歳では「異性とうまくつきあえないから」が最も高くなっている。

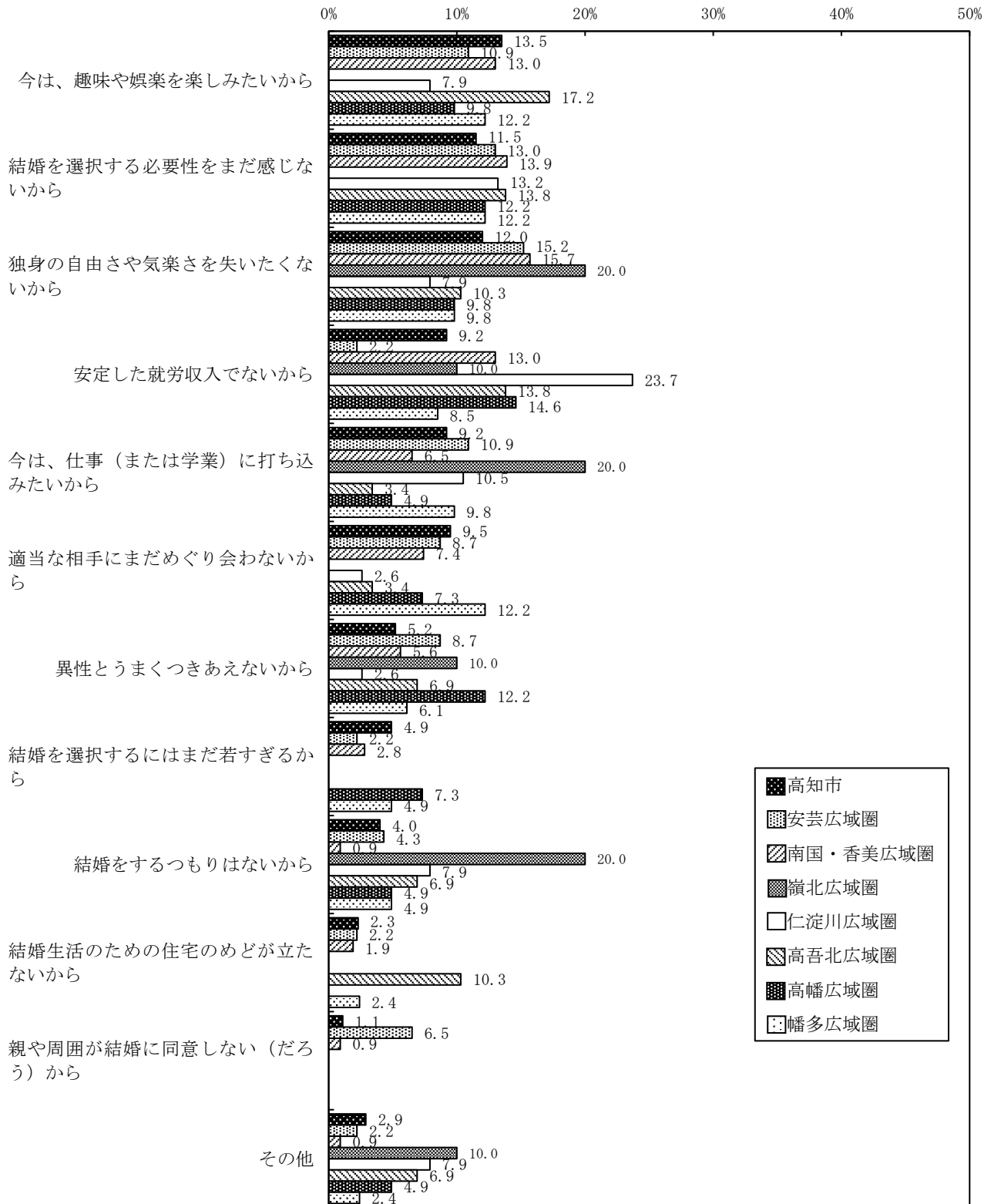
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、高吾北広域圏では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が最も高く、安芸広域圏、南国・香美広域圏では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が、嶺北広域圏では「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」と「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、「結婚するつもりはないから」が、仁淀川広域圏、高幡広域圏では「安定した就労収入でないから」が、幡多広域圏では「適当な相手にまだめぐり会わないから」と「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」、「結婚を選択する必要性をまだ感じないから」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



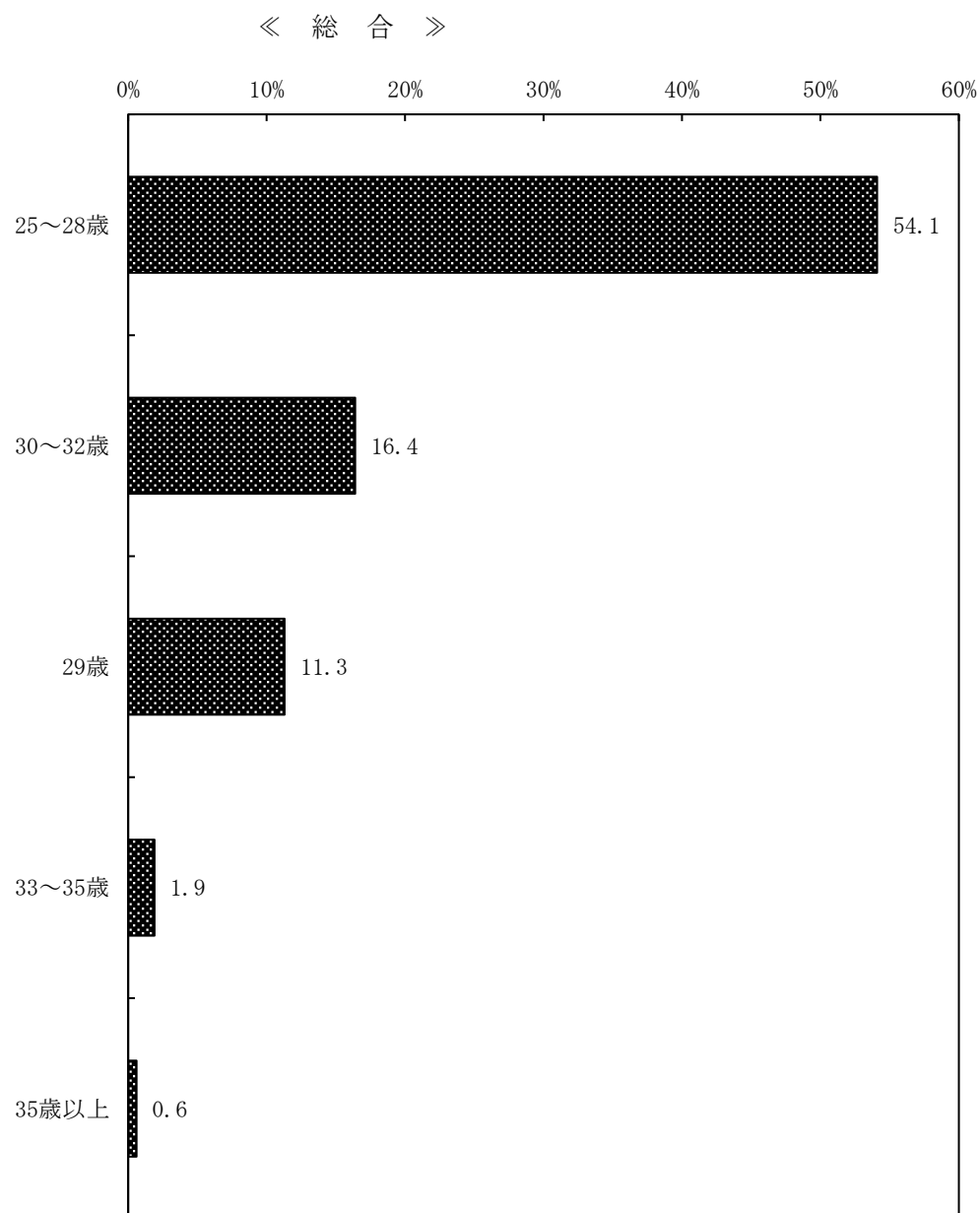
問6 F6で「2. 未婚で交際中」、「3. 未婚で交際している人はいない」または「4. 交際未経験」と回答した方のみお答えください。

あなたが現在結婚を選択していないのは、どのような理由からですか。理由として大きなものから順に3位まで番号を記入してください。

なお、「2」を選択された場合は、①～⑤のいずれかひとつに○印をつけてください。

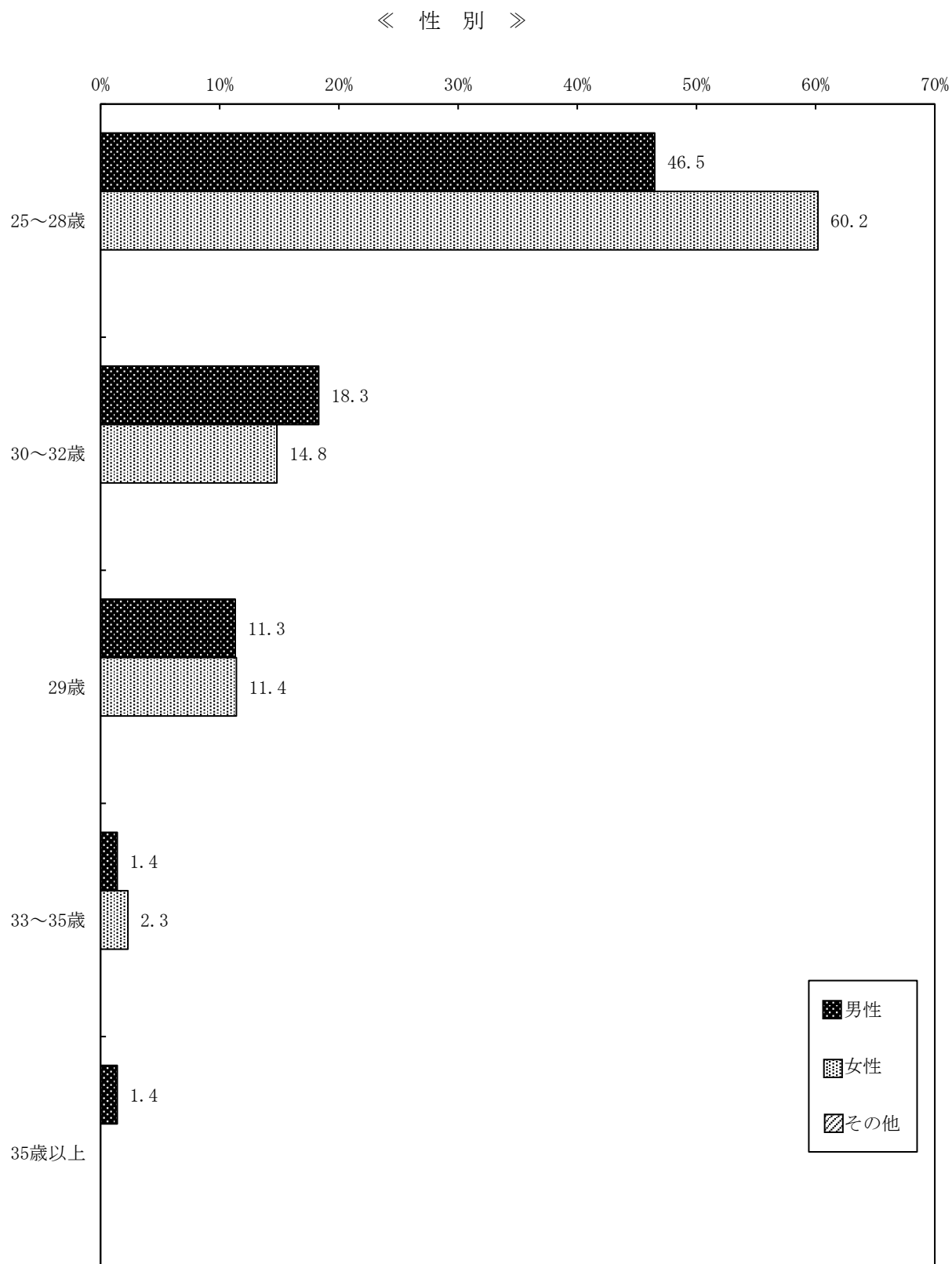
【「2」を選択した場合の希望の年齢】

「25歳～28歳」が54.1%と半分以上を占めている。



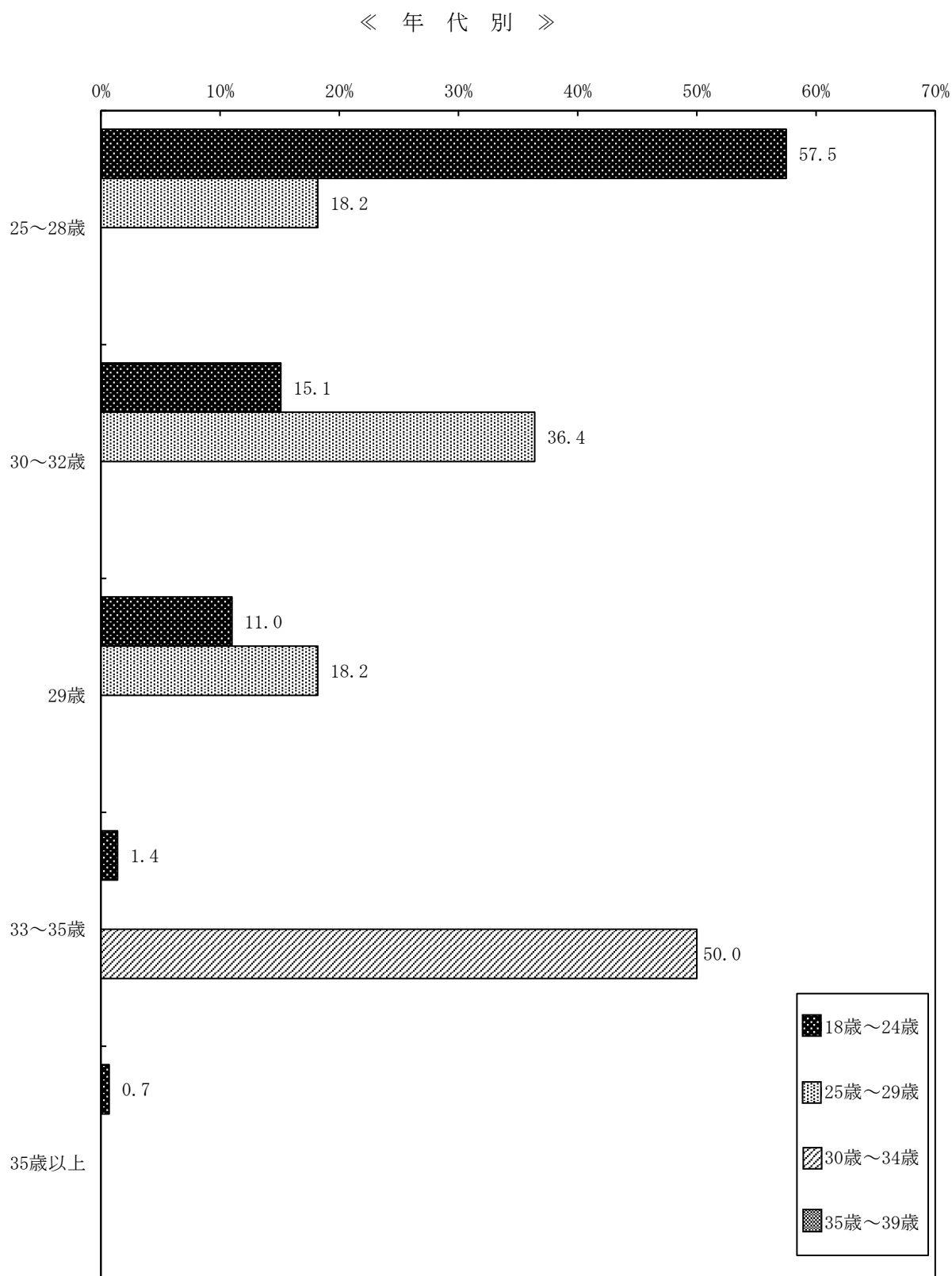
【性別】

男性 46.5%、女性 60.2%で男女ともに「25 歳～28 歳」が最も高くなっている。



【年代別】

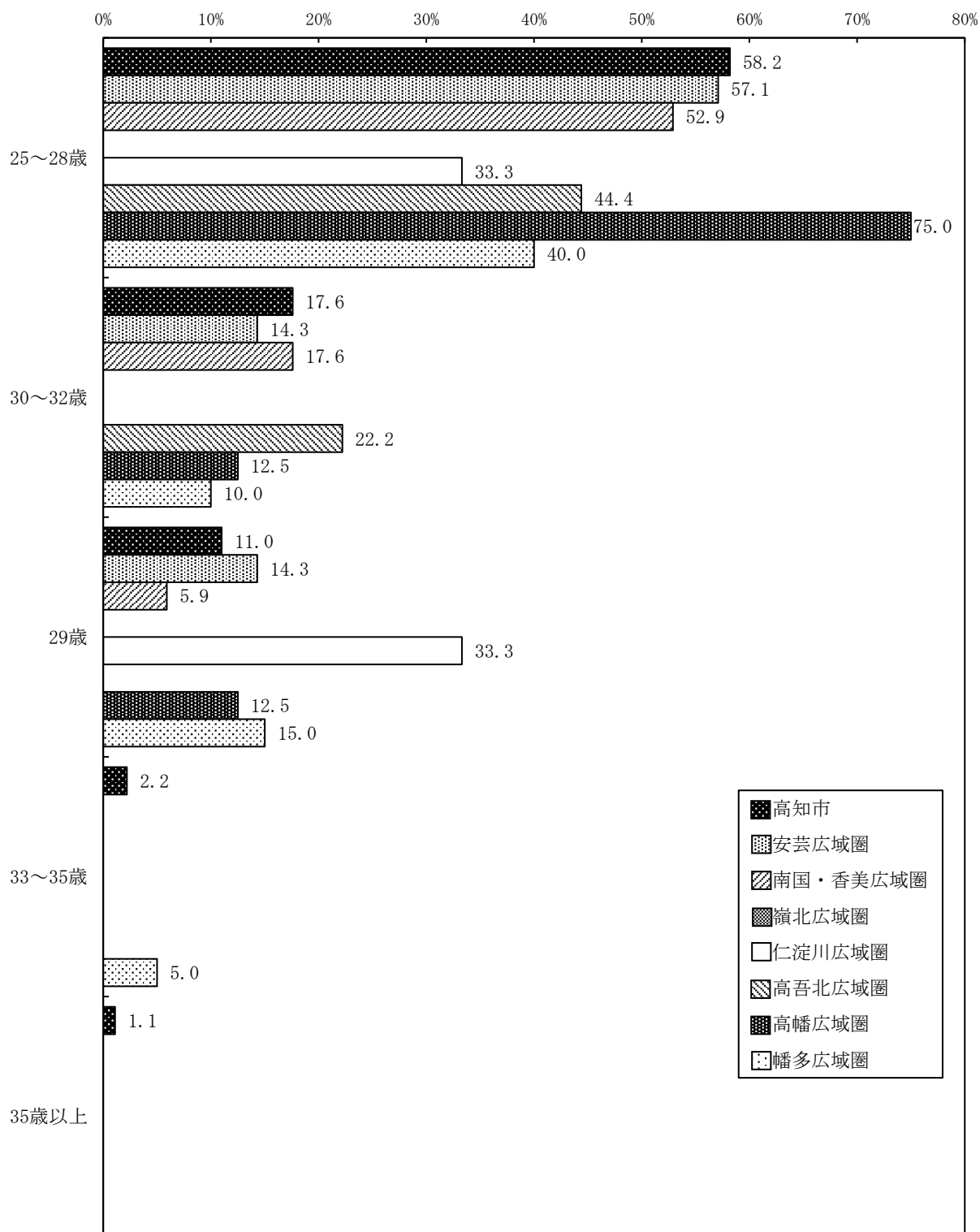
18 歳～24 歳では「25～28 歳」が最も高く、25 歳～29 歳では「30～32 歳」が、30 歳～34 歳では「33～35 歳」が最も高くなっている。なお、35 歳～39 歳は回答がなかった。



【広域市町村圏別】

嶺北広域圏を除くすべての広域市町村圏で「25～28 歳」が最も高くなっている。なお、嶺北広域圏は回答がなかった。

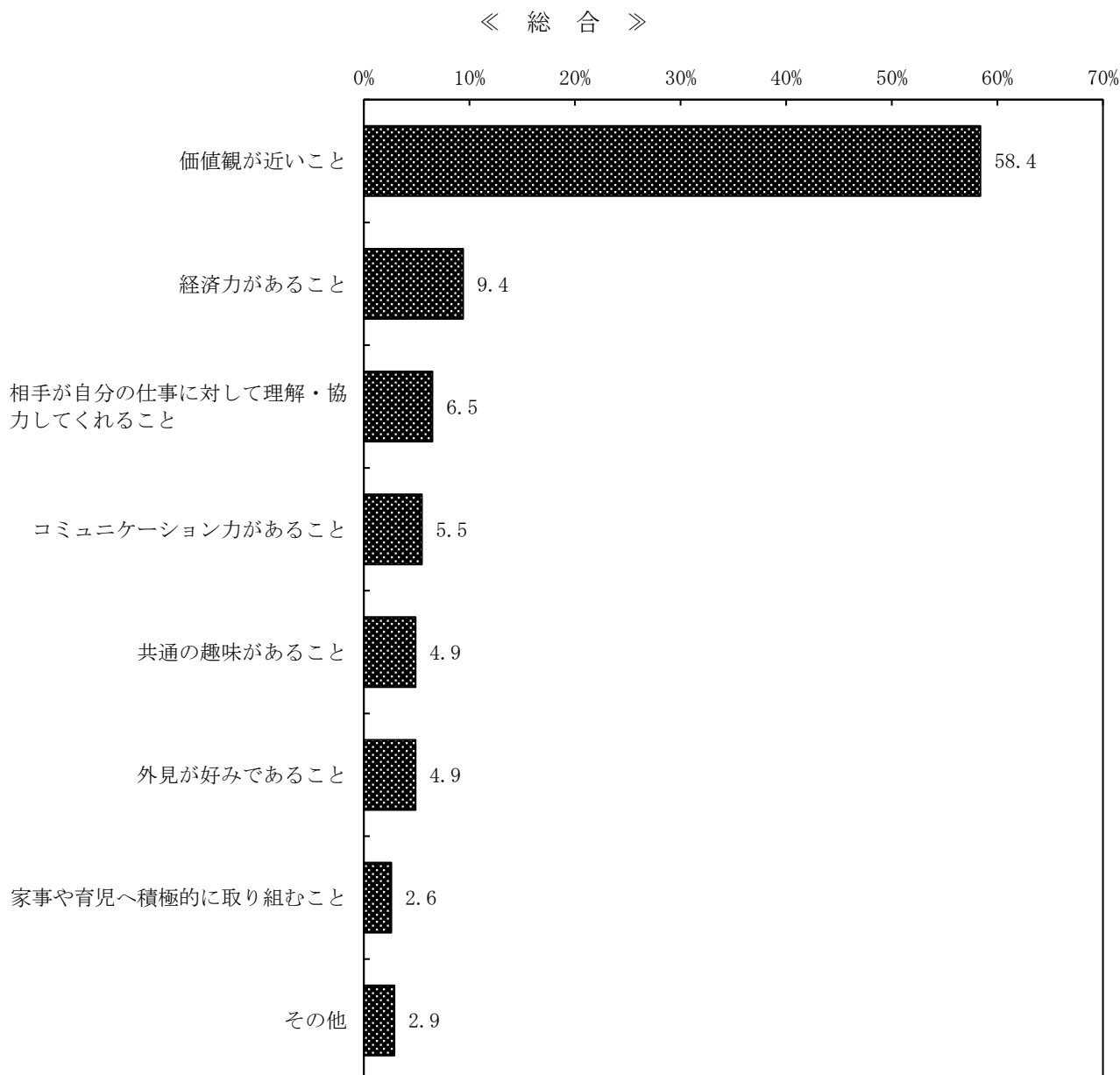
《 広域市町村圏別 》



問7 問6で「1. 適当な相手にまだめぐり会わないから」を選択した方のみお答えください。
「適当な相手」に求める条件として、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。
なお、「3」を選択された場合は、①～⑤のいずれかひとつに○印をつけてください。

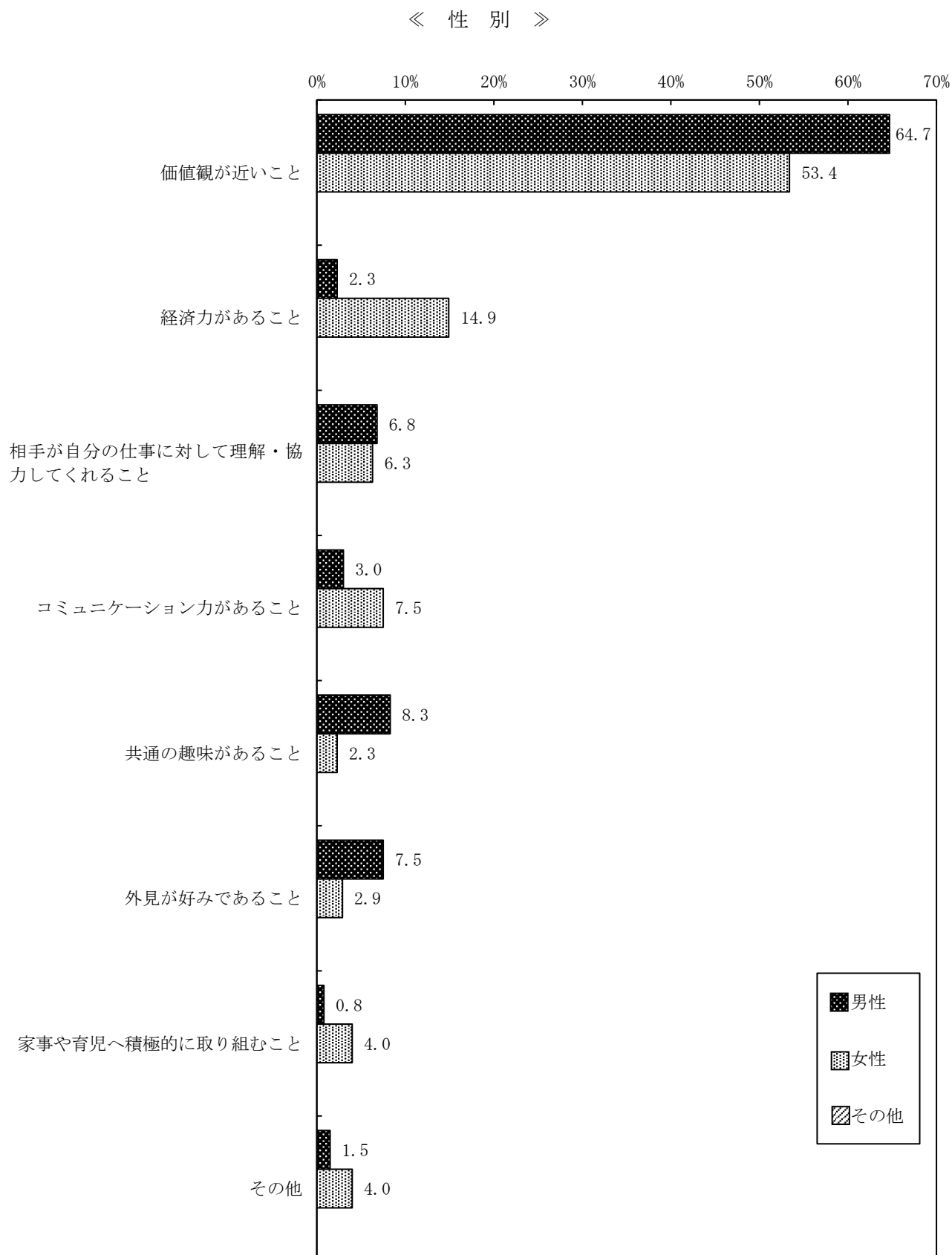
【1位】

「価値観が近いこと」が58.4%と半分以上を占めている。



【性別】

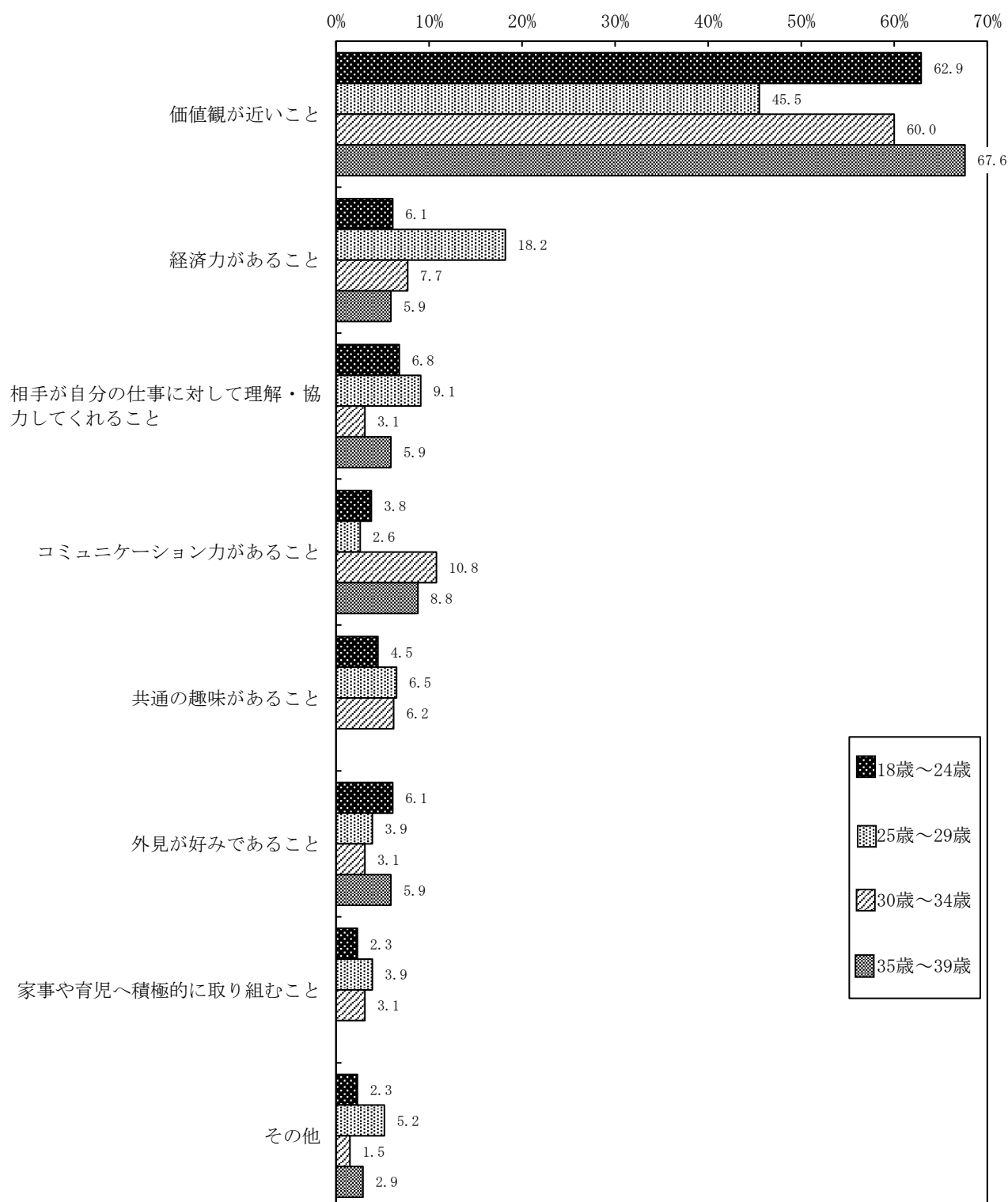
男性 64.7%、女性 53.4%で男女とも「価値観が近いこと」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「価値観が近いこと」が最も高くなっている。

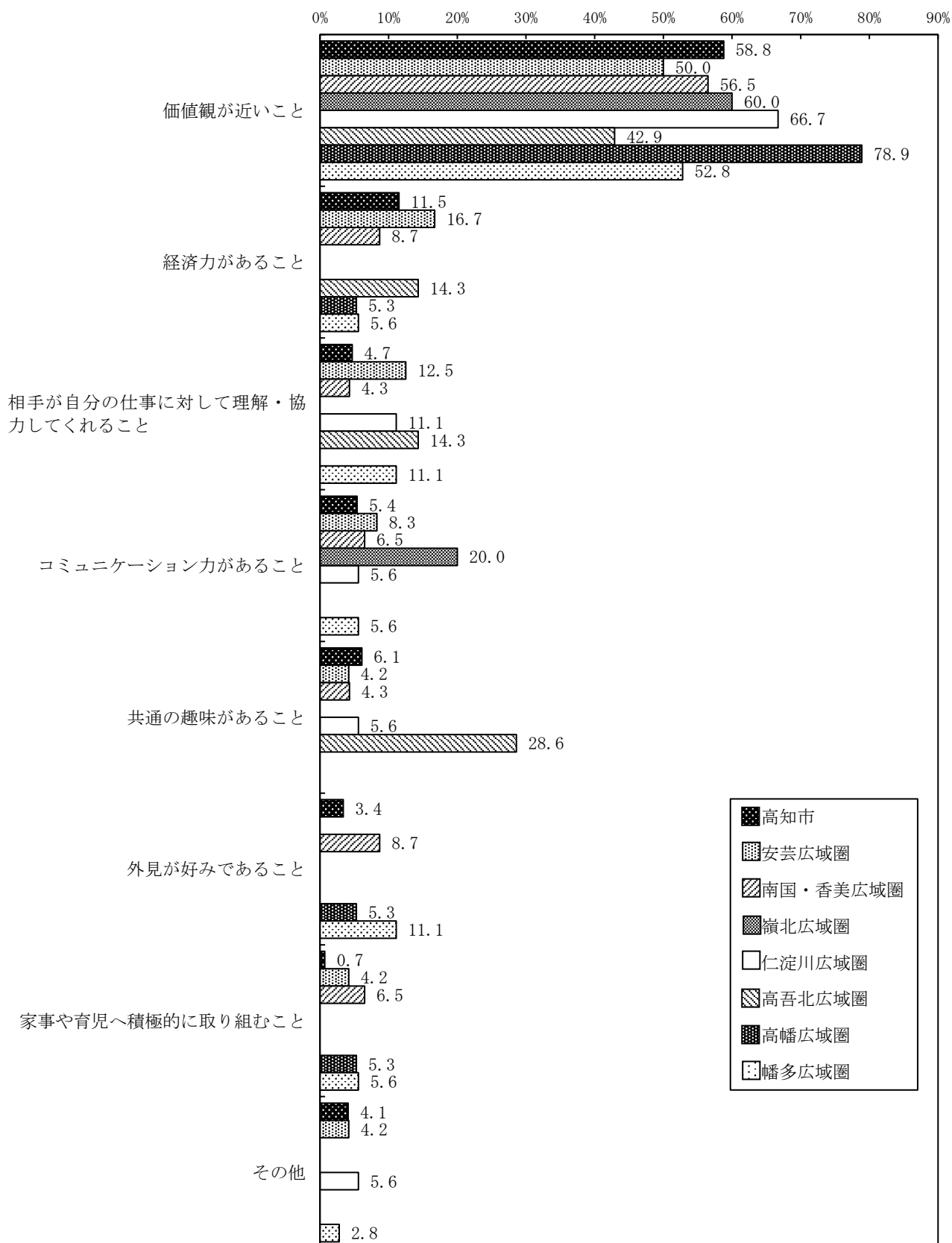
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「価値観が近いこと」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

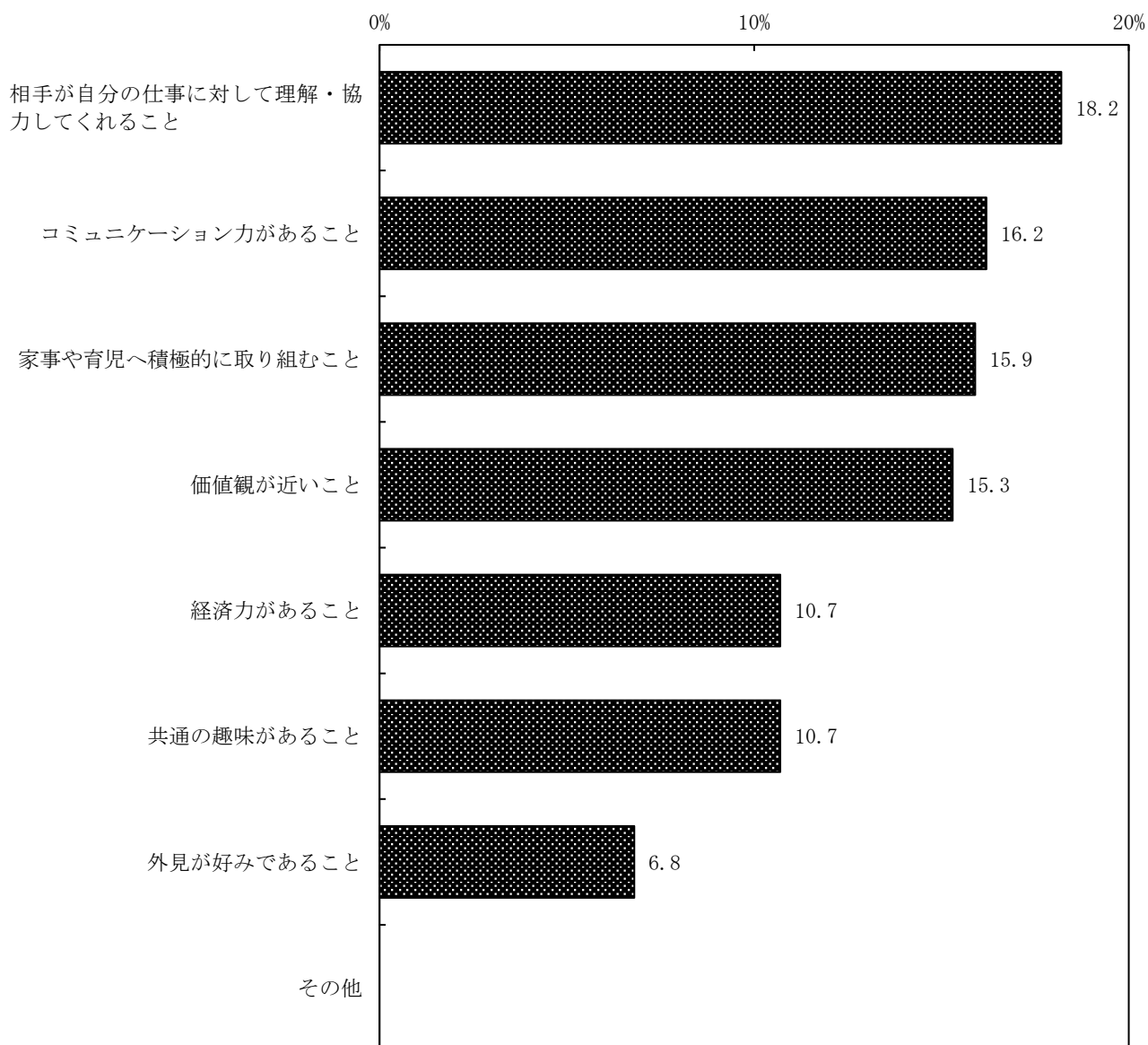


問7 問6で「1. 適当な相手にまだめぐり会わないから」を選択した方のみお答えください。
「適当な相手」に求める条件として、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が 18.2%と最も高く、「コミュニケーション力があること」16.2%、「家事や育児へ積極的に取り組むこと」15.9%と続いている。

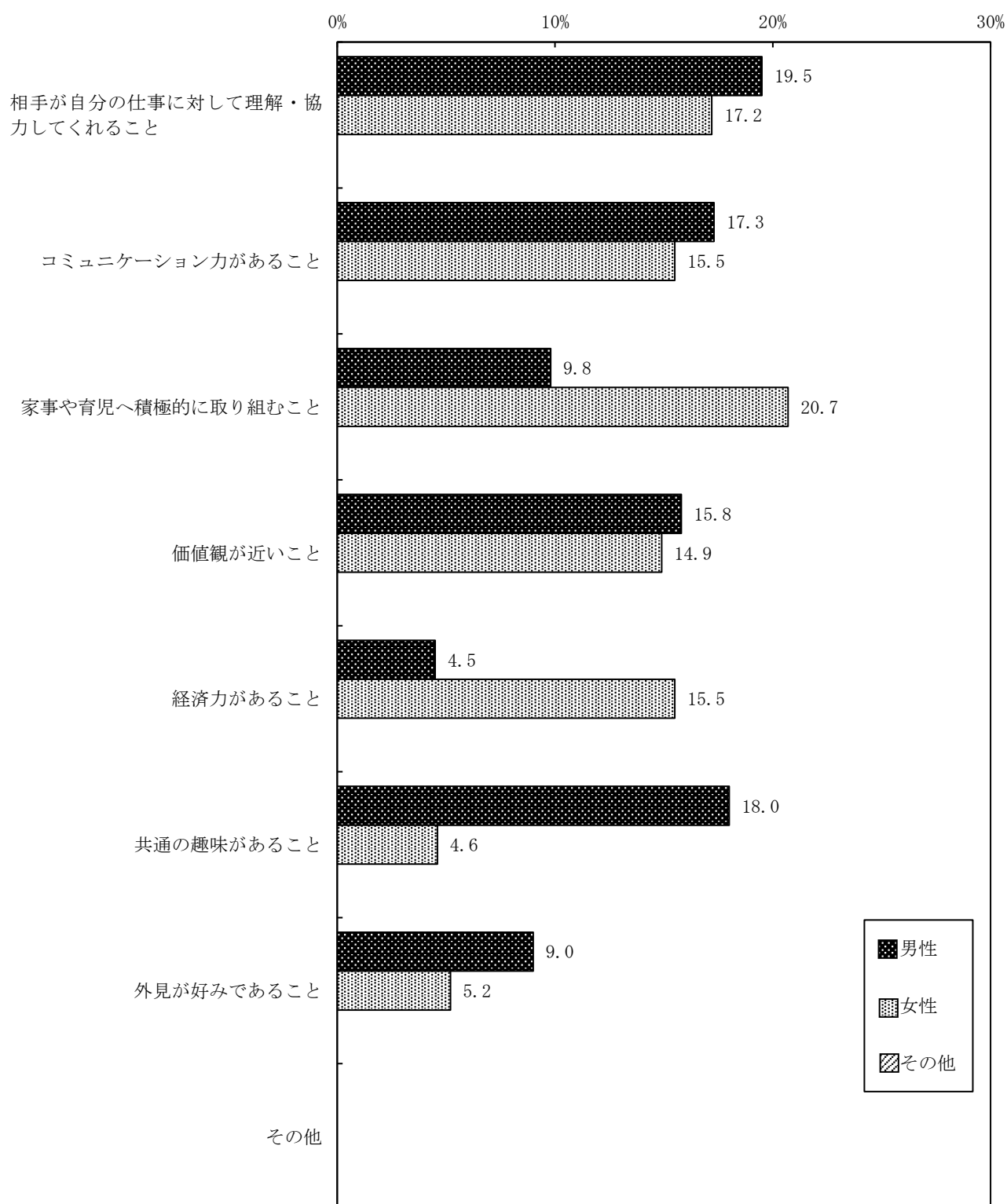
《 総 合 》



【性別】

男性では 19.5%で「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が、女性では 20.7%で「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が最も高くなっている。

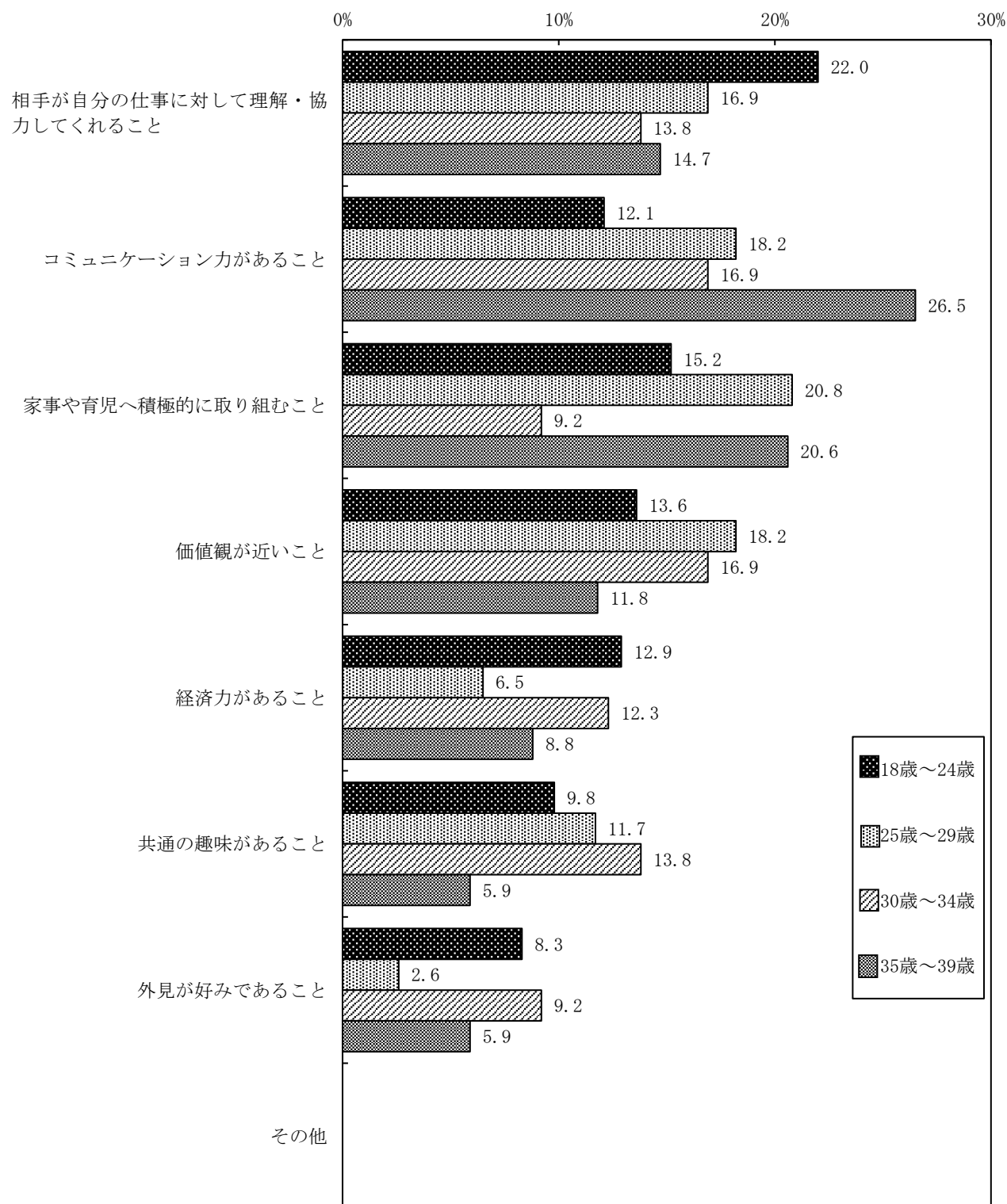
≪ 性 別 ≫



【年代別】

18 歳～24 歳では「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が最も高く、25 歳～29 歳では「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が、30 歳～34 歳では同率で「価値観が近いこと」と「コミュニケーション力があること」が、35 歳～39 歳では「コミュニケーション力があること」が最も高くなっている。

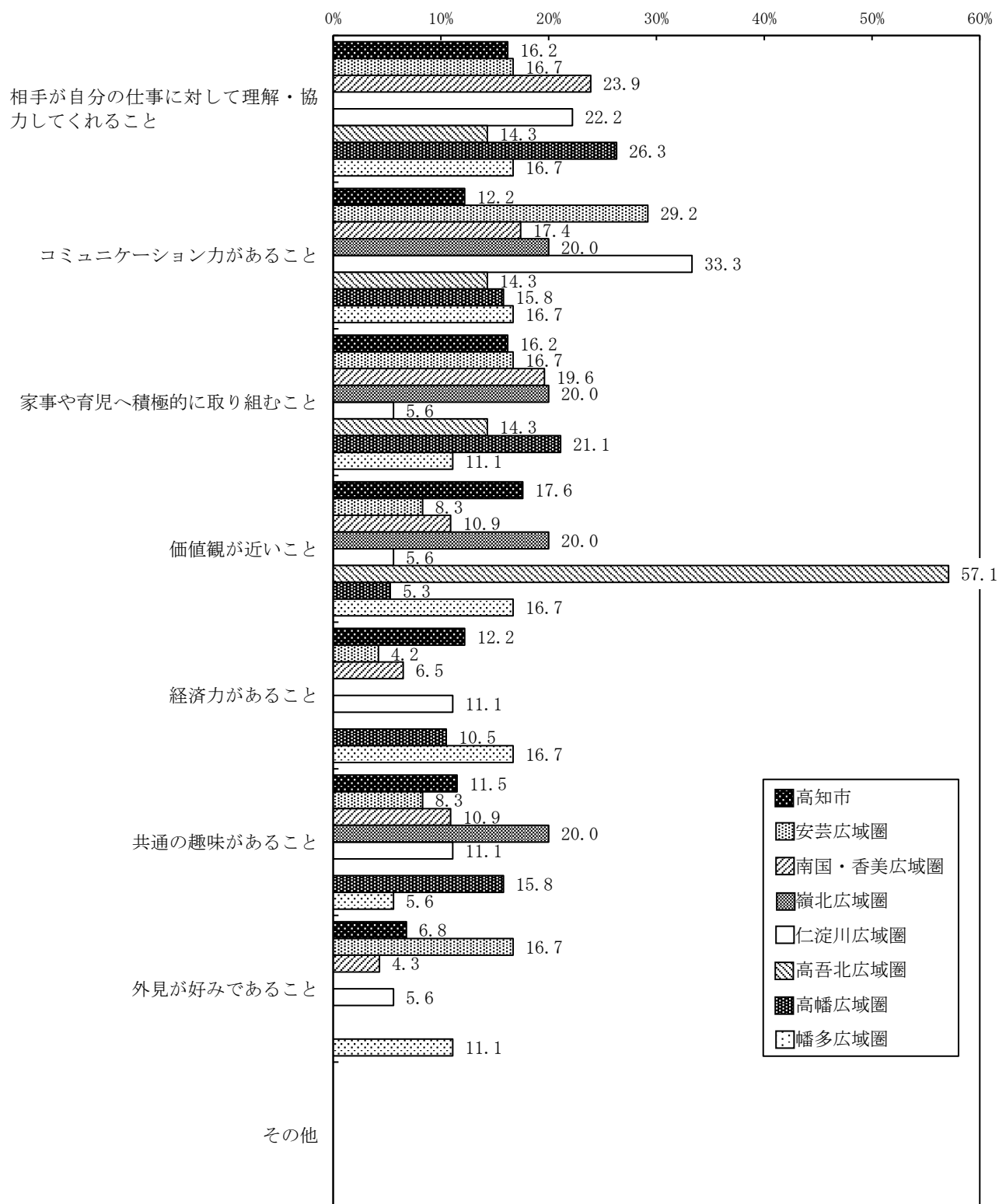
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、高吾北広域圏では「価値観が近いこと」が最も高く、安芸広域圏、仁淀川広域圏では「コミュニケーション力があること」が、南国・香美広域圏、高幡広域圏では「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が、嶺北広域圏では同率で「価値観が近いこと」と「コミュニケーション力があること」と「家事や育児へ積極的に取り組むこと」と「共通の趣味があること」が、幡多広域圏では同率で「価値観が近いこと」と「コミュニケーション力があること」と「経済力があること」と「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

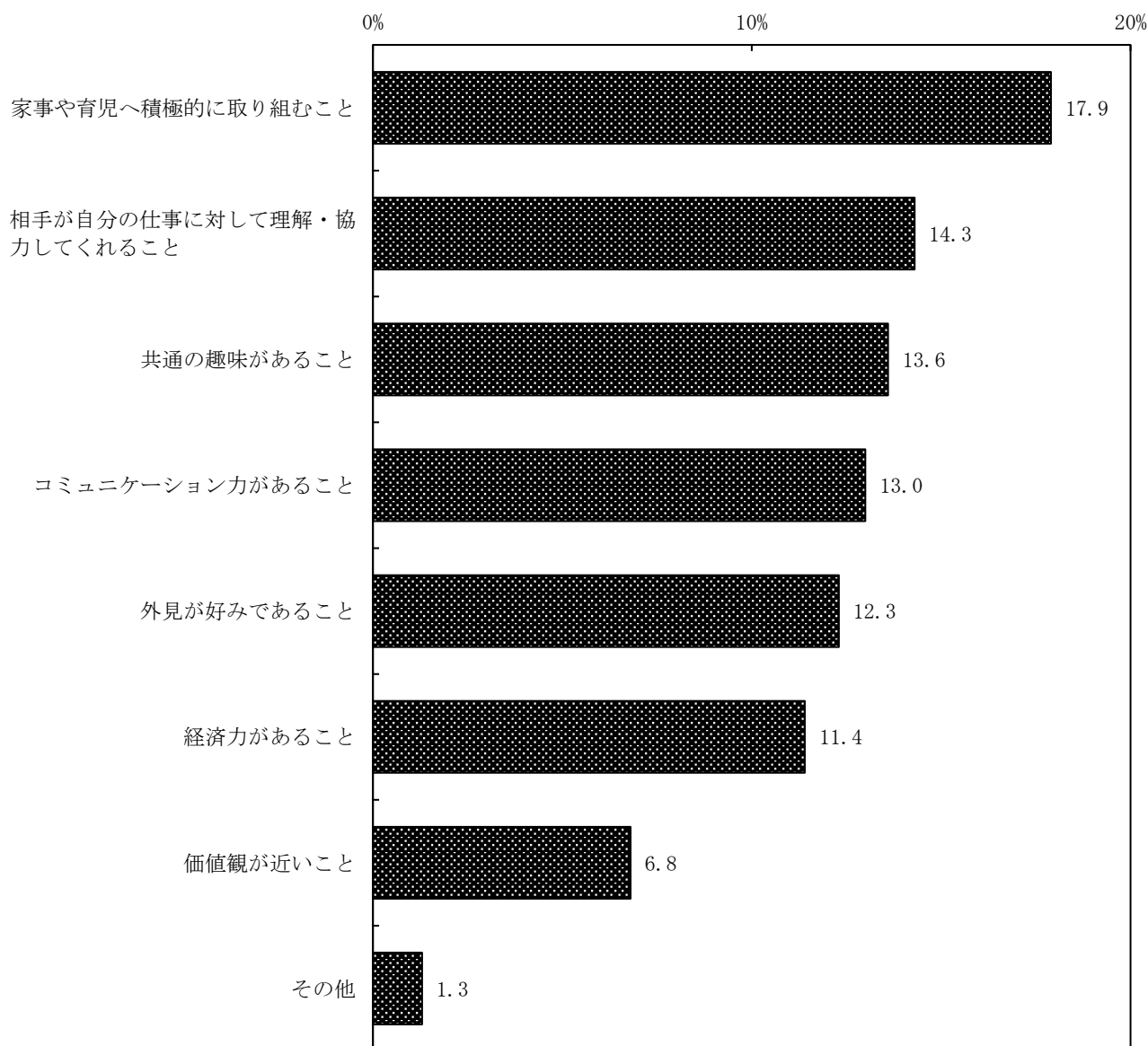


問7 問6で「1. 適当な相手にまだめぐり会わないから」を選択した方のみお答えください。
「適当な相手」に求める条件として、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

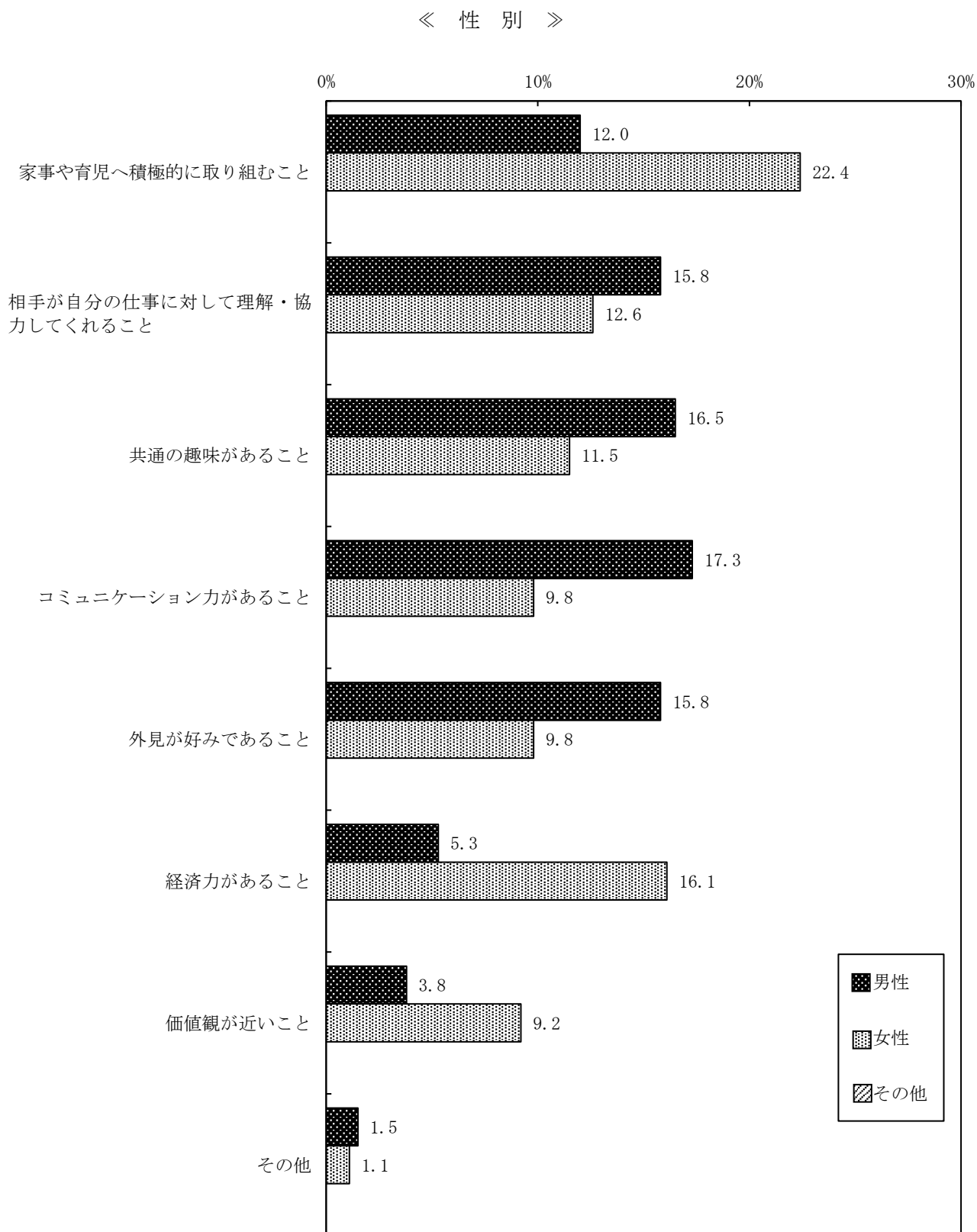
「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が 17.9%と最も高く、次いで「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」14.3%、「共通の趣味があること」13.6%と続いている。

《 総 合 》



【性別】

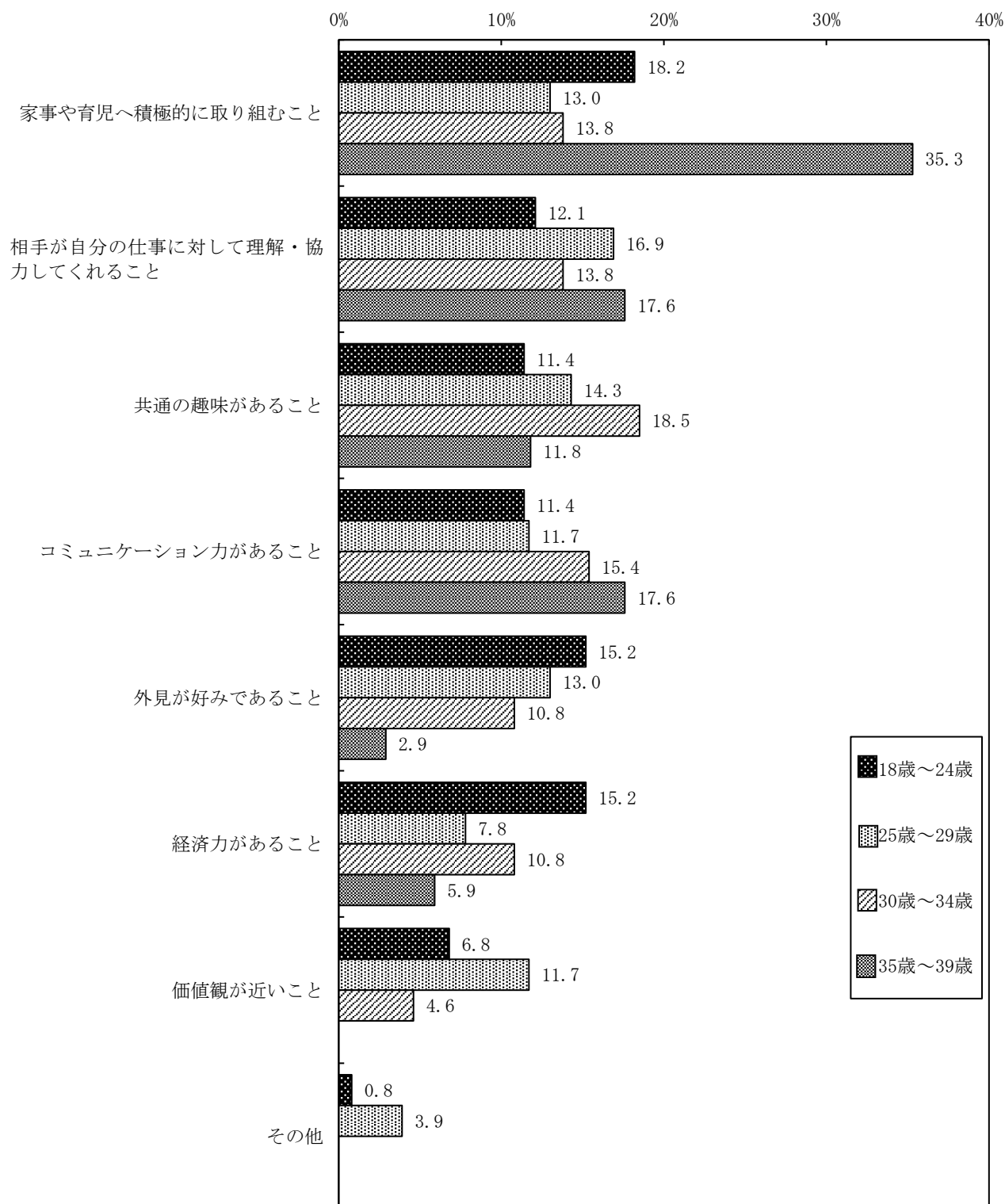
男性では「コミュニケーション力があること」17.3%、女性では「家事や育児へ積極的に取り組むこと」22.4%が最も高くなっている。



【年代別】

18 歳～24 歳と 35 歳～39 歳では「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が最も高く、25 歳～29 歳では「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が、30 歳～34 歳では「共通の趣味があること」が最も高くなっている。

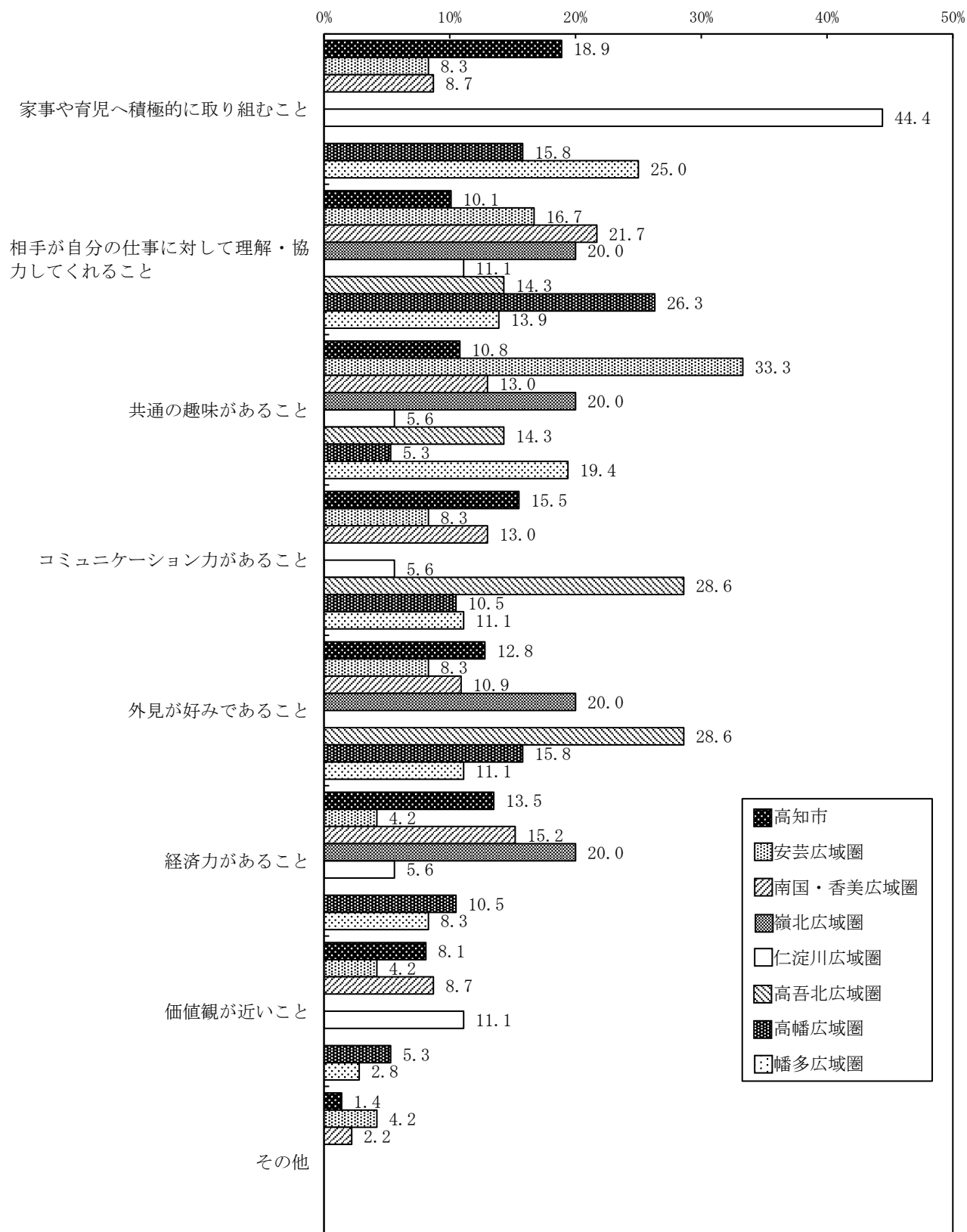
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、仁淀川広域圏、幡多広域圏では「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が最も高く、安芸広域圏では「共通の趣味があること」が、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、高幡広域圏では「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が、高吾北広域圏では同率で「コミュニケーション力があること」と「外見が好みであること」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

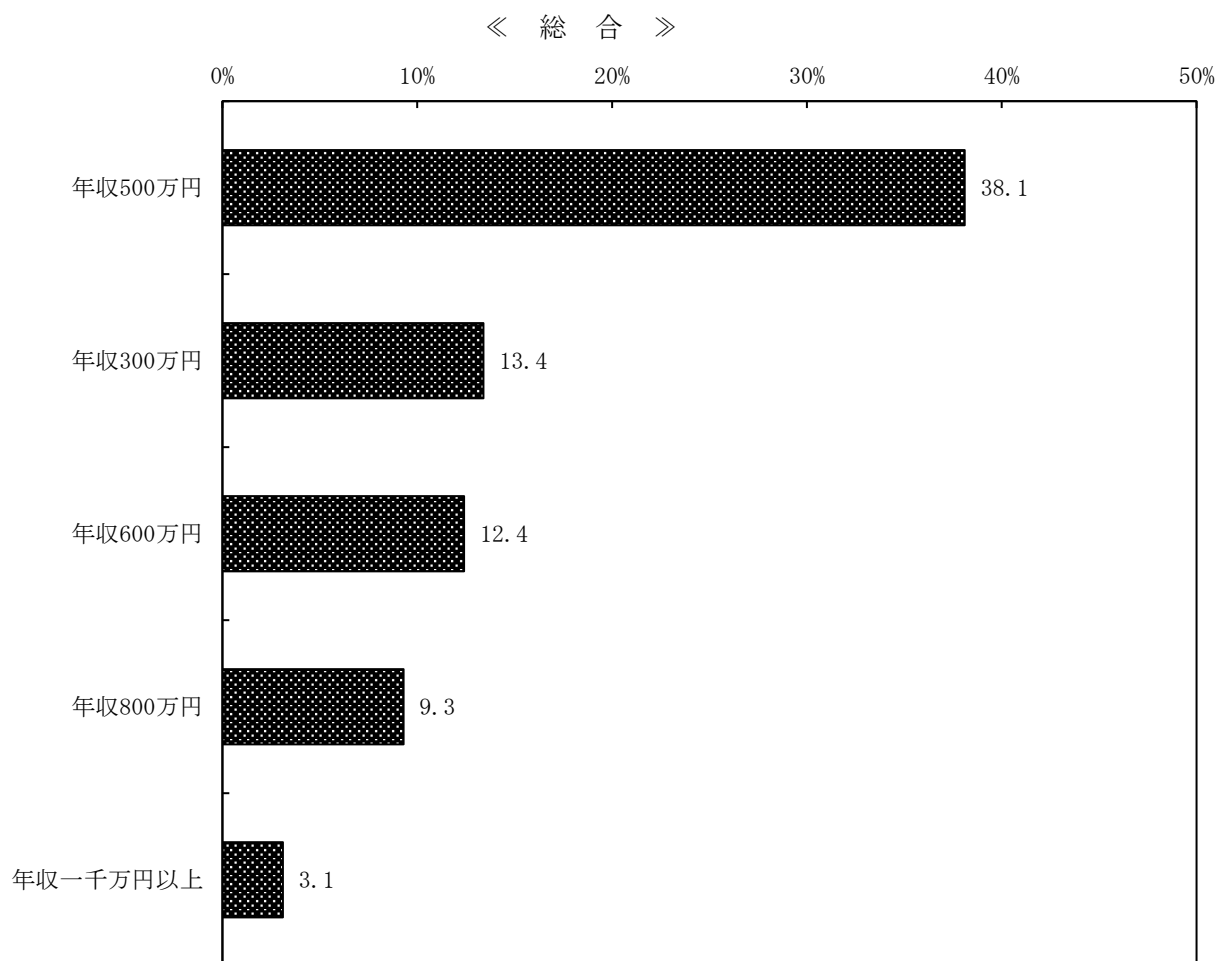


問7 問6で「1. 適当な相手にまだめぐり会わないから」を選択した方のみお答えください。
「適当な相手」に求める条件として、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

なお、「3」を選択された場合は、①～⑤のいずれかひとつに○印をつけてください。

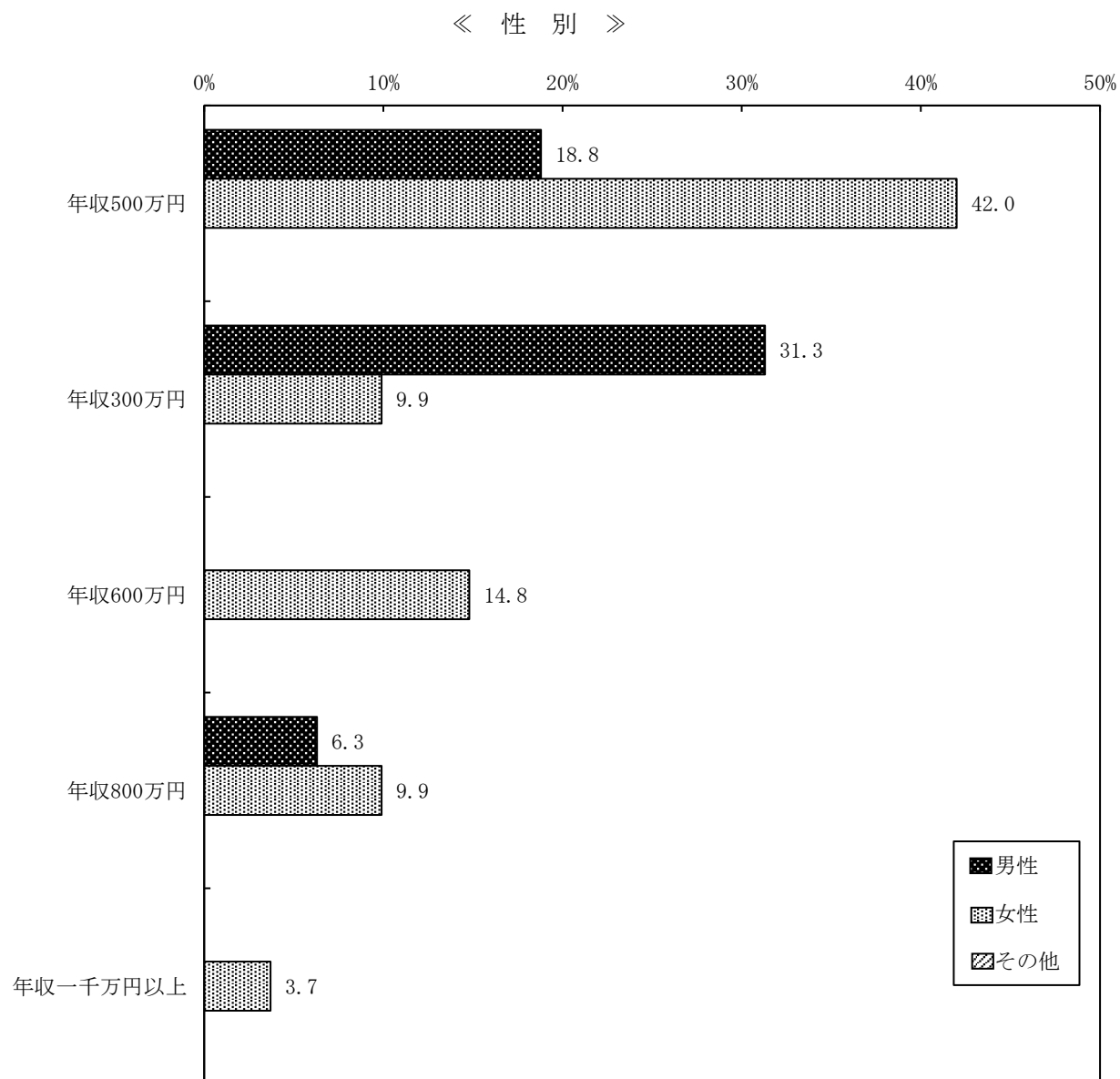
【「3」を選択した場合の希望の年収】

「年収 500 万円」が 38.1%と最も高く、次いで「年収 300 万円」13.4%、「年収 600 万円」12.4%と続いている。



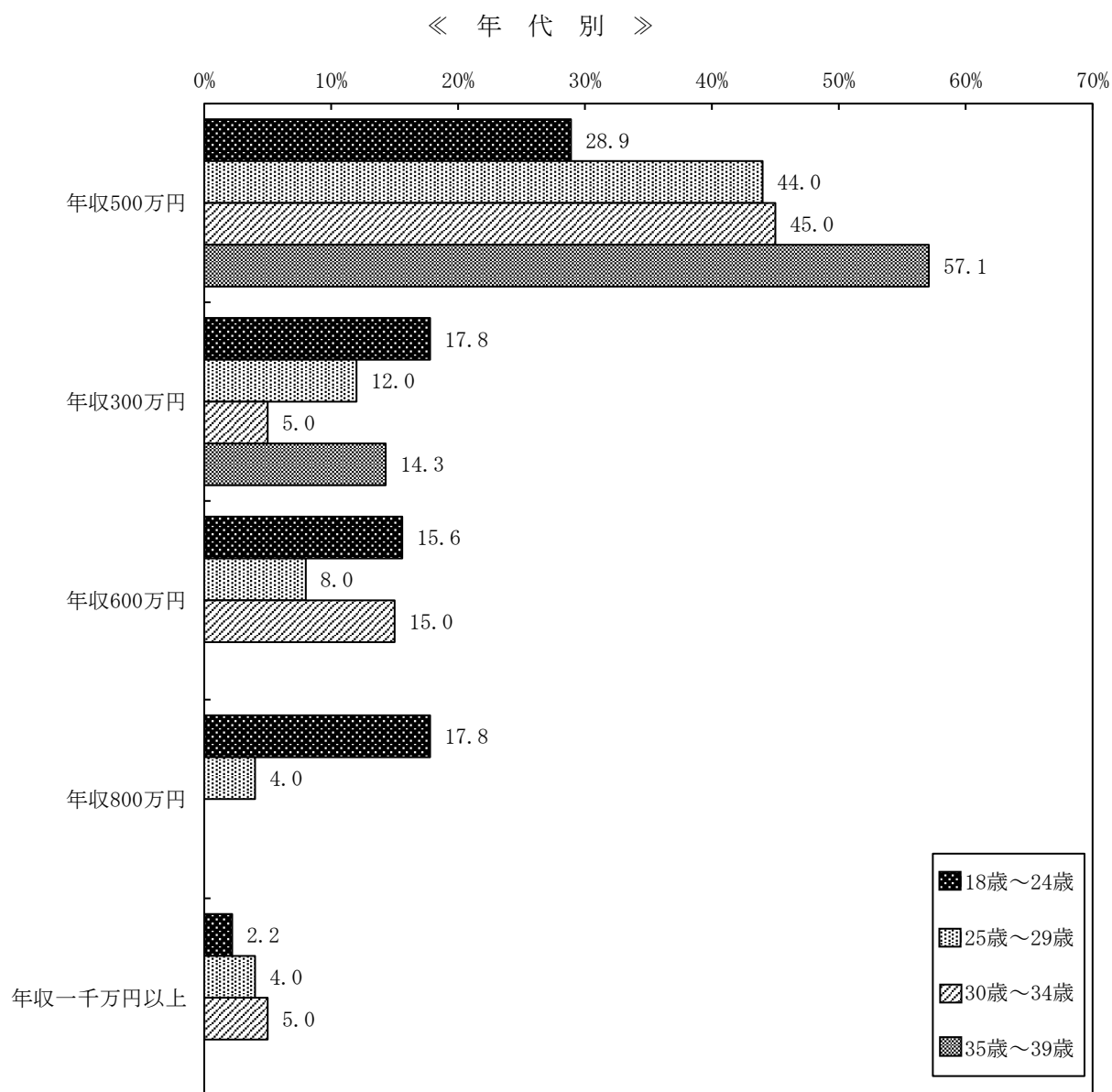
【性別】

男性では「年収 300 万円」31.3%が、女性では「年収 500 万円」42.0%が最も高くなっている。



【年代別】

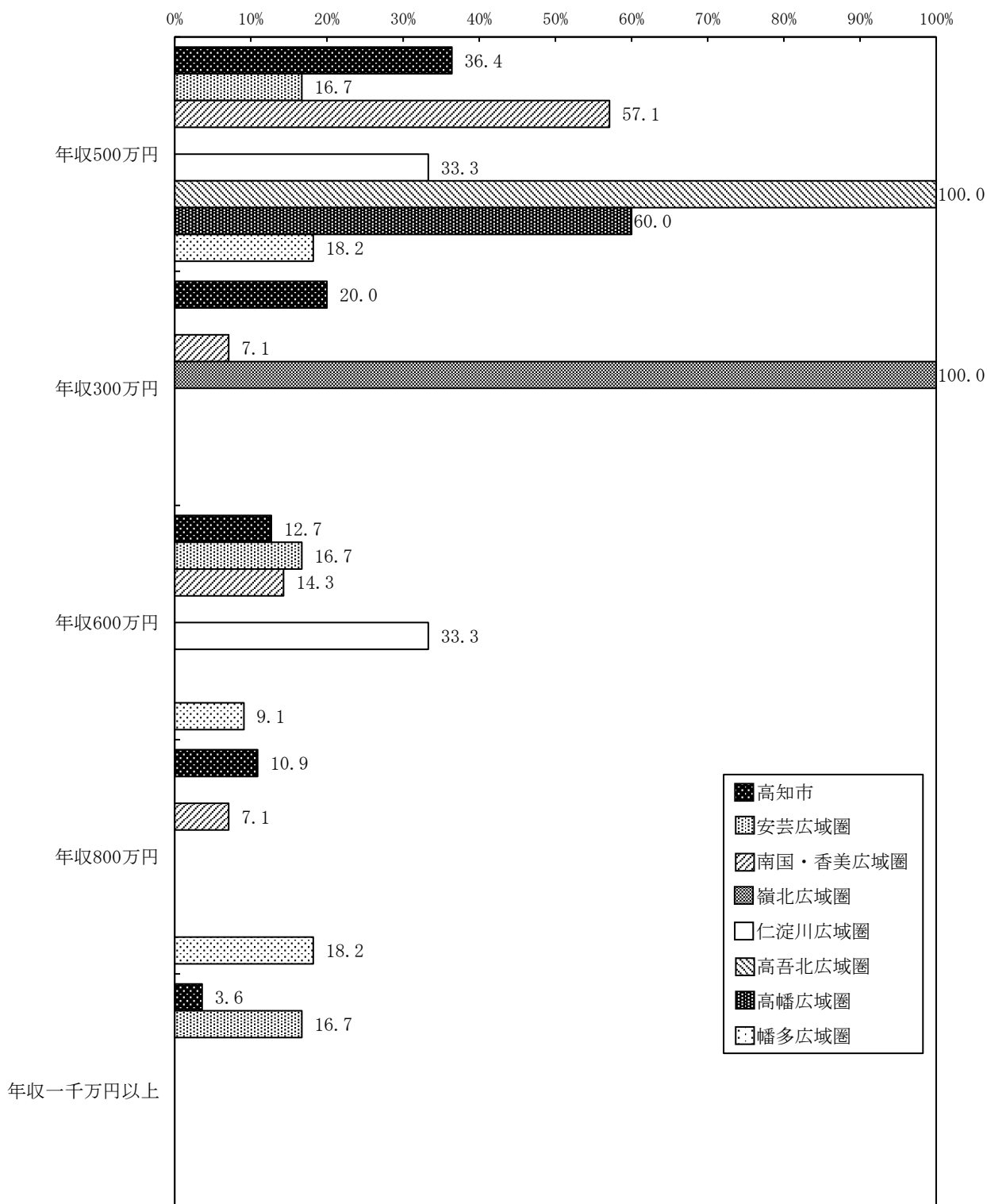
すべての年代で「年収 500 万円」が最も高くなっている。



【広域市町村圏別】

嶺北広域圏では「年収 300 万円」が最も高く、その他すべての広域市町村圏では「年収 500 万円」が最も高くなっている。

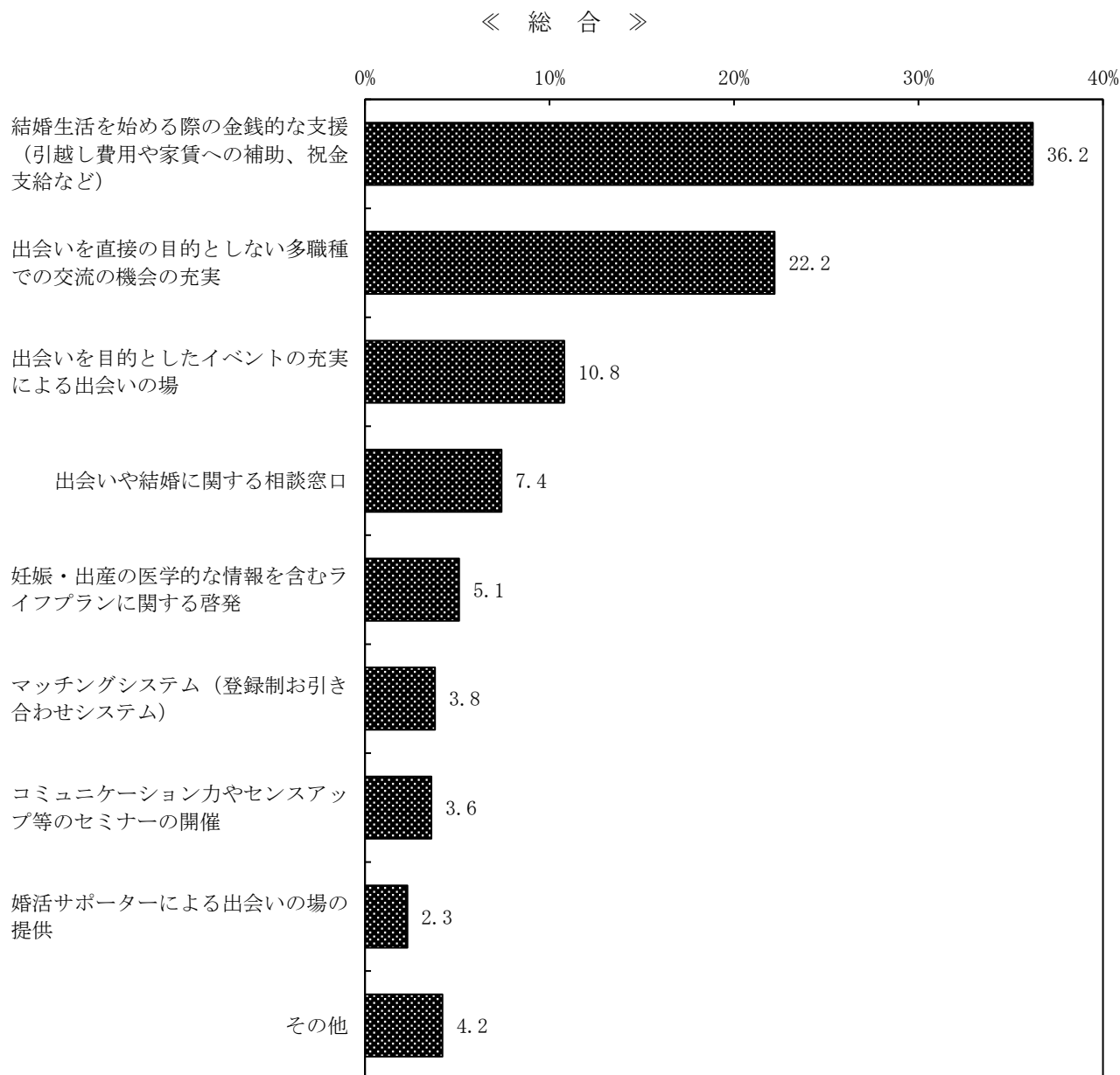
《 広域市町村圏別 》



問8 すべての方にお聞きします。
 出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。
 あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

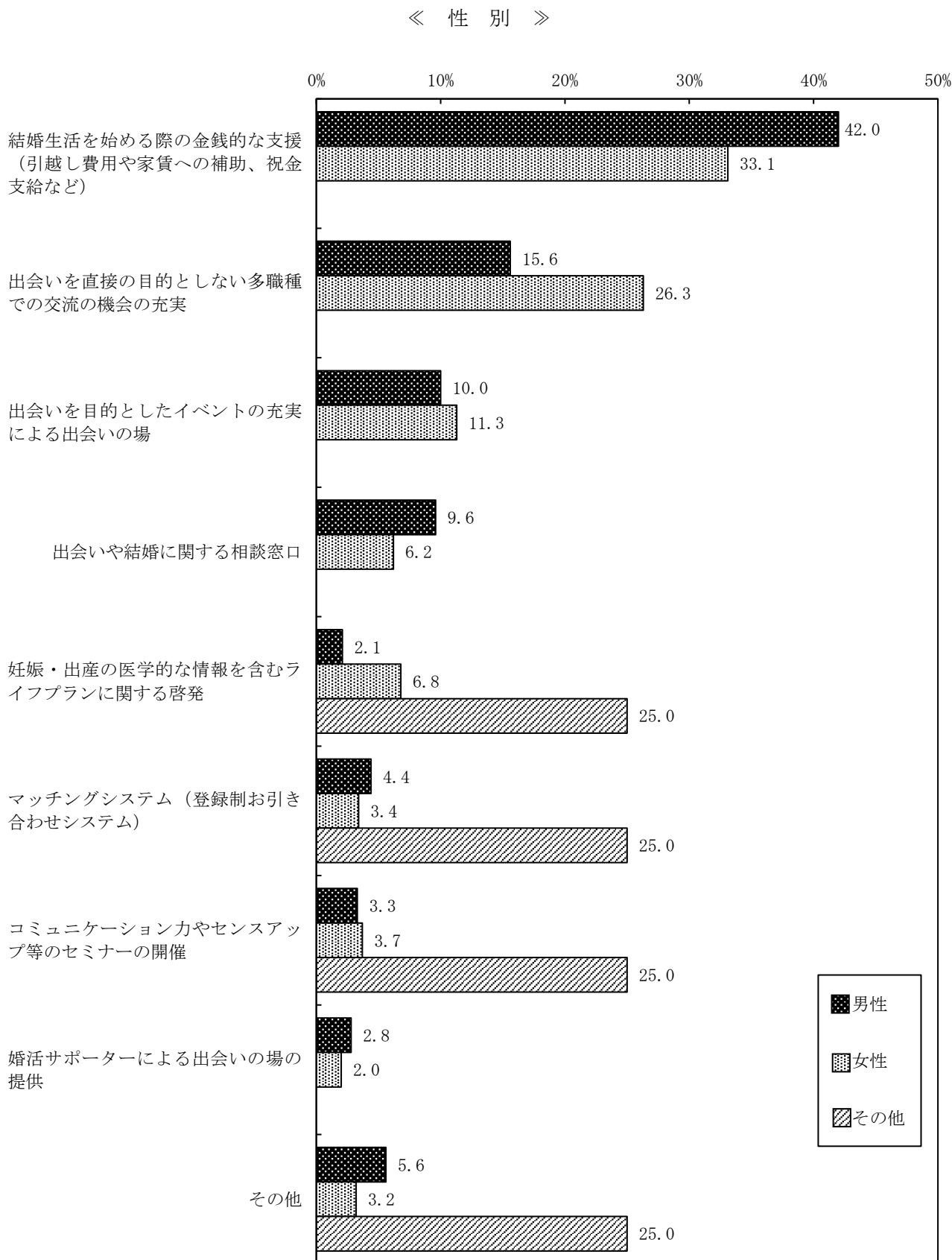
【1位】

「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が 36.2%と最も高く、次いで「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」22.2%、「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」10.8%と続いている。



【性別】

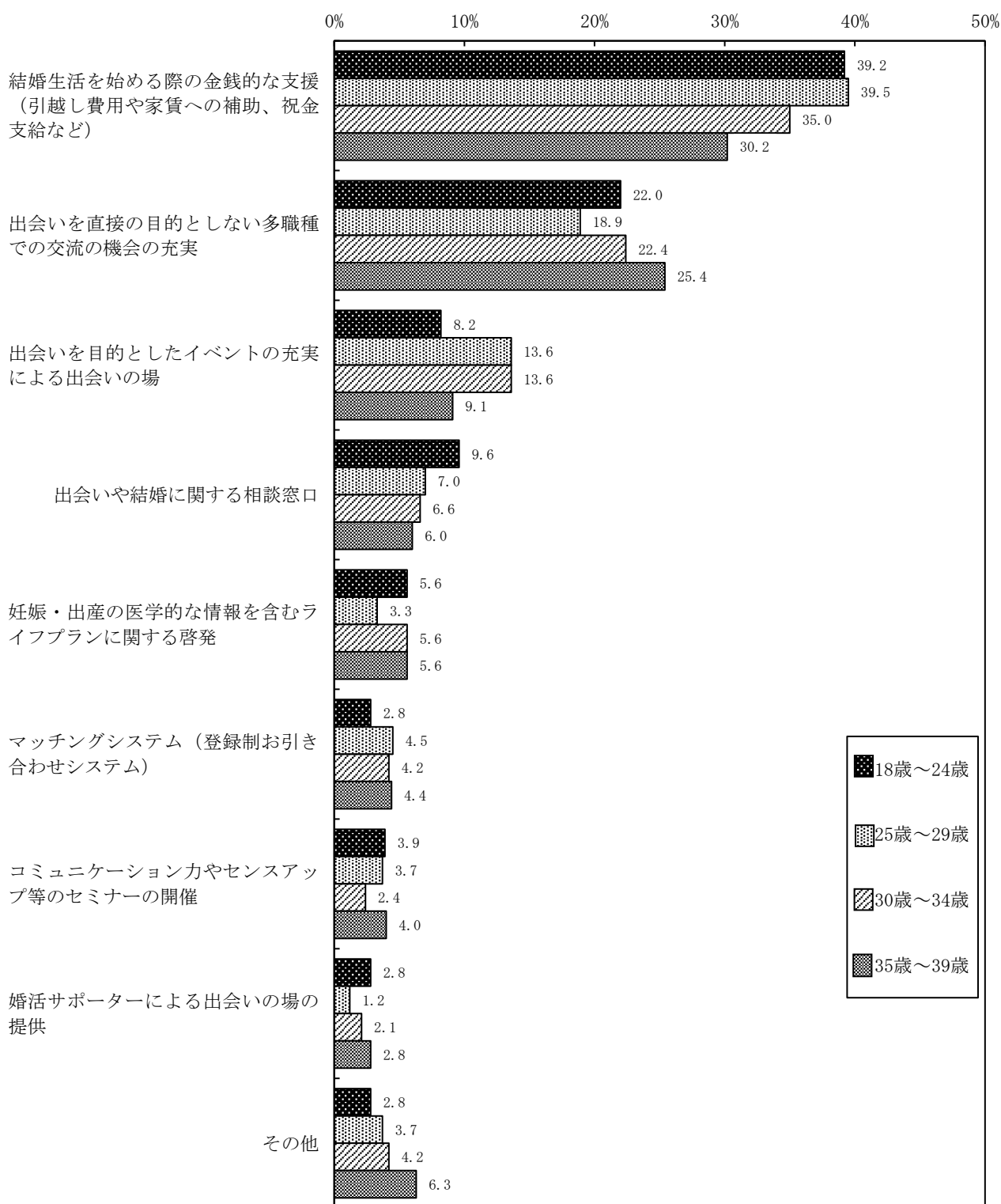
男性 42.0%、女性 33.1%で男女とも「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「結婚生活が始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

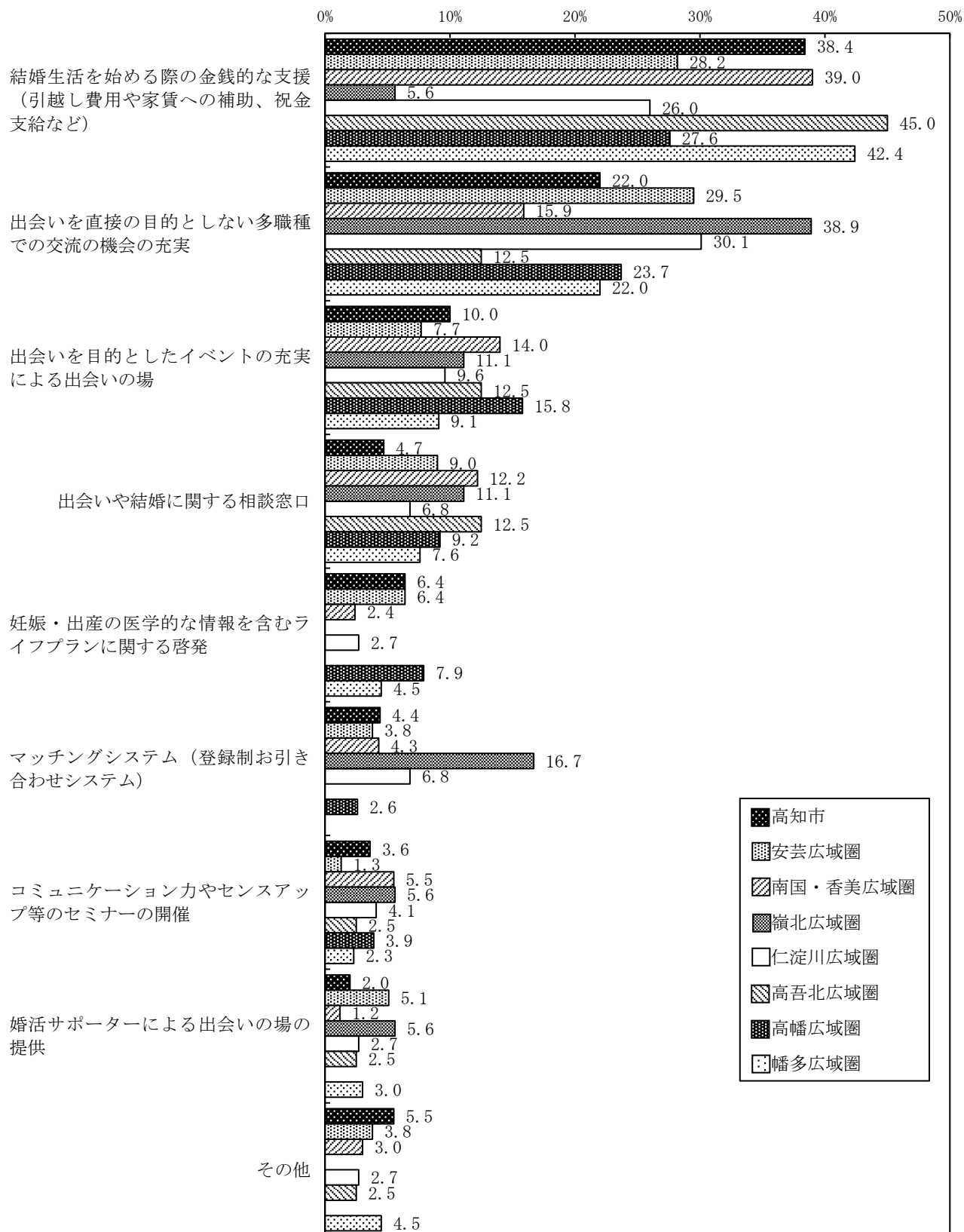
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、南国・香美広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高く、安芸広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高くなっている。

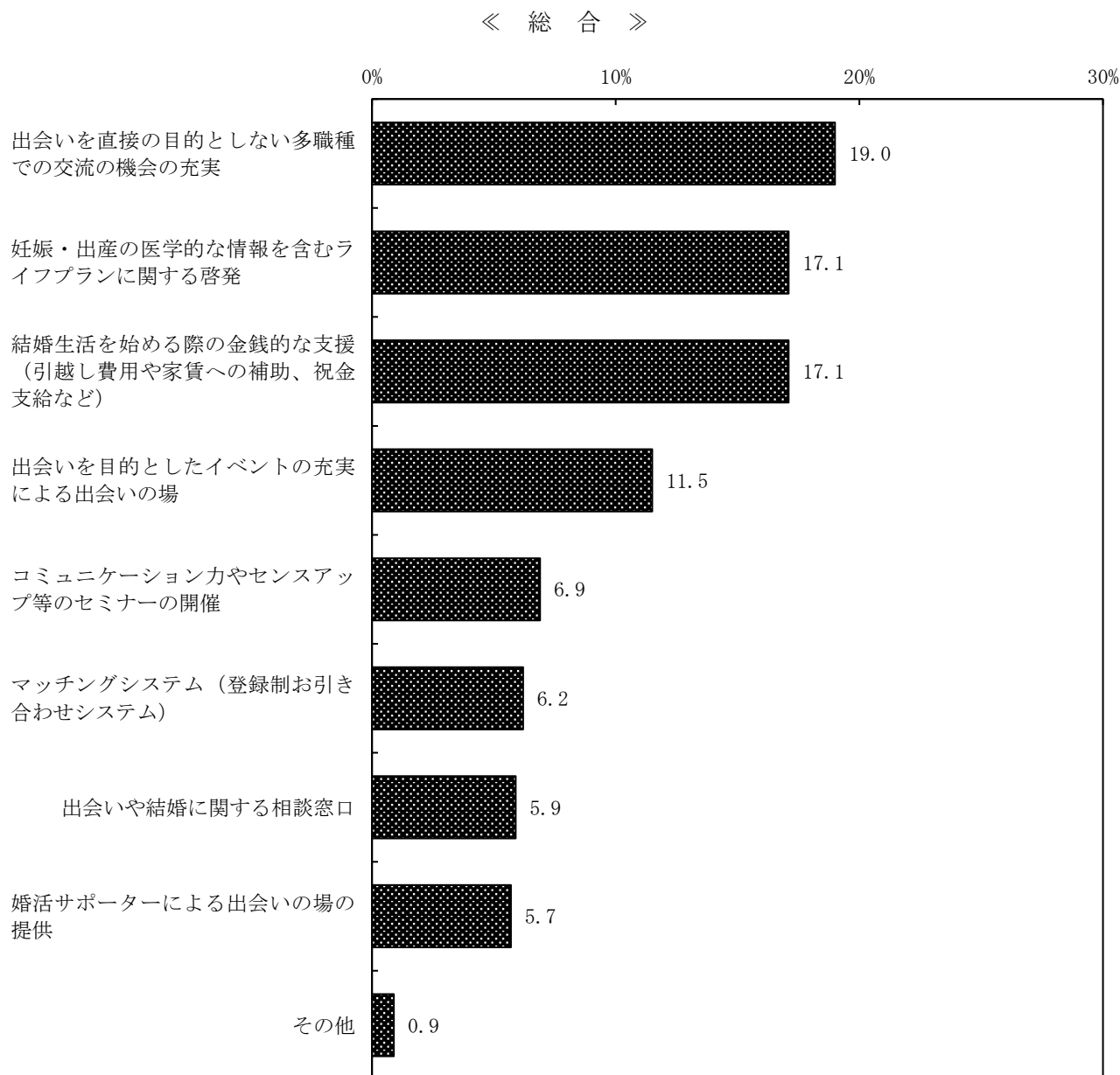
《広域市町村圏別》



問8 すべての方にお聞きします。
 出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。
 あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

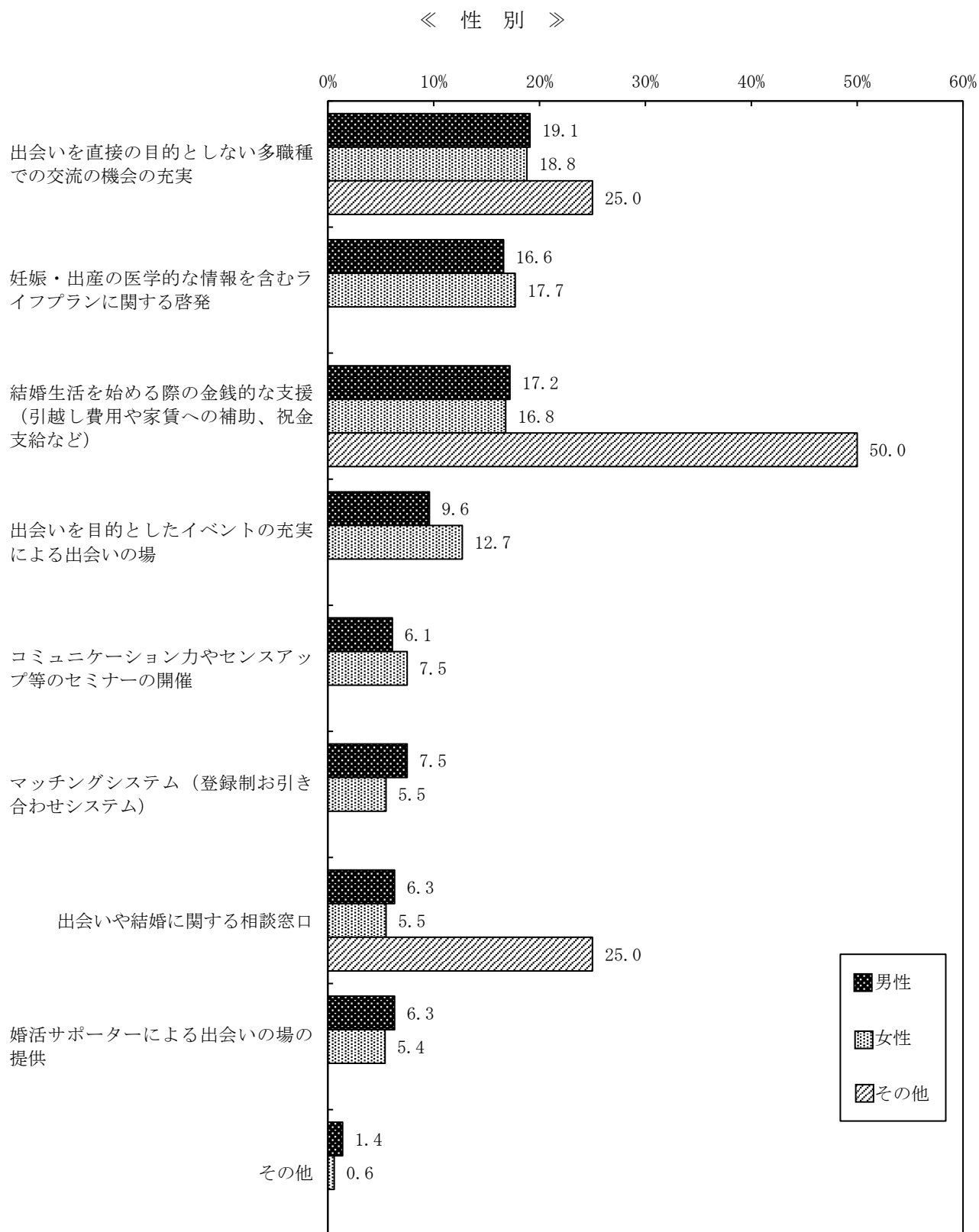
【2位】

「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が19.0%と最も高く、次いで、同率で「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が17.1%と高く、「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」11.5%と続いている。



【性別】

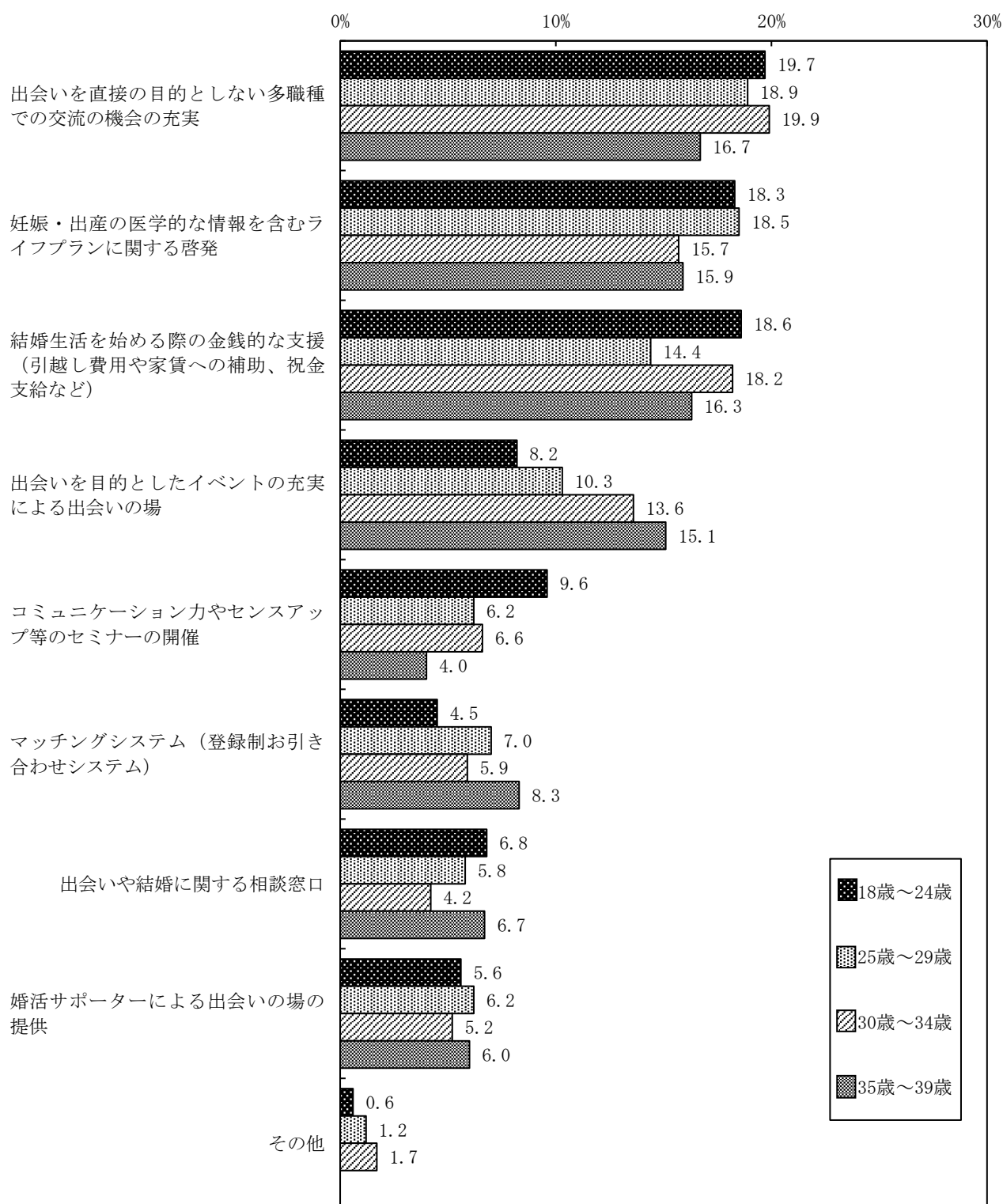
男性 19.1%、女性 18.8%で男女とも「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高くなっている。

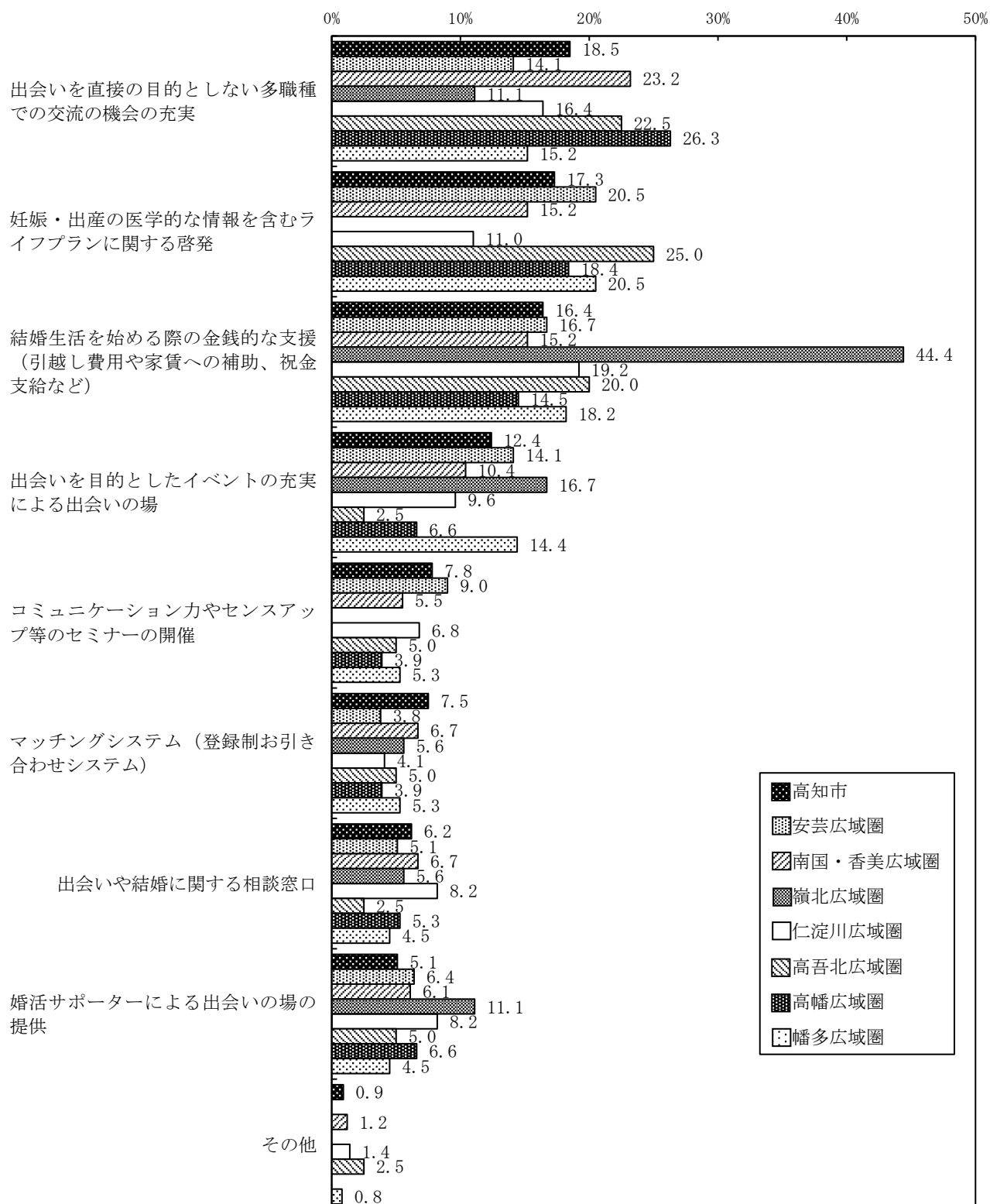
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、南国・香美広域圏、高幡広域圏では「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会」の充実が最も高く、安芸広域圏、高吾北広域圏、幡多広域圏では「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」が、嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

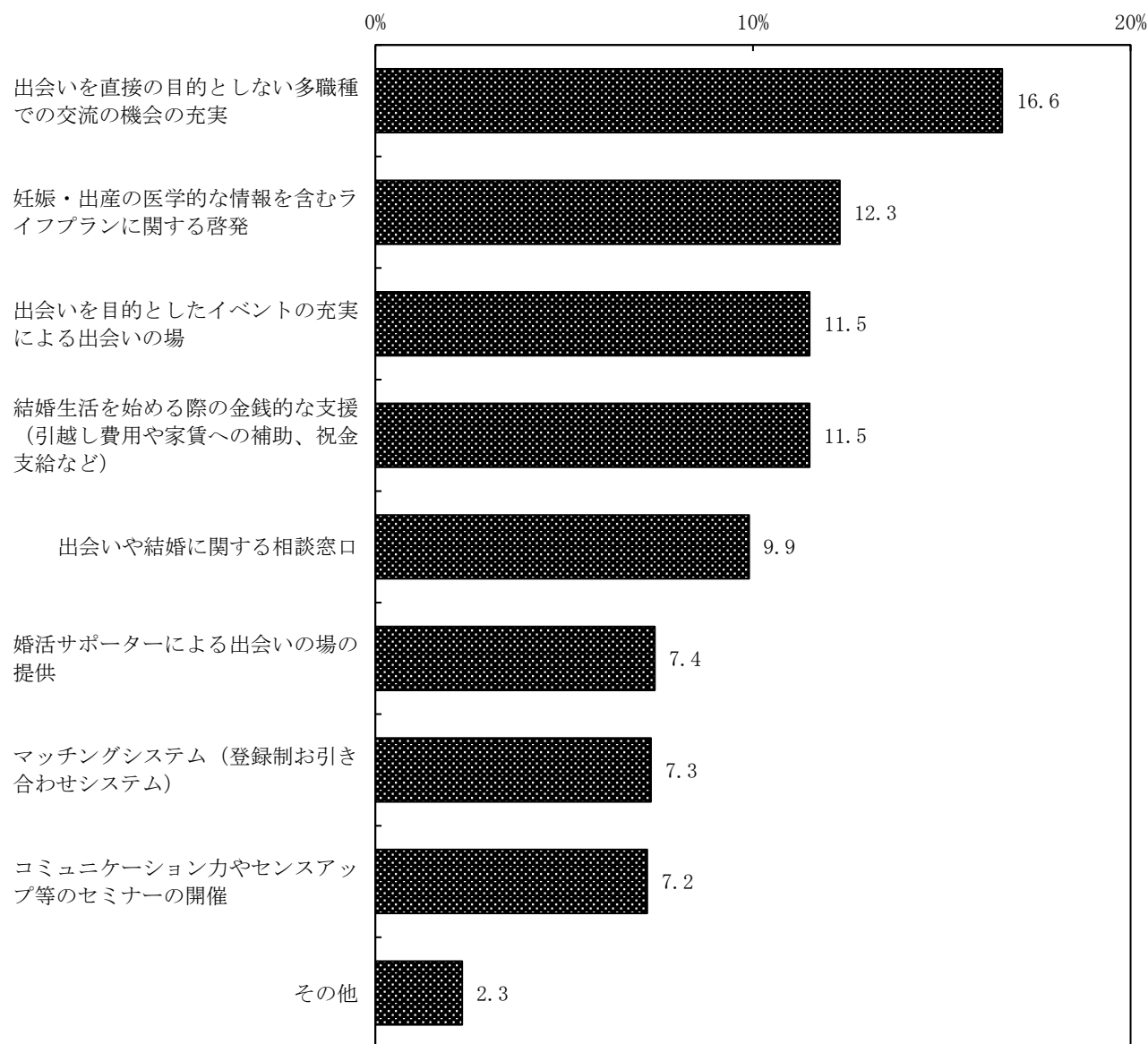


問8 すべての方にお聞きします。
 出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。
 あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

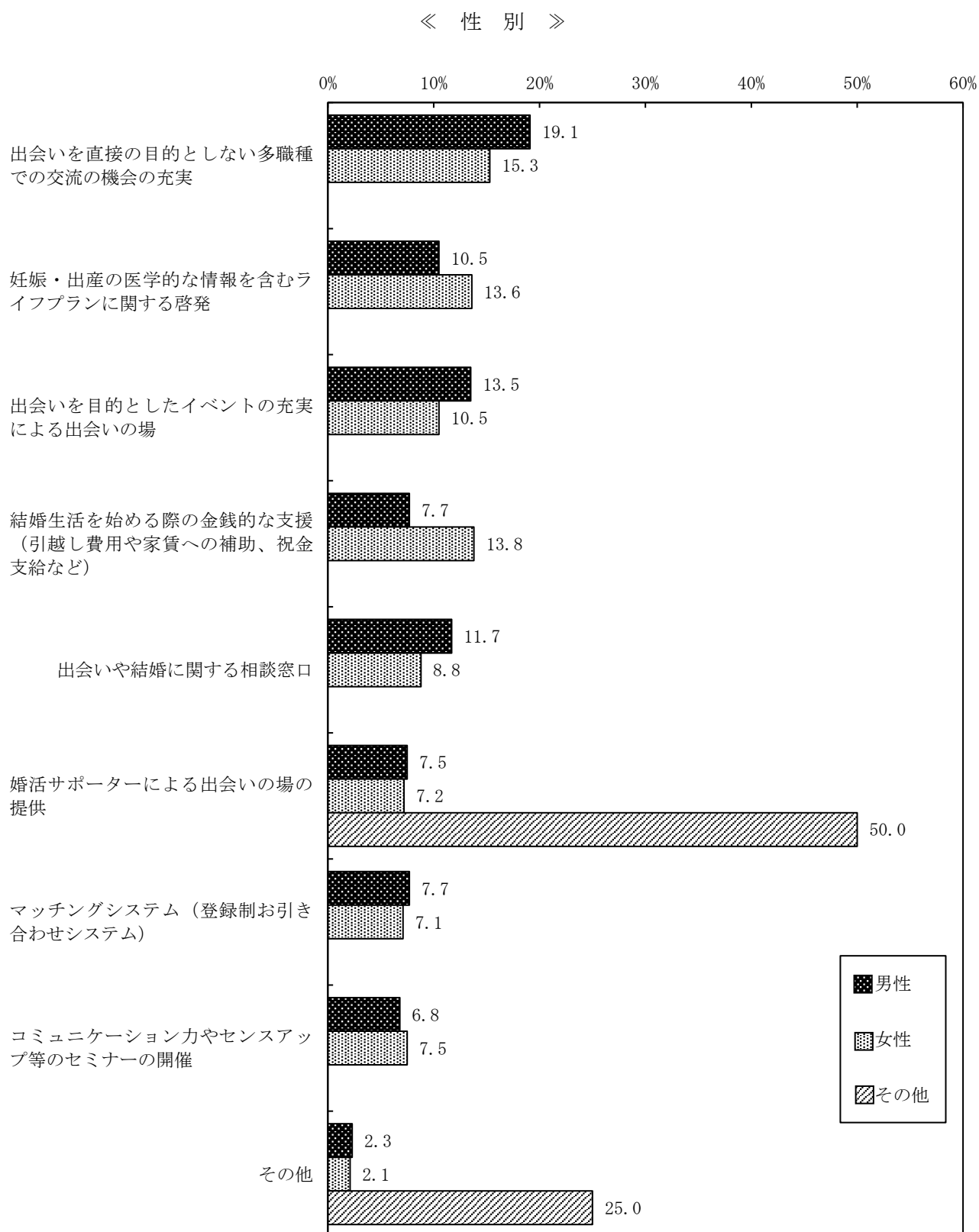
「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が16.6%と最も高く、次いで「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」12.3%、同率で「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が11.5%と続いている。

《 総 合 》



【性別】

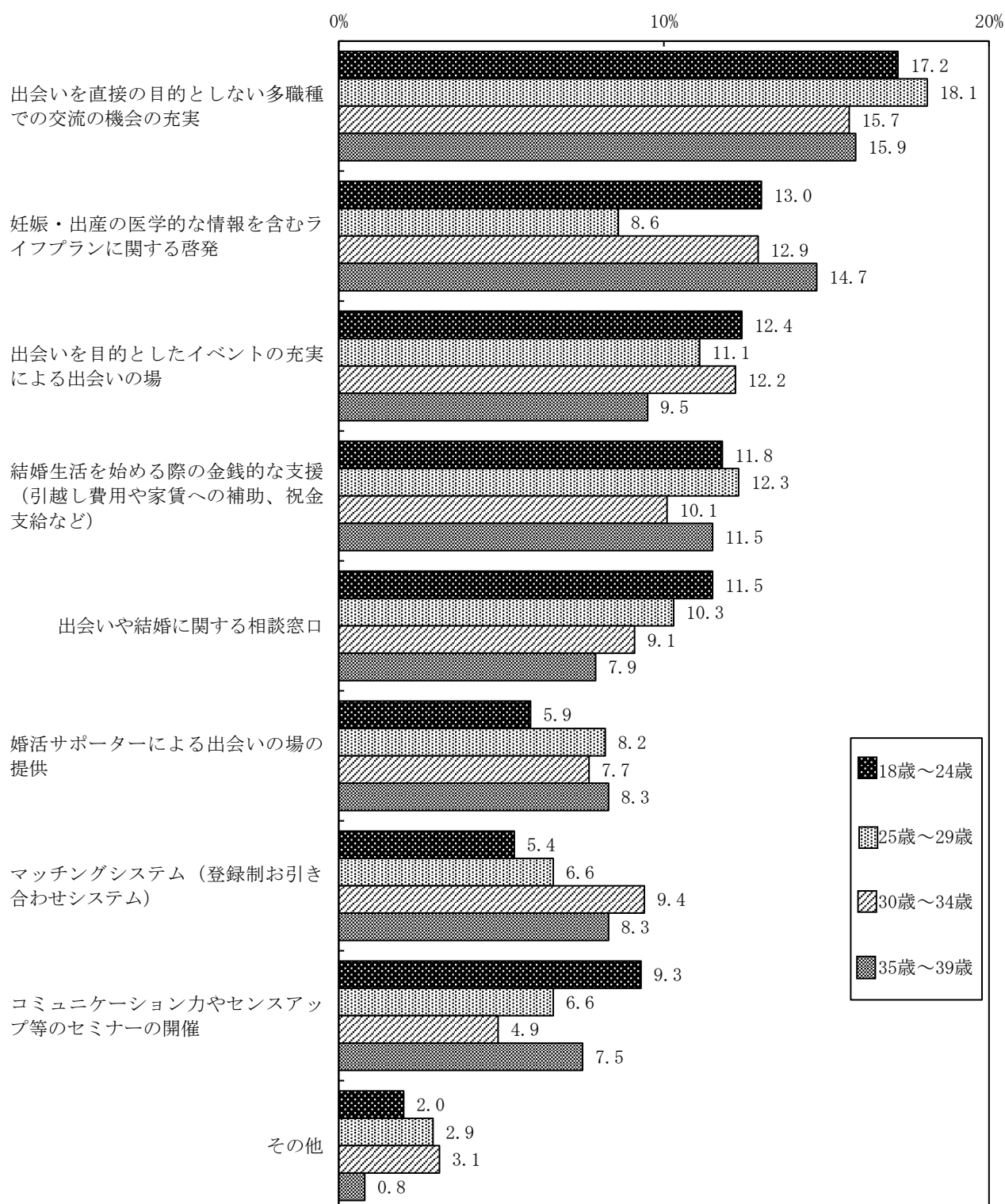
男性 19.1%、女性 15.3%で男女とも「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高くなっている。また、18歳～24歳、30歳～34歳、35歳～39歳では「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」が、25歳～29歳では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が、2番目に高くなっている。

《 年 代 別 》

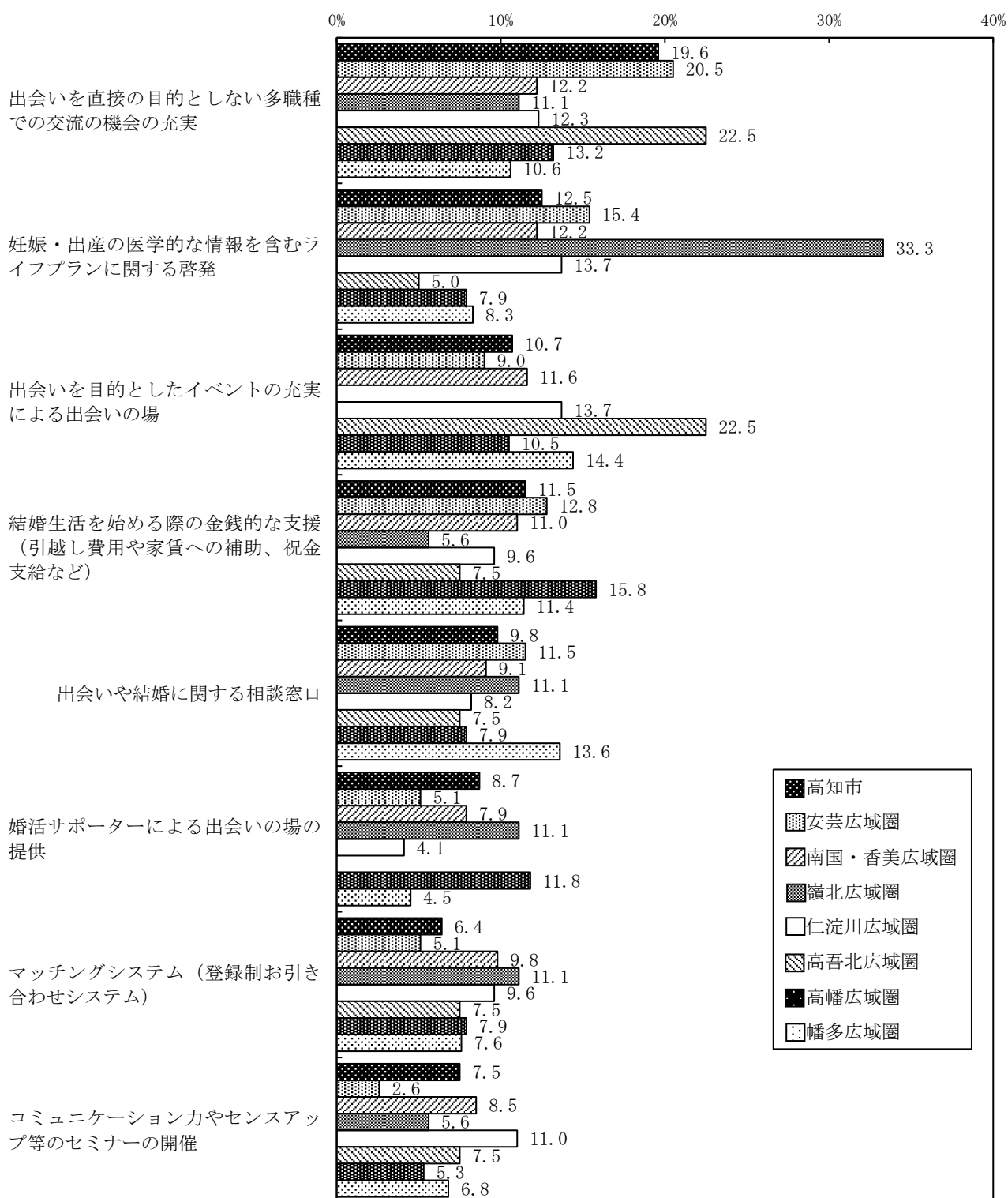


【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、高吾北広域圏では「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高く、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、幡多広域圏では「出会いを目的としたイベントの充実による出会いの場」が、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」が、高幡広域圏では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

なお、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏では1番高いものが同率で重複する。

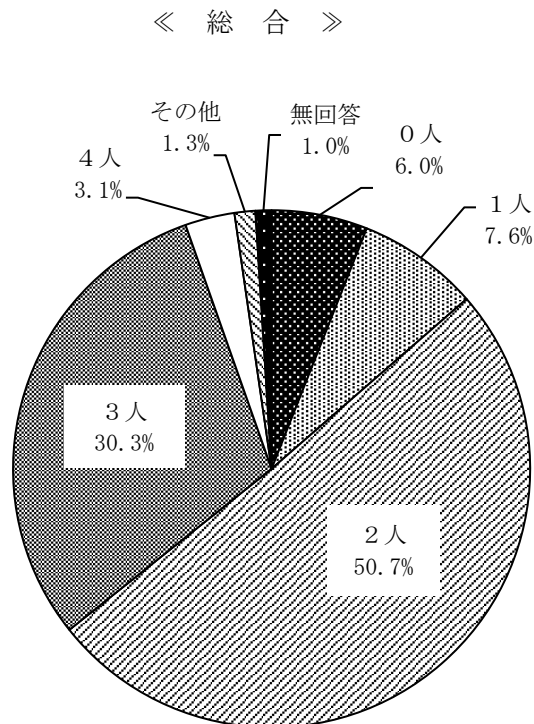
《広域市町村圏別》



【4. 子育てについて】

問9 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか。（1つだけ○印）

「2人」が50.7%と最も高く、次いで「3人」30.3%、「1人」7.6%が続いている。



【性別】

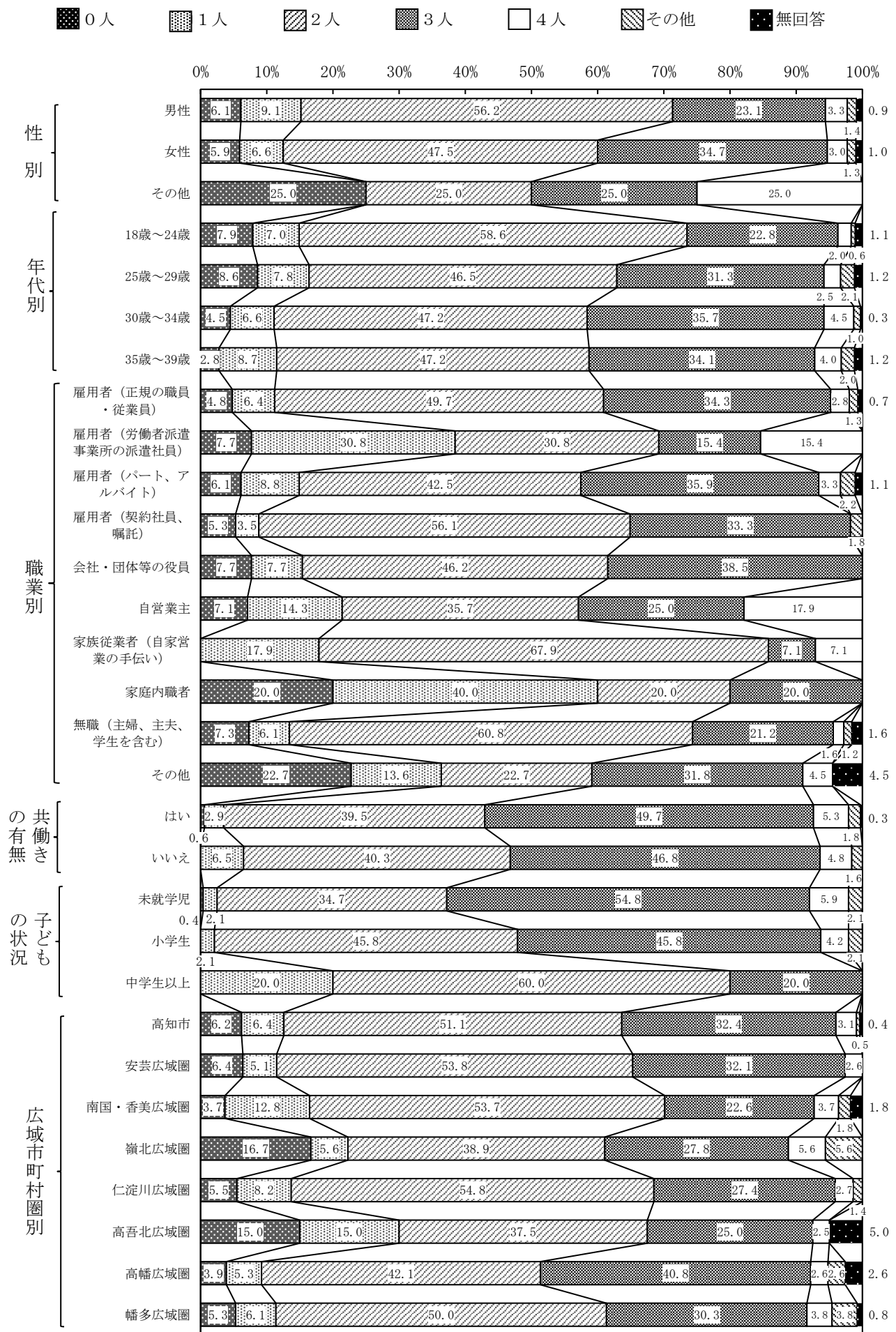
男性 56.2%、女性 47.5%で男女とも「2人」が最も高くなっているが、次いで男女とも「3人」が2番目に高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「2人」が最も高くなっているが、次いで「3人」が2番目に高くなっている。

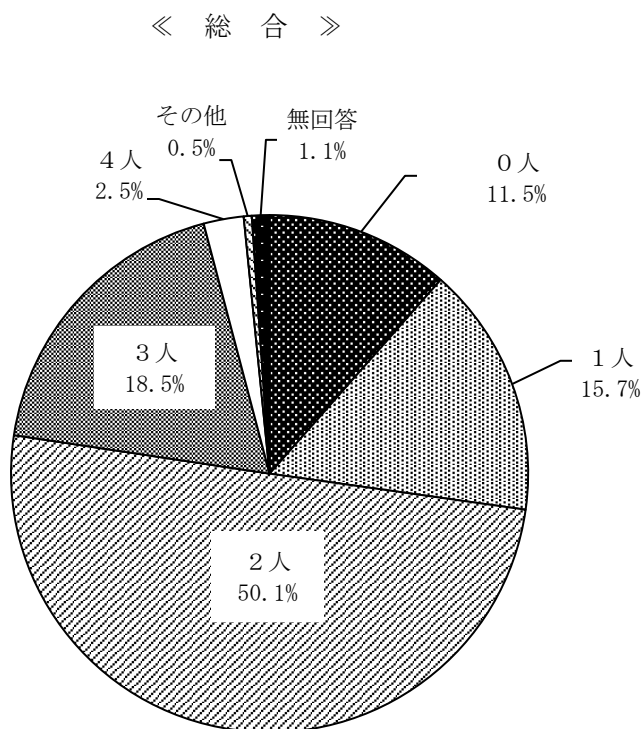
【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「2人」が最も高くなっているが、次いですべての広域市町村圏で「3人」が2番目に高くなっている。



問10 あなたが、現実的に持ちたいと考えている子どもの人数は何人ですか。
(現在の人数と今後持つつもりの人数の合計)(1つだけ○印)

「2人」が50.1%と最も高く、次いで「3人」18.5%、「1人」15.7%と続いている。



【性別】

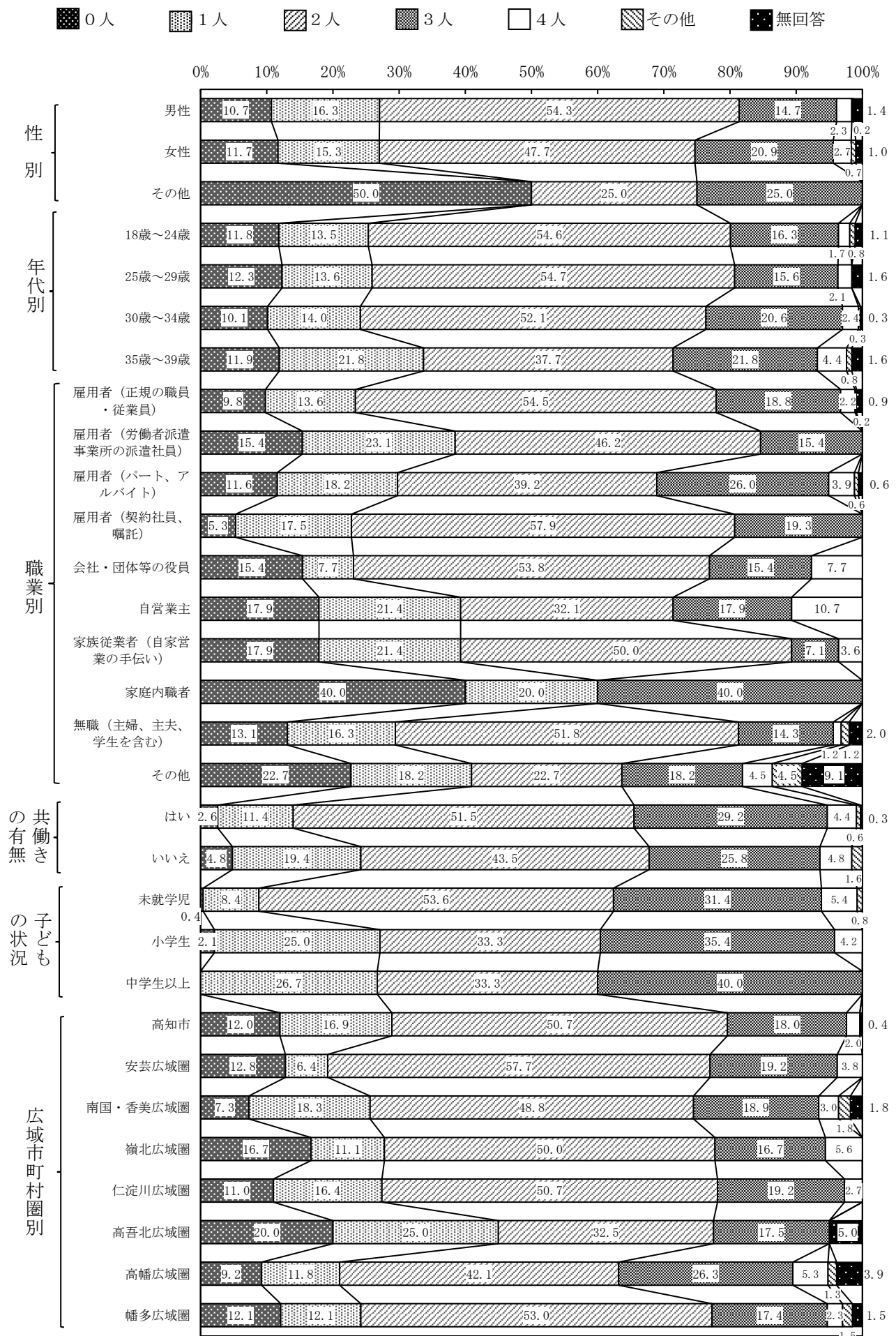
男性 54.3%、女性 47.7%で男女とも「2人」が最も高くなっているが、次いで男性は「1人」が、女性は「3人」が2番目に高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「2人」が最も高くなっているが、次いですべての年代で「3人」が2番目に高くなっている。

【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「2人」が最も高くなっている。次いで高吾北広域圏を除くすべての広域市町村圏では「3人」が、高吾北広域圏では、「1人」が2番目に高くなっている。

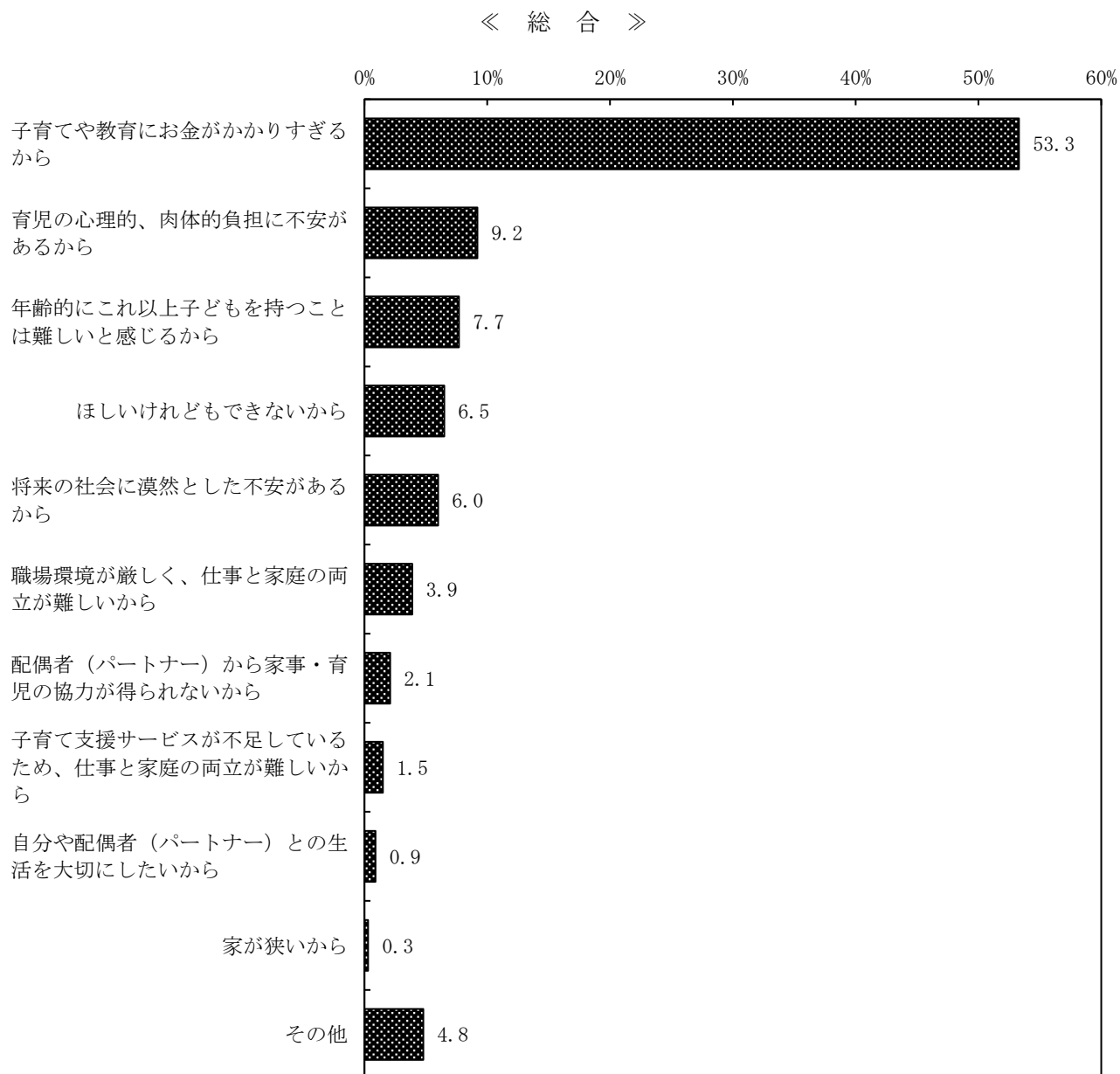


問11 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

理想の数だけ子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

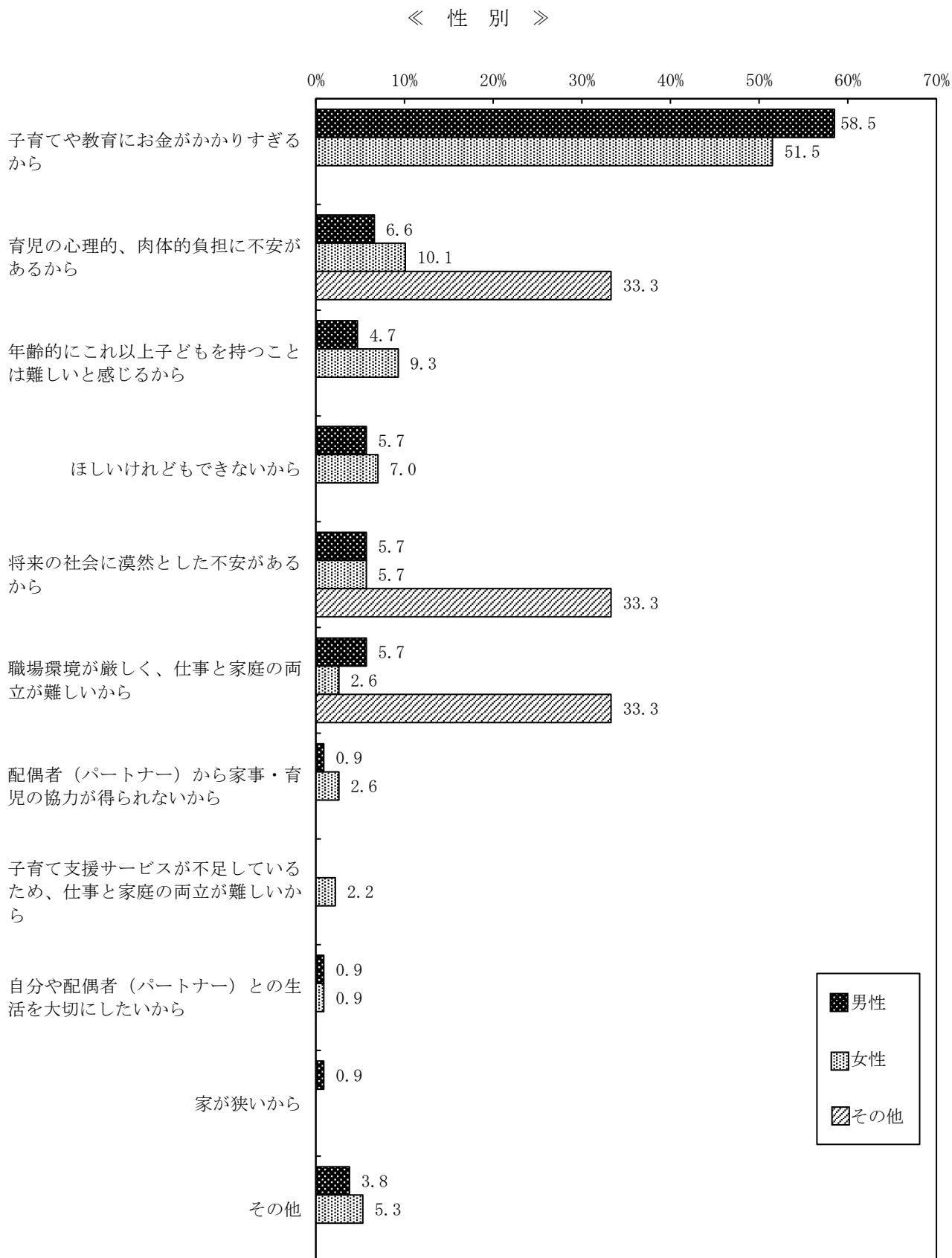
【1位】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が53.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」9.2%、「年齢的にこれ以上子どもを持つことは難しいと感じるから」7.7%と続いている。



【性別】

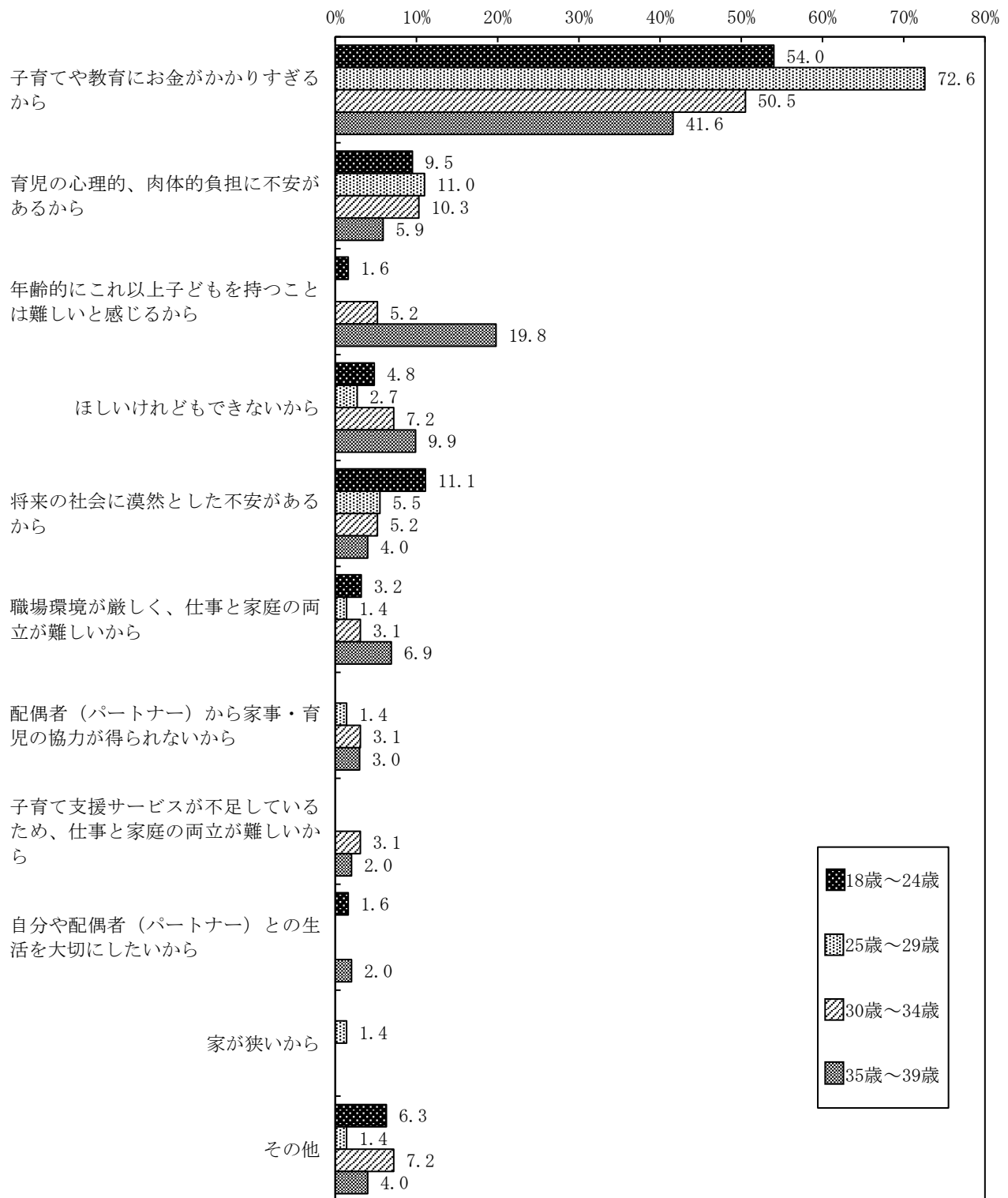
男性 58.5%、女性 51.5%で男女とも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。



【年代別】

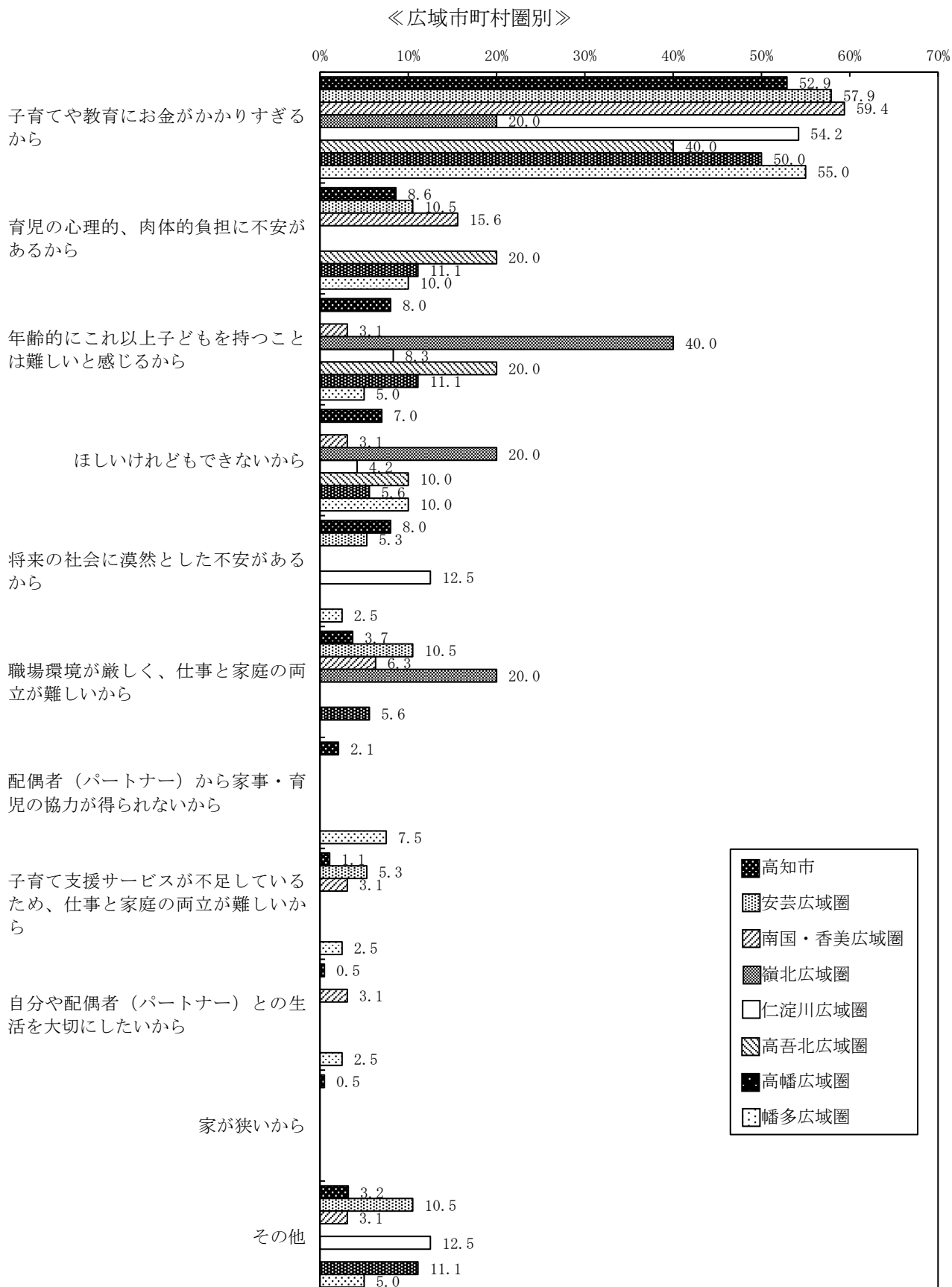
すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。次いで 18 歳～24 歳では「将来の社会に漠然とした不安があるから」が、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が、35 歳～39 歳では「年齢的にこれ以上子どもを持つことは難しいと感じるから」が 2 番目に高くなっている。

《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

嶺北広域圏を除くすべての広域市町村圏では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっているが、嶺北広域圏では「年齢的にこれ以上子どもを持つことは難しいと感じるから」が最も高くなっている。



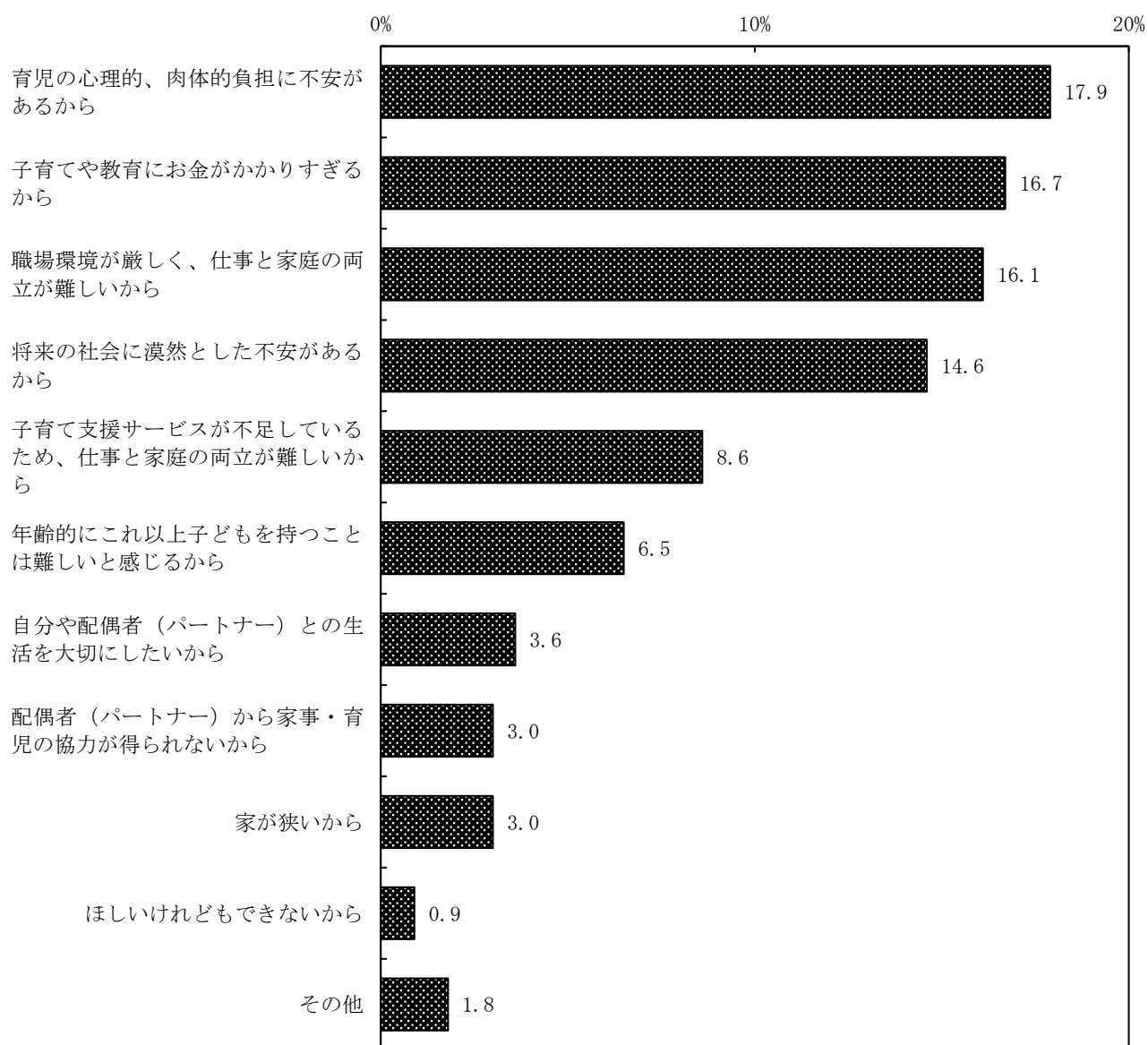
問11 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

理想の数だけ子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が17.9%と最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」16.7%、「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」16.1%と続いている。

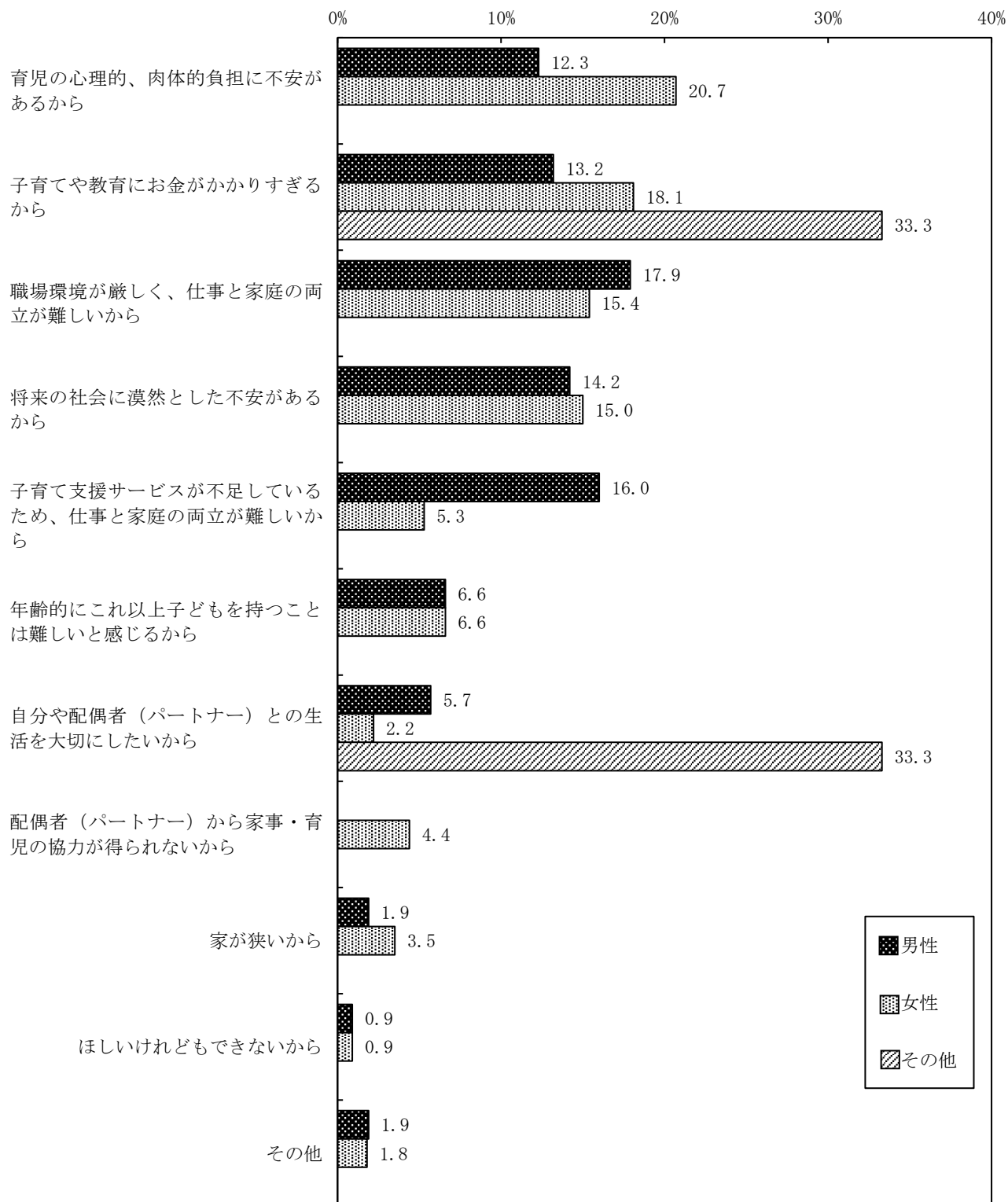
《 総 合 》



【性別】

男性では「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」17.9%が、女性では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」20.7%が最も高くなっている。次いで男性では「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」16.0%が、女性では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」18.1%が2番目に高くなっている。

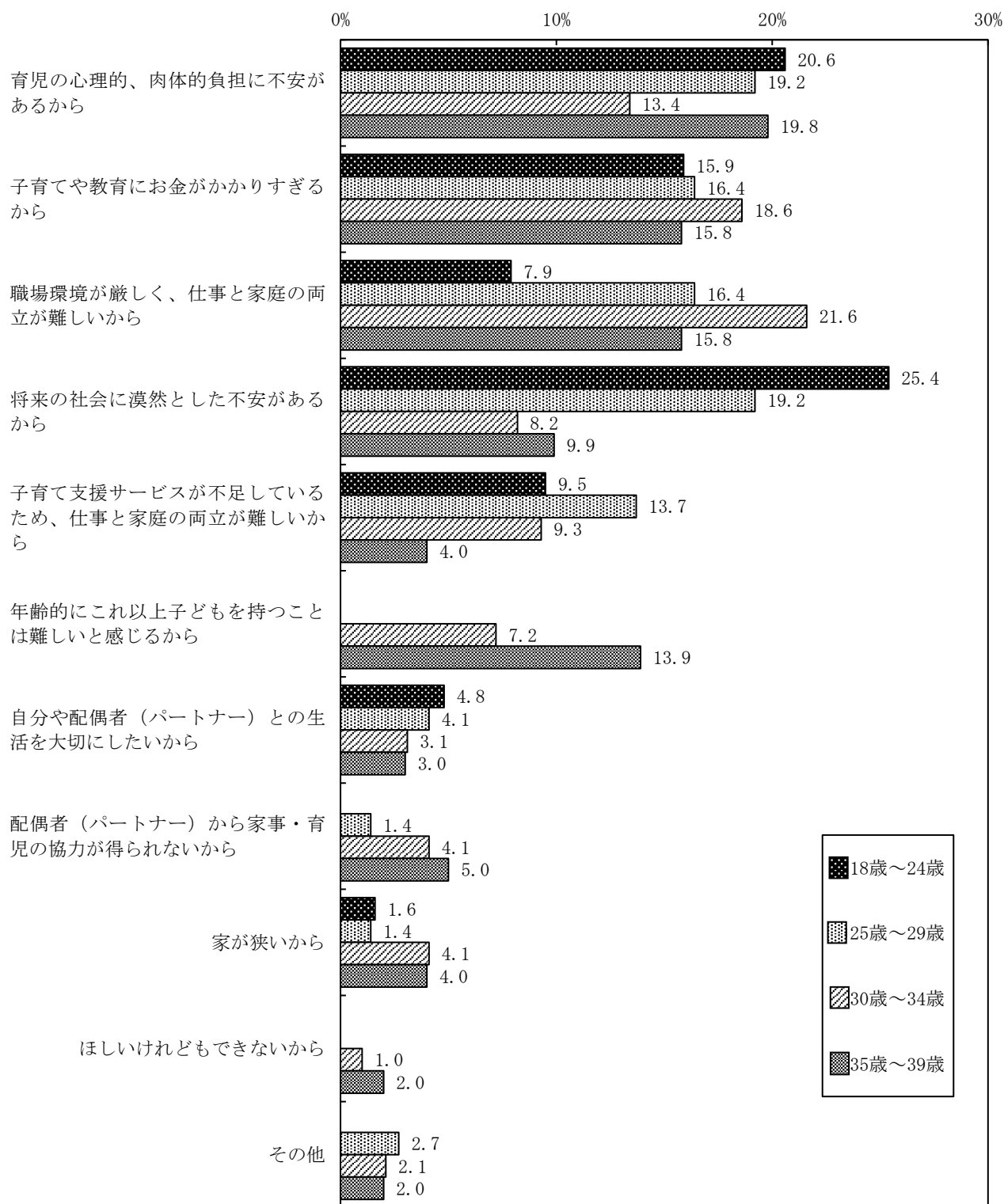
《 性別 》



【年代別】

18 歳～24 歳では「将来の社会に漠然とした不安があるから」が最も高く、25 歳～29 歳では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」と「将来の社会に漠然とした不安があるから」が、30 歳～34 歳では「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」が、35 歳～39 歳では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が、それぞれ最も高くなっている。

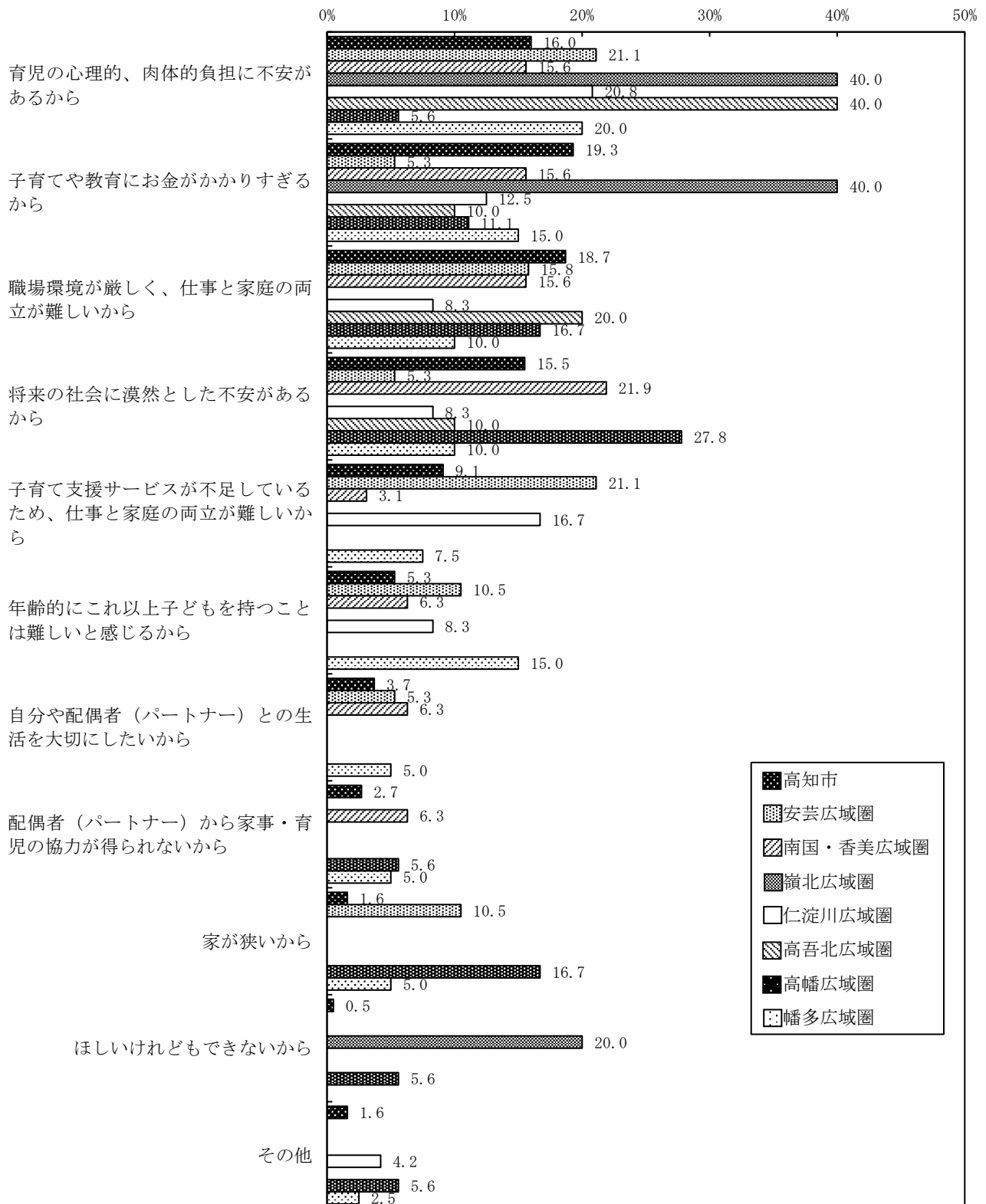
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高く、安芸広域圏では同率で「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」と「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が、南国・香美広域圏、高幡広域圏では「将来の社会に漠然とした不安があるから」が、嶺北広域圏では同率で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、幡多広域圏では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

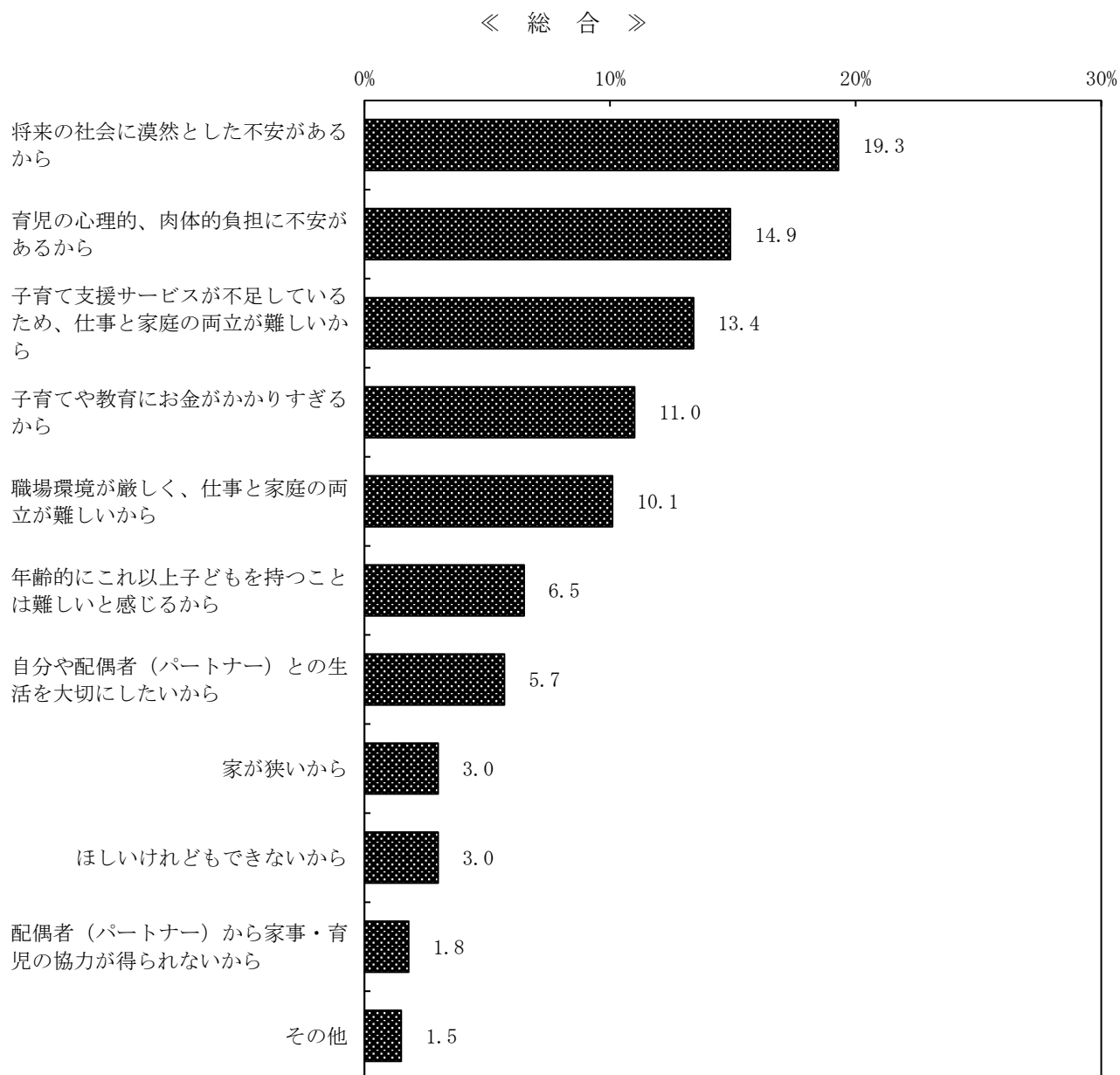


問11 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

理想の数だけ子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

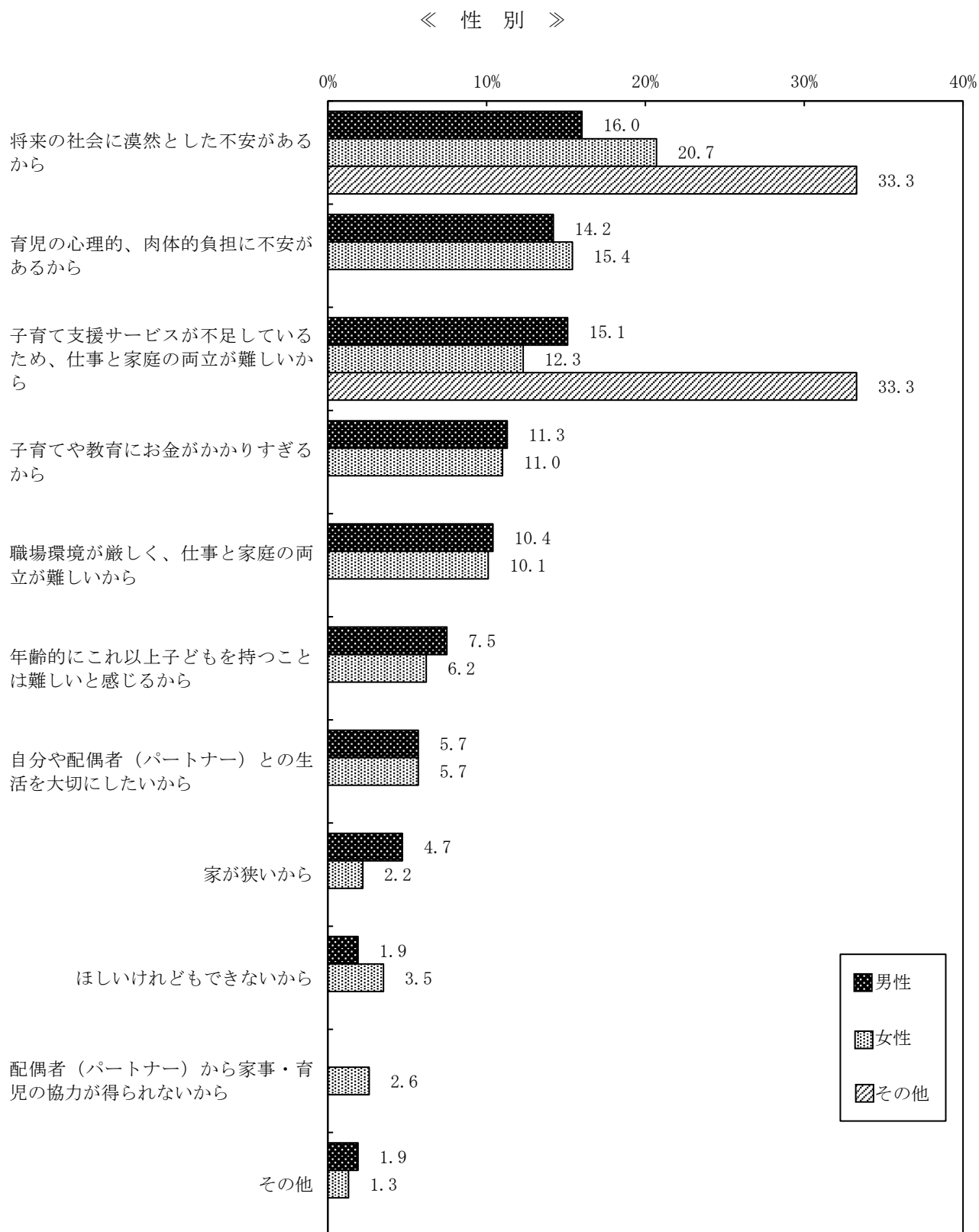
【3位】

「将来の社会に漠然とした不安があるから」が19.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」14.9%、「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」13.4%と続いている。



【性別】

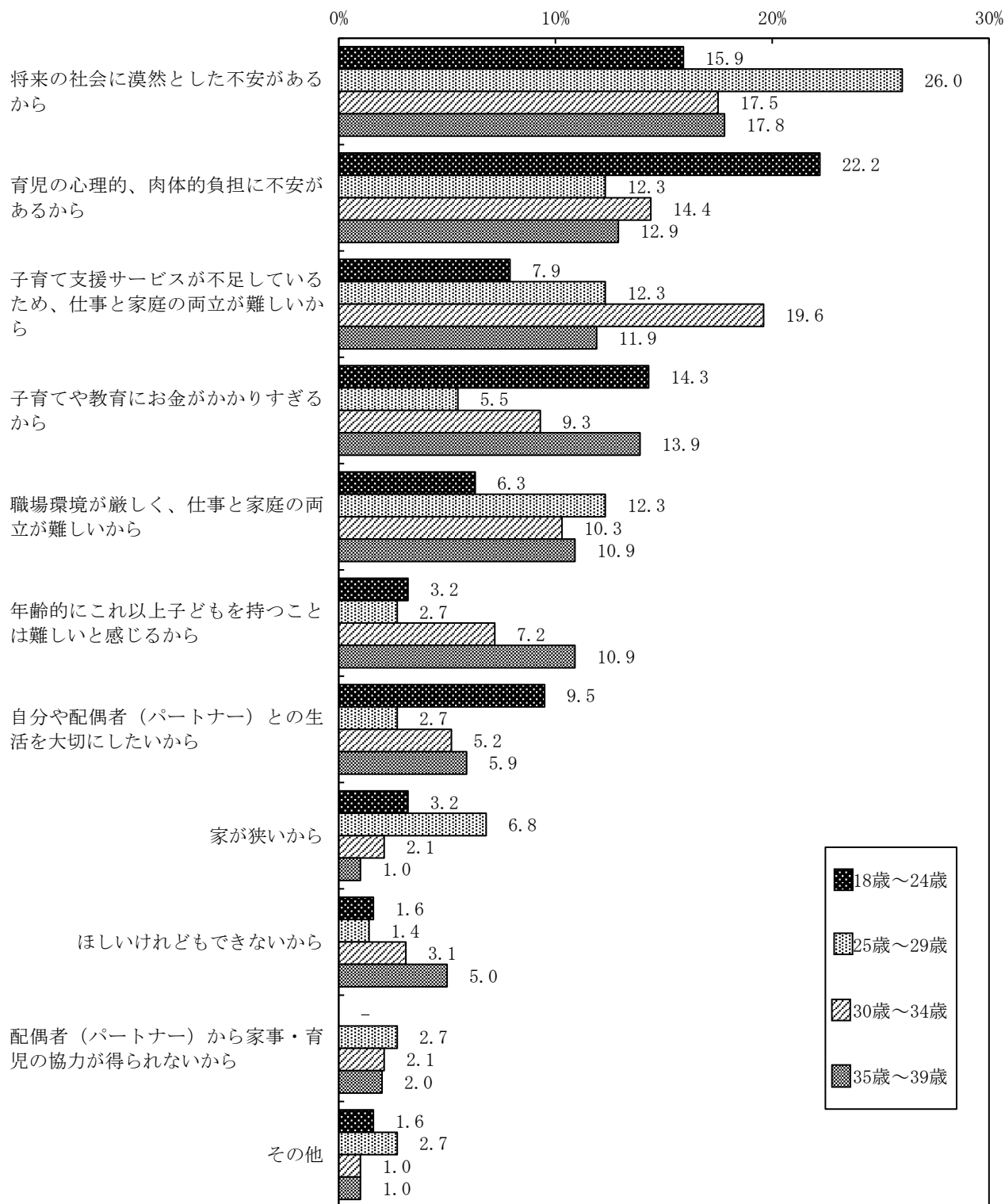
男性 16.0%、女性 20.7%で男女とも「将来の社会に漠然とした不安があるから」が最も高くなっている。



【年代別】

18歳～24歳では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が最も高く、25歳～29歳、35歳～39歳では「将来の社会に漠然とした不安があるから」が、30歳～34歳では「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」が最も高くなっている。

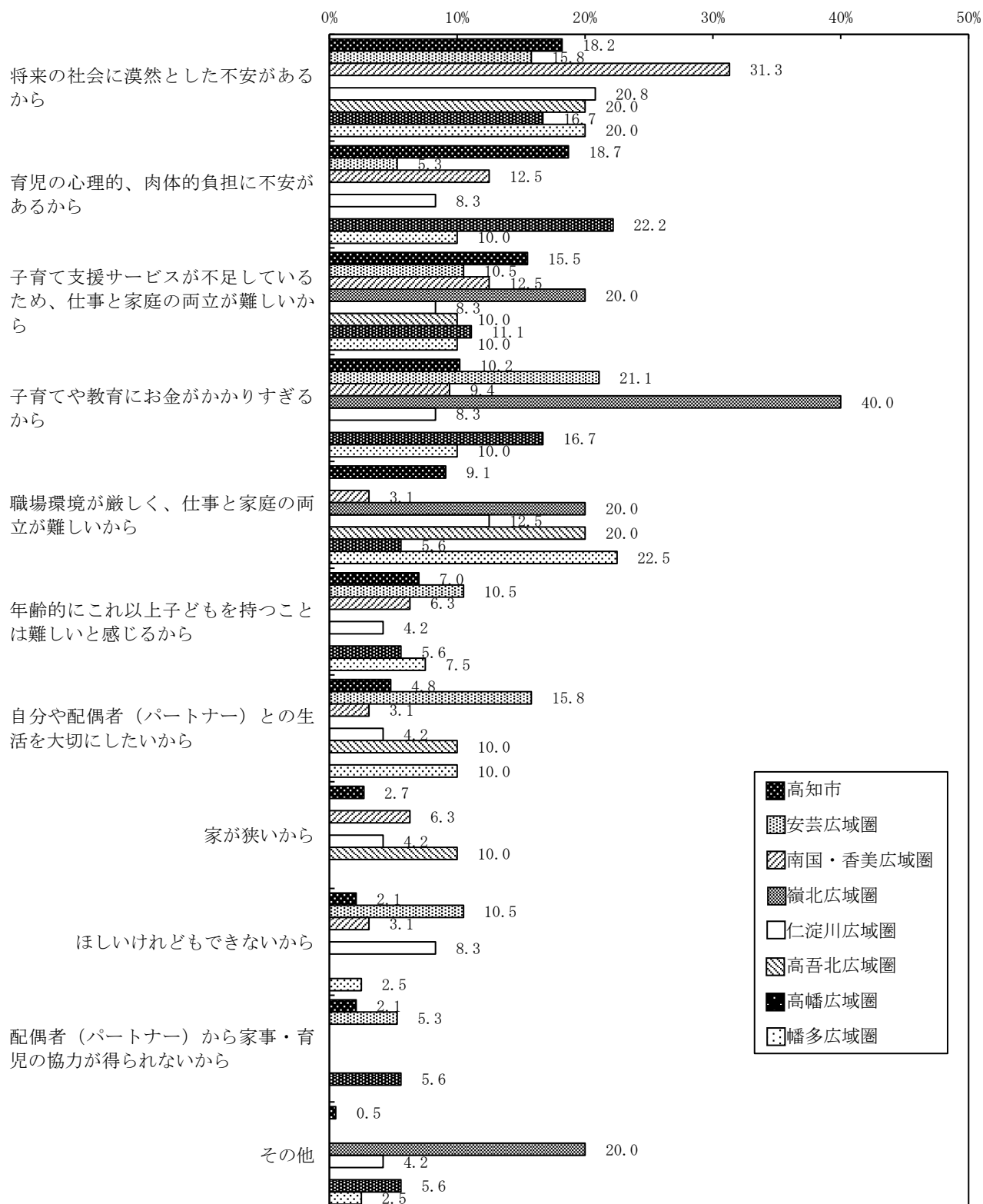
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、高幡広域圏では「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が最も高く、安芸広域圏、嶺北広域圏では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏では「将来の社会に漠然とした不安があるから」が、幡多広域圏では「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」が、高吾北広域圏では同率で「将来の社会に漠然とした不安があるから」と「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



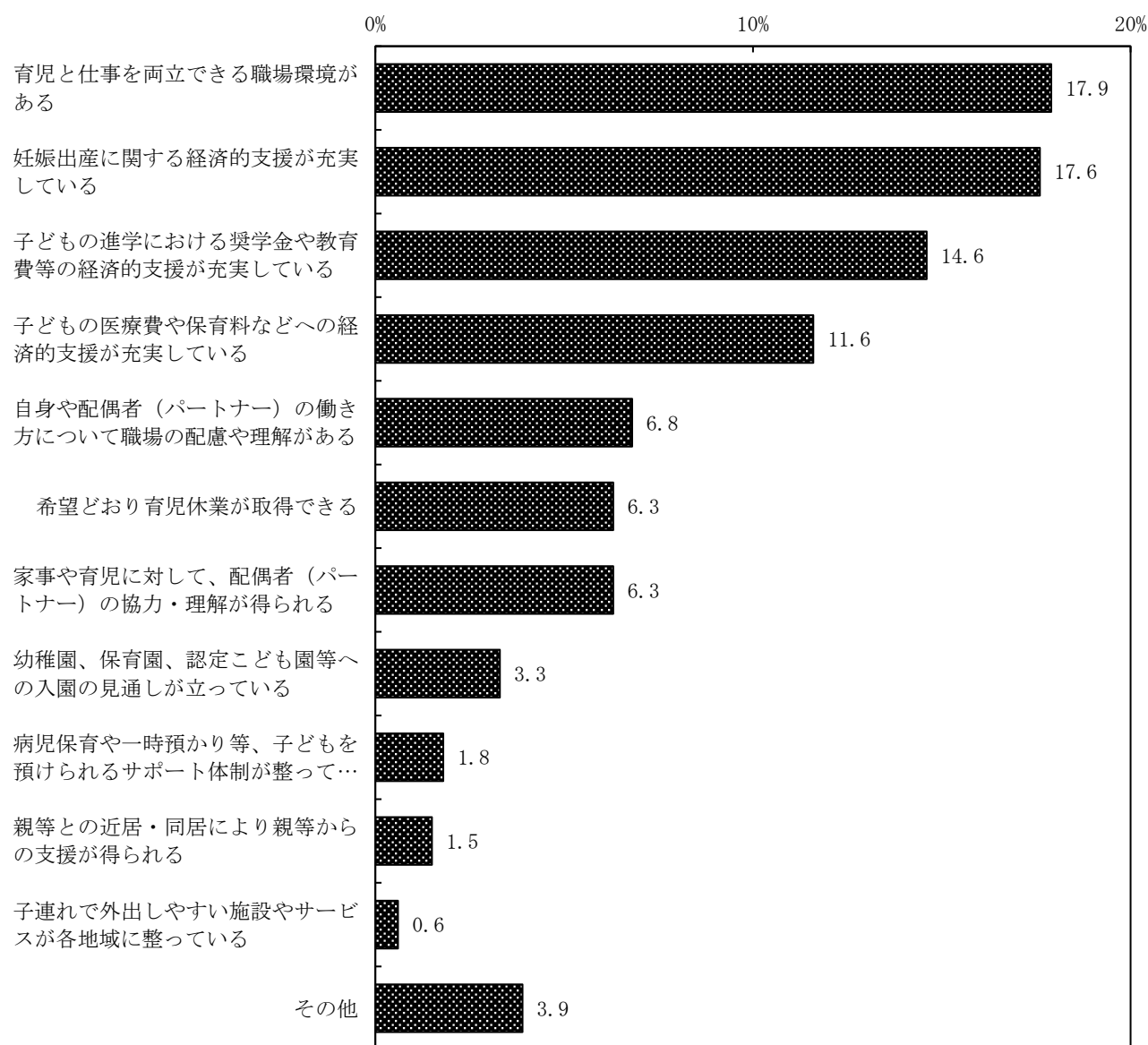
問12 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になるとお考えですか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【1位】

「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が17.9%と最も高く、次いで「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」17.6%、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」14.6%と続いている。

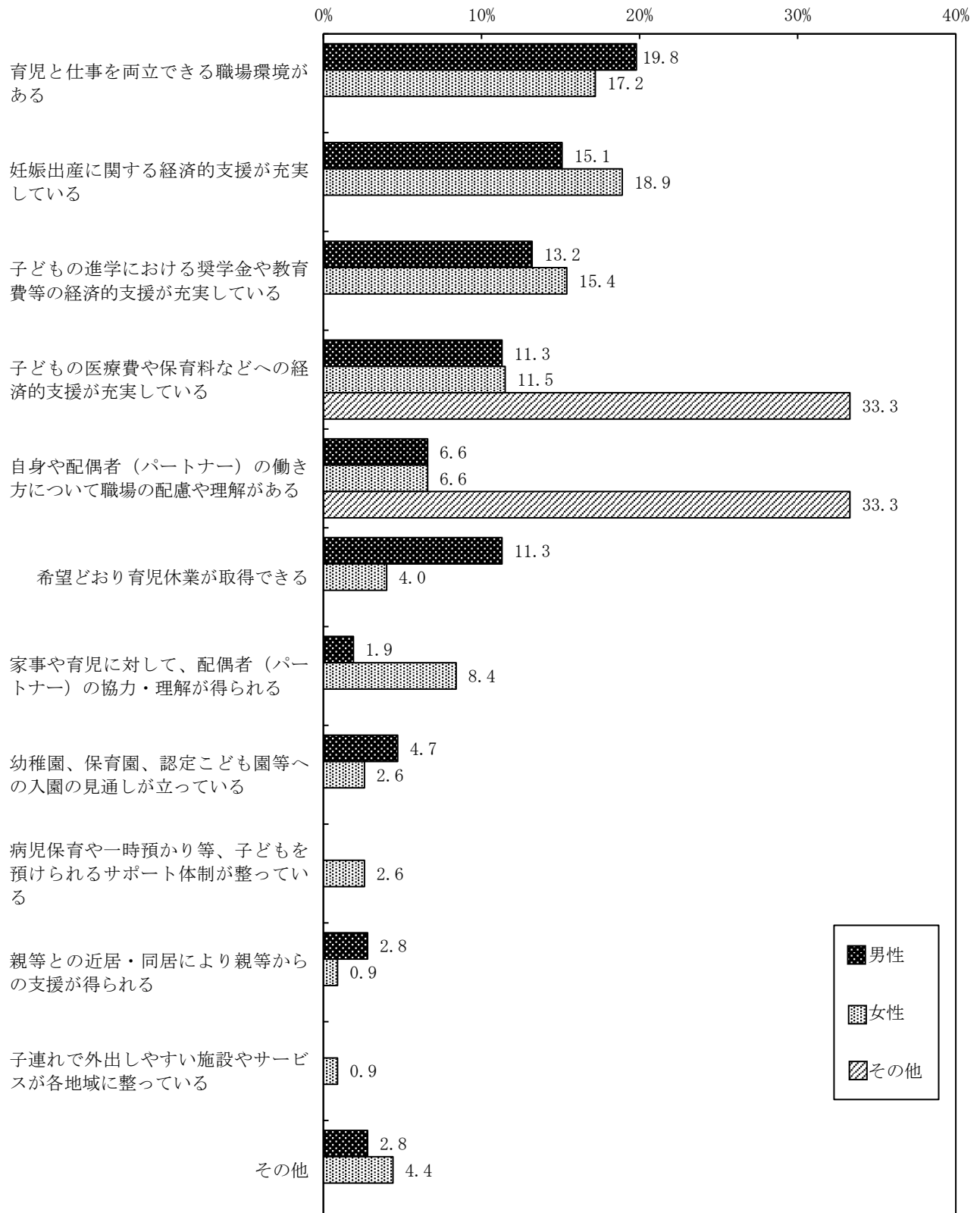
《 総 合 》



【性別】

男性では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」19.8%が、女性では「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」18.9%が最も高くなっている。

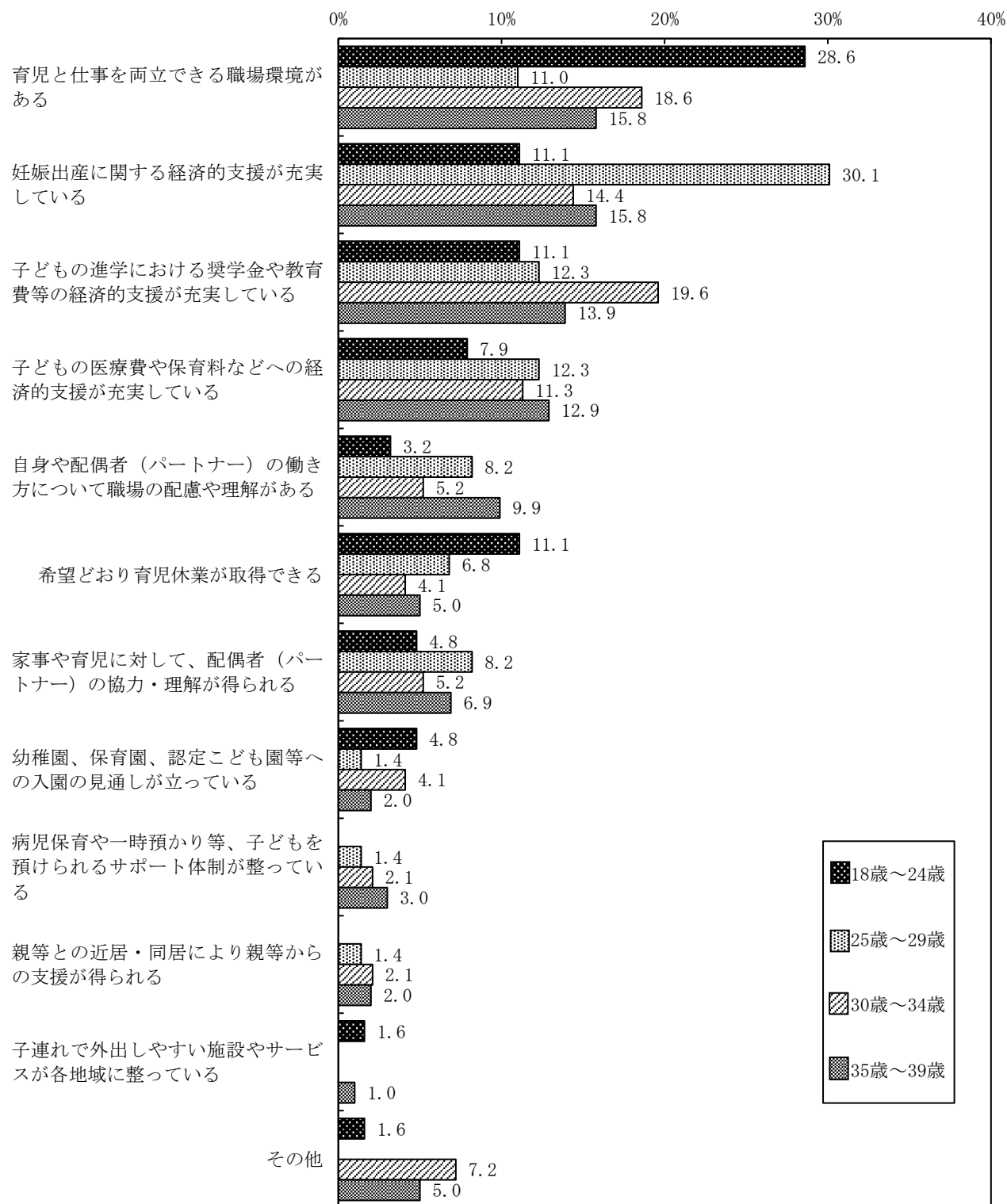
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳と 35 歳～39 歳では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が最も高く、25 歳～29 歳では「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」が、30 歳～34 歳では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高くなっている。また、35 歳～39 歳では同率で「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」も、最も高くなっている。

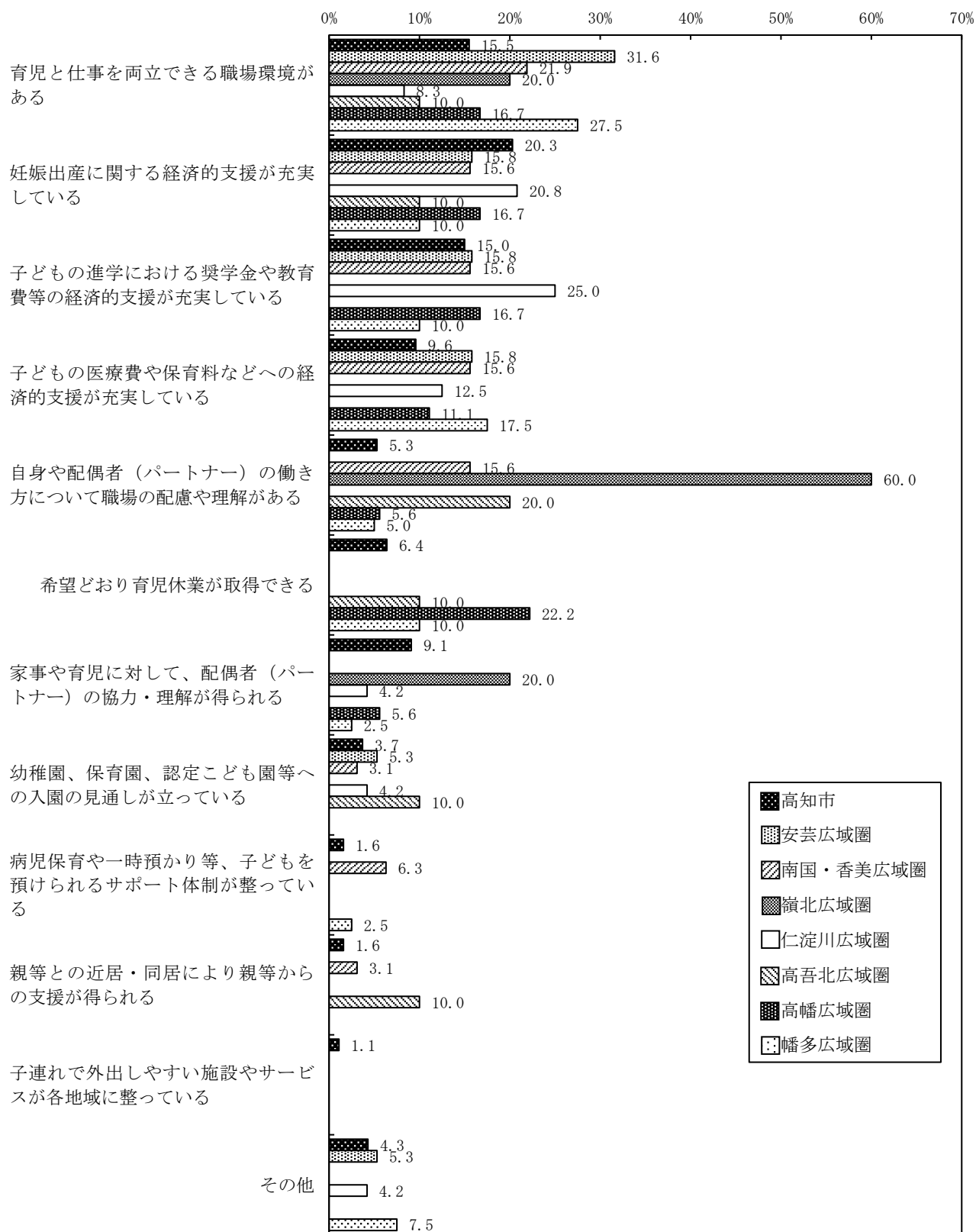
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」が最も高く、安芸広域圏、南国・香美広域圏、幡多広域圏では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が、嶺北広域圏、高吾北広域圏では「自身や配偶者（パートナー）の働き方について職場の配慮や理解がある」が、仁淀川広域圏では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が、高幡広域圏では「希望どおり育児休業が取得できる」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

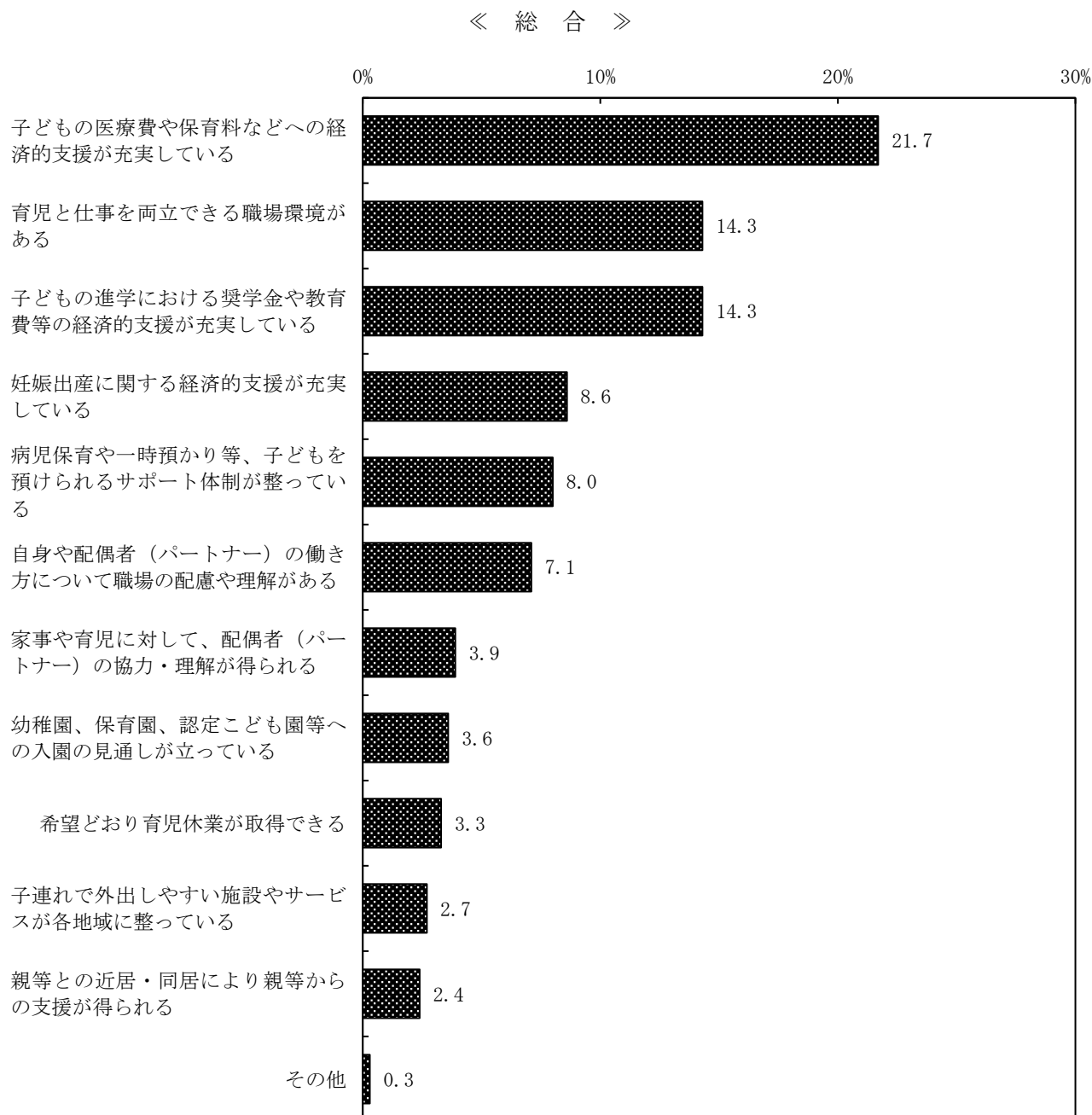


問12 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になると思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

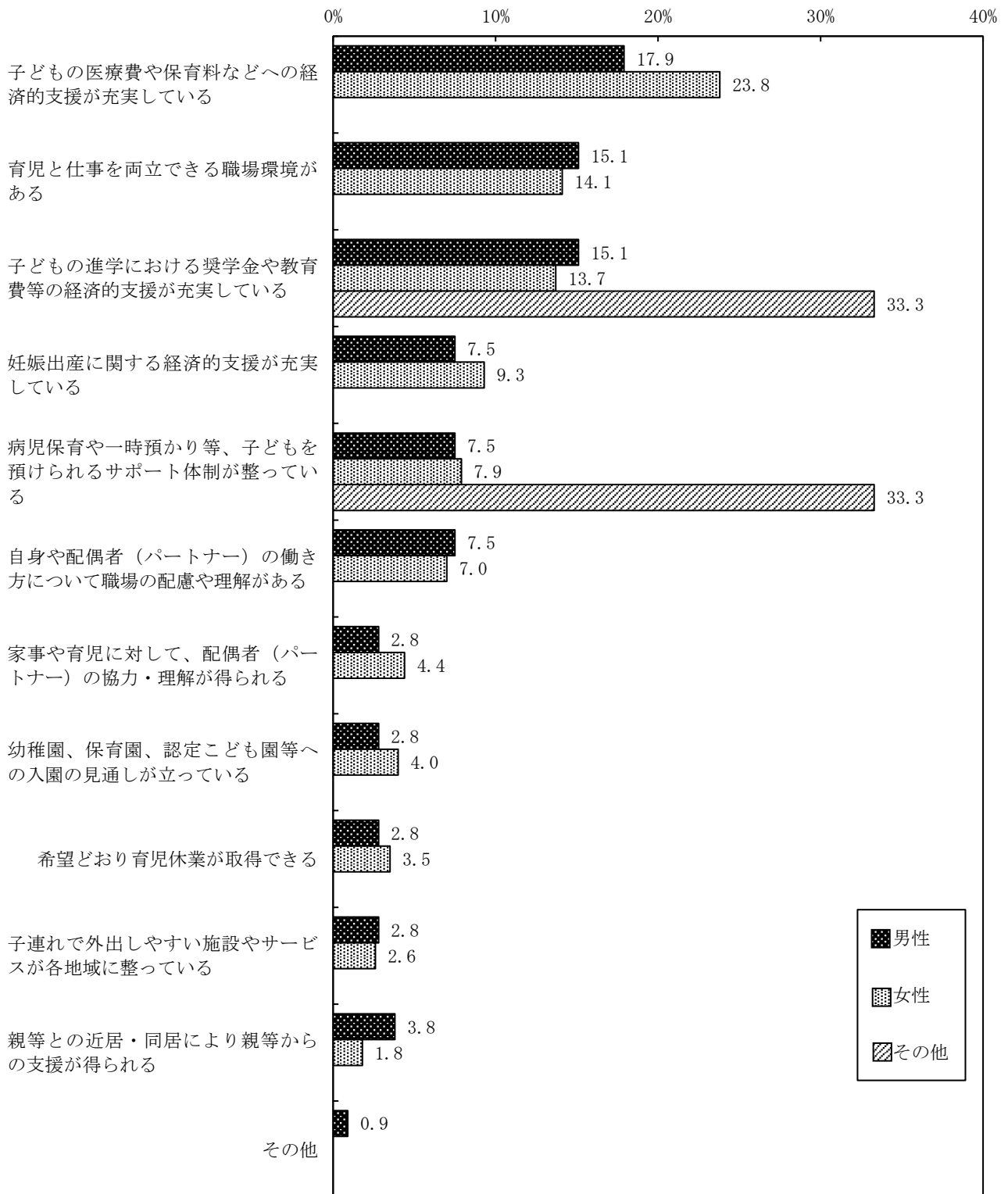
「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が 21.7%と最も高く、次いで同率で「育児と仕事を両立できる職場環境がある」と「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が 14.3%、「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」8.6%と続いている。



【性別】

男性 17.9%、女性 23.8%で男女とも「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高くなっている。

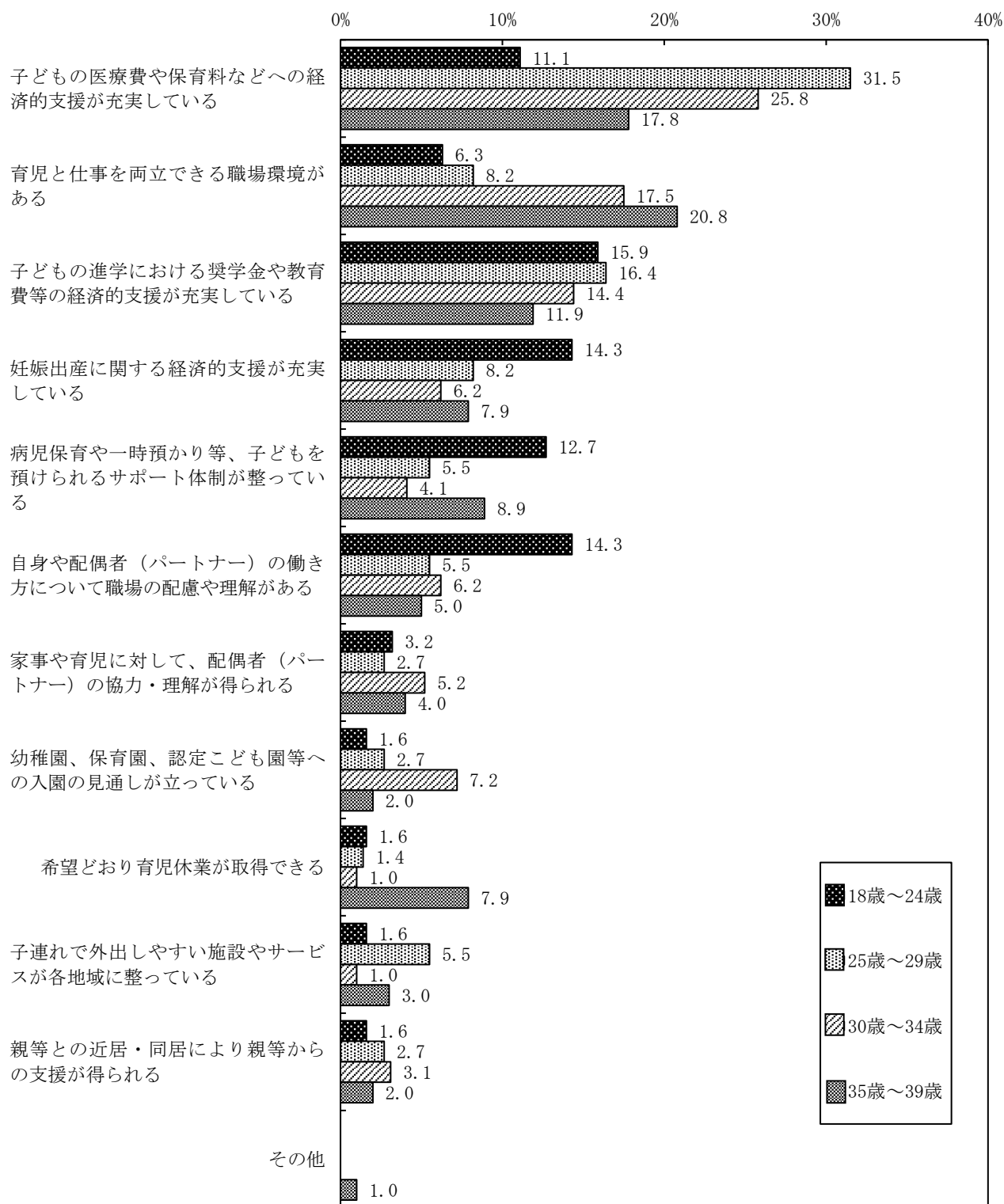
＜ 性 別 ＞



【年代別】

18 歳～24 歳では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高く、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳では「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が、35 歳～39 歳では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が最も高くなっている。

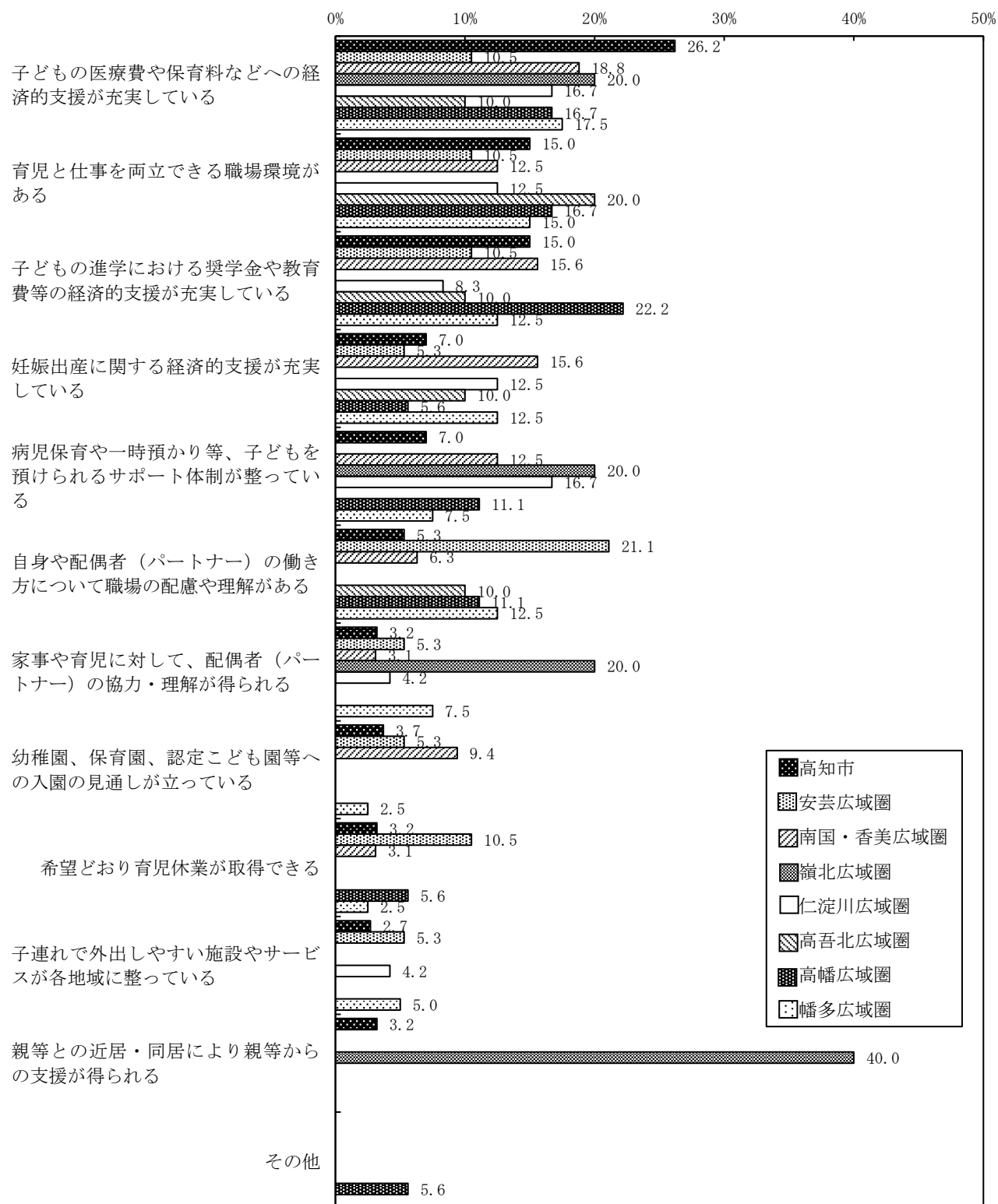
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、幡多広域圏では「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高く、安芸広域圏では「自身や配偶者（パートナー）の働き方について職場の配慮や理解がある」が、嶺北広域圏では「親等との近居・同居により親等からの支援が得られる」が、高吾北広域圏では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が、高幡広域圏では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



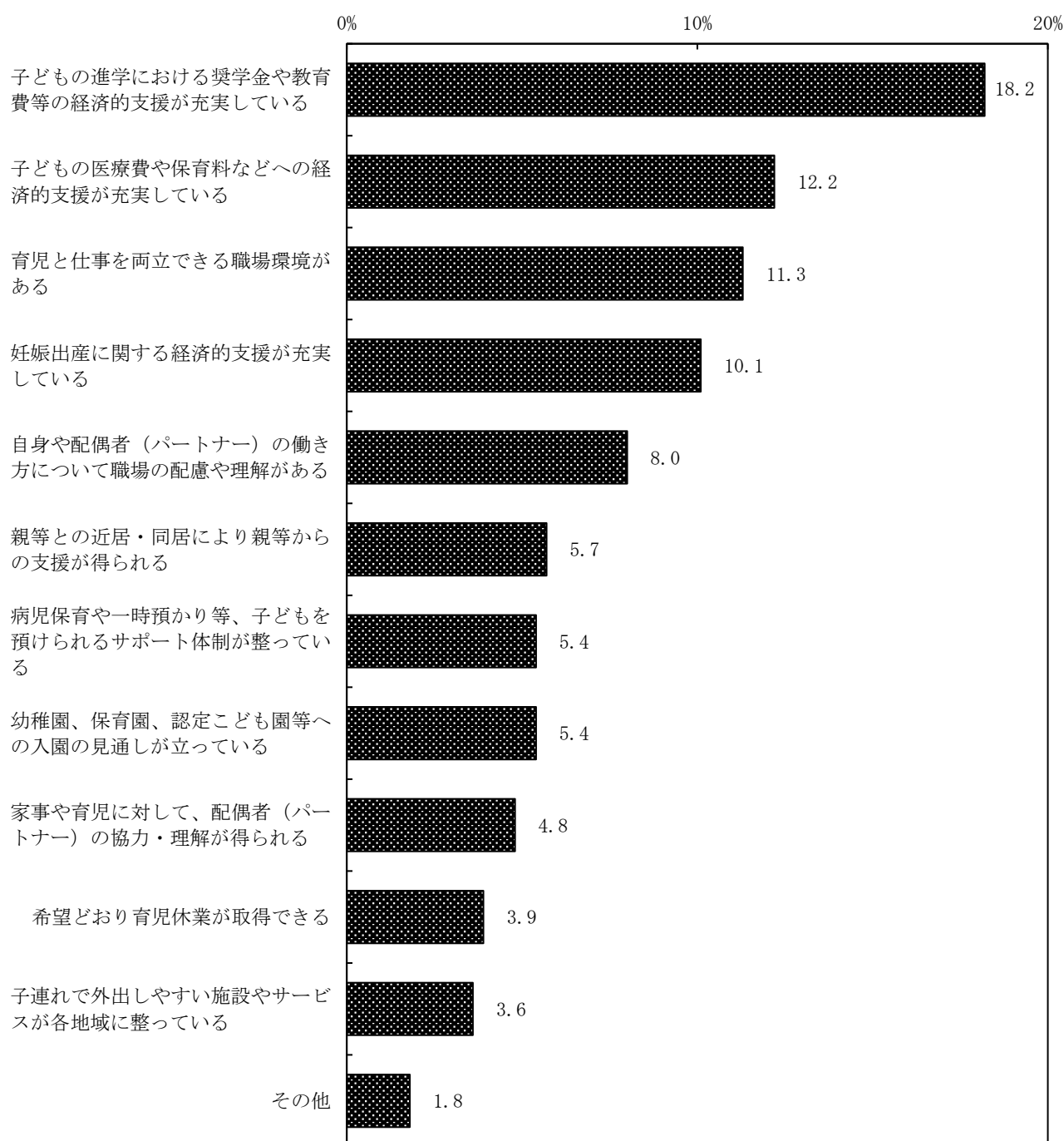
問12 問10の人数が問9の人数より少ない方のみお答えください。

どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になると思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が18.2%と最も高く、次いで、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」12.2%、「育児と仕事を両立できる職場環境がある」11.3%と続いている。

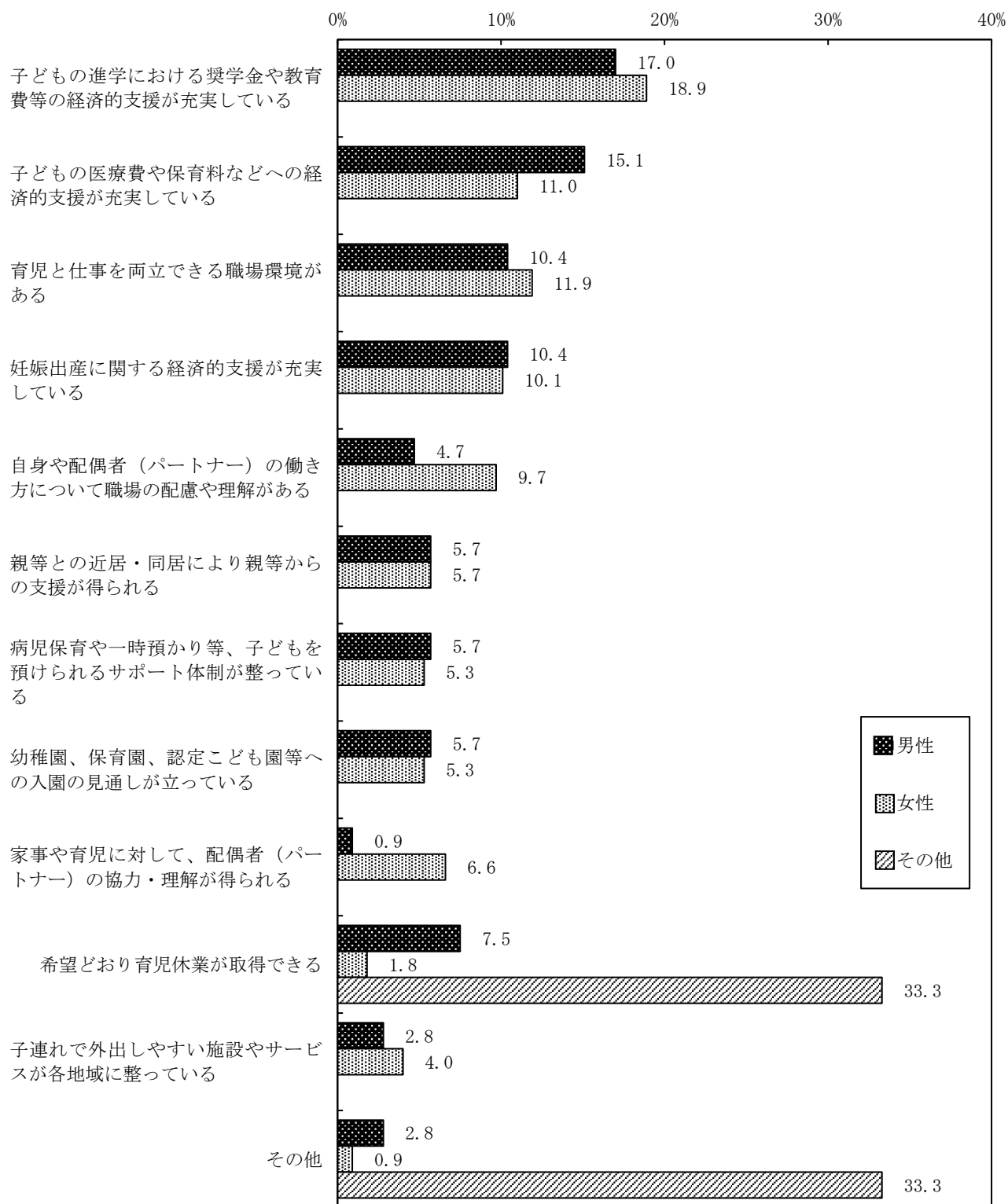
《 総 合 》



【性別】

男性 17.0%、女性 18.9%で男女とも「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高くなっている。

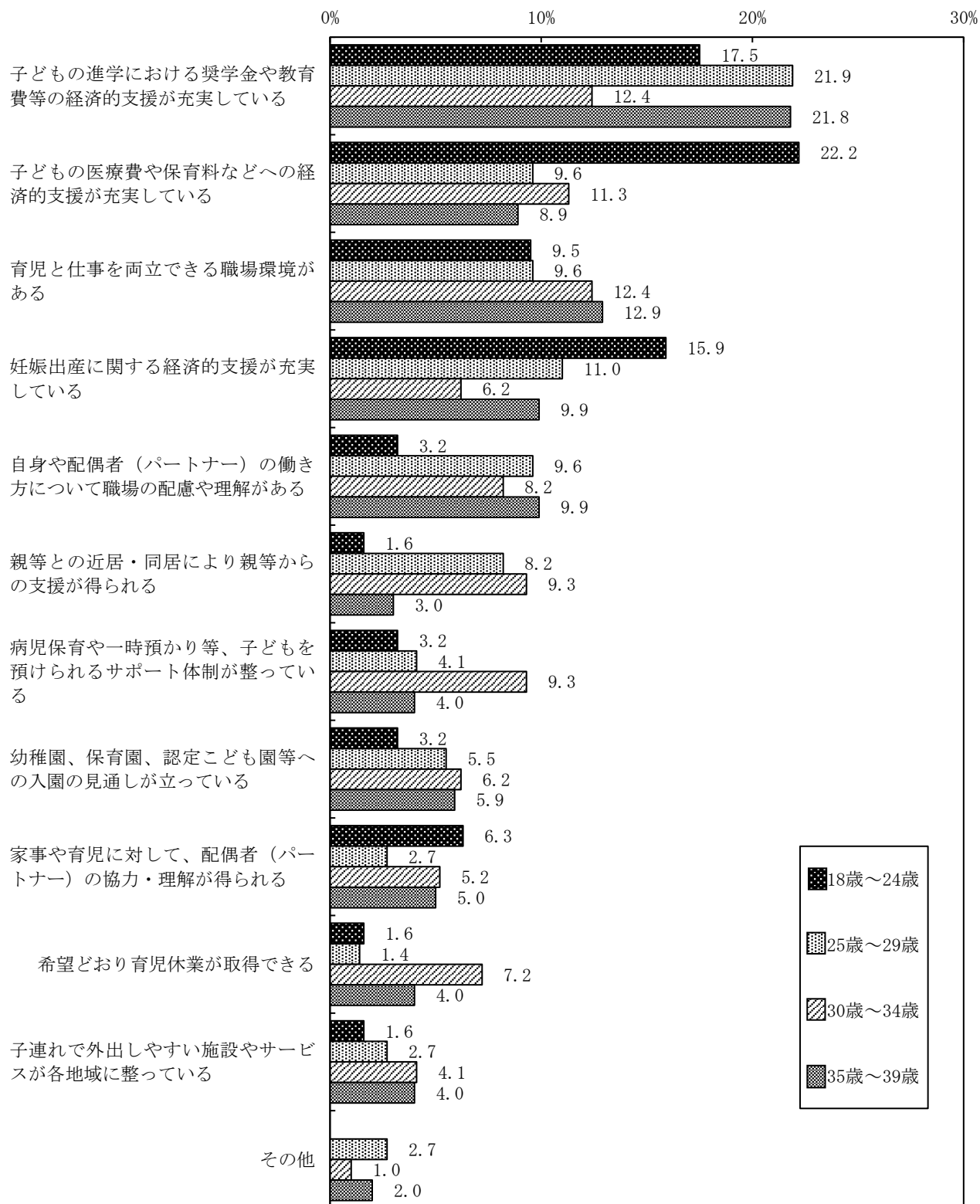
≪ 性別 ≫



【年代別】

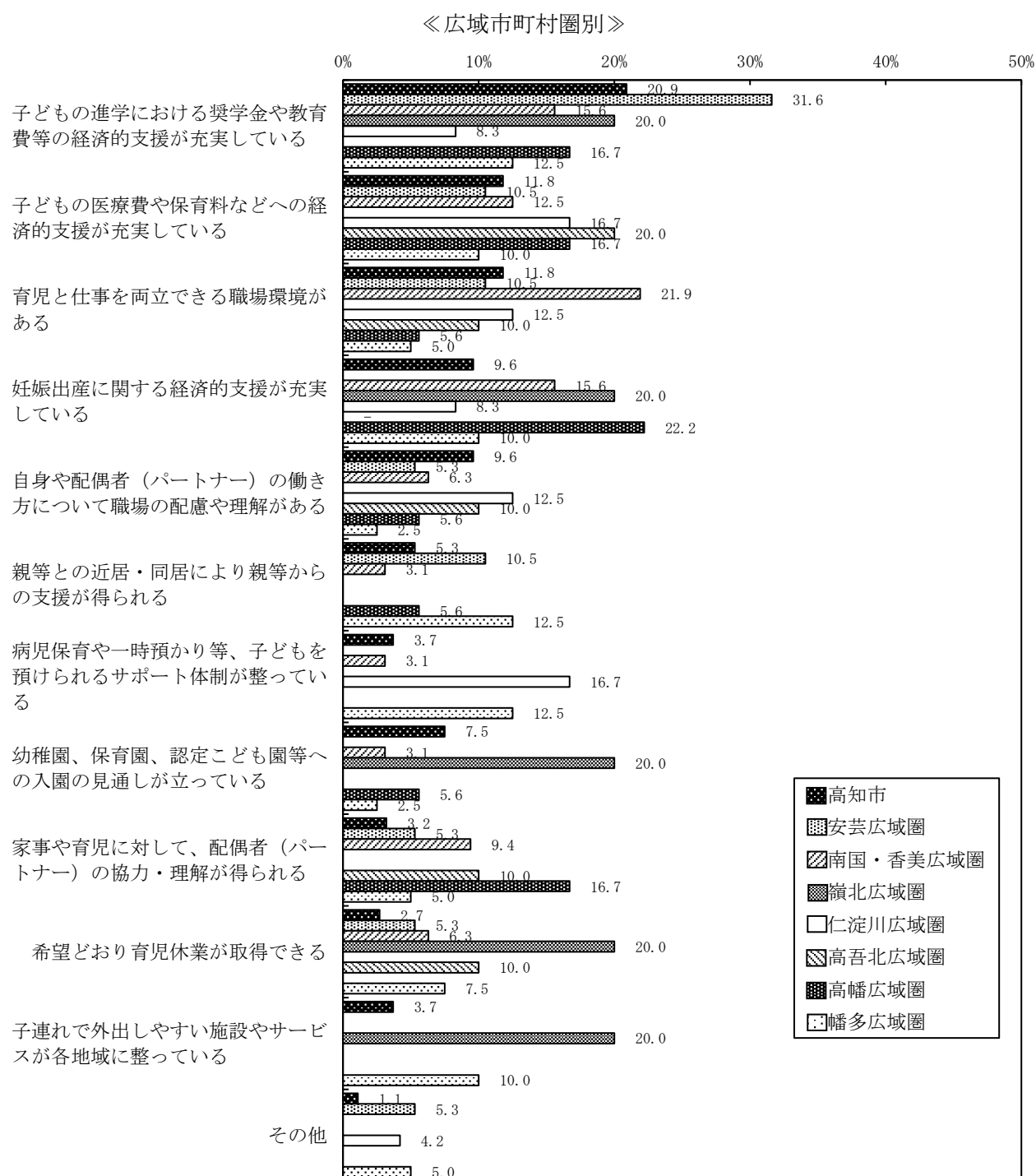
18 歳～24 歳では「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高く、25 歳～29 歳、35 歳～39 歳では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が、30 歳～34 歳では同率で「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」、「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が最も高くなっている。

《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏では「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高く、南国・香美広域圏では「育児と仕事を両立できる職場環境がある」と「幼稚園、保育園、認定こども園等への入園の見通しが立っている」と「子連れで外出しやすい施設やサービスが各地域に整っている」と「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」と「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が、仁淀川広域圏では同率で「親等との近居・同居により親等からの支援が得られる」と「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が、高吾北広域圏では「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が、高幡広域圏では「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」が、幡多広域圏では同率で「親等との近居・同居により親等からの支援が得られる」と「病児保育や一時預かり等、子どもを預けられるサポート体制が整っている」と「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高くなっている。



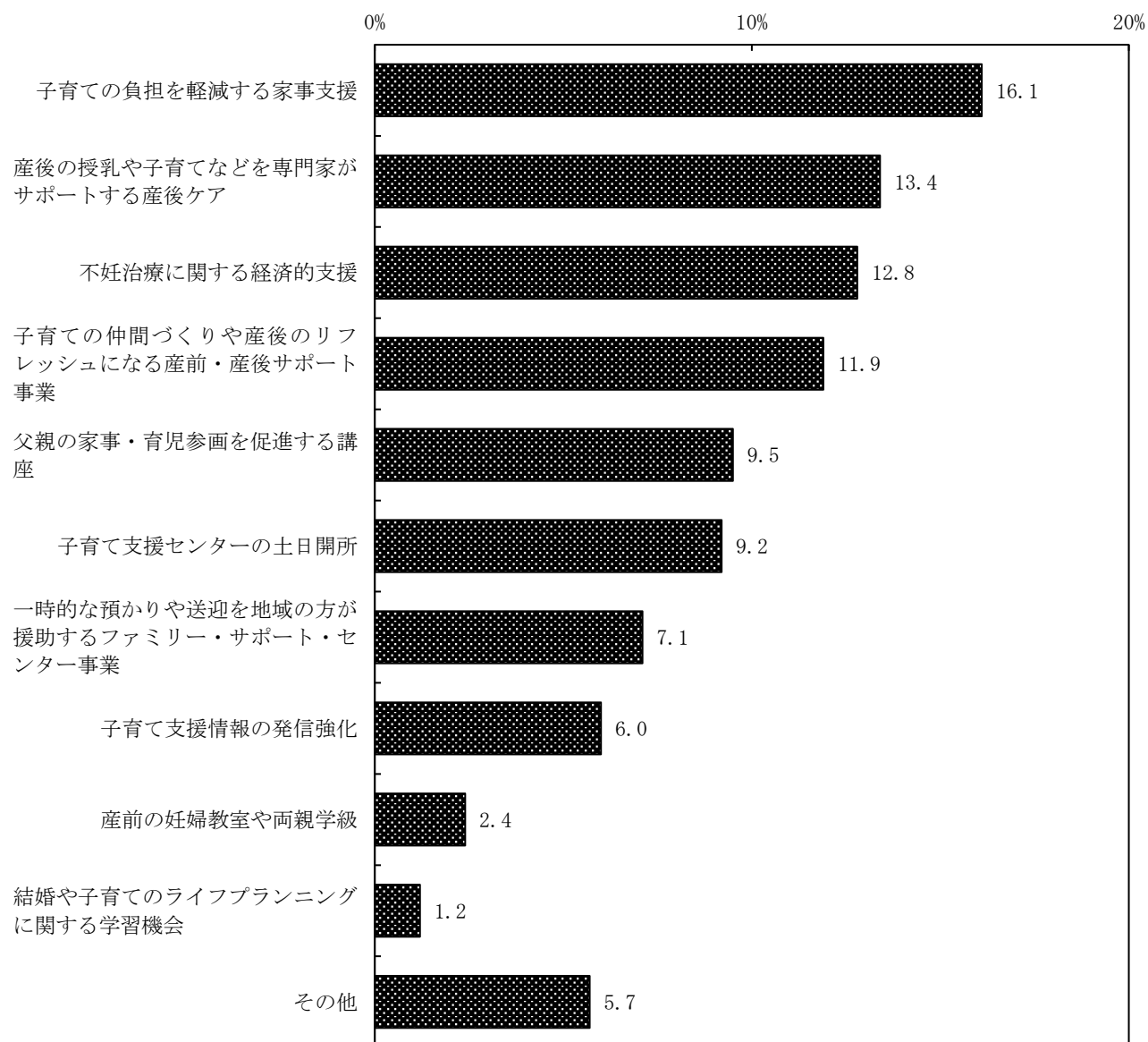
問13 現在、子育て中の方のみお答えください。

妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取組のうち、今後、もっと充実して欲しい取組について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【1位】

「子育ての負担を軽減する家事支援」が16.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」13.4%、「不妊治療に関する経済的支援」12.8%と続いている。

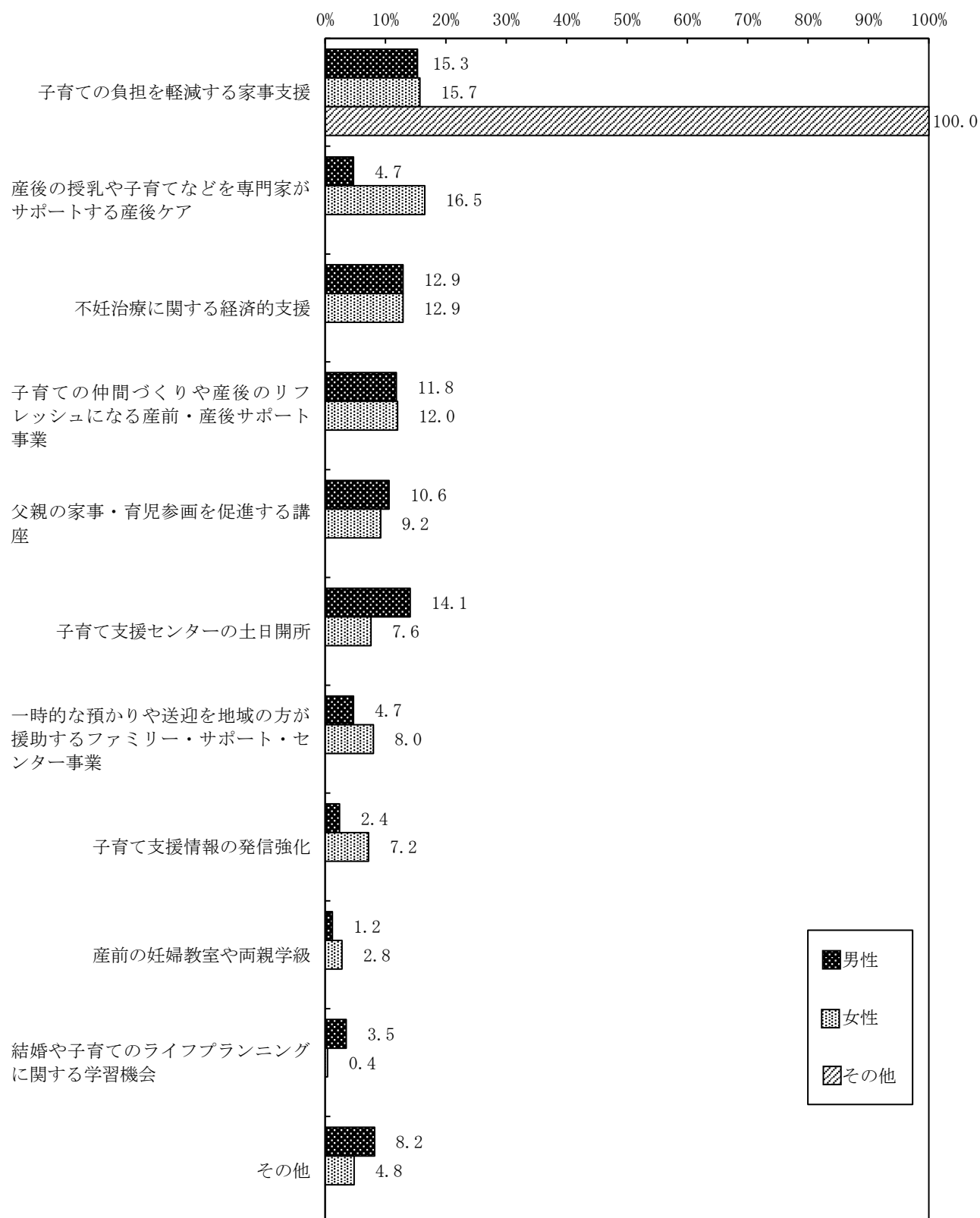
《 総 合 》



【性別】

男性では「子育ての負担を軽減する家事支援」15.3%が、女性では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」16.5%が最も高くなっている。

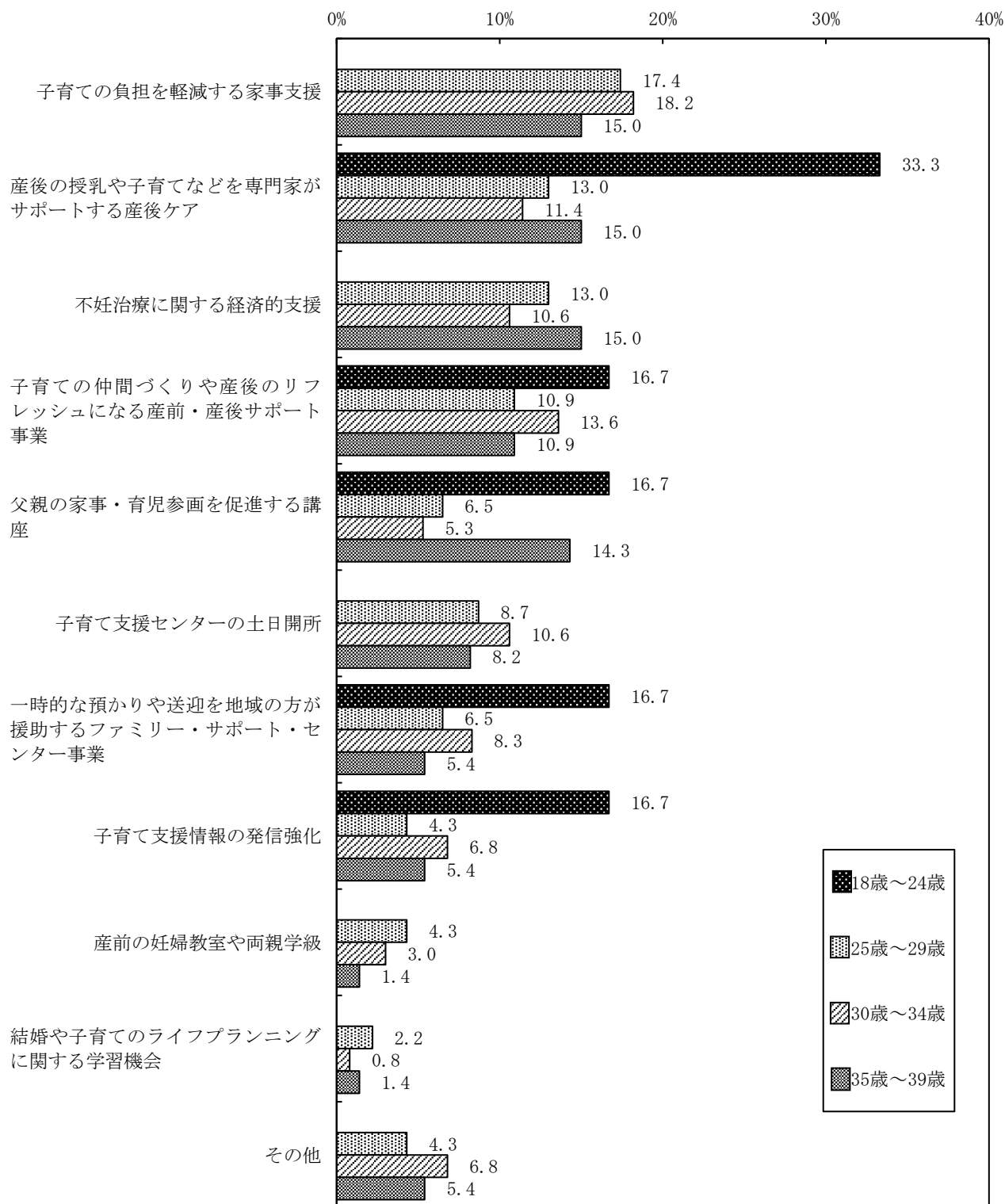
《 性 別 》



【年代別】

18 歳～24 歳では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が最も高く、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳では「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。なお、35 歳～39 歳では同率で「不妊治療に関する経済的支援」と「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が最も高くなっている。

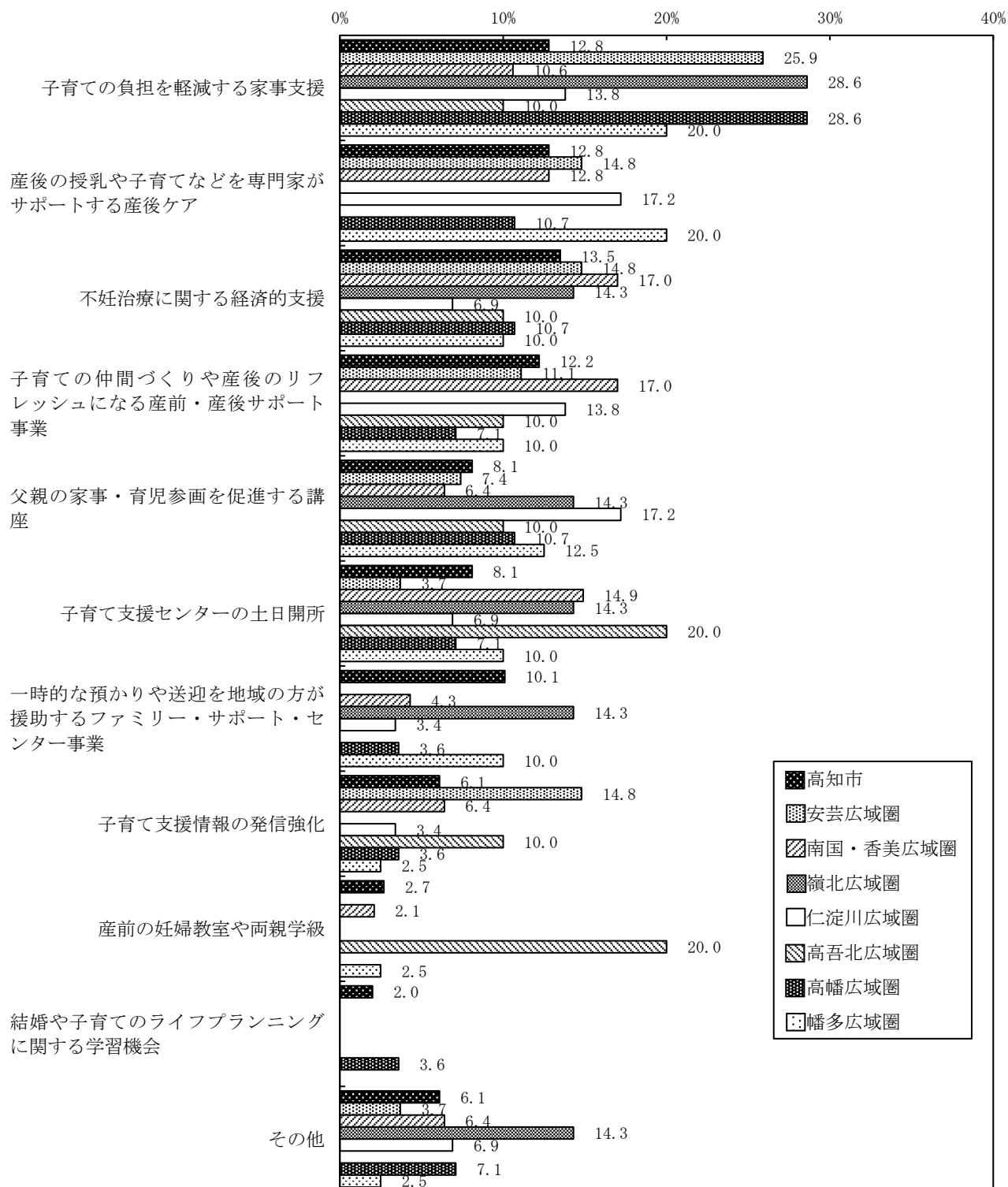
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では「不妊治療に関する経済的支援」が最も高く、安芸広域圏、嶺北広域圏、高幡広域圏では「子育ての負担を軽減する家事支援」が、南国・香美広域圏では「不妊治療に関する経済的支援」と「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が、仁淀川広域圏では同率で「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」と「父親の家事・育児参画を促進する講座」が、高吾北広域圏では同率で「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」と「子育て支援センターの土日開所」が、幡多広域圏では同率で「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」と「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



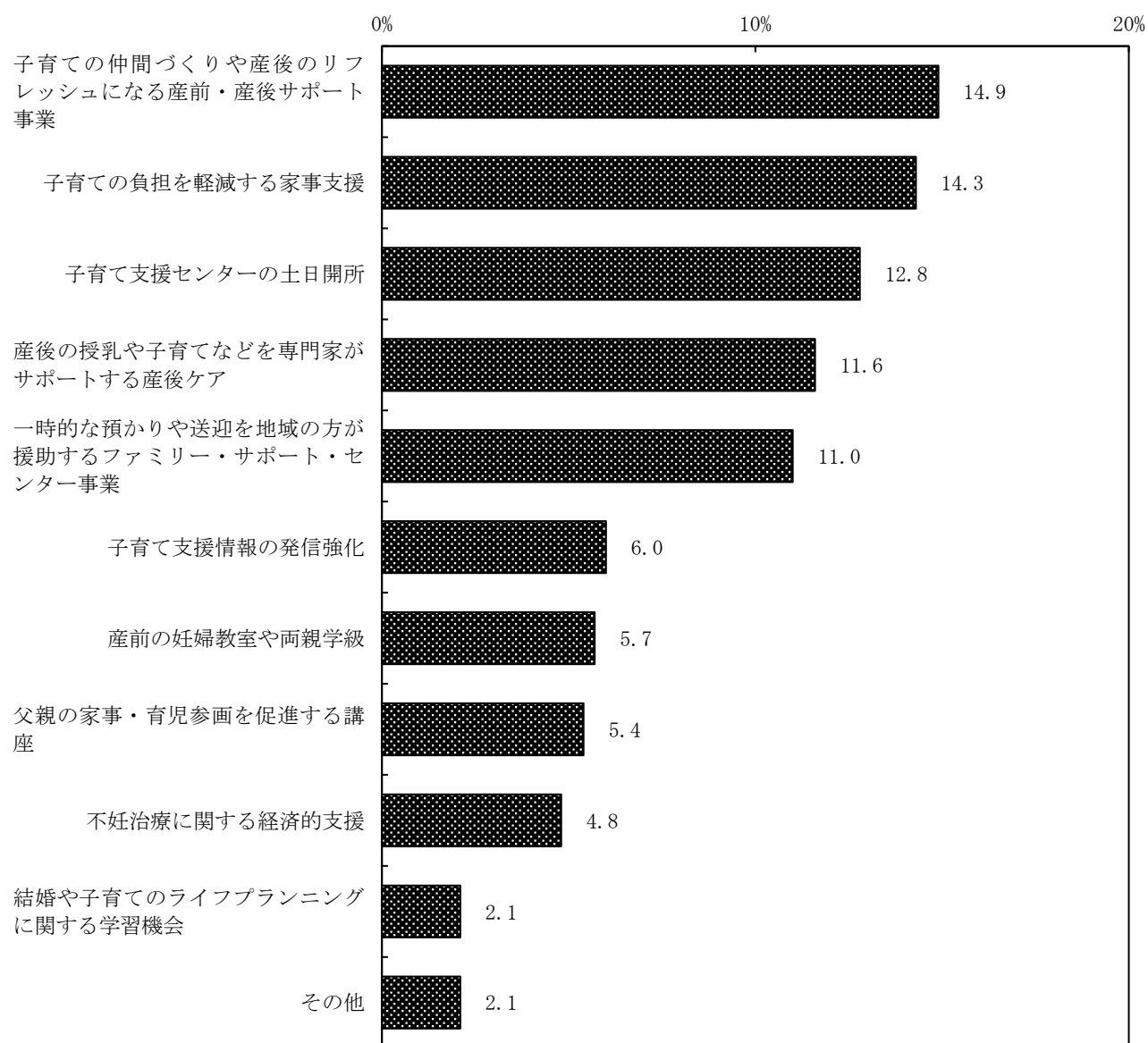
問13 現在、子育て中の方のみお答えください。

妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取組のうち、今後、もっと充実して欲しい取組について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

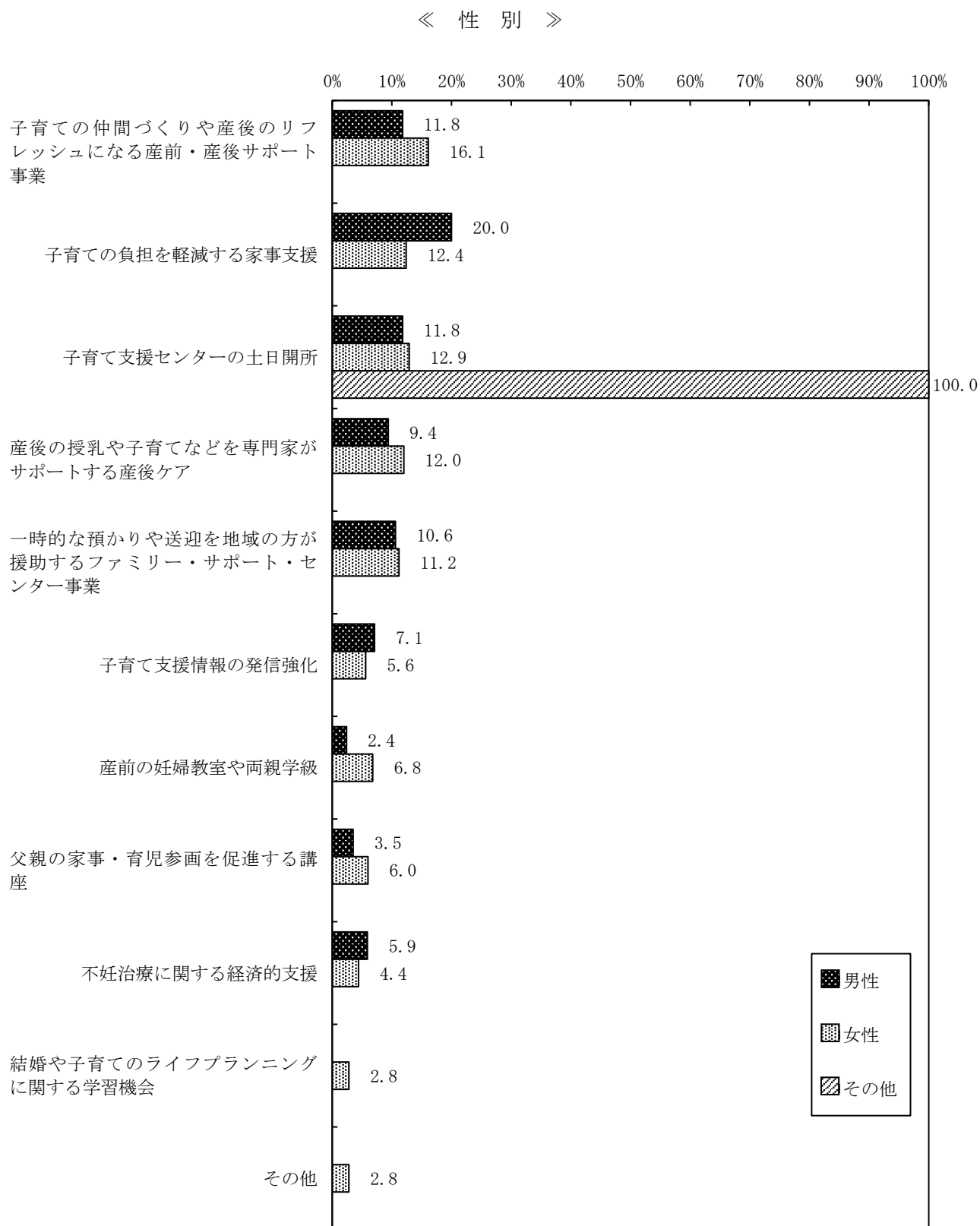
「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が14.9%と最も高く、次いで「子育ての負担を軽減する家事支援」14.3%、「子育て支援センターの土日開所」12.8%が続いている。

《 総 合 》



【性別】

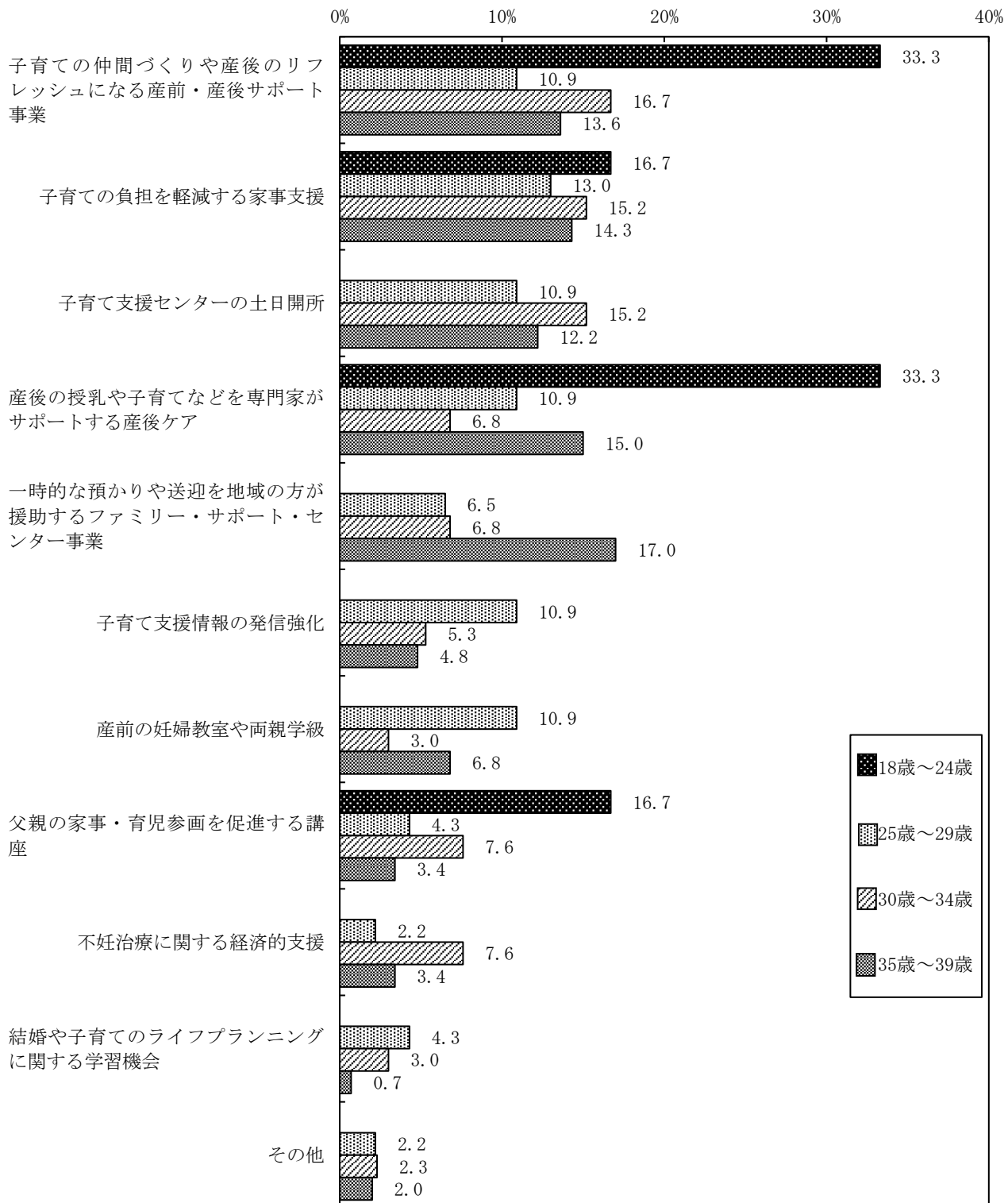
男性では「子育ての負担を軽減する家事支援」20.0%で最も高く、女性では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」16.1%で最も高くなっている。



【年代別】

18 歳～24 歳では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が最も高く、25 歳～29 歳では「子育ての負担を軽減する家事支援」が、30 歳～34 歳では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が、35 歳～39 歳では「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業」が最も高くなっている。

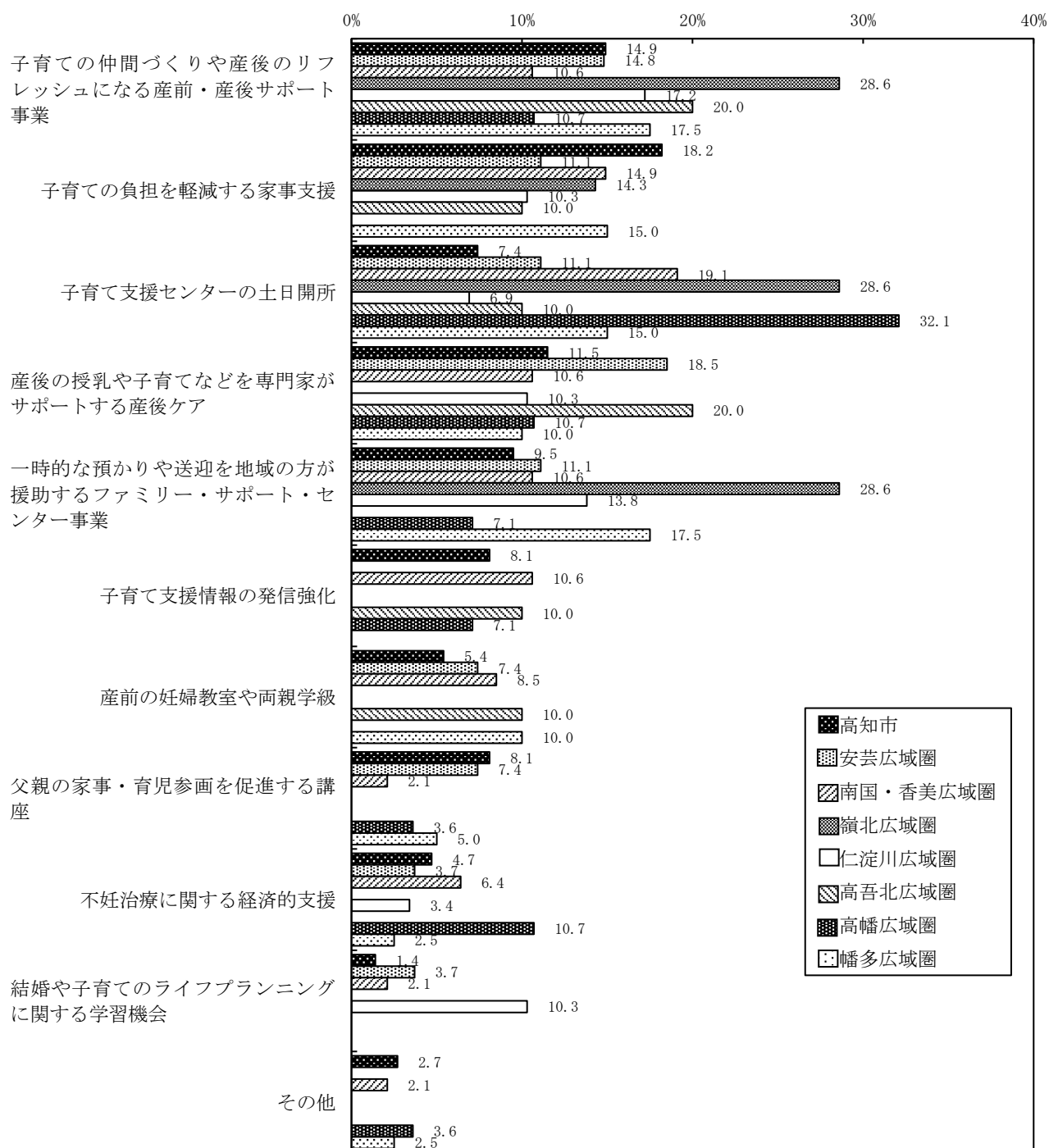
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高く、安芸広域圏では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が、南国・香美広域圏、高幡広域圏では「子育て支援センターの土日開所」が、嶺北広域圏では同率で「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「子育て支援センターの土日開所」と「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・朝ポート・センター事業」が、仁淀川広域圏では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が、高吾北広域圏では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」と「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が、幡多広域圏では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・朝ポート・センター事業」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



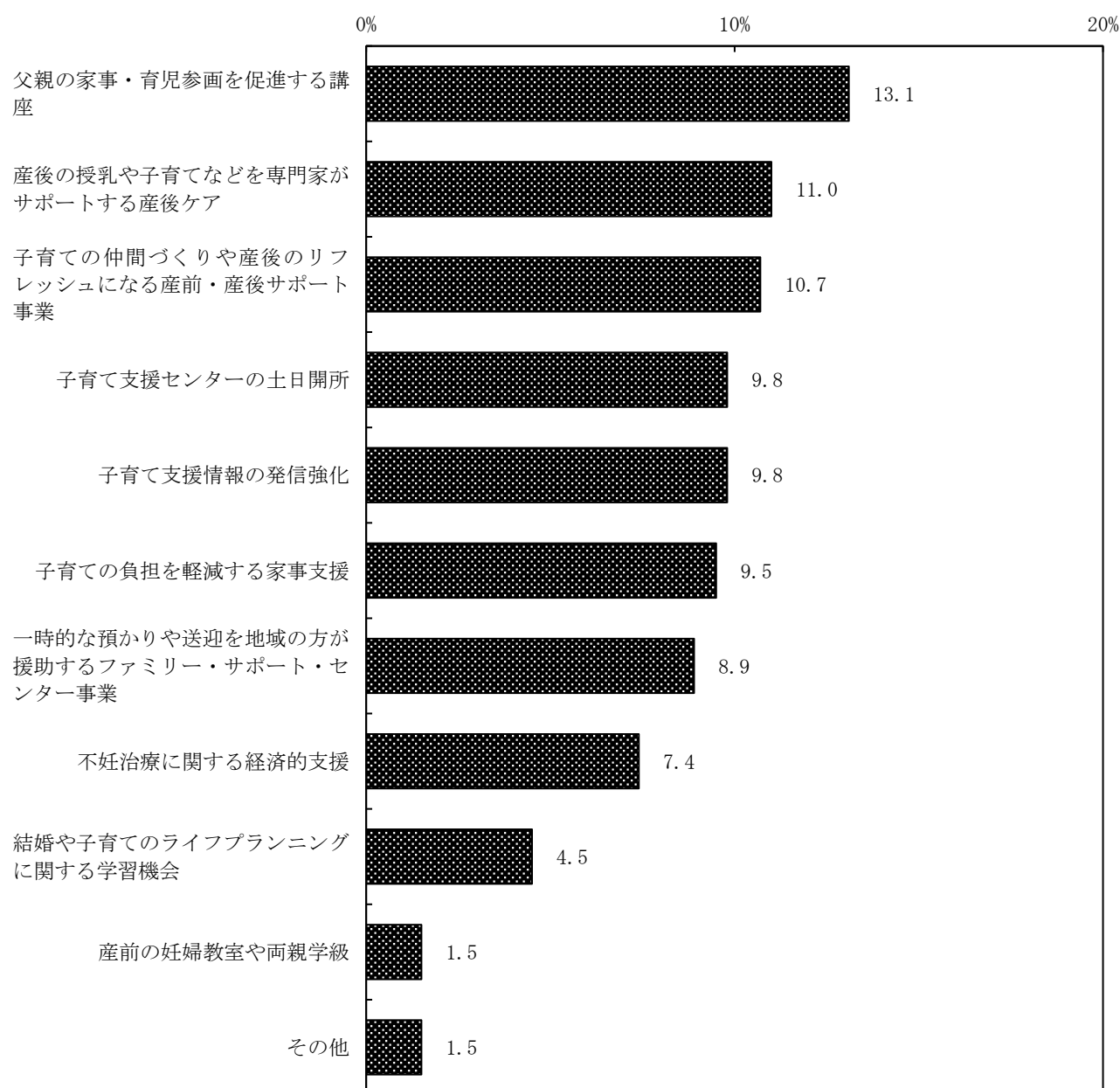
問13 現在、子育て中の方のみお答えください。

妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取組のうち、今後、もっと充実して欲しい取組について、あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

「父親の家事・育児参画を促進する講座」が 13.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」11.0%、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」10.7%と続いている。

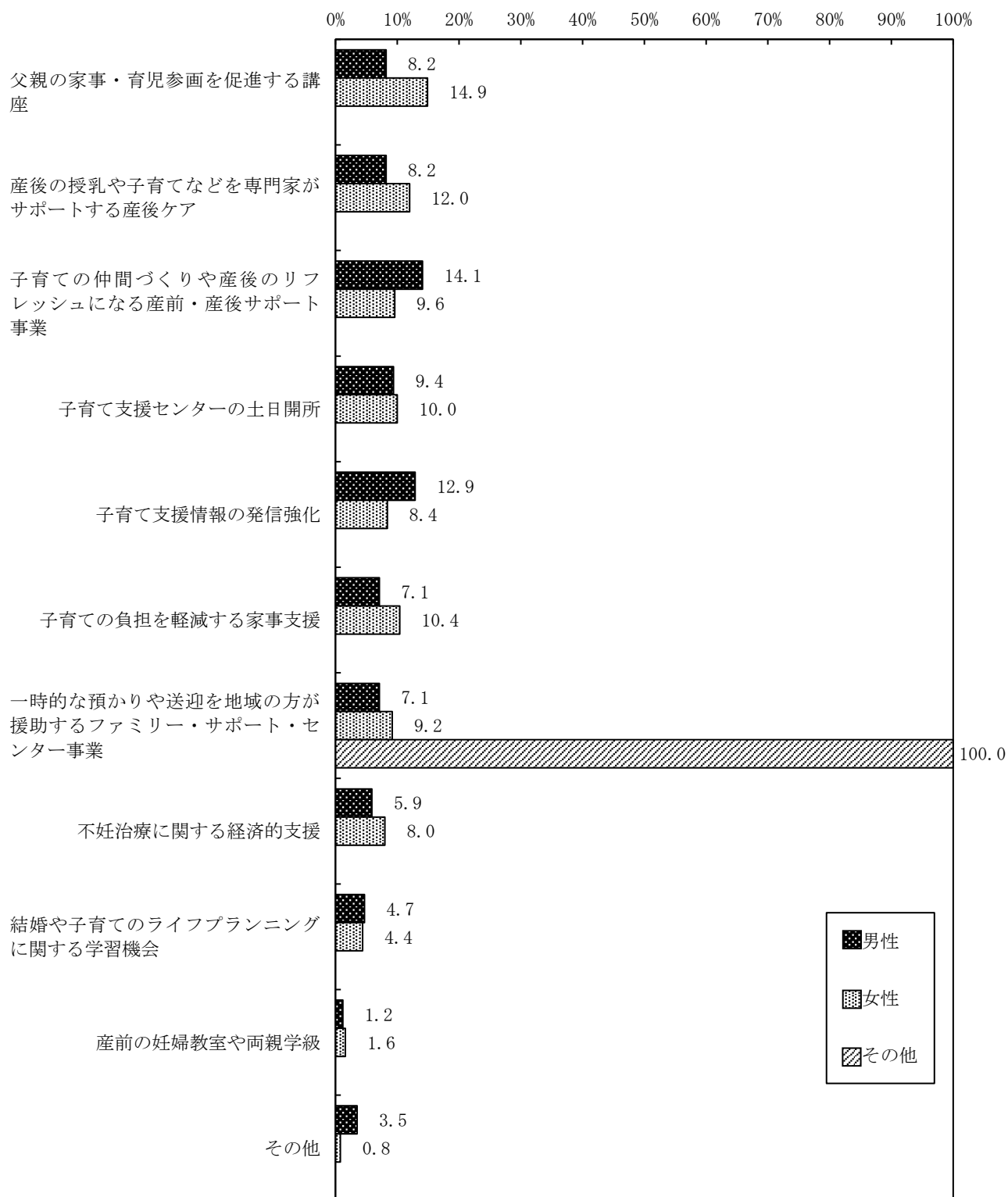
《 総 合 》



【性別】

男性では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」14.1%が、女性では「父親の家事・育児参画を促進する講座」14.9%が最も高くなっている。

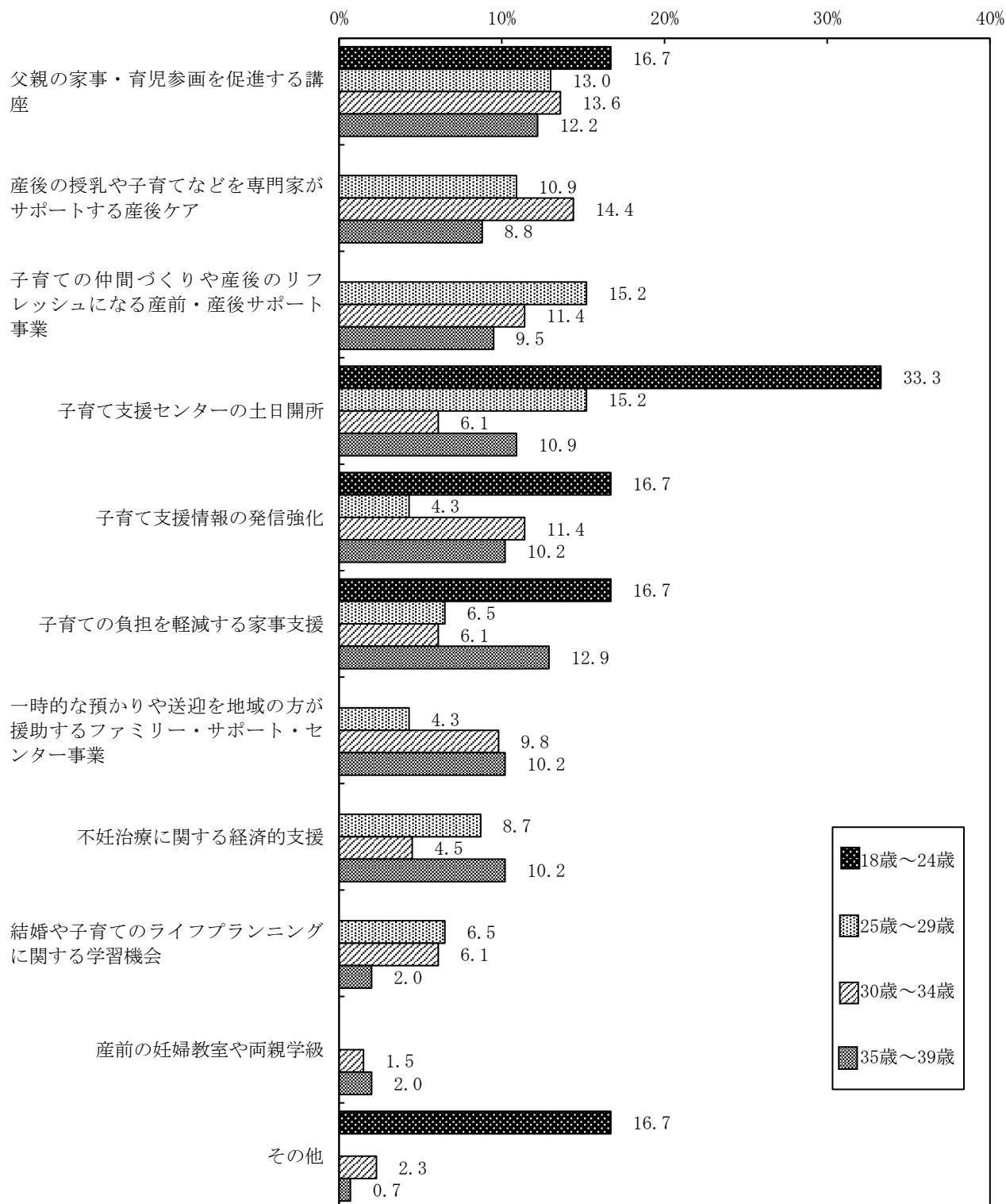
《 性 別 》



【年代別】

18歳～24歳、25歳～29歳では「子育て支援センターの土日開所」が最も高く、30歳～34歳では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が、35歳～39歳では「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。なお、25歳～29歳では同率で「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が最も高くなっている。

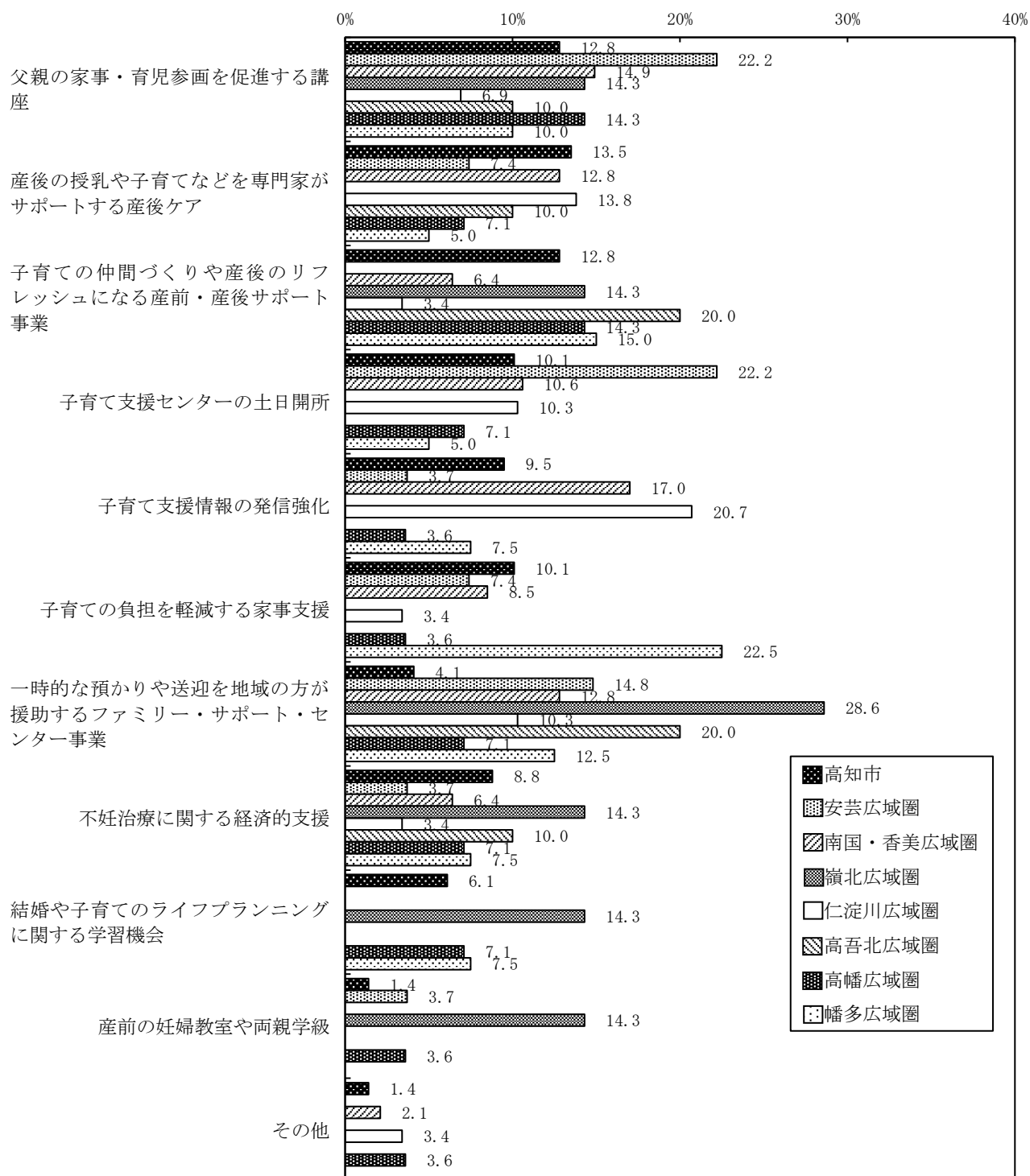
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市では「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」が最も高く、安芸広域圏では同率で「子育て支援センターの土日開所」と「父親の家事・育児参画を促進する講座」が、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏では「子育て支援情報の発信強化」が、嶺北広域圏では「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業」が、高吾北広域圏では同率で「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業」が、高幡広域圏では同率で「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「父親の家事・育児参画を促進する講座」が、幡多広域圏では「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

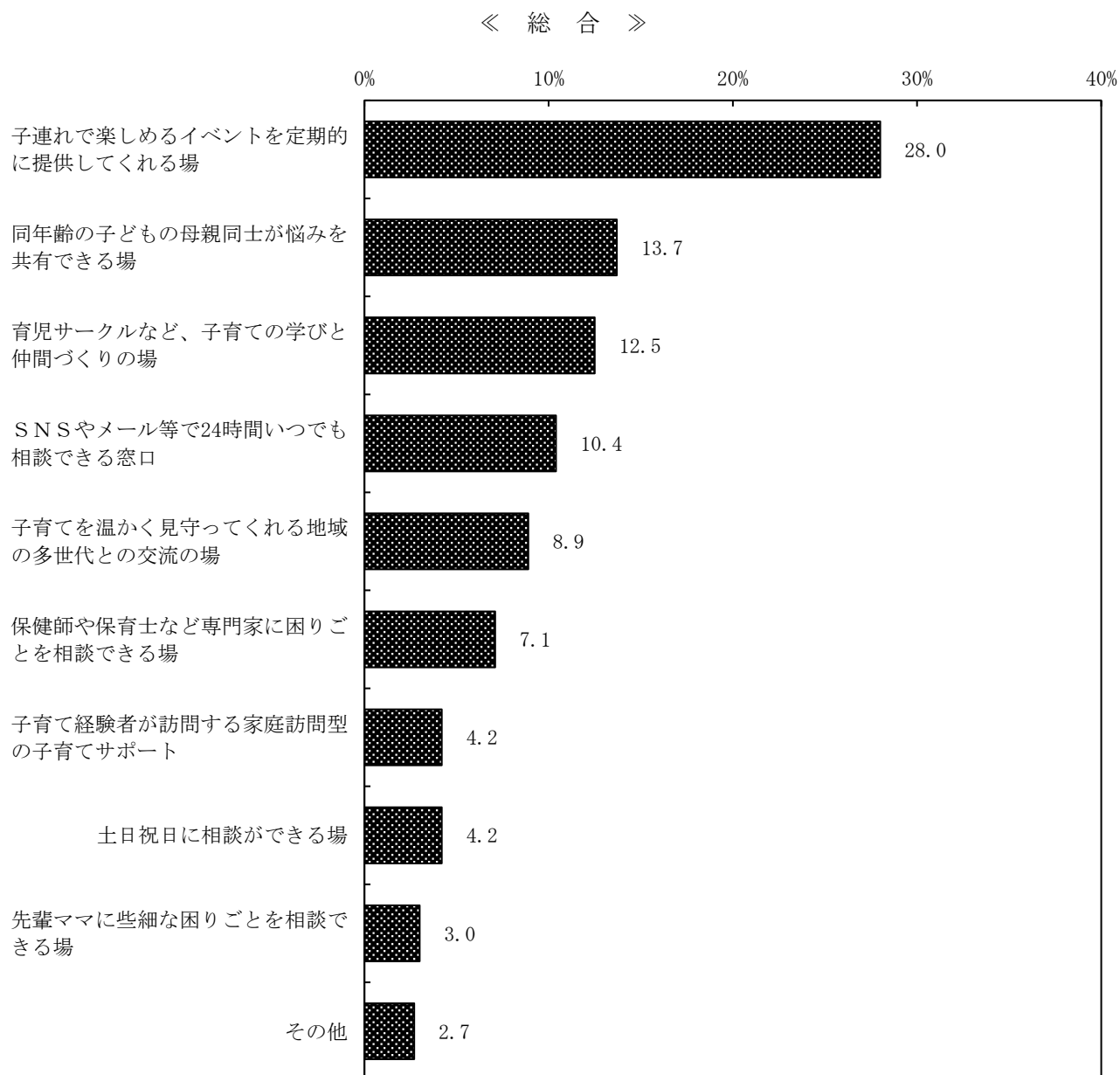


問14 現在、子育て中の方のみお答えください。

核家族化や地域のつながりの希薄化などにより相談相手がなく、子育てに孤立や孤独を感じる方が増えていますが、身近な地域にどのようなサポートの場があったら良いと思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

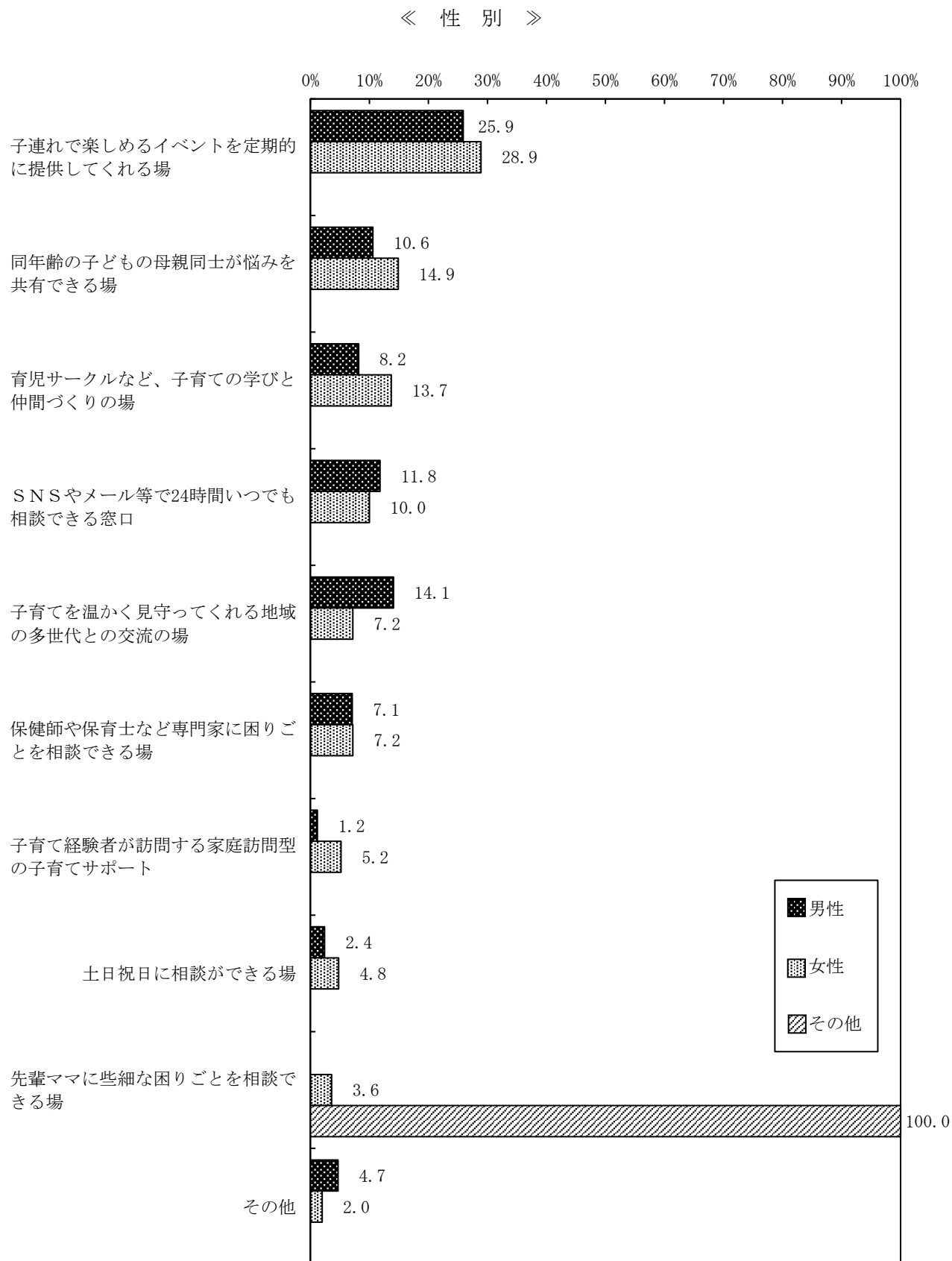
【1位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が 28.0%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」13.7%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」12.5%と続いている。



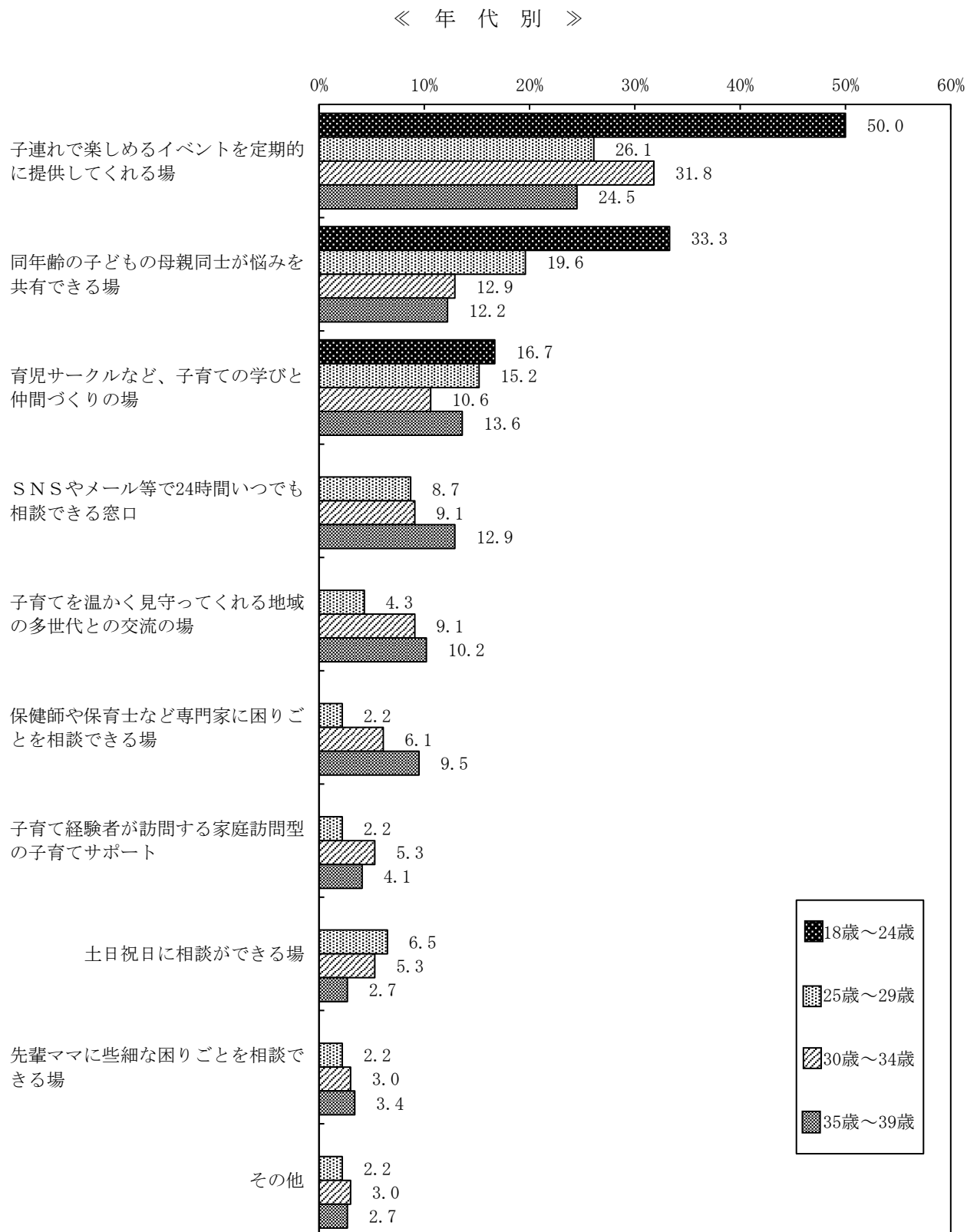
【性別】

男性 25.9%、女性 28.9%で男女とも「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高くなっている。



【年代別】

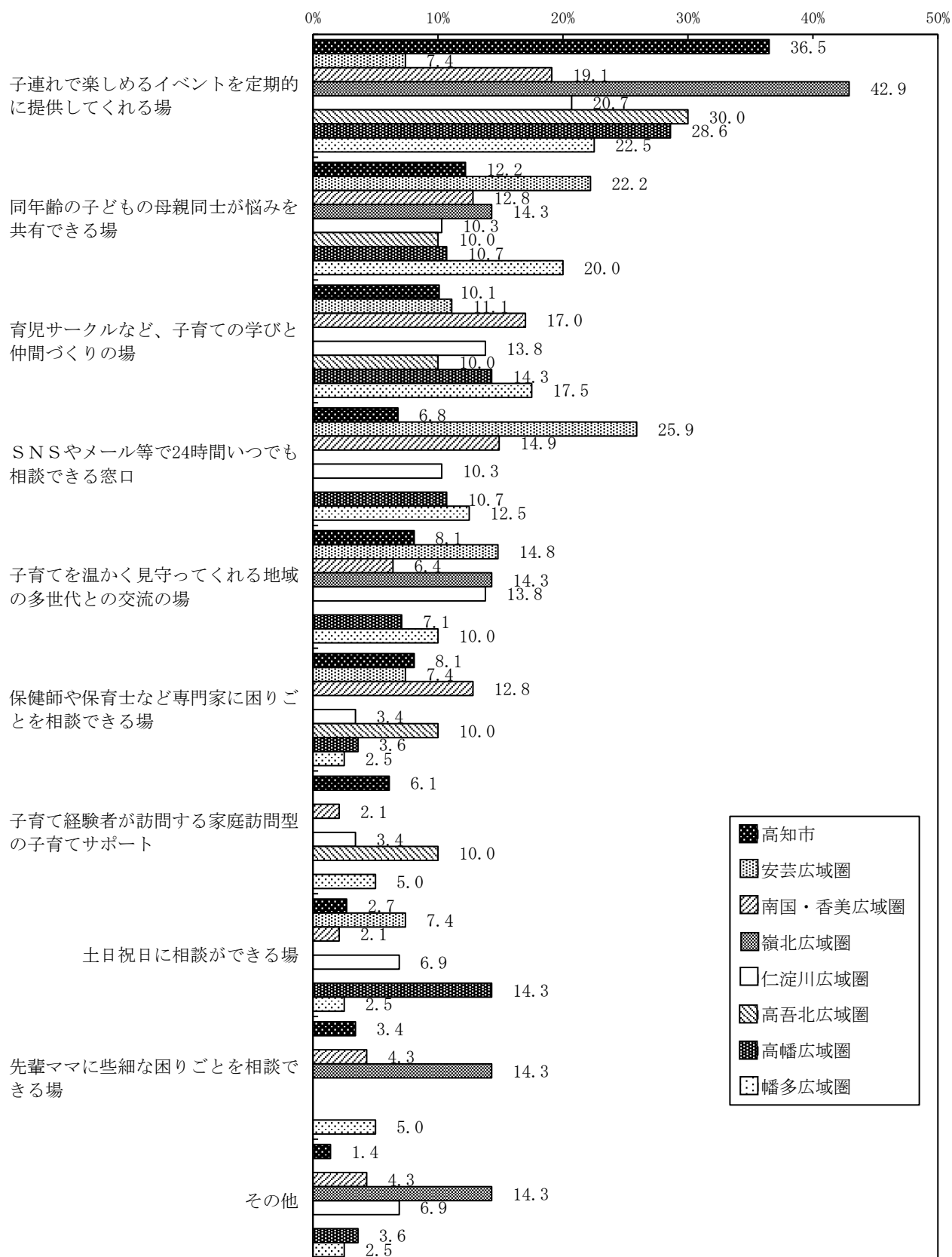
すべての年代で「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高くなっている。



【広域市町村圏別】

安芸広域圏では「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」が最も高く、その他すべての広域市町村圏で「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

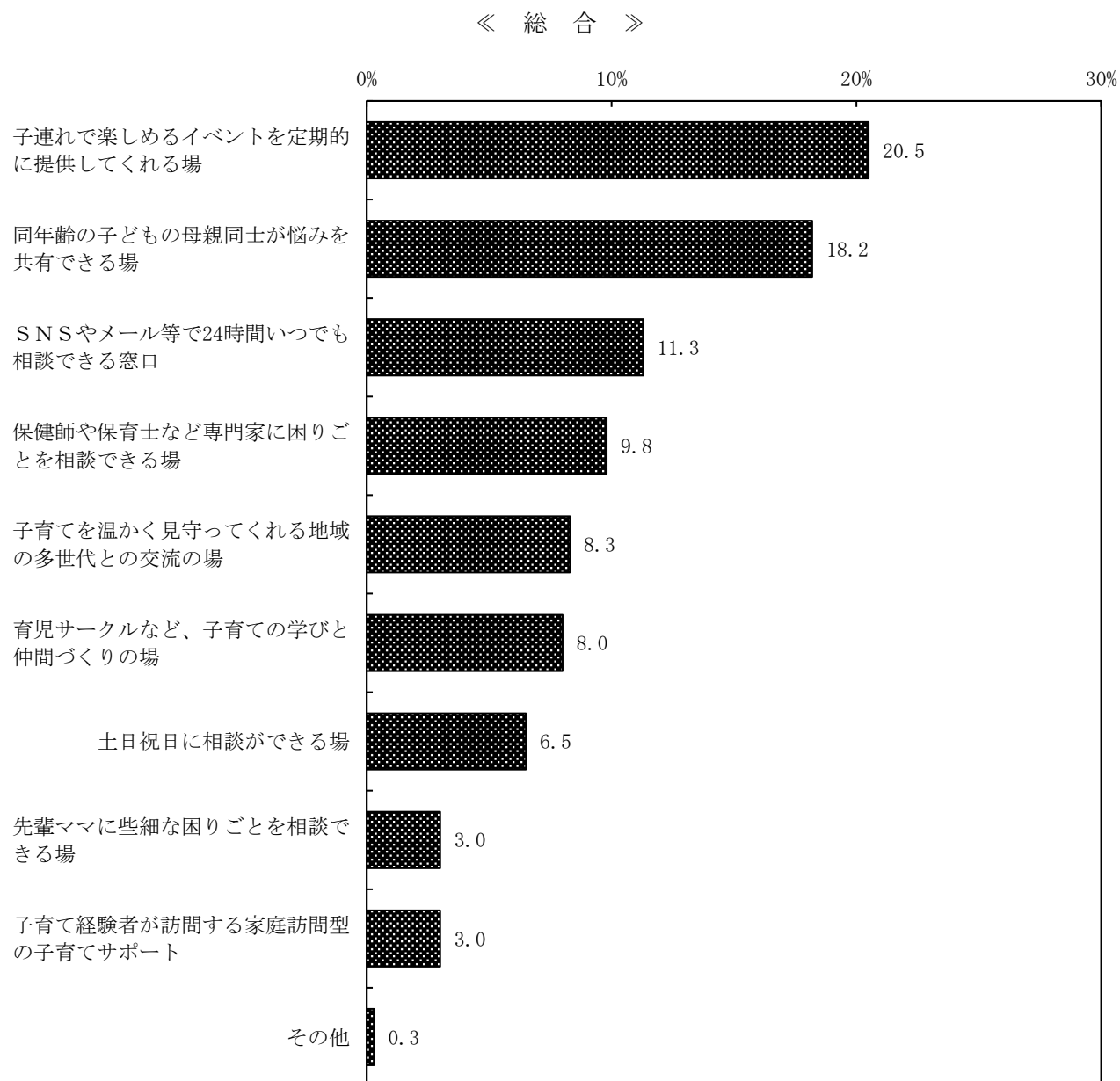


問14 現在、子育て中の方のみお答えください。

核家族化や地域のつながりの希薄化などにより相談相手がなく、子育てに孤立や孤独を感じる方が増えていますが、身近な地域にどのようなサポートの場があったら良いと思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

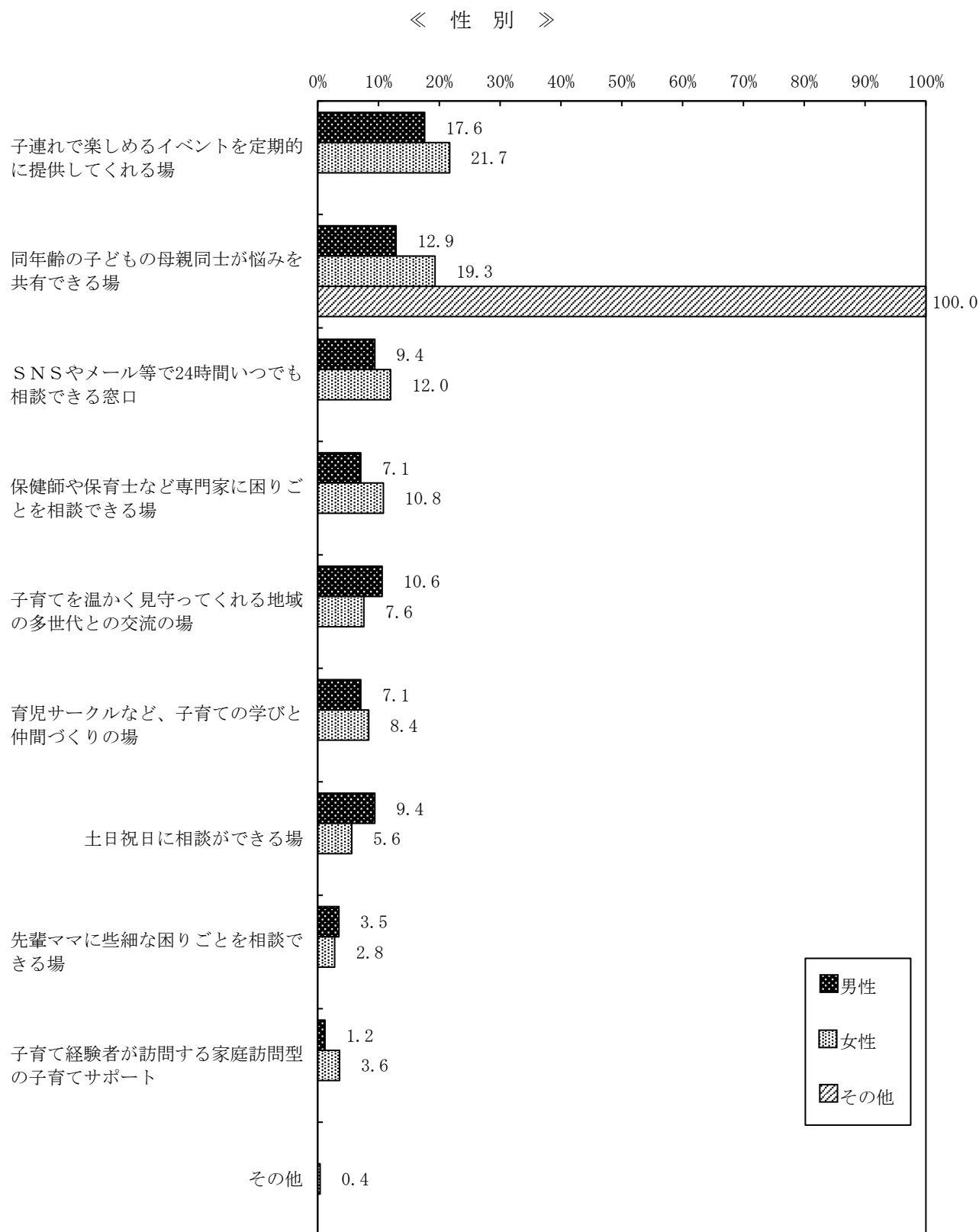
【2位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が 20.5%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」18.2%、「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」11.3%と続いている。



【性別】

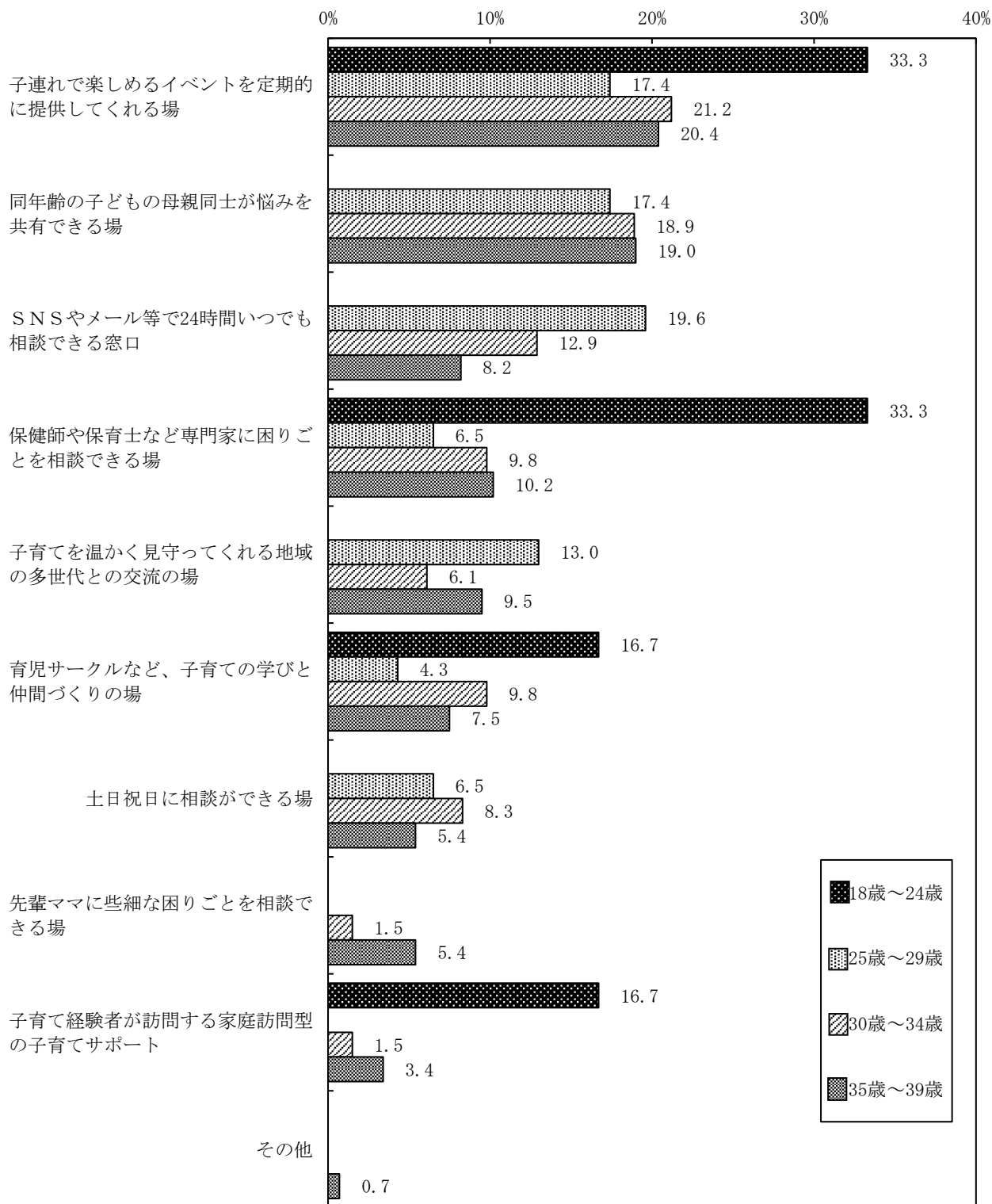
男性 17.6%、女性 21.7%で男女とも「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高くなっている。



【年代別】

18 歳～24 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳では「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高く、25 歳～29 歳「SNS やメール等で 24 時間いつでも相談できる窓口」が最も高くなっている。なお、18 歳～24 歳では同率で「保健師や保育士など専門家に困りごとを相談できる場」も最も高くなっている。

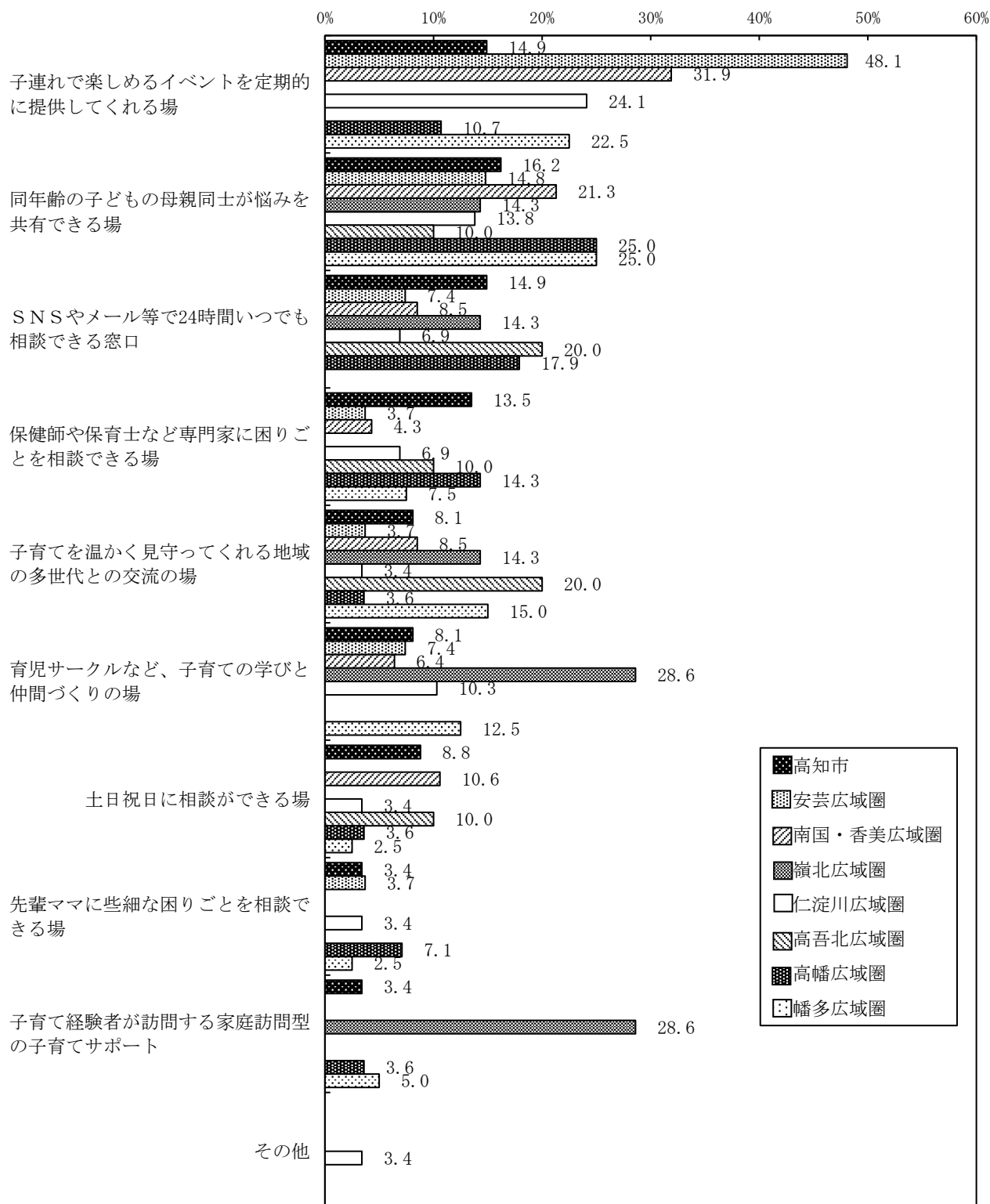
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、高幡広域圏、幡多広域圏では「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」が最も高く、安芸広域圏、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏では「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が、嶺北広域圏では同率で「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」と「子育て経験者が訪問する家庭訪問型の子育てサポート」が、高吾北広域圏では同率で「子育てを温かく見守ってくれる地域の多世代との交流の場」と「SNS やメール等で 24 時間いつでも相談できる窓口」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》



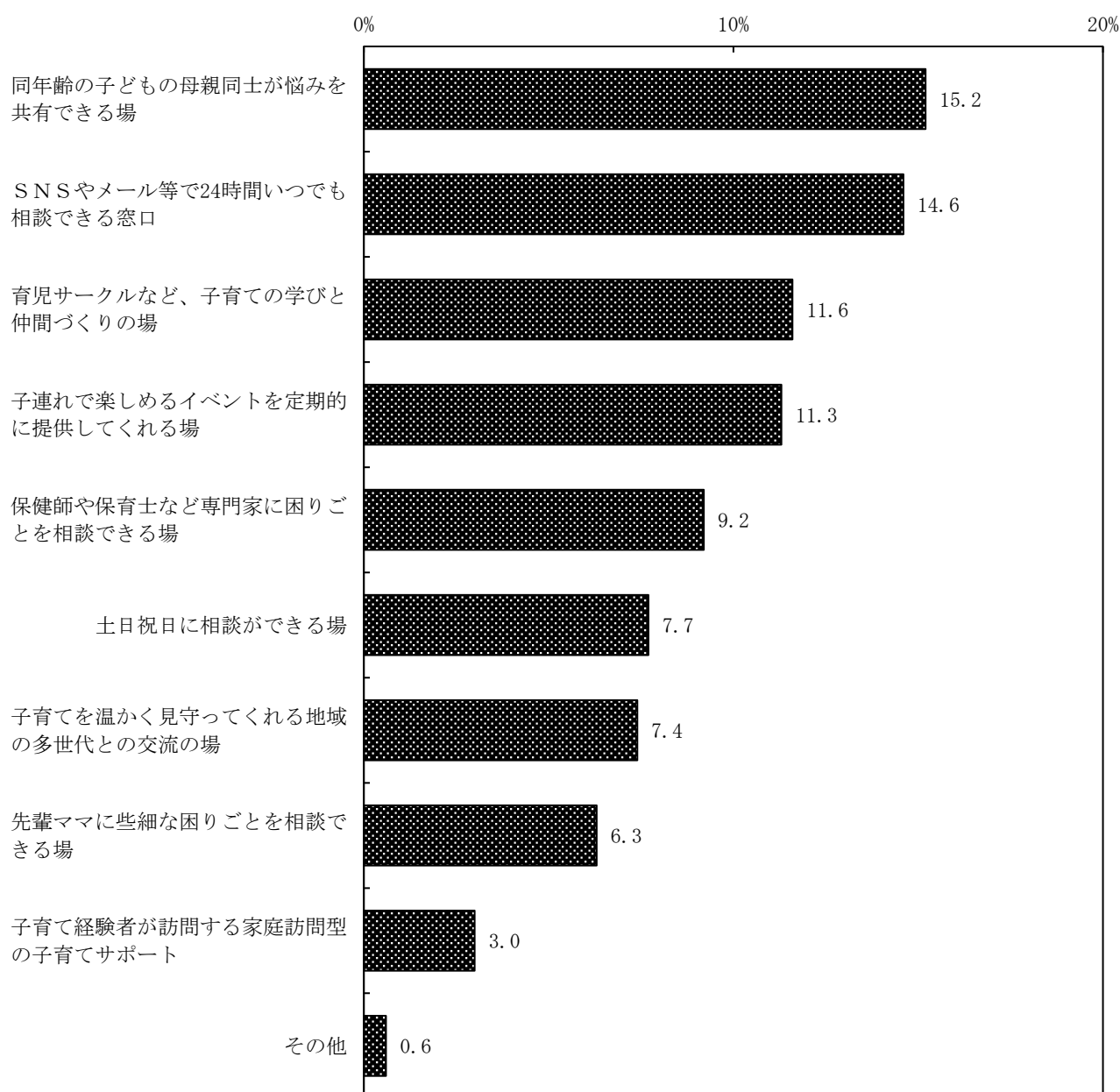
問14 現在、子育て中の方のみお答えください。

核家族化や地域のつながりの希薄化などにより相談相手がなく、子育てに孤立や孤独を感じる方が増えていますが、身近な地域にどのようなサポートの場があったら良いと思いますか。あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

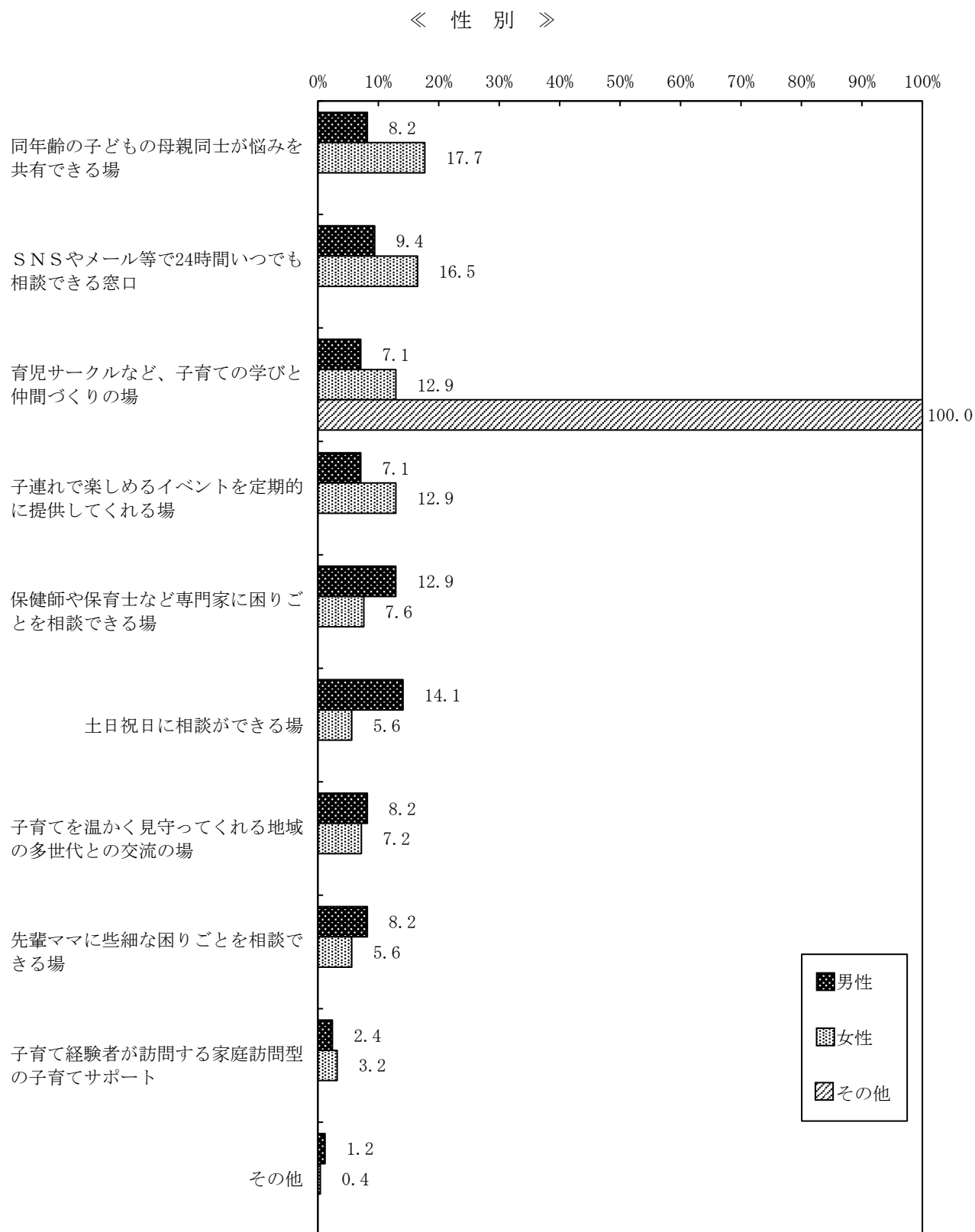
「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」が 15.2%と最も高く、次いで「SNSやメール等で 24 時間いつでも相談できる窓口」14.6%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」11.6%と続いている。

《 総 合 》



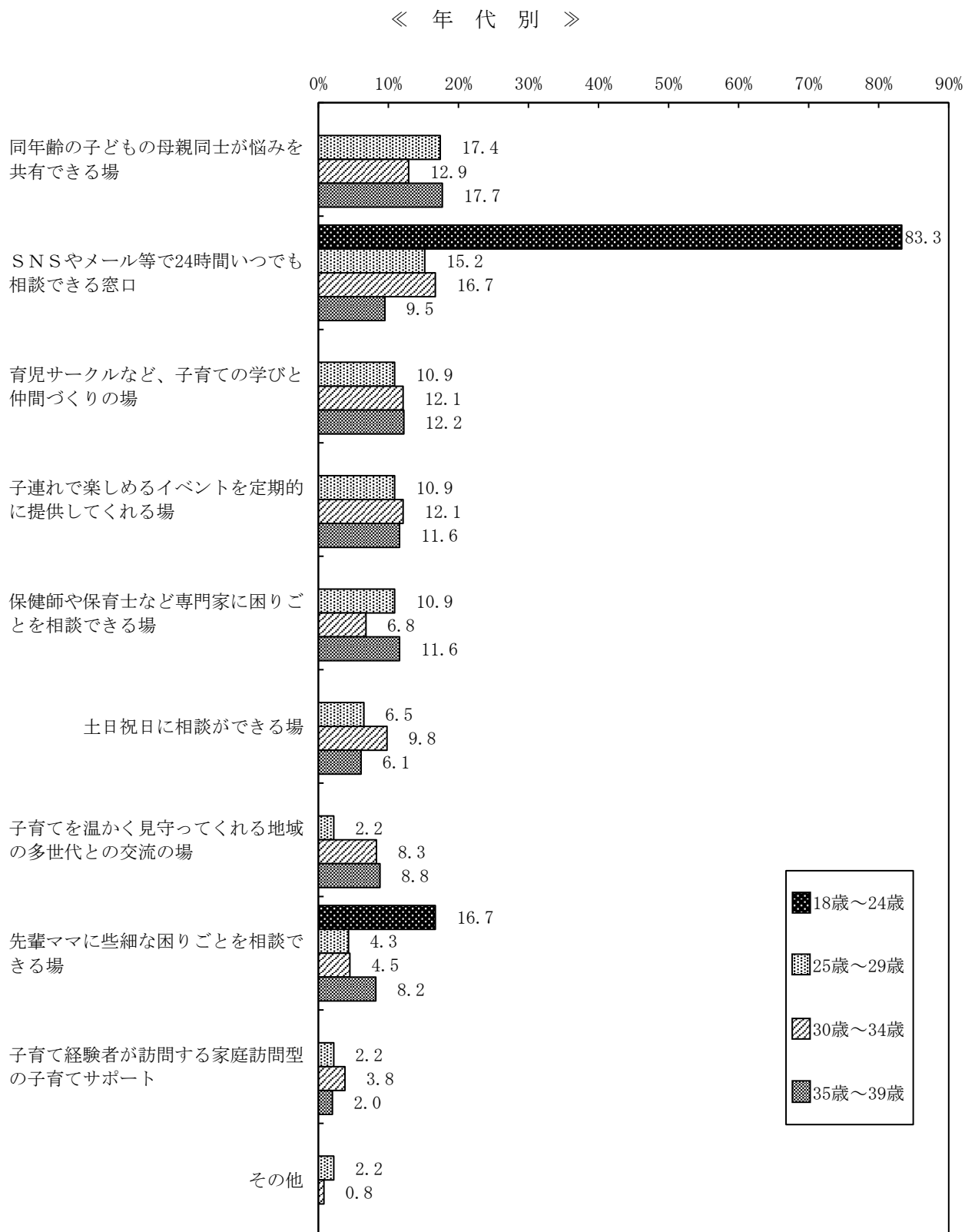
【性別】

男性では「土日祝日に相談ができる場」14.1%が、女性では「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」17.7%が最も高くなっている。



【年代別】

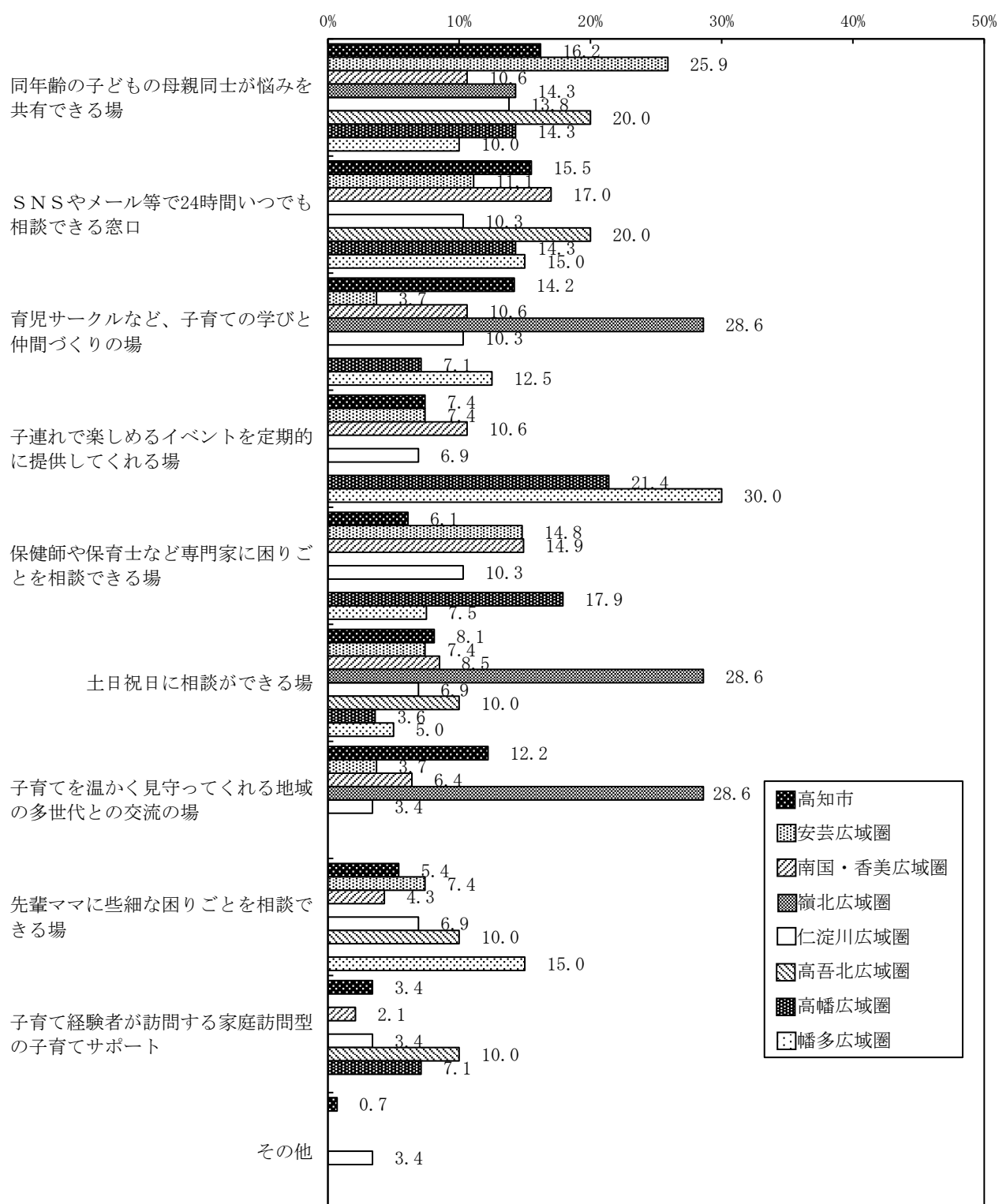
18 歳～24 歳、30 歳～34 歳では「SNSやメール等で 24 時間いつでも相談できる窓口」が最も高く、25 歳～29 歳、35 歳～39 歳では「同年齢の子ども之母親同士が悩みを共有できる場」が最も高くなっている。



【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏、仁淀川広域圏では「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」が最も高く、南国・香美広域圏では「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」が、嶺北広域圏では同率で「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」と「子育てを温かく見守ってくれる地域の多世代との交流の場」と「土日祝日に相談ができる場」が、高吾北広域圏では同率で「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」と「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」が、高幡広域圏、幡多広域圏では「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が最も高くなっている。

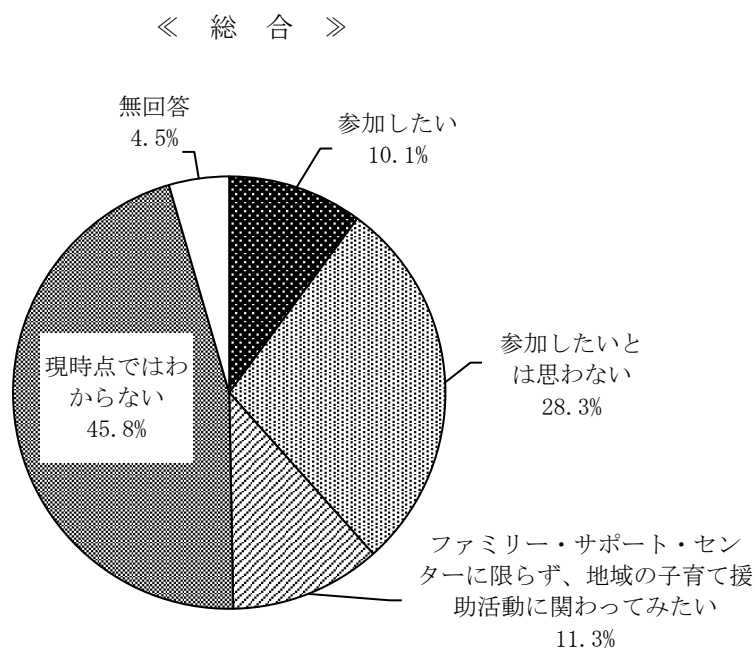
《広域市町村圏別》



問15 現在、子育て中の方のみお答えください。

あなたは、ファミリー・サポート・センター事業について、将来的に提供会員として参加したいと思いますか。（１つだけ○印）

「現時点ではわからない」が 45.8%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」28.3%、「ファミリー・サポート・センターに限らず、地域の子育て援助活動に関わってみたい」11.3%と続いている。



【性別】

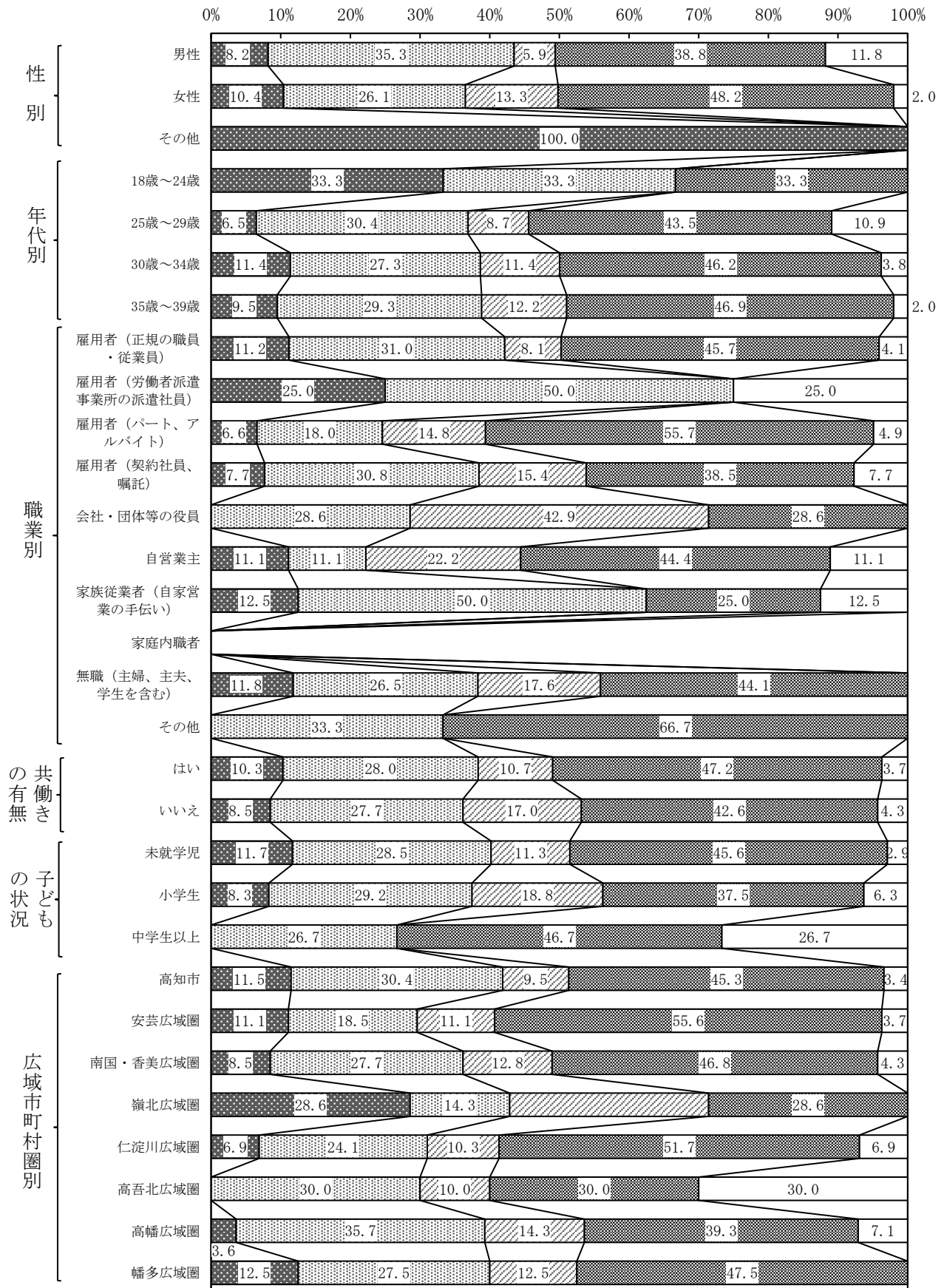
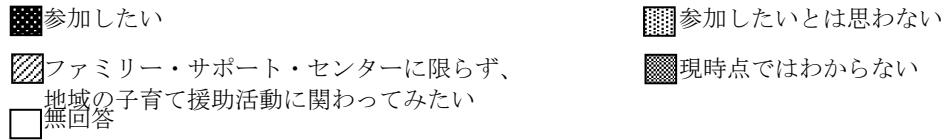
男女とも「現時点ではわからない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「現時点ではわからない」が最も高く、18 歳～24 歳では同率で「参加したい」と「参加したいとは思わない」も最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「現時点ではわからない」が最も高くなっている。

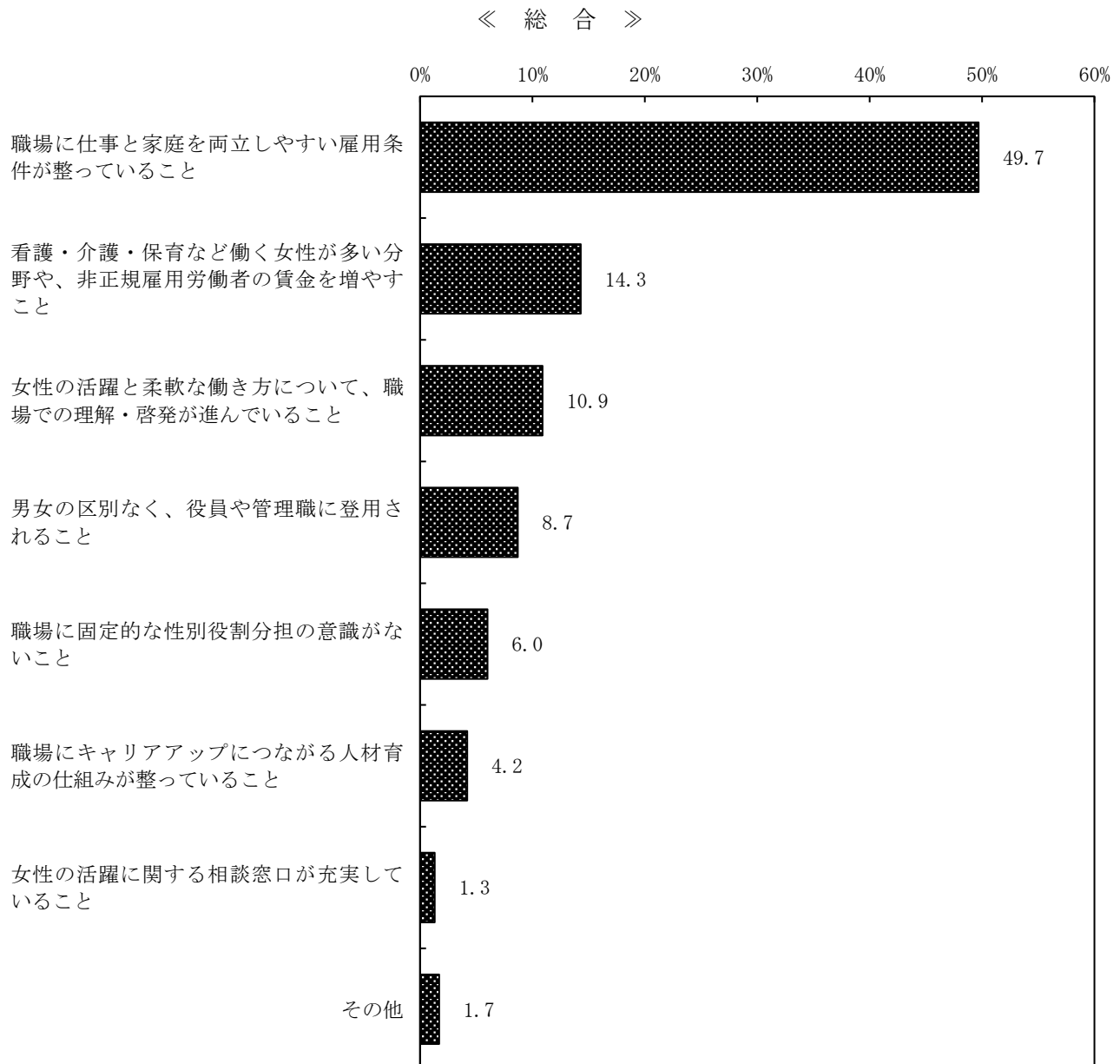


【5. 女性の活躍とワークライフバランスについて】

問16 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【1位】

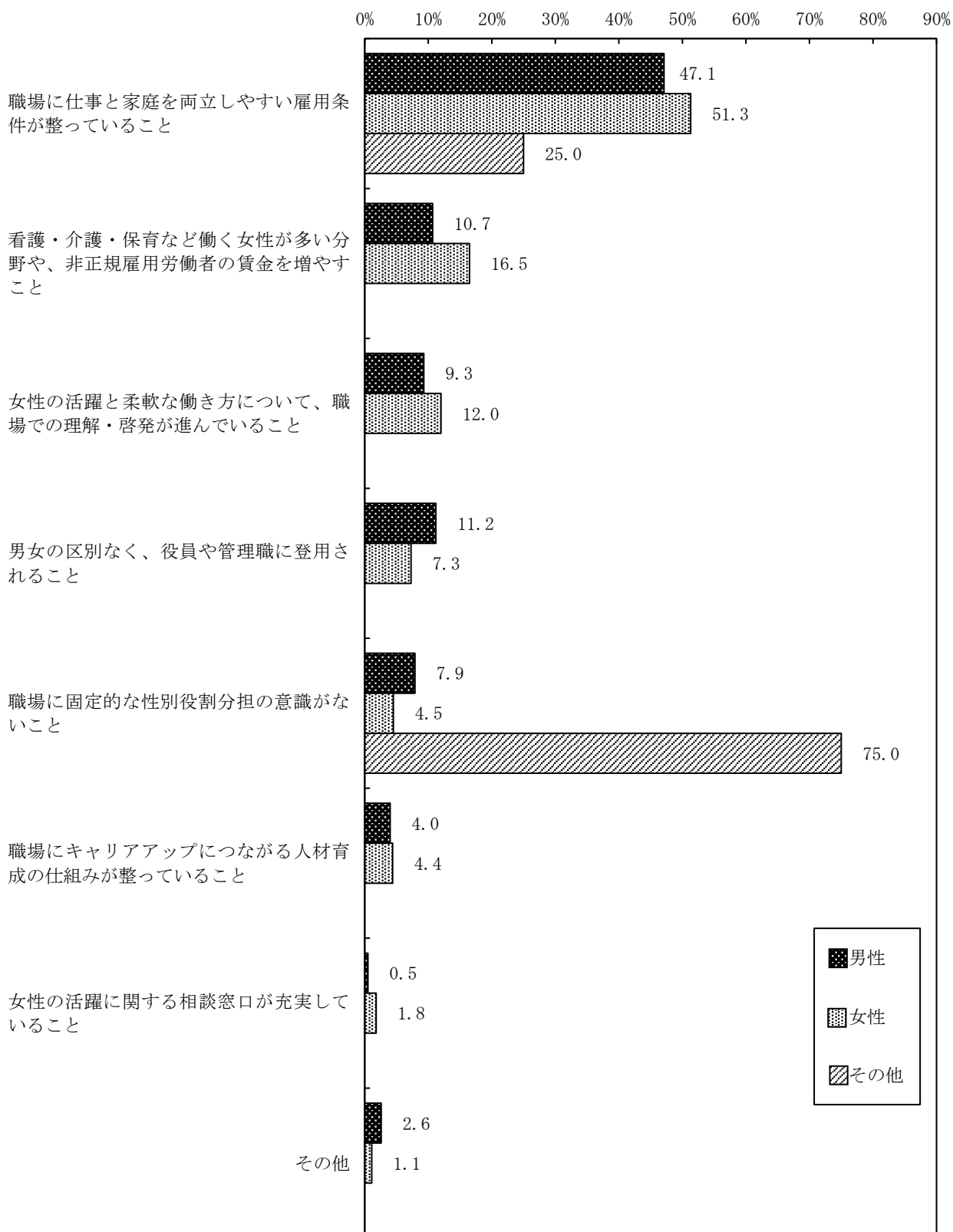
「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が49.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.3%、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」10.9%と続いている。



【性別】

男性 47.1%、女性 51.3%で男女とも「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

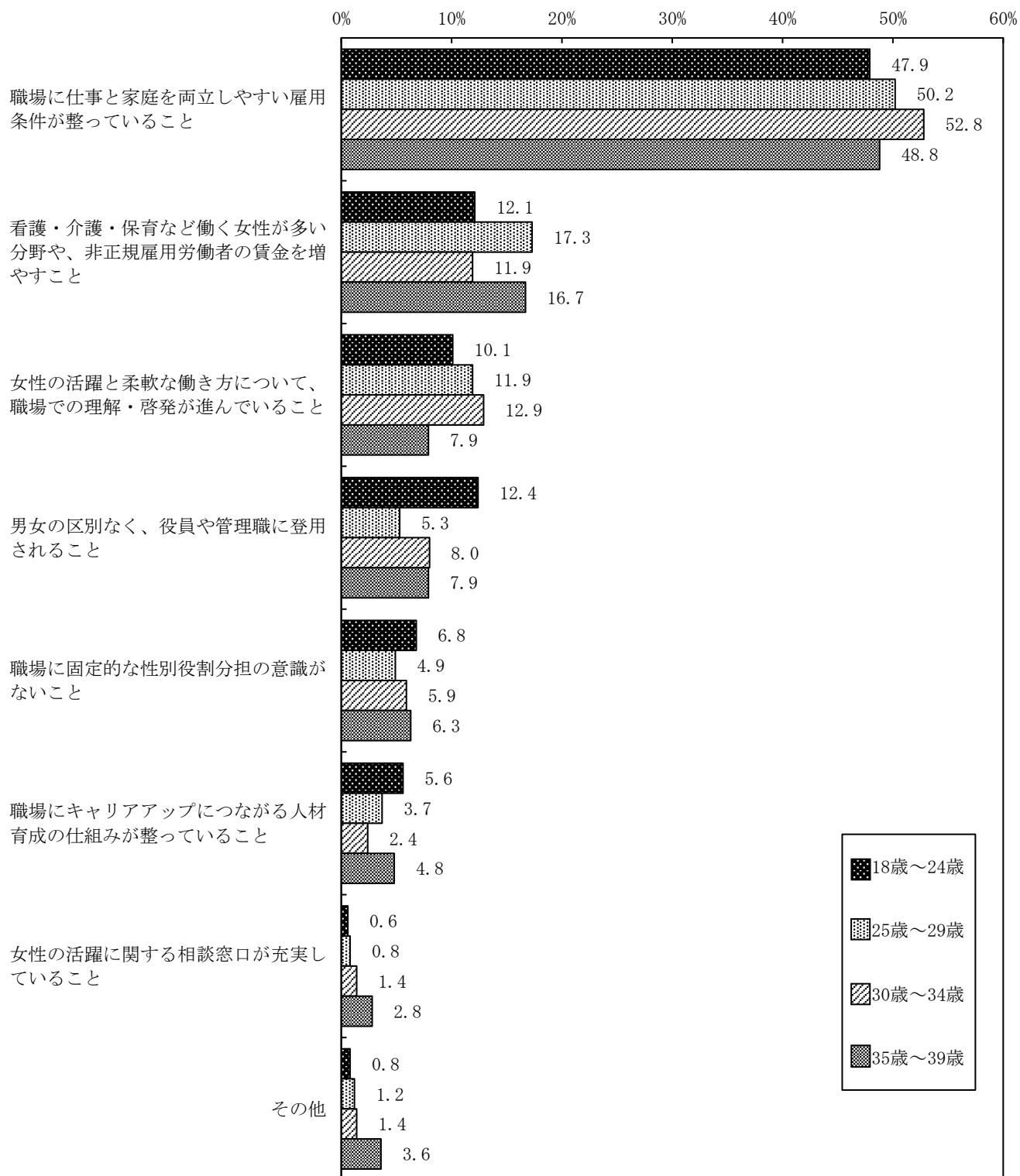
≪ 性別 ≫



【年代別】

すべての年代で「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

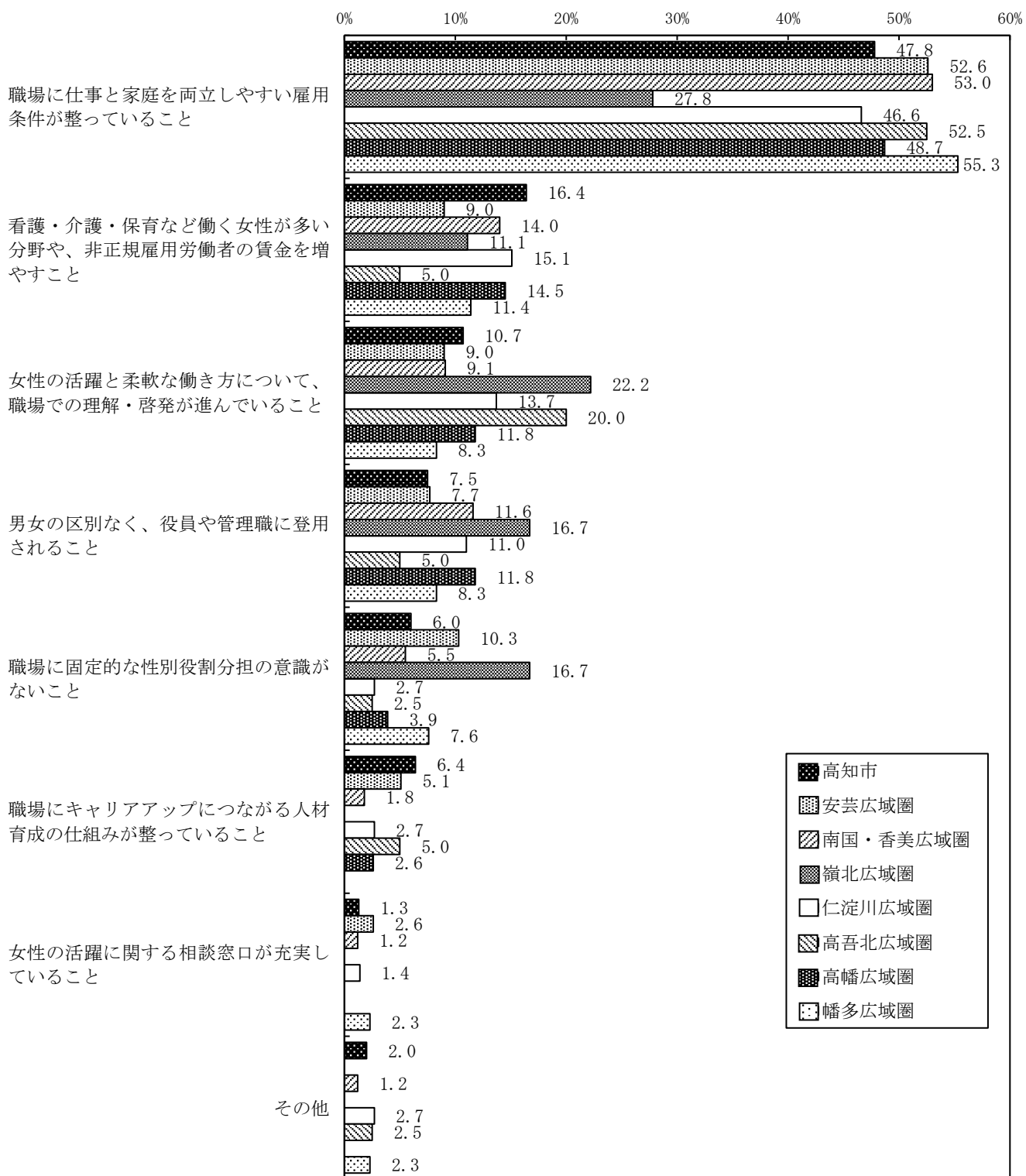
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

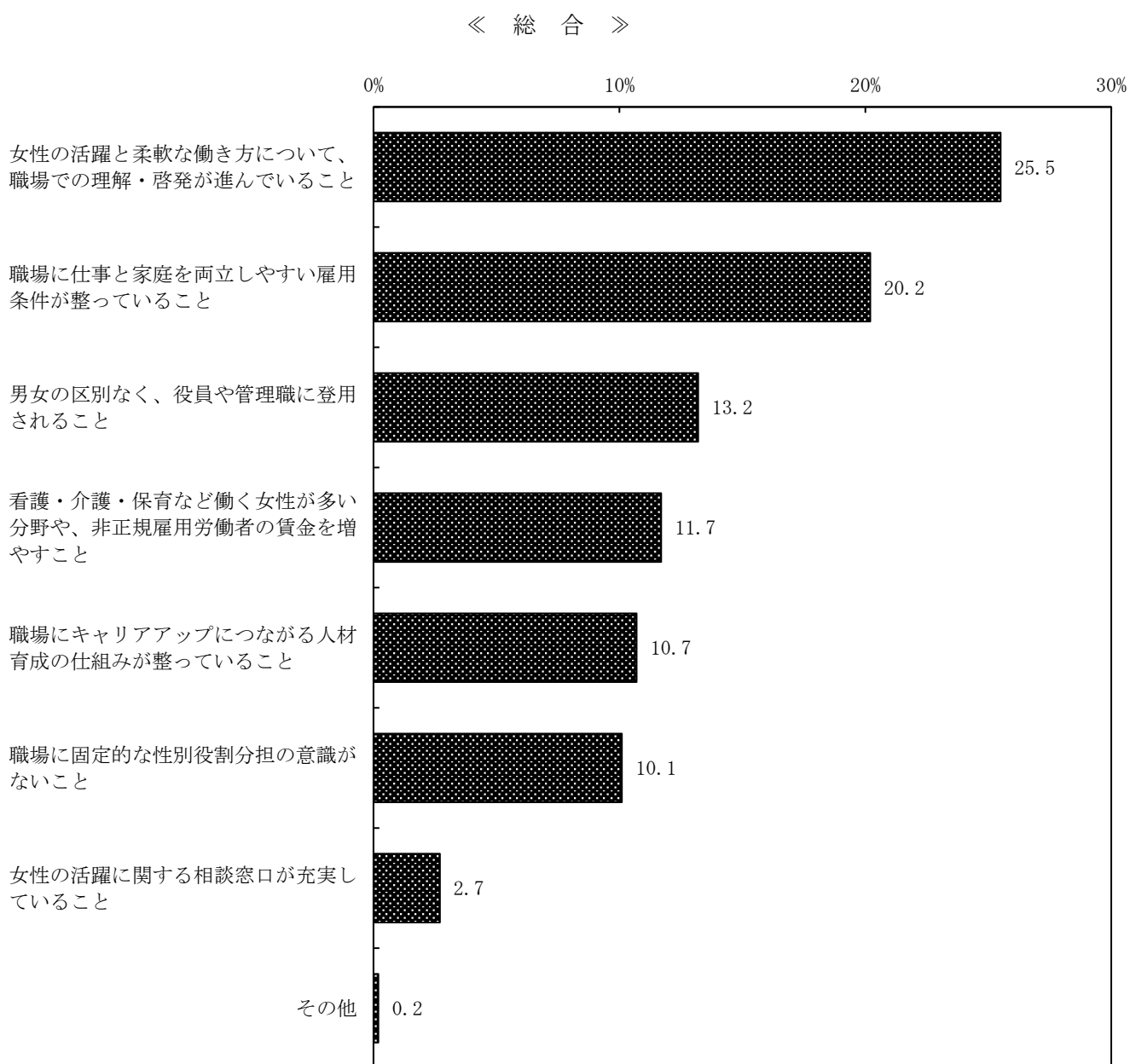
《 広域市町村圏別 》



問16 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

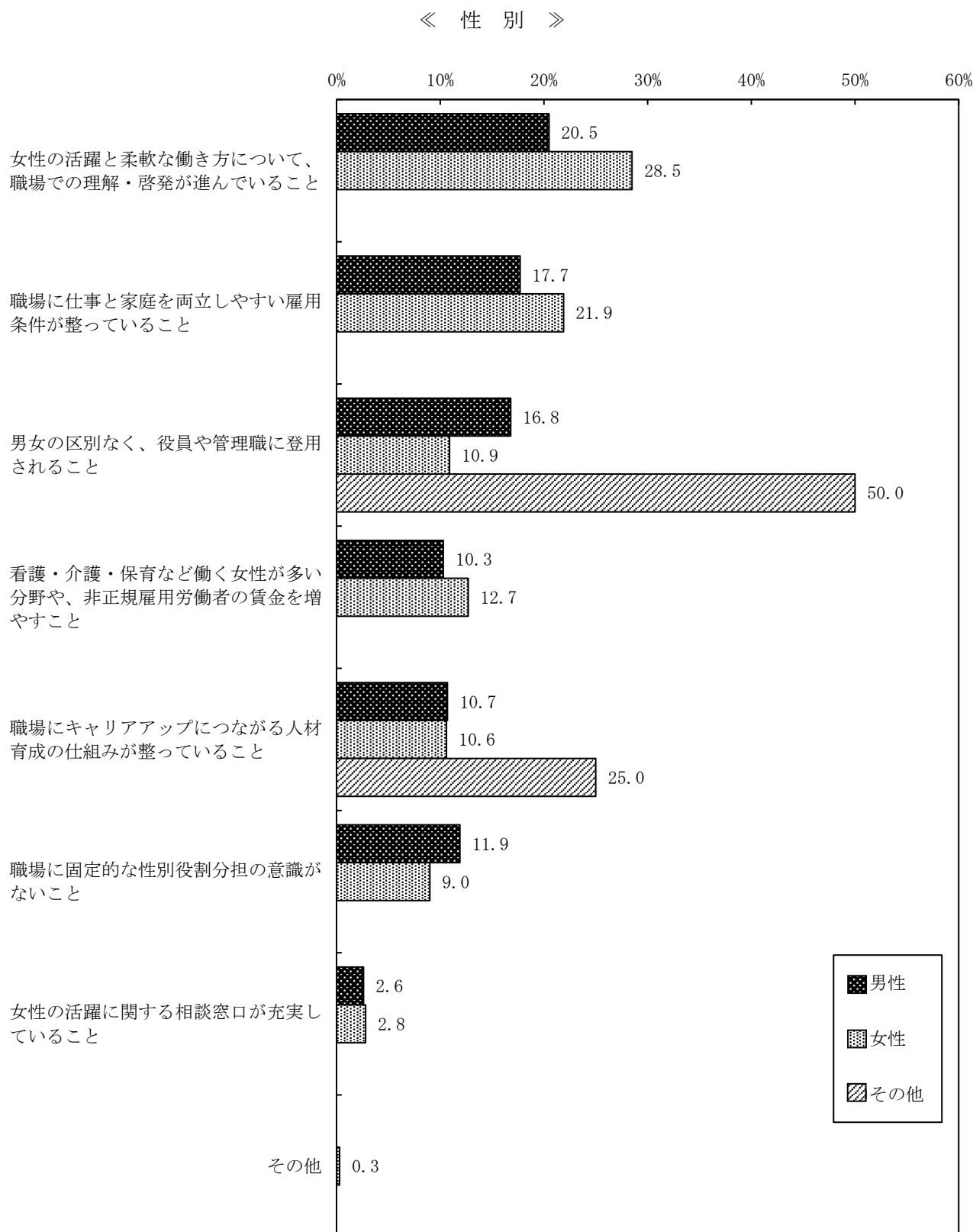
【2位】

「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が 25.5%と最も高く、次いで「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」20.2%、「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」13.2%と続いている。



【性別】

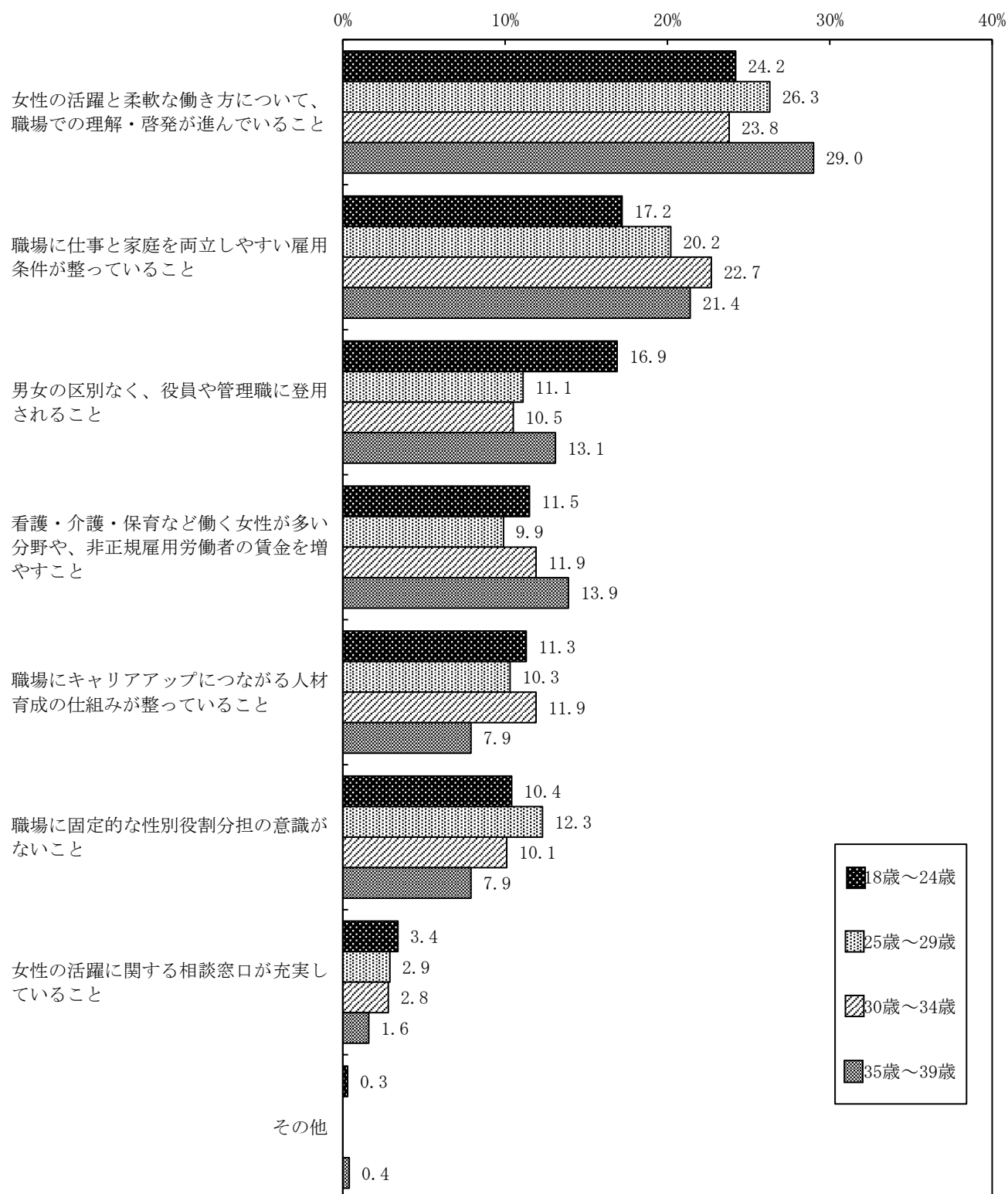
男性 20.5%、女性 28.5%で男女とも「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が最も高くなっている。

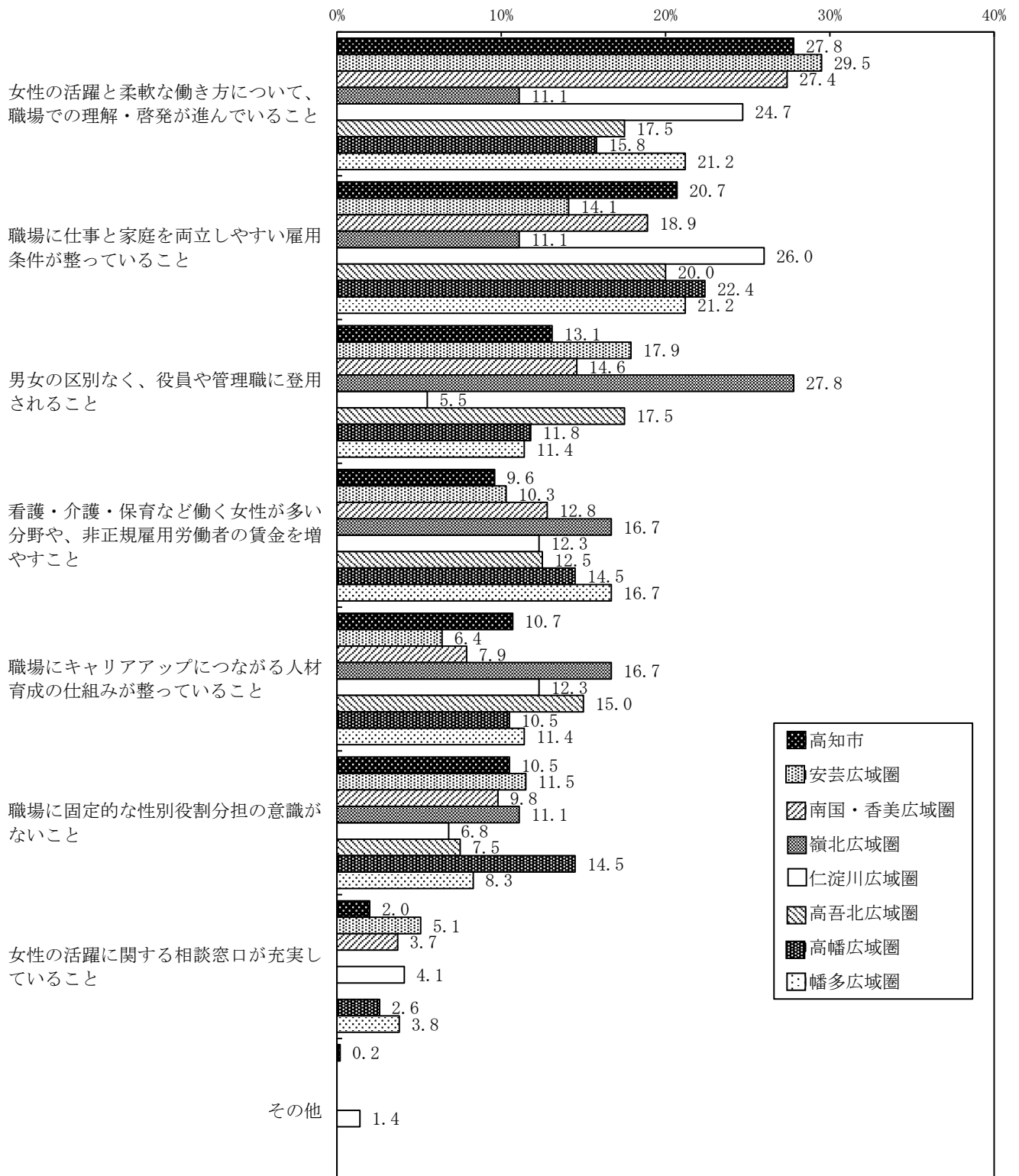
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏では「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が最も高く、嶺北広域圏では「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」が、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏では「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が、幡多広域圏では同率で「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」と「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

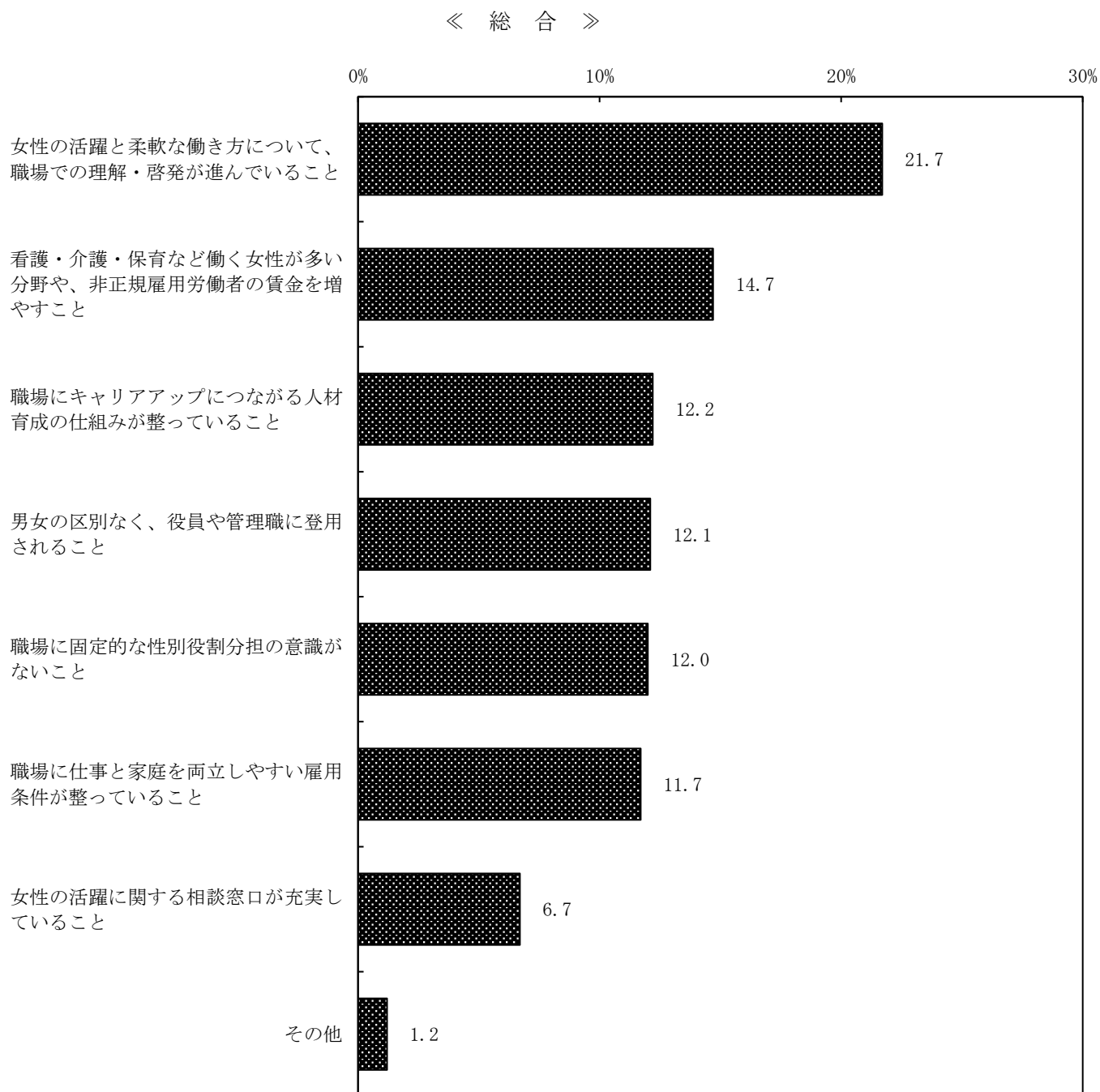
《広域市町村圏別》



問16 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【3位】

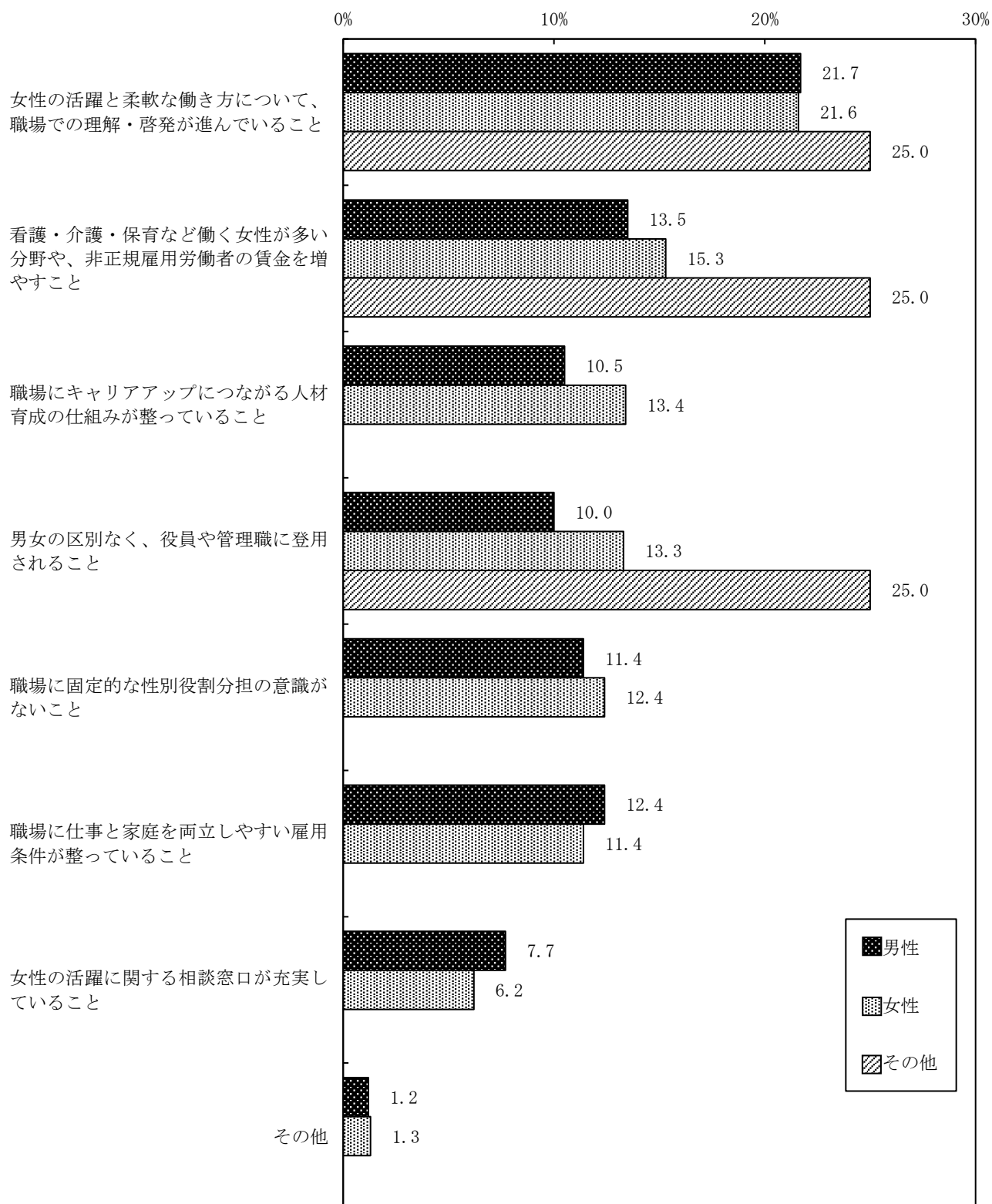
「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が 21.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.7%、「職場にキャリアアップにつながる人材育成の仕組みが整っていること」12.2%と続いている。



【性別】

男性 21.7%、女性 21.6%で男女とも「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が最も高くなっている。

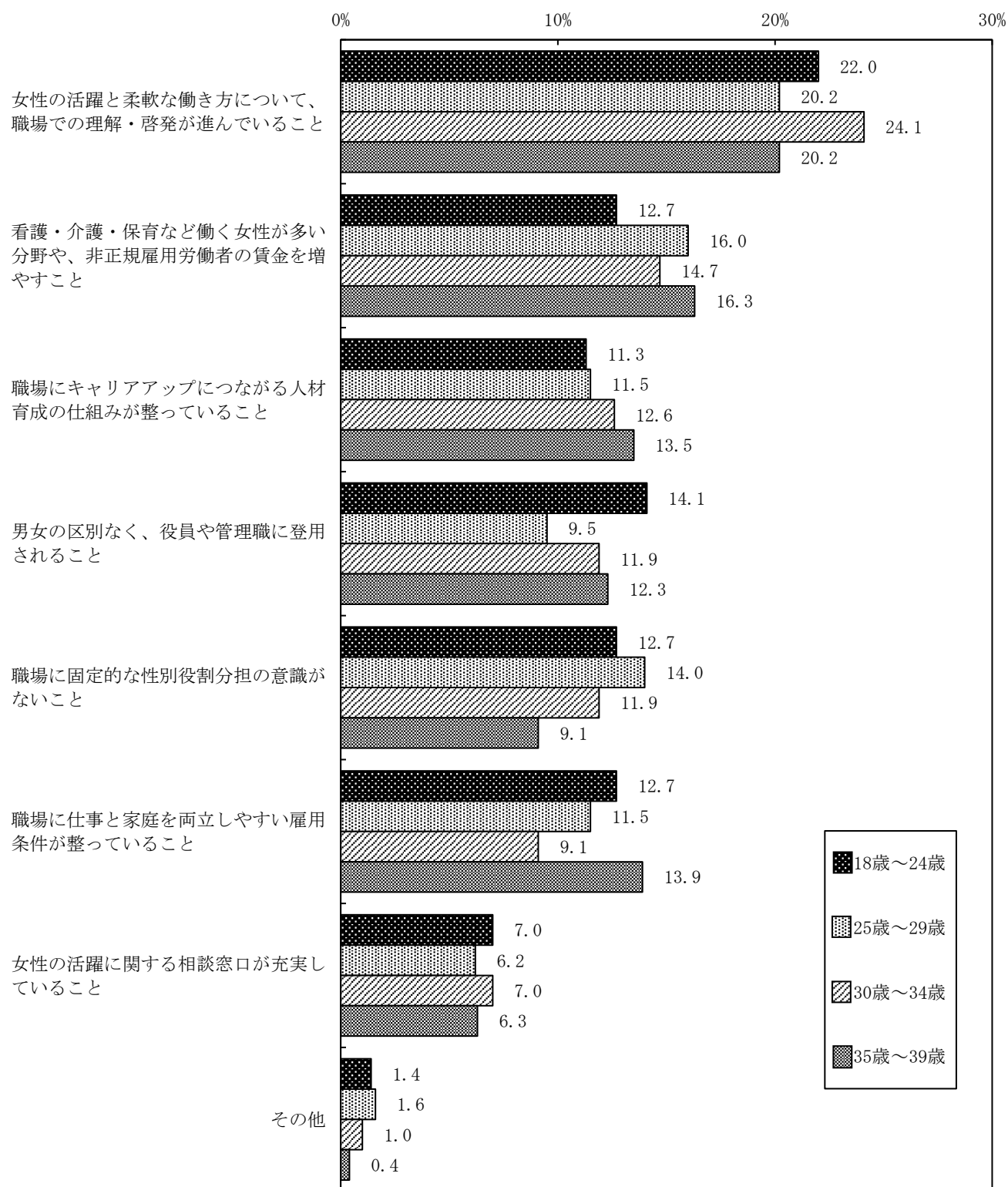
≪ 性別 ≫



【年代別】

すべての年代で「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が最も高くなっている。

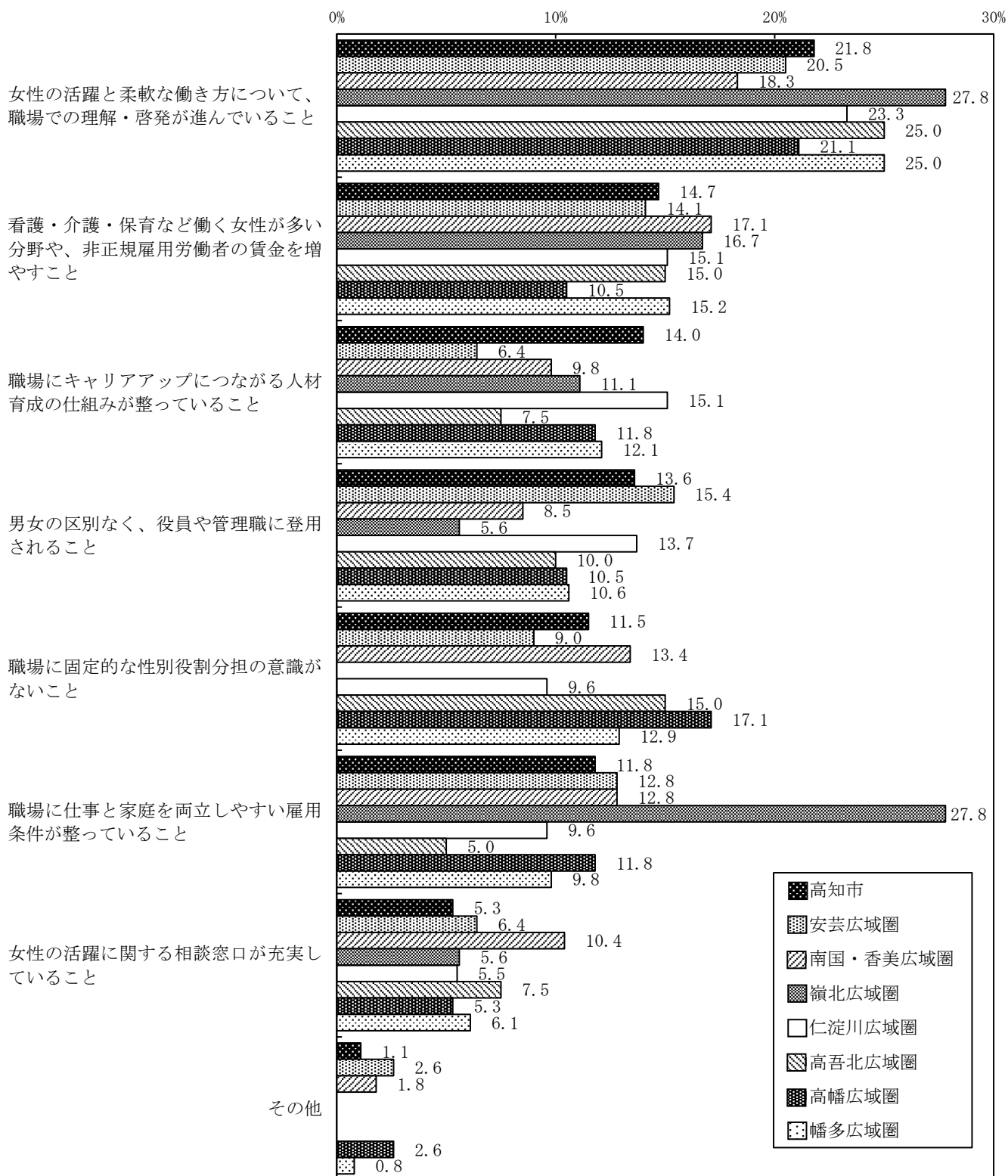
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が、また嶺北広域圏では、同率で「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

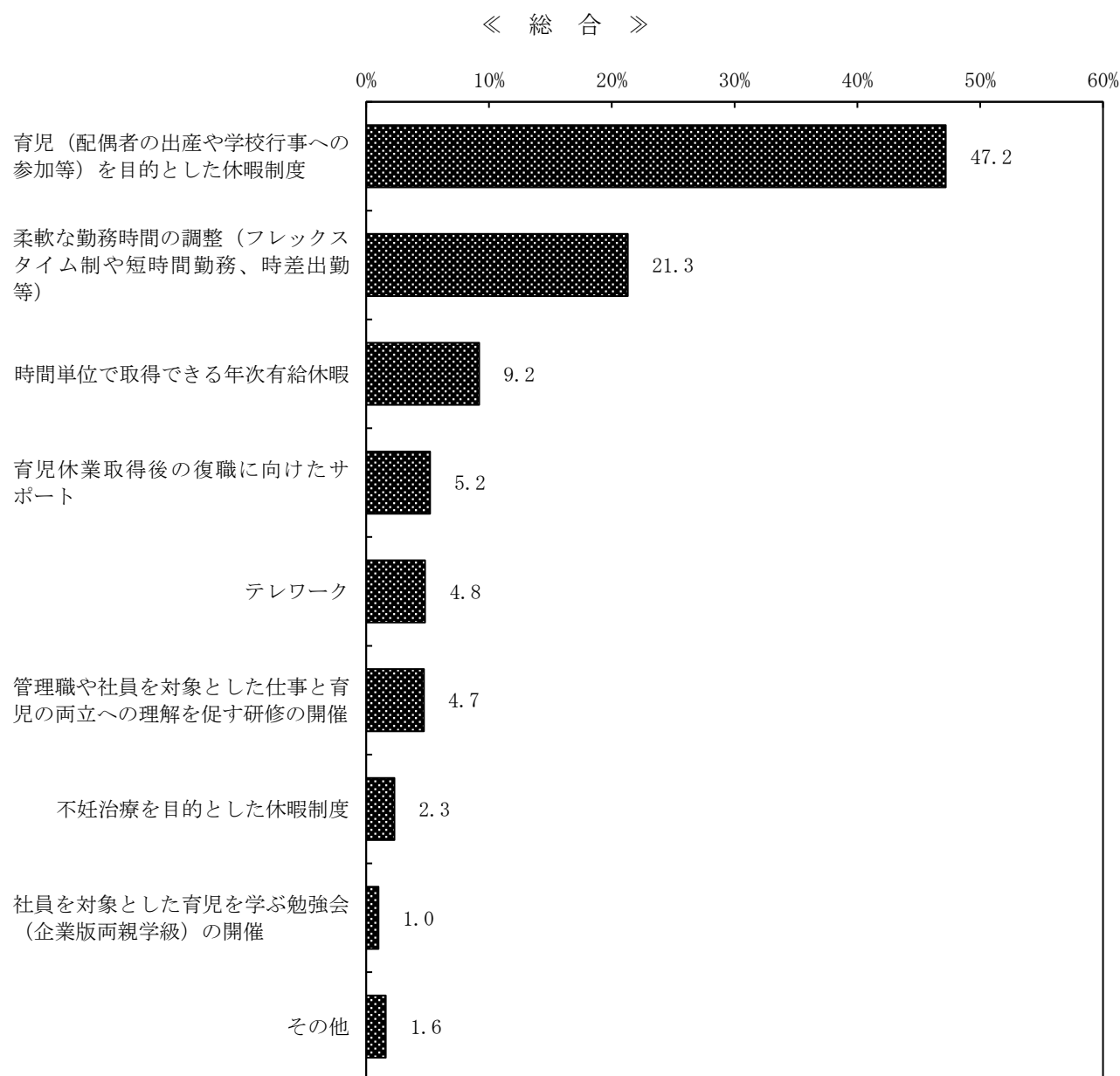
《広域市町村圏別》



問17 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

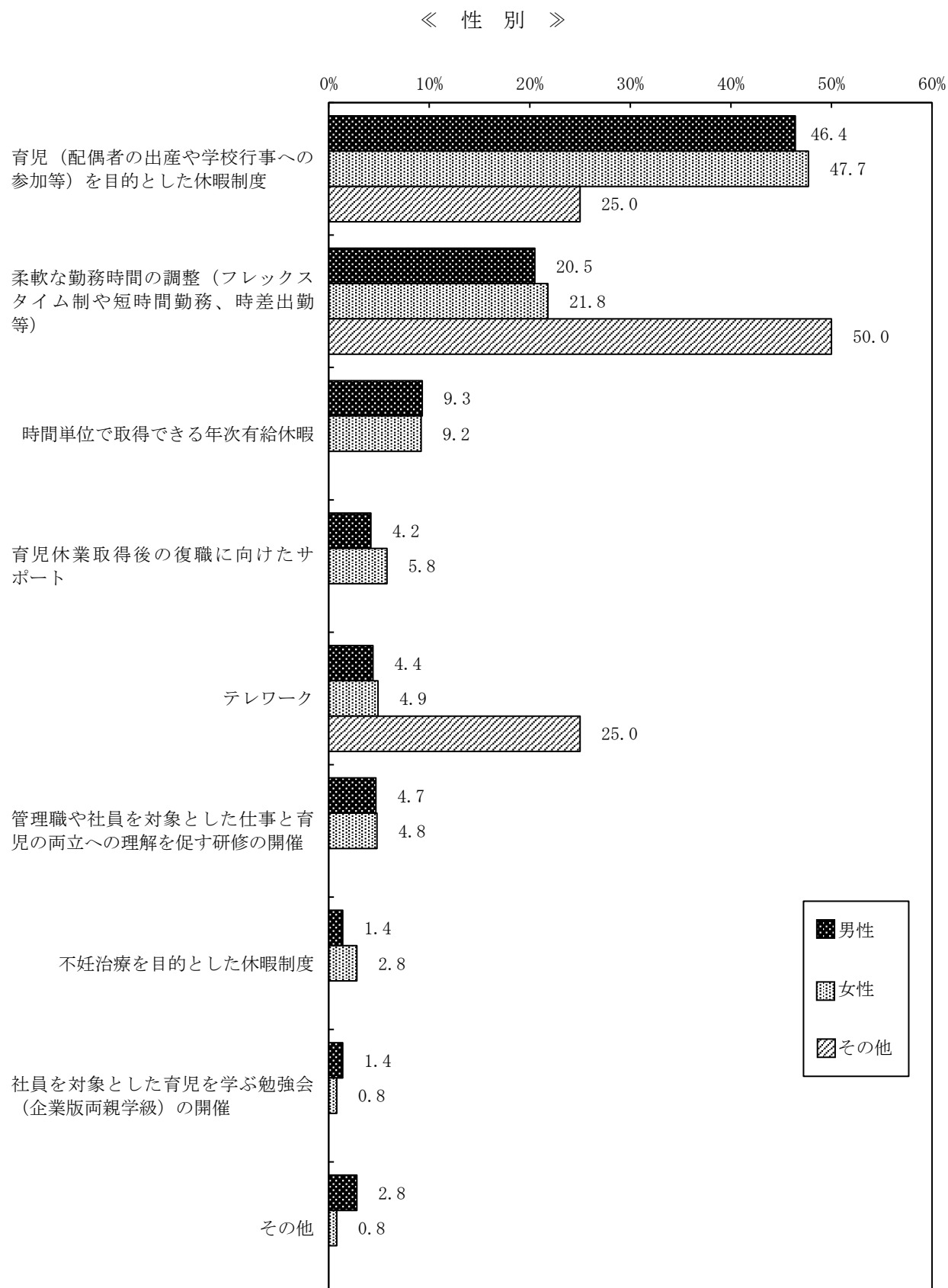
【1位】

「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が47.2%と最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」21.3%、「時間単位で取得できる年次有給休暇」9.2%と続いている。



【性別】

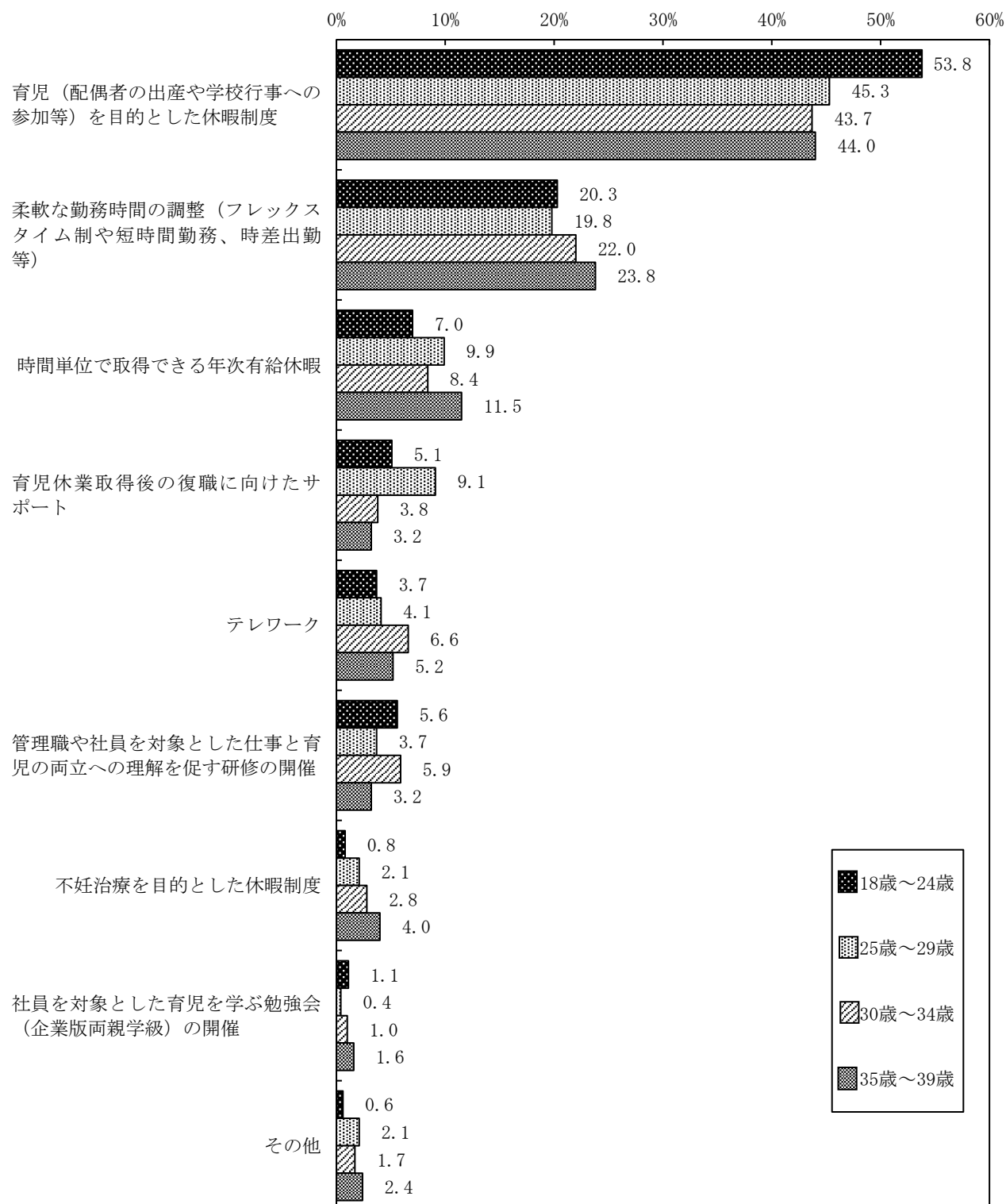
男性 46.4%、女性 47.7%で男女とも「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。

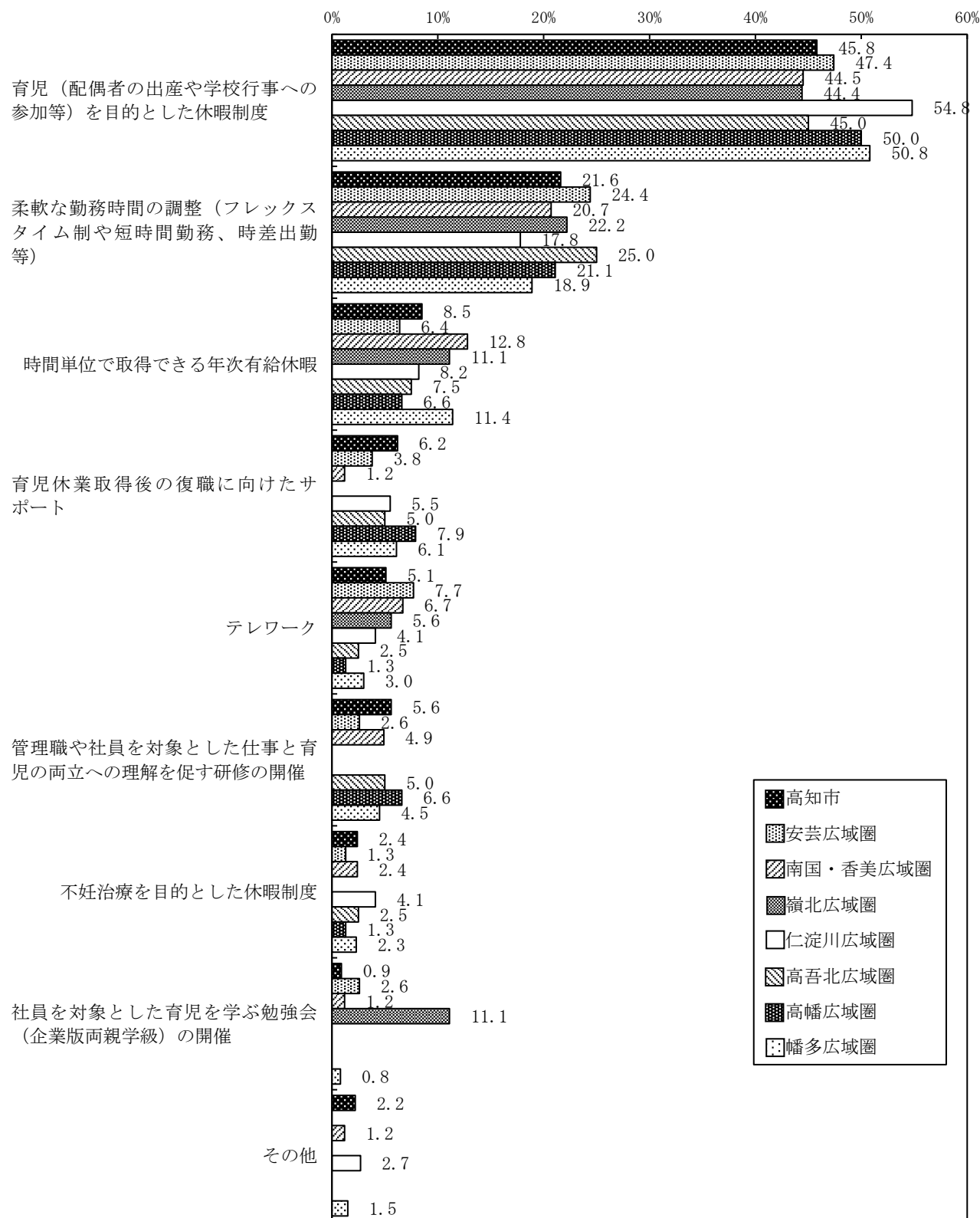
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

すべての広域市町村圏で「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。

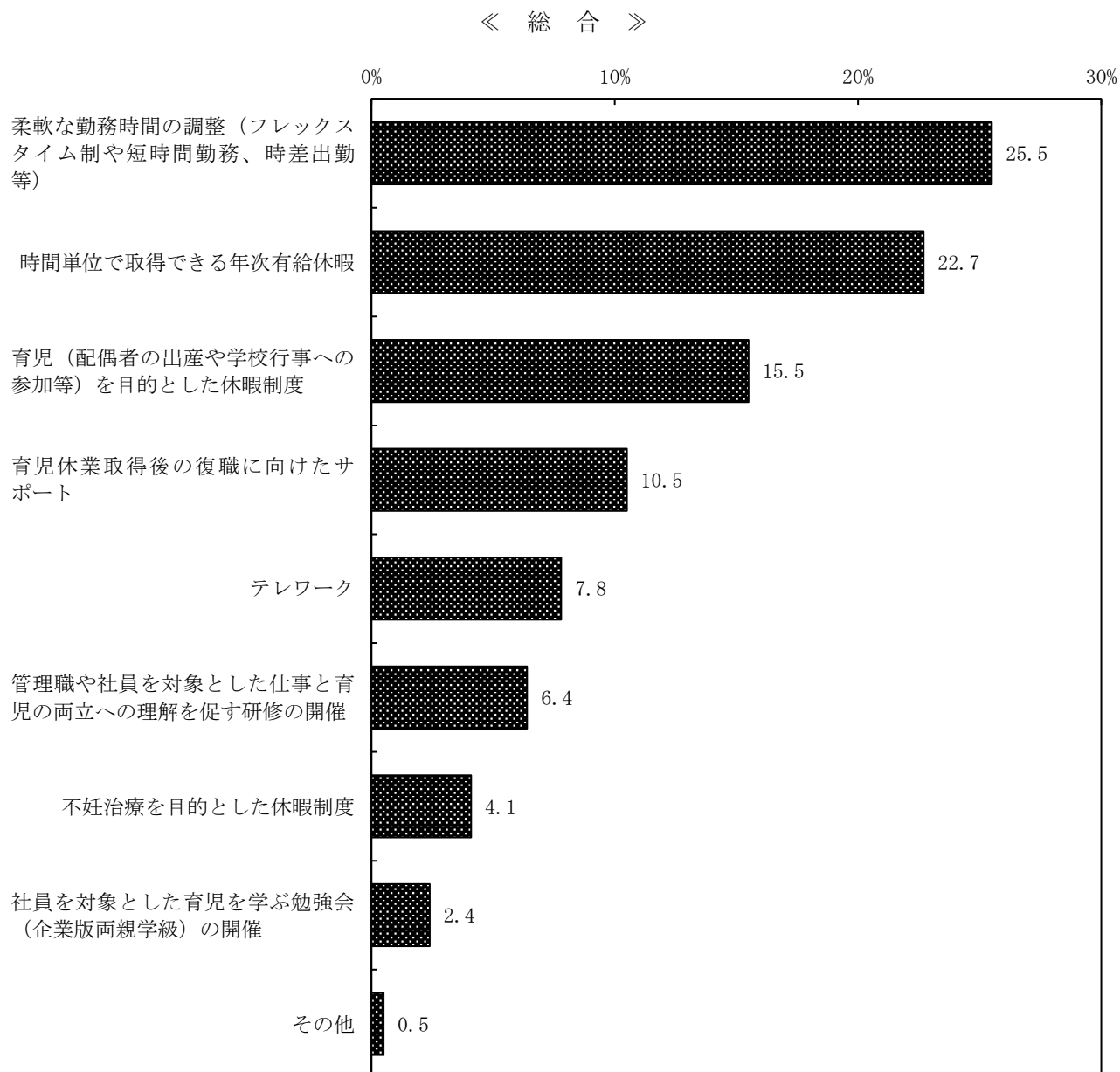
《広域市町村圏別》



問17 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

【2位】

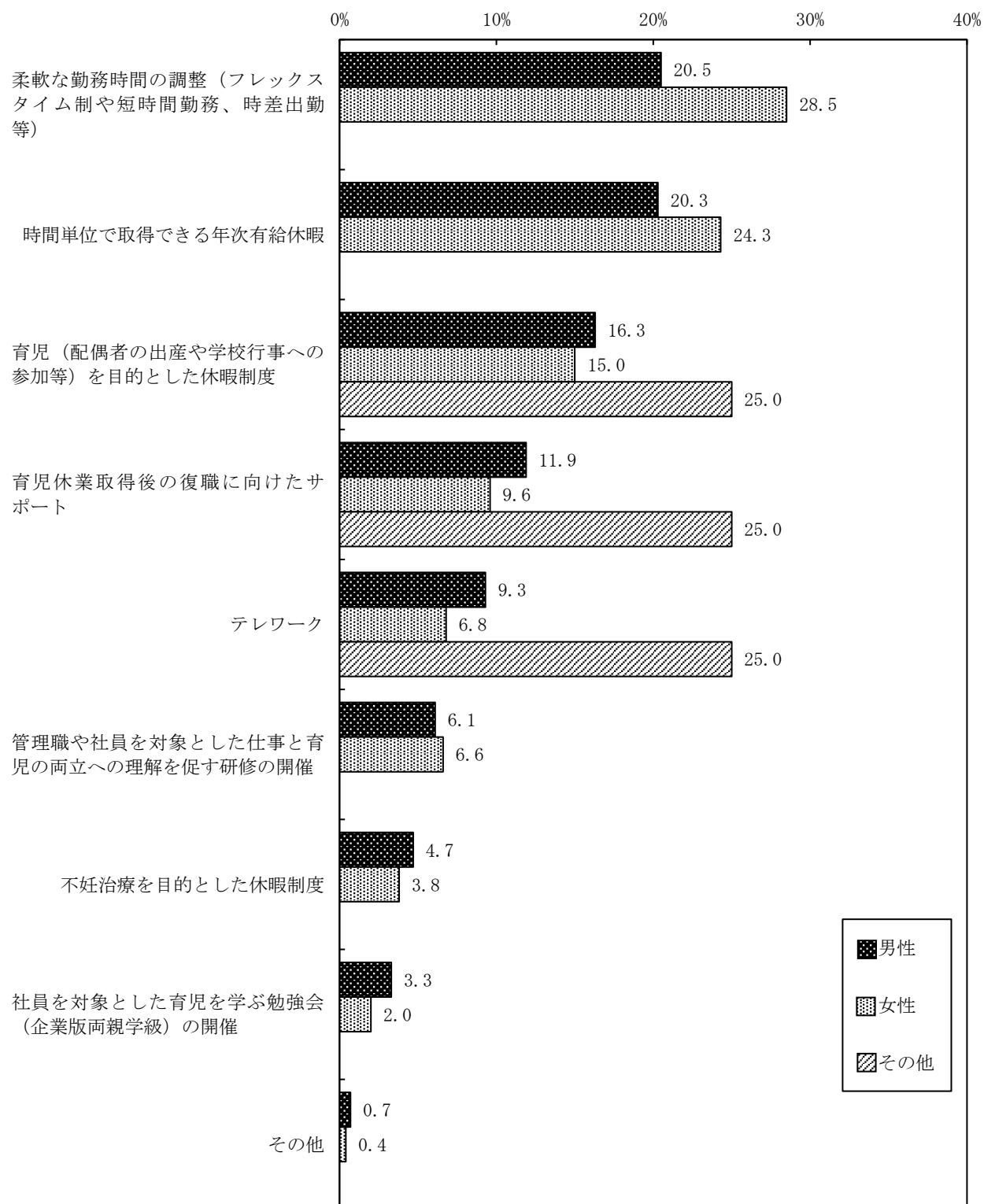
「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が 25.5%と最も高く、次いで「時間単位で取得できる年次有給休暇」22.7%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」15.5%と続いている。



【性別】

男性 20.5%、女性 28.5%で男女とも「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が最も高くなっている。

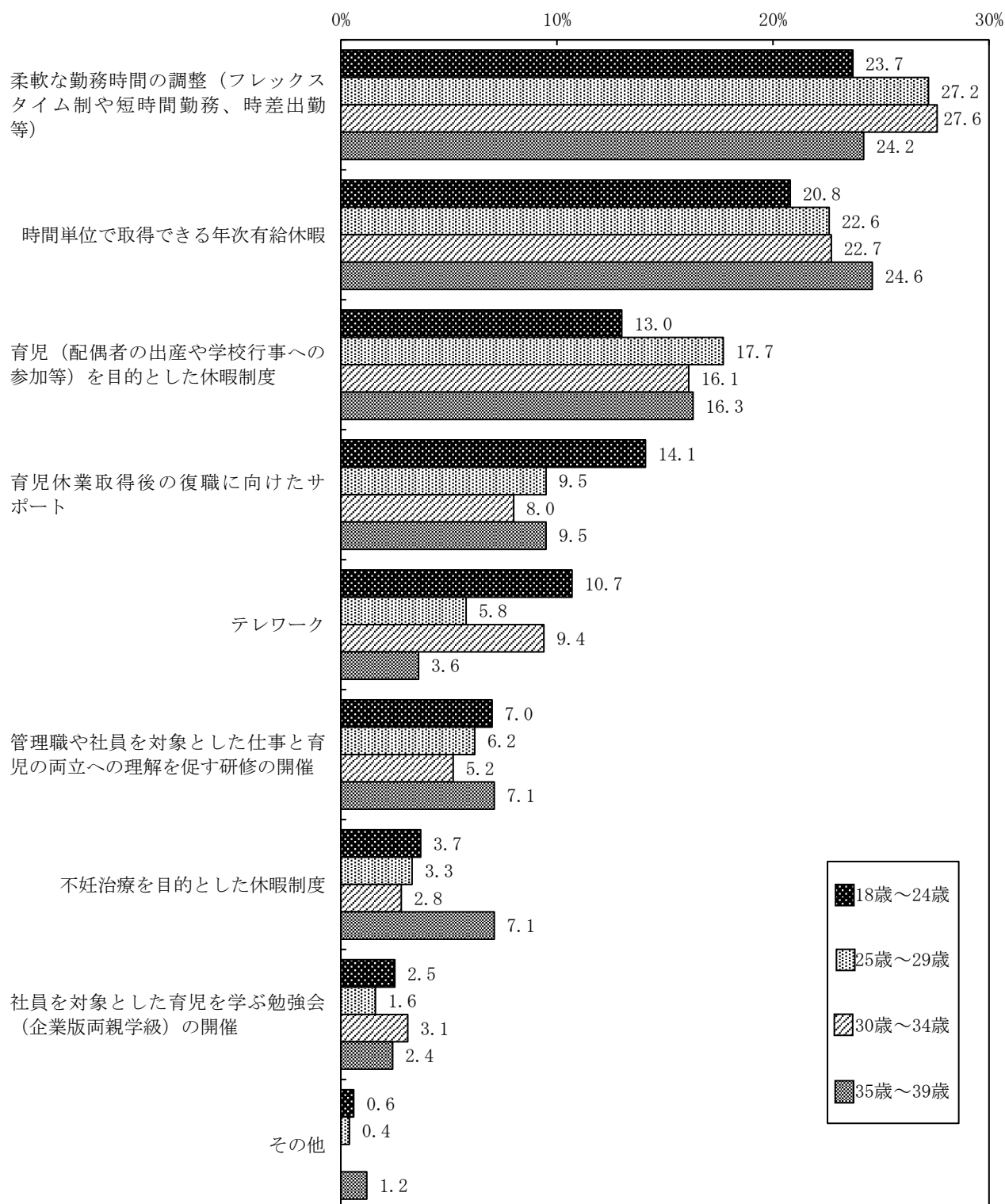
≪ 性別 ≫



【年代別】

18 歳～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳では「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が最も高く、35 歳～39 歳では「時間単位で取得できる年次有給休暇」が最も高くなっている。

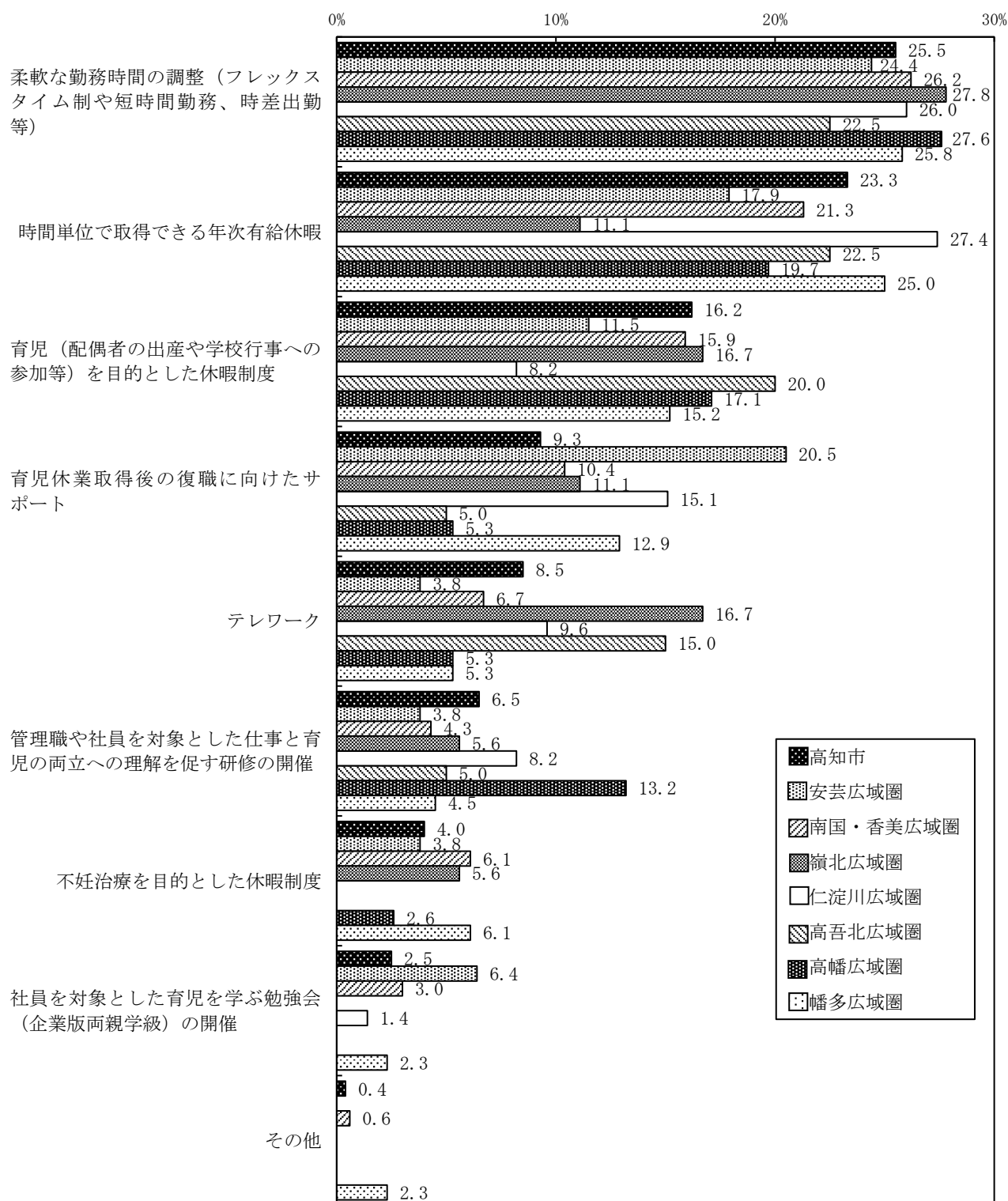
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

仁淀川広域圏、高吾北広域圏を除くすべての広域市町村圏で「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が最も高く、仁淀川広域圏では「時間単位で取得できる年次有給休暇」が、高吾北広域圏では同率で「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」と「時間単位で取得できる年次有給休暇」が最も高くなっている。

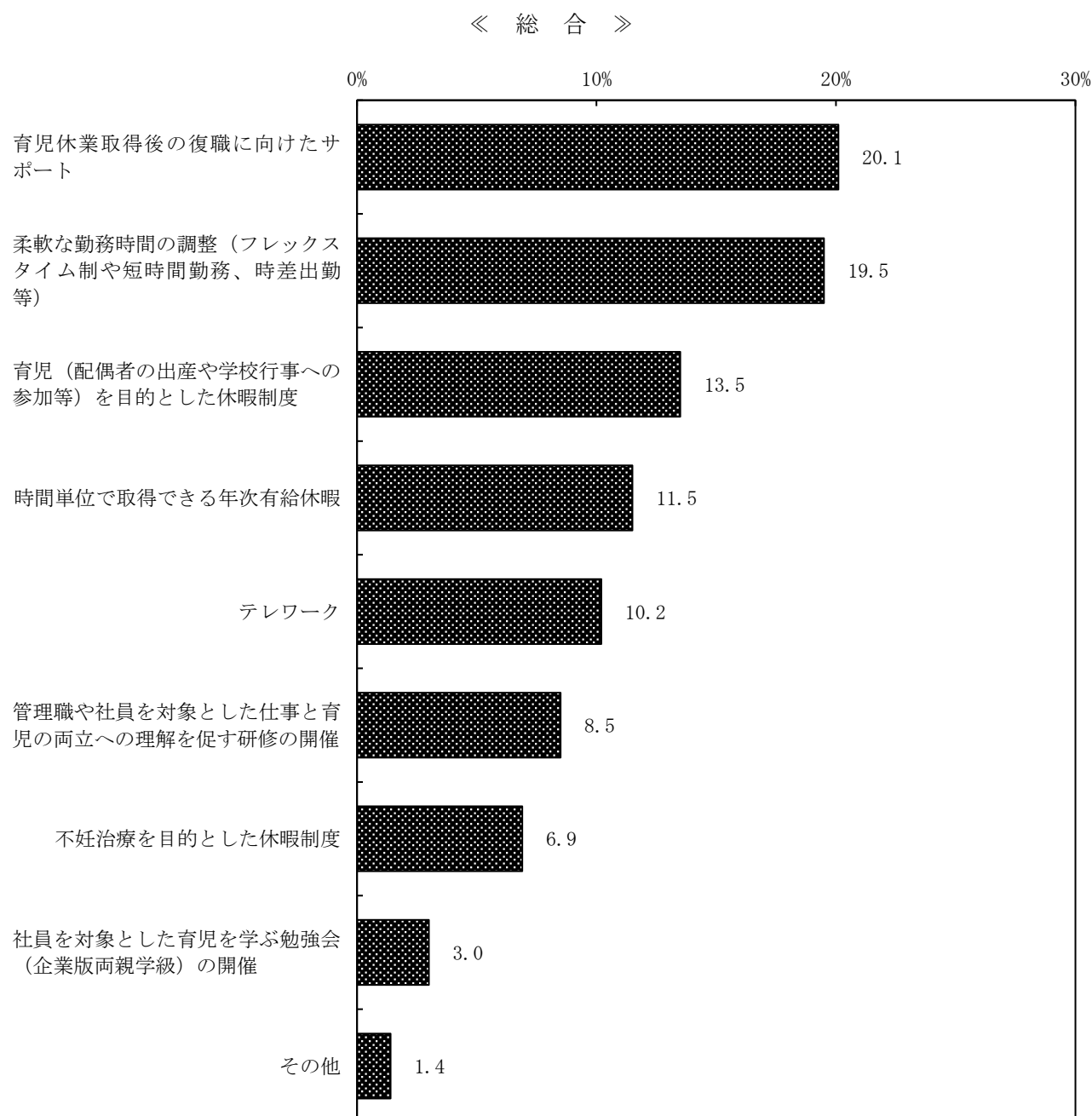
《広域市町村圏別》



問17 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。
あなたの考えに近いものから順に3位まで番号を記入してください。

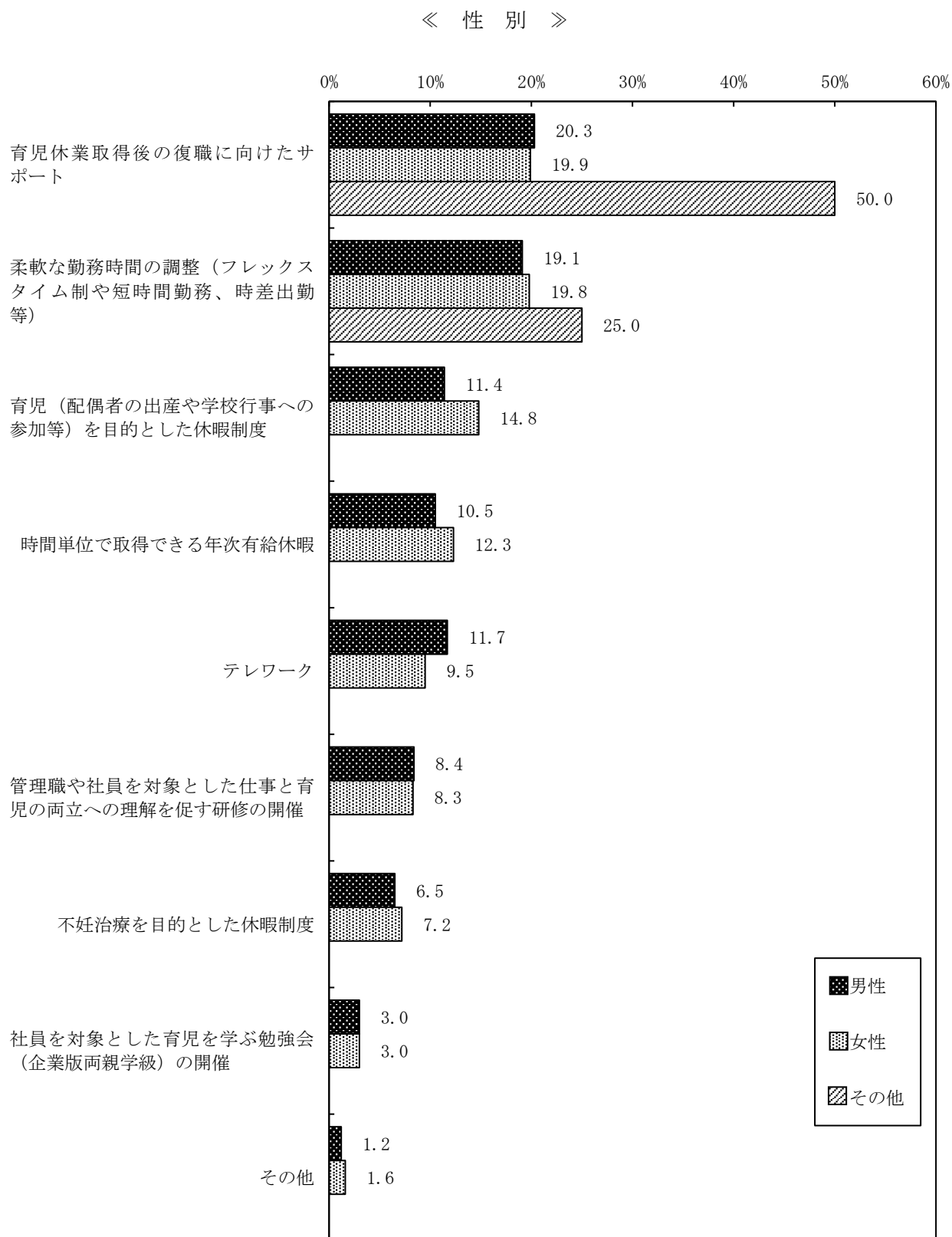
【3位】

「育児休業取得後の復職に向けたサポート」20.1%が最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」19.5%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」13.5%と続いている。



【性別】

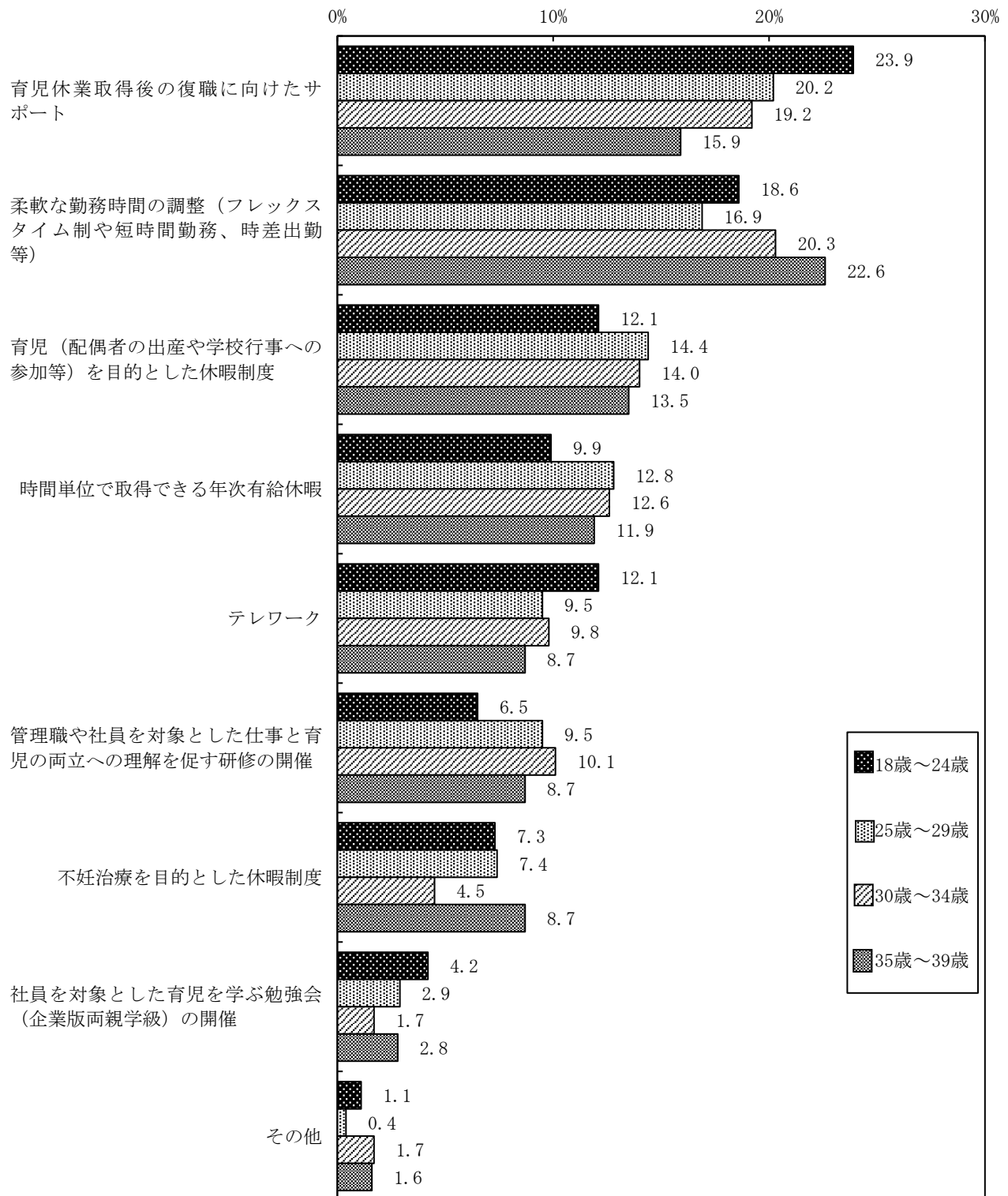
男性 20.3%、女性 19.9%で男女とも「育児休業取得後の復職に向けたサポート」が最も高くなっている。



【年代別】

18歳～24歳、25歳～29歳では「育児休業取得後の復職に向けたサポート」が最も高く、30歳～34歳、35歳～39歳では「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が最も高くなっている。

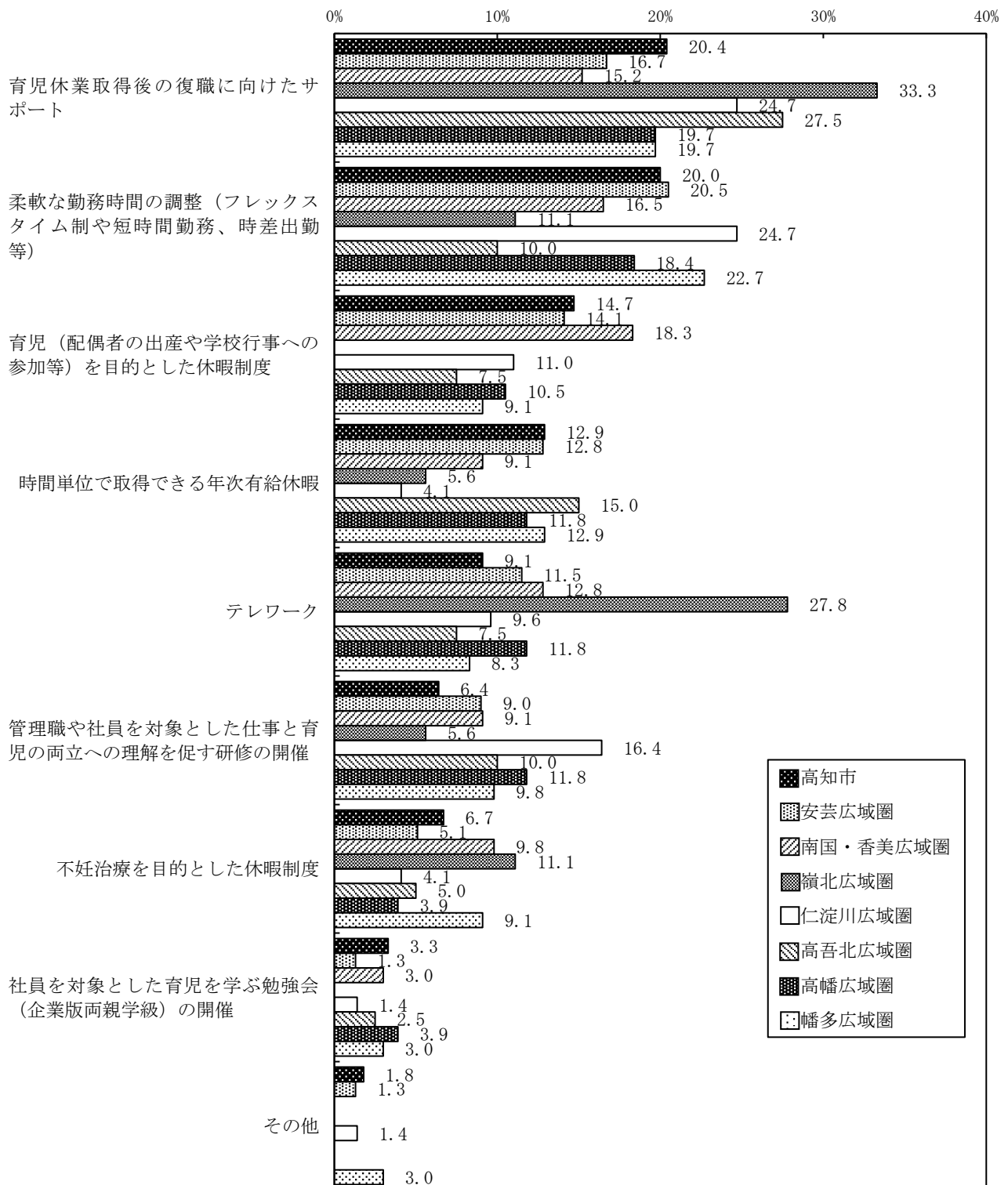
《 年 代 別 》



【広域市町村圏別】

高知市、嶺北広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏では「育児休業取得後の復職に向けたサポート」が最も高く、安芸広域圏、幡多広域圏では「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が、南国・香美広域圏では「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が、仁淀川広域圏では同率で「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」と「育児休業取得後の復職に向けたサポート」が最も高くなっている。

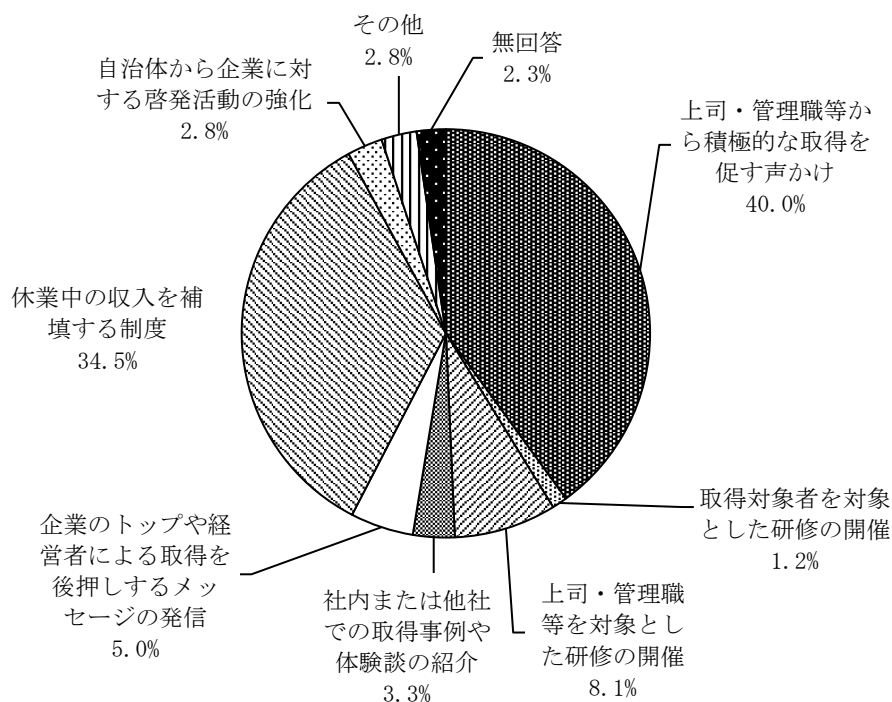
《広域市町村圏別》



問18 あなたは、男性の育児休業取得率を向上させるために、職場においてどのような支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(ひとつだけ○印)

「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が 40.0%と最も高く、次いで「休業中の収入を補填する制度」が 34.5%、「上司・管理職等を対象とした研修の開催」8.1%と続いている。

《 総 合 》



【性別】

男女とも「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。

【年代別】

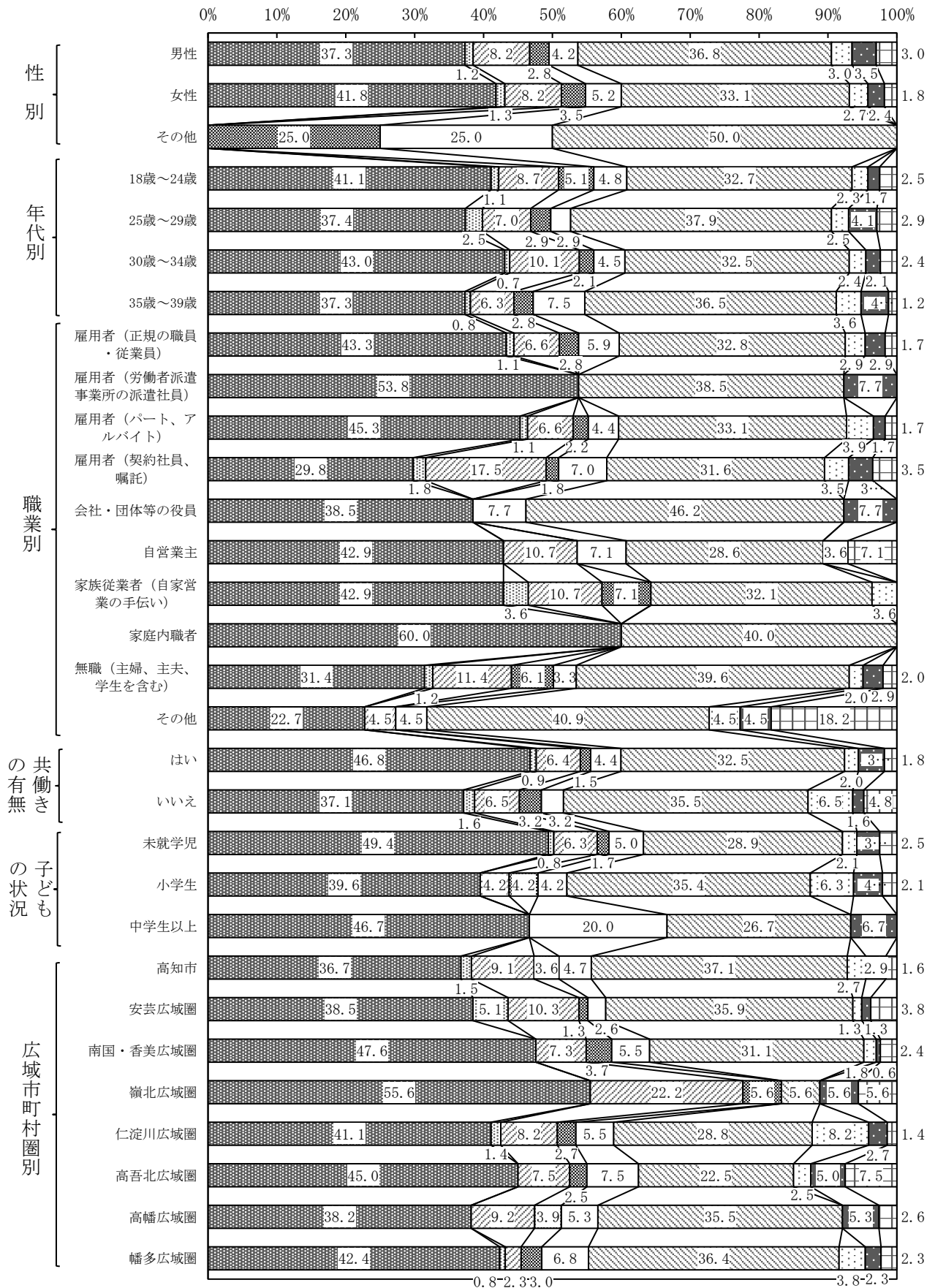
18 歳～24 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が、25 歳～29 歳で「休業中の収入を補填する制度」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

高知市で「休業中の収入を補填する制度」が、その他すべての広域市町村圏で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。

- 上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ
- 上司・管理職等を対象とした研修の開催
- 企業のトップや経営者による取得を後押しするメッセージの発信
- 自治体から企業に対する啓発活動の強化
- 無回答

- 取得対象者を対象とした研修の開催
- 社内または他社での取得事例や体験談の紹介
- 休業中の収入を補填する制度
- その他

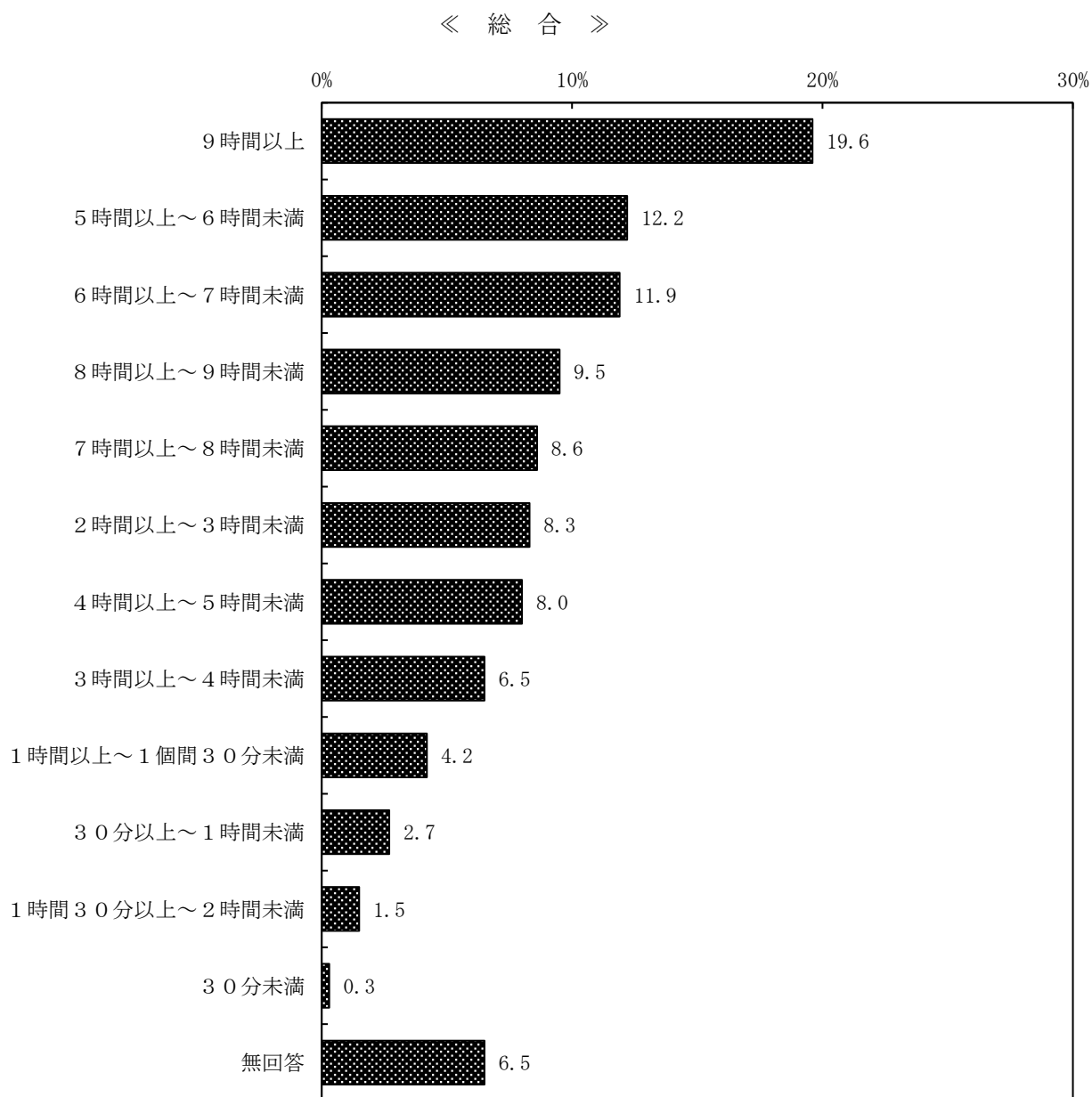


問19 現在、子育て中の方のみお答えください。

「平成28年社会生活基本調査」（総務省）によると、全国の6歳未満の子どもがいる夫婦の1日あたりの家事・育児時間の平均は、女性が7時間30分、男性が1時間22分となっています。
あなたの1日あたりの家事・育児にかかるおおよその時間を記入してください。

1. 家事・育児に要する時間【平日】

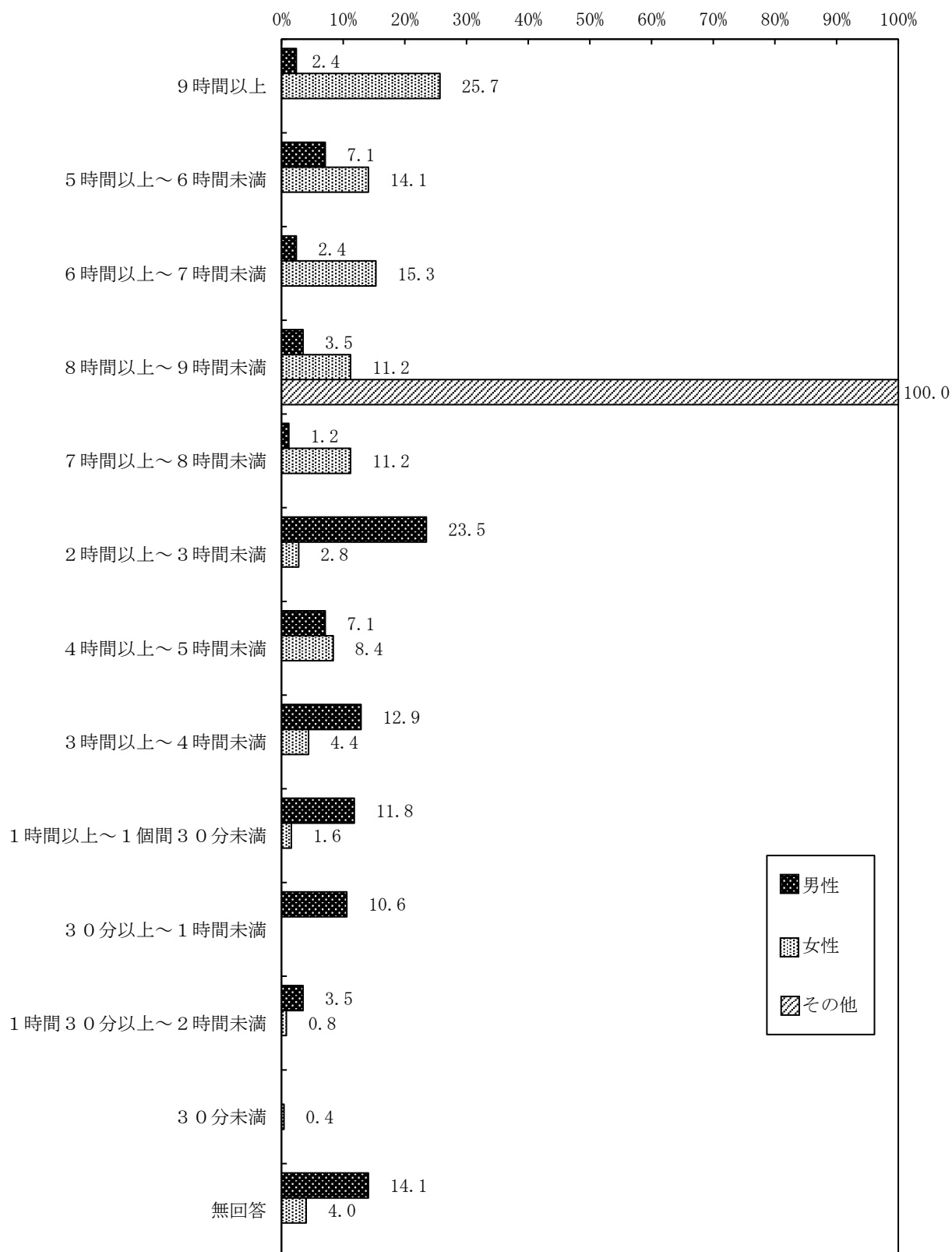
「9時間以上」が19.6%と最も高く、次いで「5時間以上～6時間未満」が12.2%、「6時間以上～7時間未満」が11.9%と続いている。



【性別】

男性では「2時間以上～3時間未満」23.5%、女性では「9時間以上」25.7%が最も高くなっている。

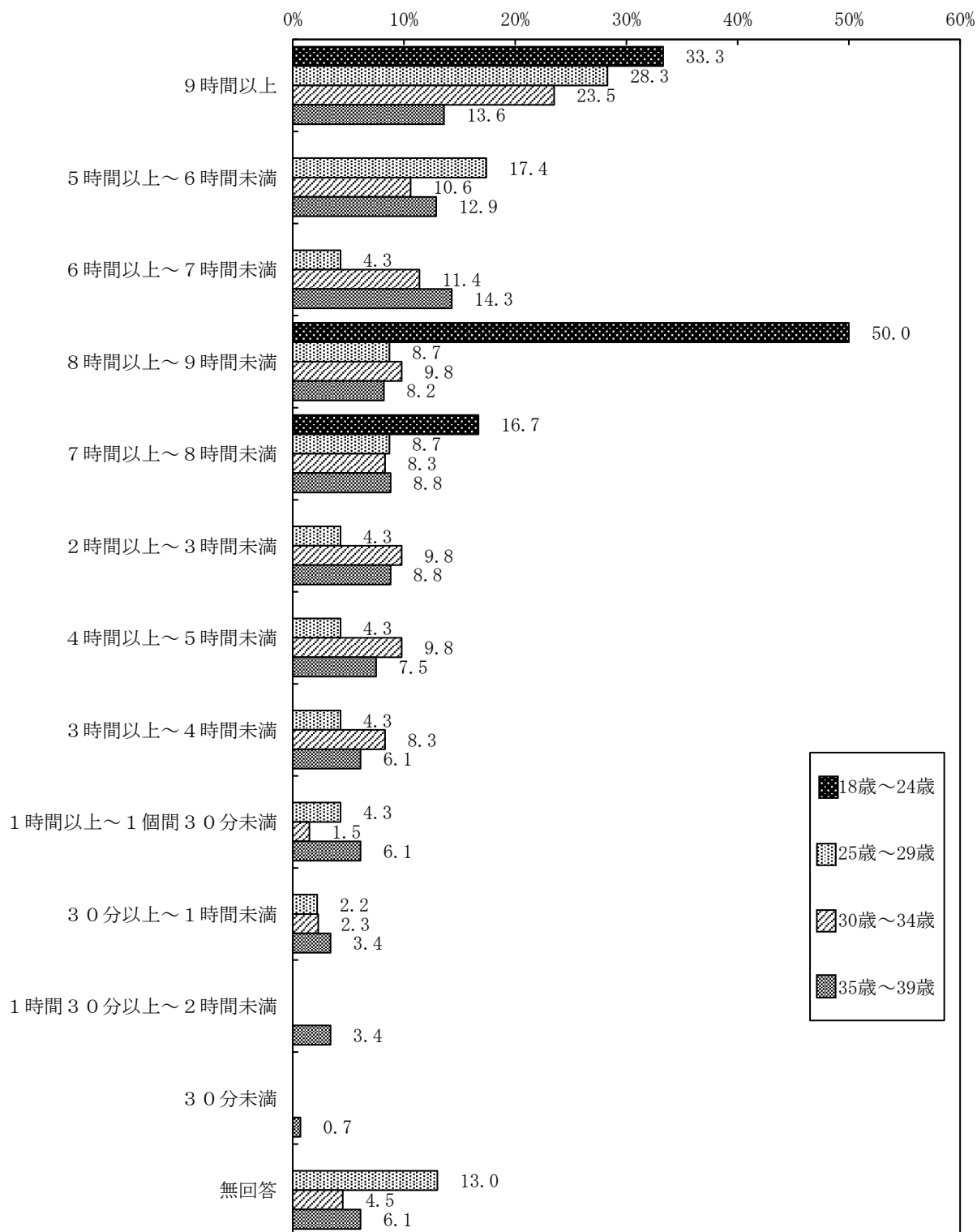
≪ 性別 ≫



【年代別】

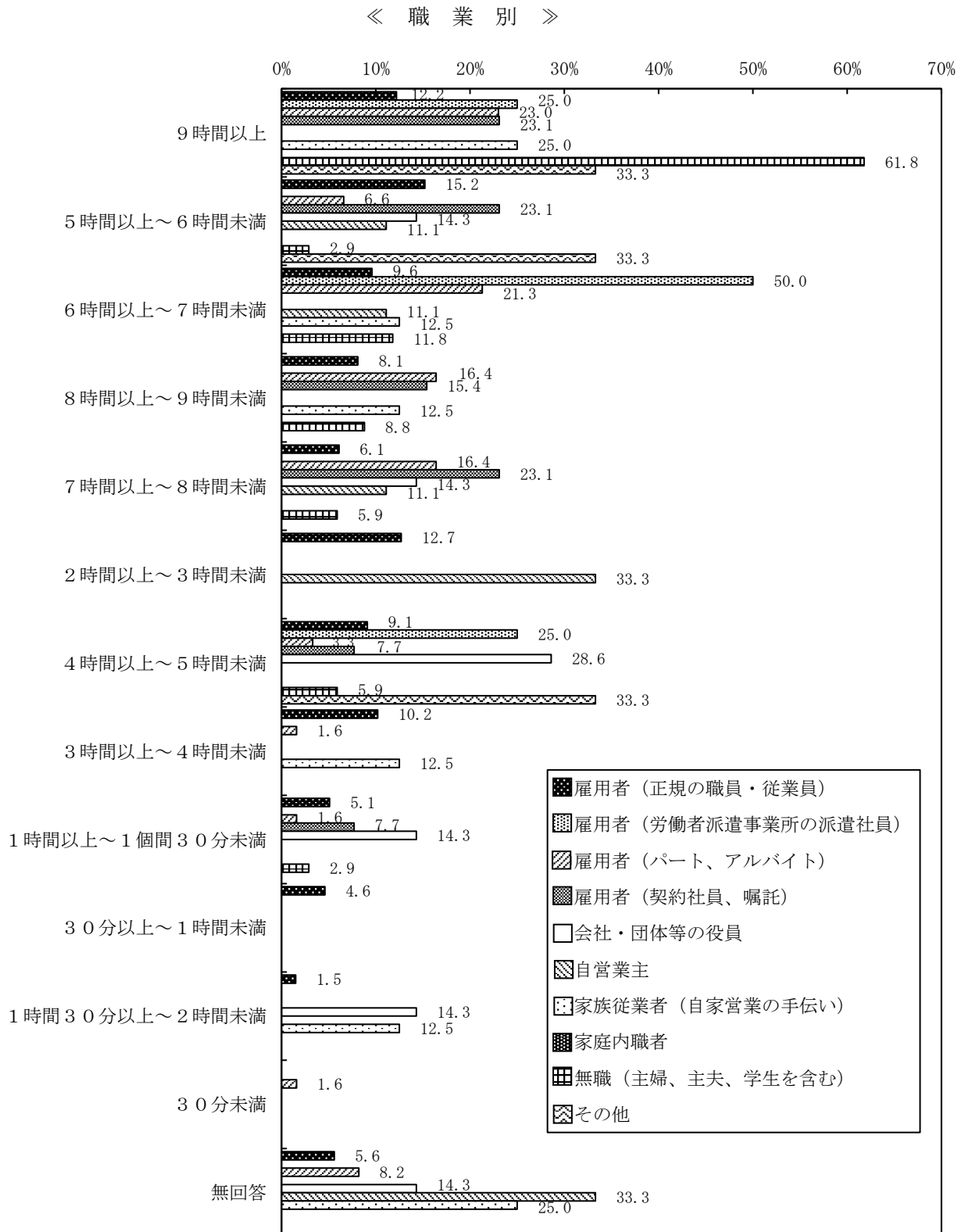
18 歳～24 歳では「8 時間以上～9 時間未満」が最も高く、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳では「9 時間以上」が、35 歳～39 歳では「6 時間以上～7 時間未満」が最も高くなっている。

《 年 代 別 》



【職業別】

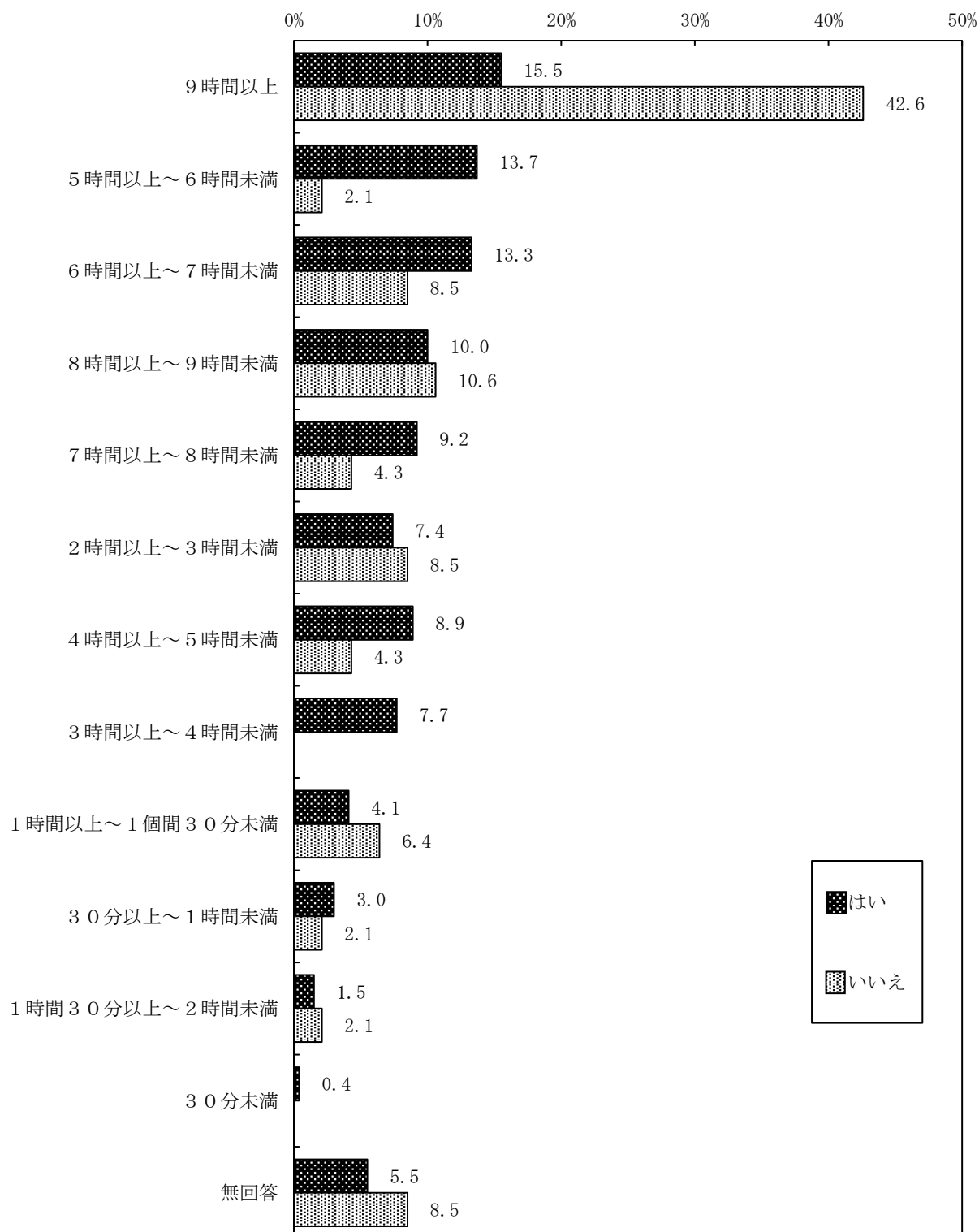
雇用者(正規の職員・従業員)では「5時間以上～6時間未満」が最も高く、雇用者(労働者派遣事業所の派遣社員)では「6時間以上～7時間未満」が、雇用者(パート、アルバイト)、無職では「9時間以上」が、雇用者(契約社員、嘱託)では同率で「5時間以上～6時間未満」と「7時間以上～8時間未満」と「9時間以上」が、会社・団体等の職員では「4時間以上～5時間未満」が、自営業主では「2時間以上～3時間未満」が、家族従業者(自家営業の手伝い)では「9時間以上」が、その他では同率で「4時間以上～5時間未満」と「5時間以上～6時間未満」と「9時間以上」が最も高くなっている。



【共働きの有無別】

共働き世帯も、共働きでない世帯も「9時間以上」が最も高くなっている。

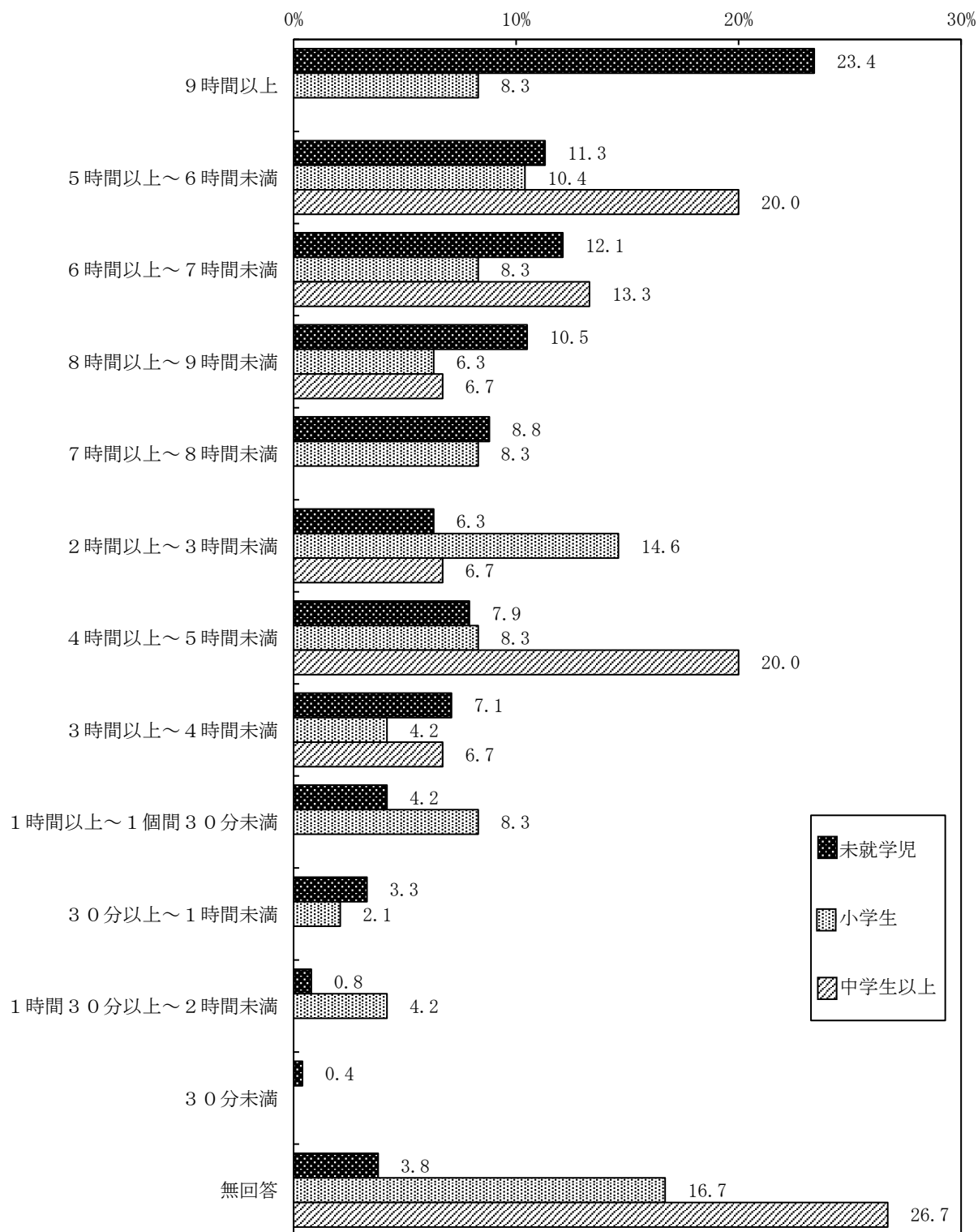
《 共働きの有無別 》



【未っ子の状況別】

未就学児では「9時間以上」が最も高く、小学生では「2時間以上～3時間未満」が、中学生以上では同率で「4時間以上～5時間未満」と「5時間以上～6時間未満」が最も高くなっている。

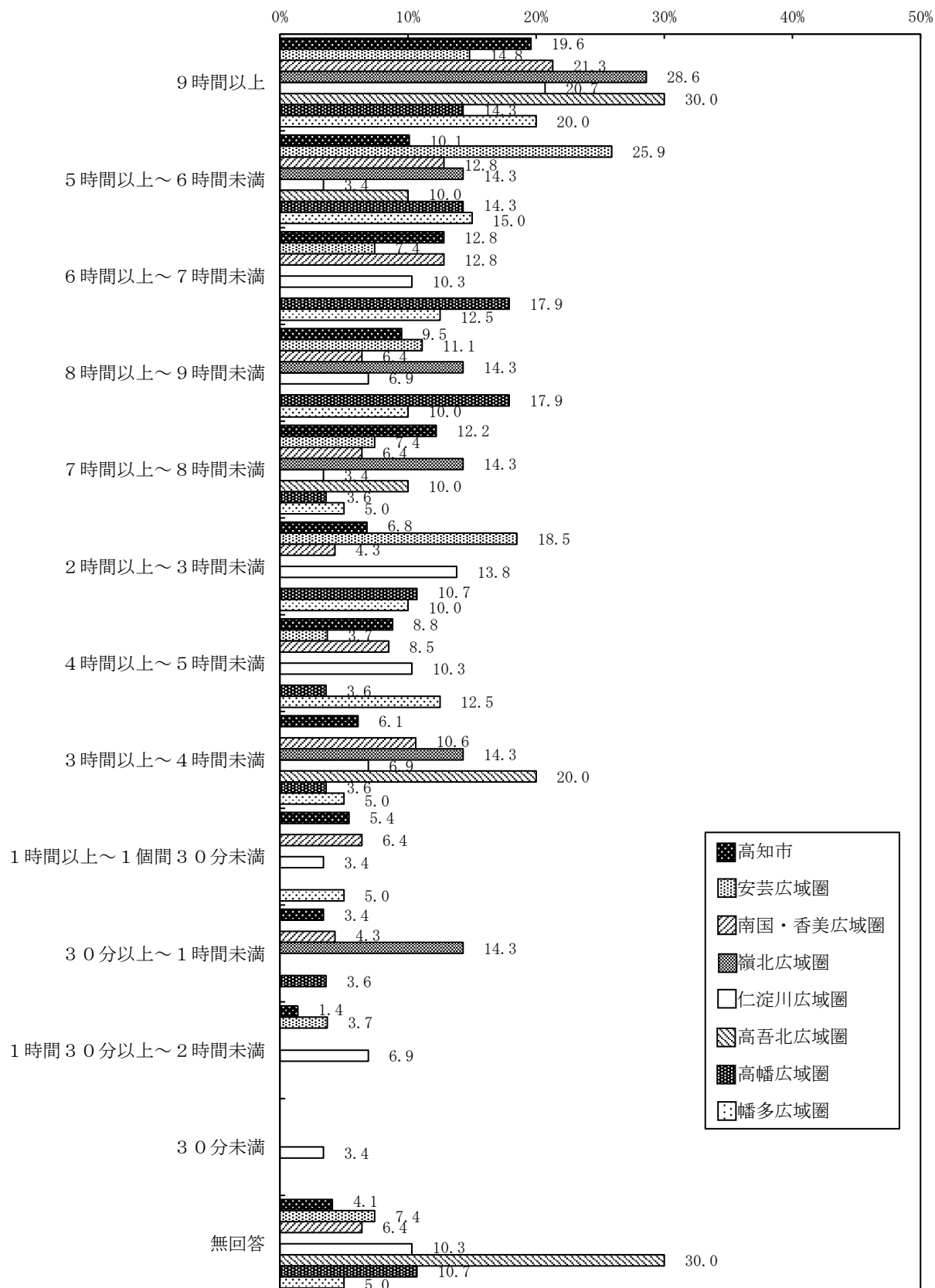
《 未っ子の状況別 》



【広域市町村圏別】

高知市、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、幡多広域圏では「9時間以上」が最も高く、安芸広域圏では「5時間以上～6時間未満」が、高幡広域圏では同率で「6時間以上～7時間未満」と「8時間以上～9時間未満」が最も高くなっている。

《広域市町村圏別》

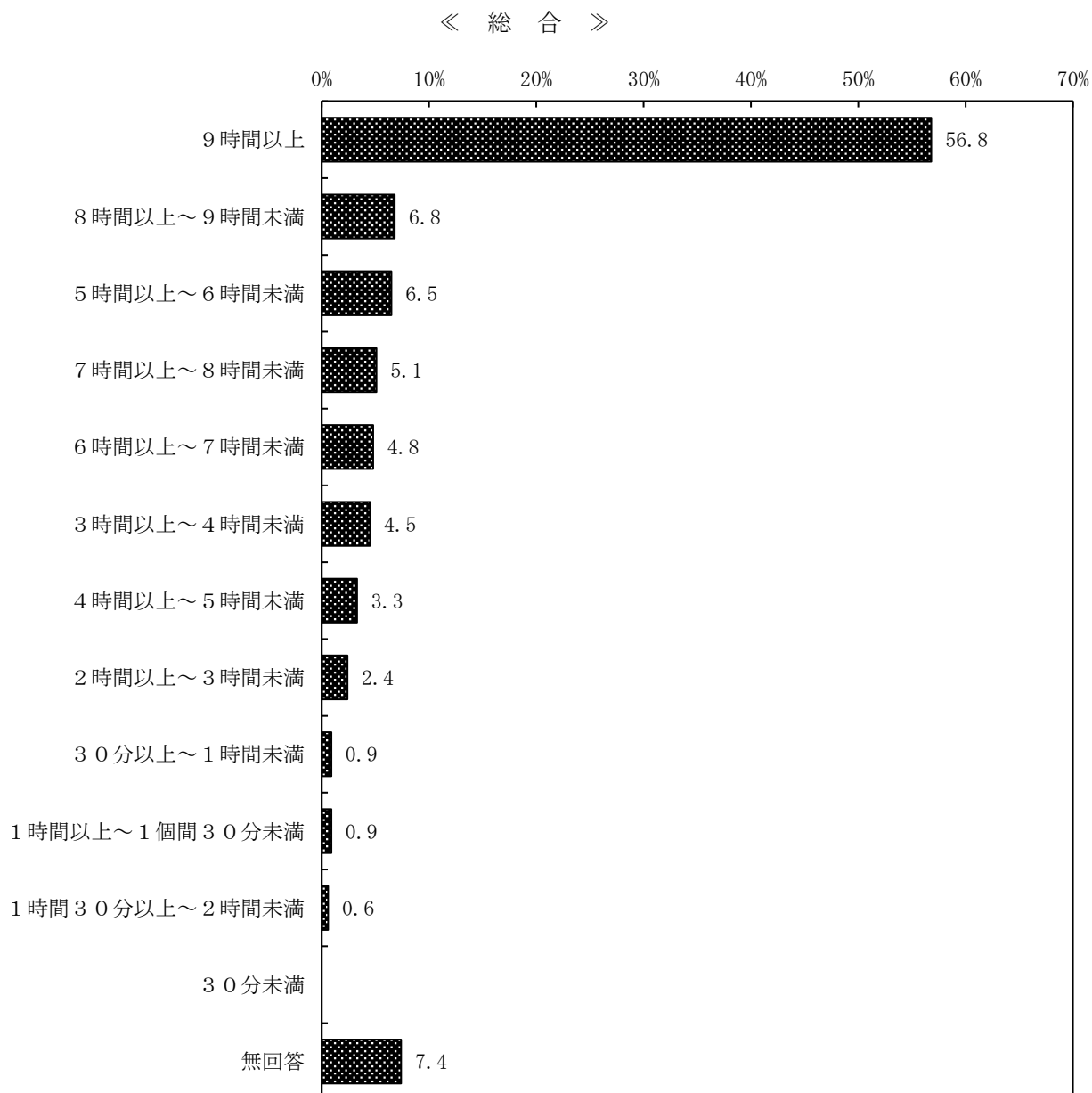


問19 現在、子育て中の方のみお答えください。

「平成28年社会生活基本調査」（総務省）によると、全国の6歳未満の子どもがいる夫婦の1日あたりの家事・育児時間の平均は、女性が7時間30分、男性が1時間22分となっています。
あなたの1日あたりの家事・育児にかかるおおよその時間を記入してください。

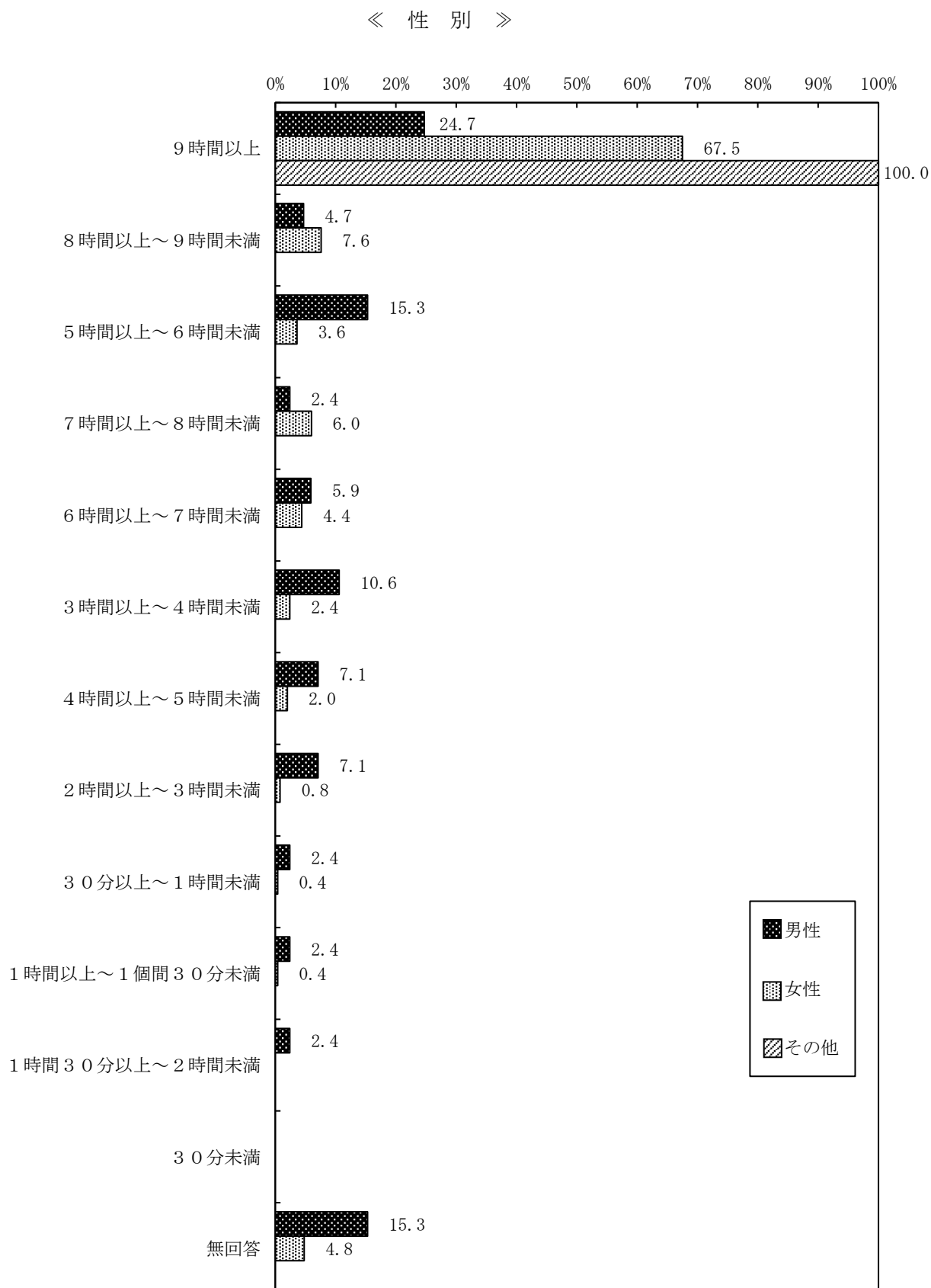
2. 家事・育児に要する時間【休日】

「9時間以上」が56.8%と最も高く、次いで「8時間以上～9時間未満」が6.8%、「5時間以上～6時間未満」が6.5%と続いている。



【性別】

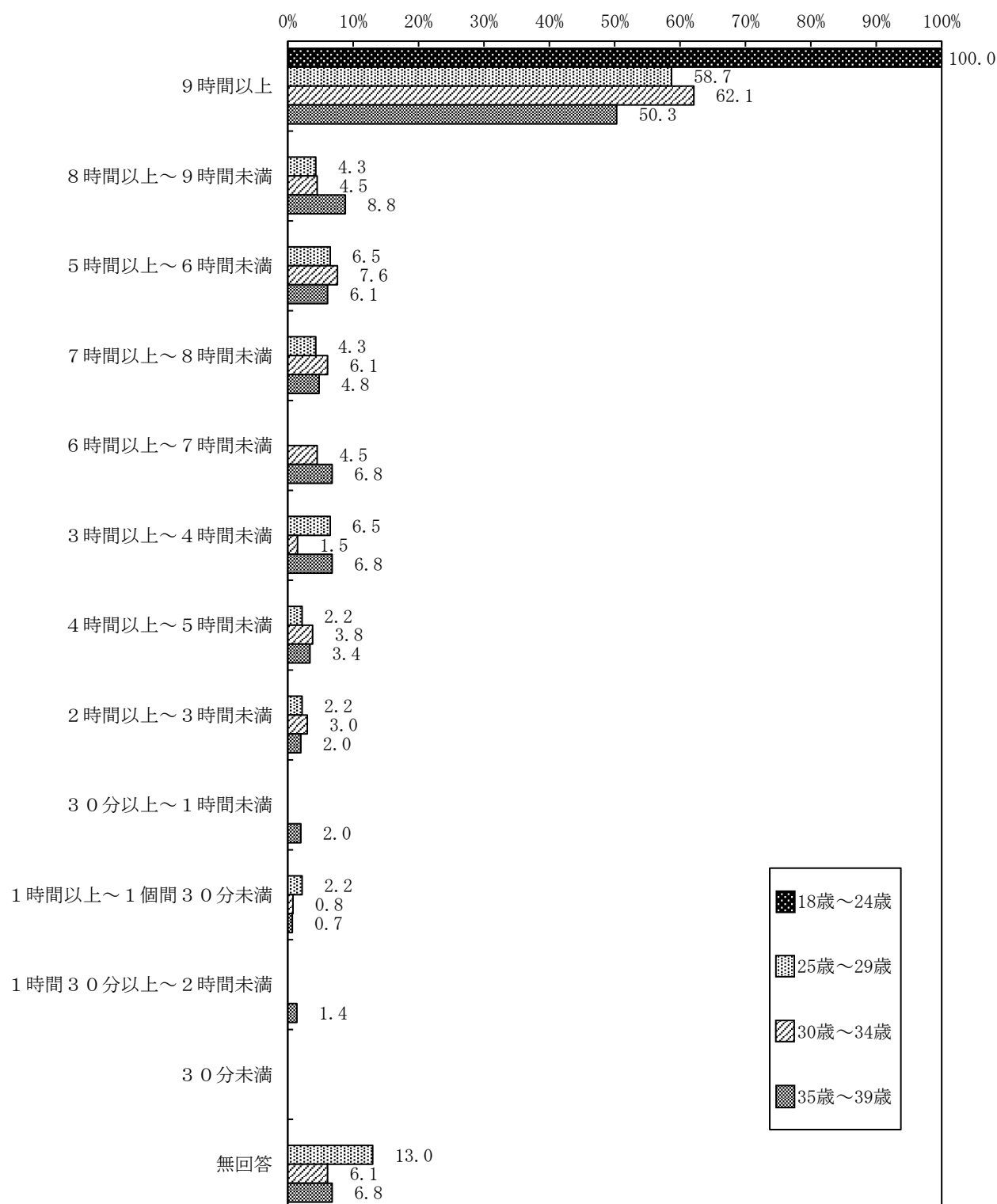
男性 24.7%、女性 67.5%で男女とも「9時間以上」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「9時間以上」が最も高くなっている。

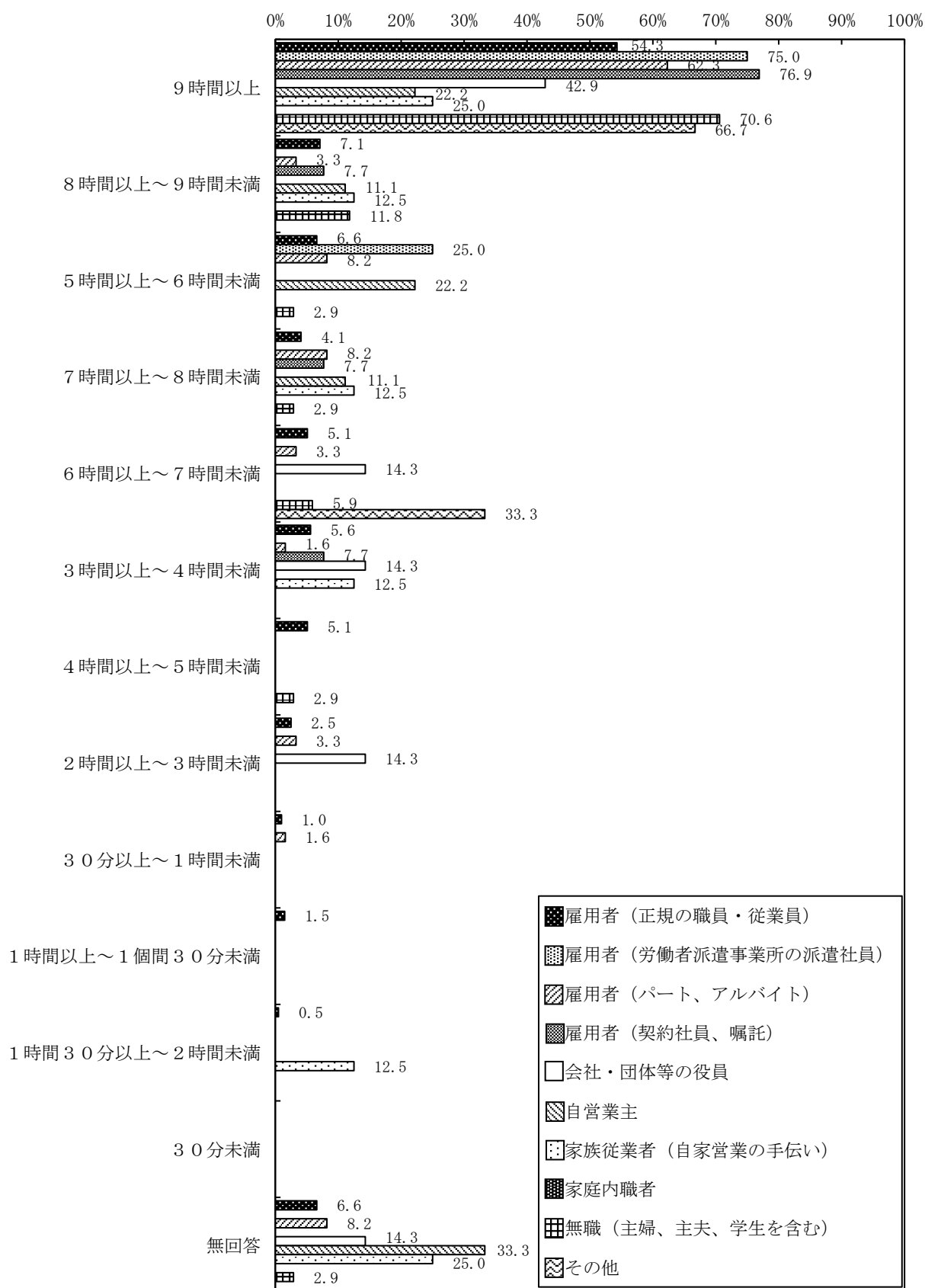
《 年 代 別 》



【職業別】

自営業主を除くすべての職業では「9時間以上」が最も高く、自営業主では同率で「5時間以上～6時間未満」と「9時間以上」が最も高くなっている。

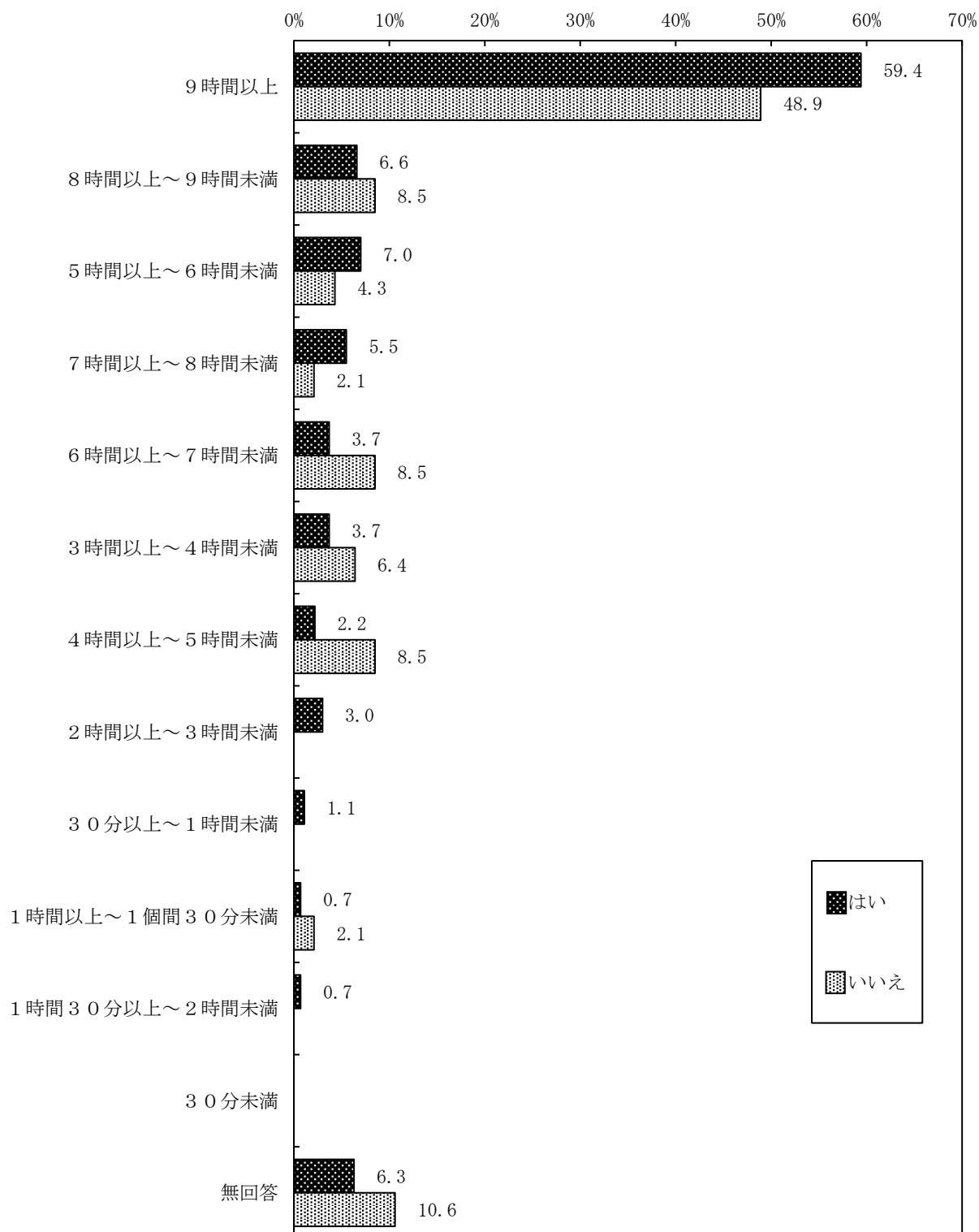
《 職 業 別 》



【共働きの有無別】

共働きの有無にかかわらず「9時間以上」が最も高くなっている。

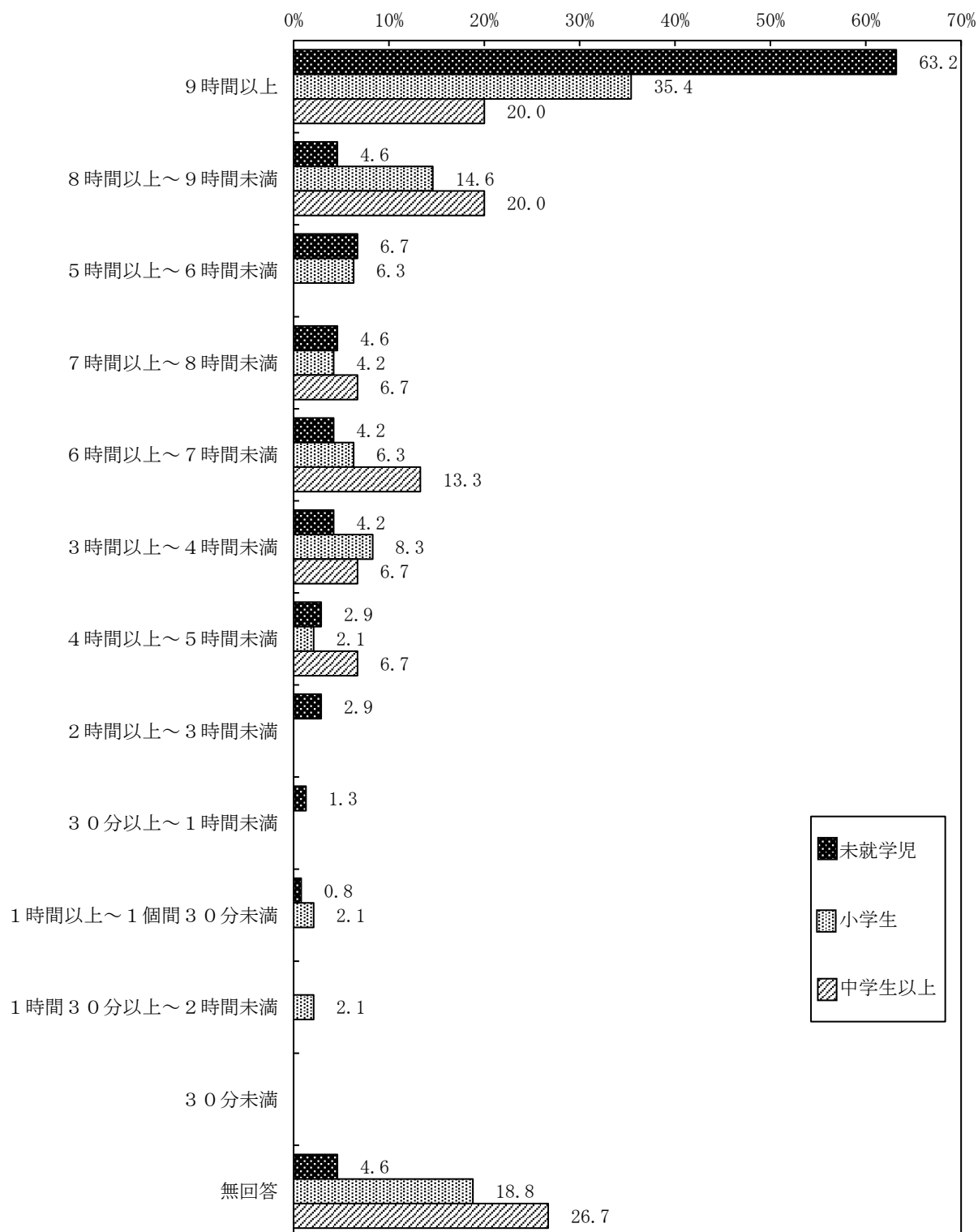
《 共働きの有無別 》



【未っ子の状況別】

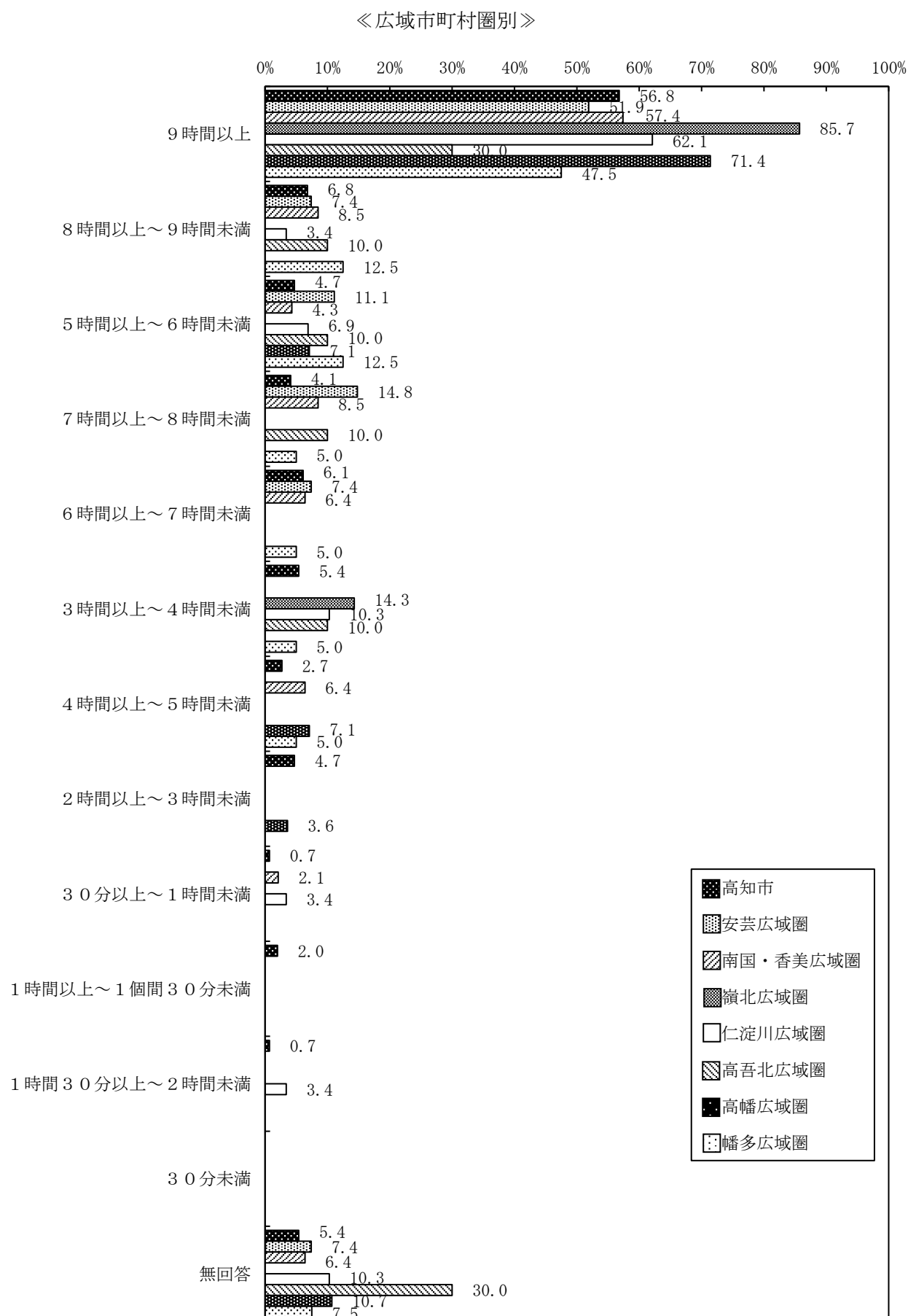
未就学児、小学生、中学生以上で「9時間以上」が最も高くなっている。

《 未っ子の状況別 》



【広域市町村圏別】

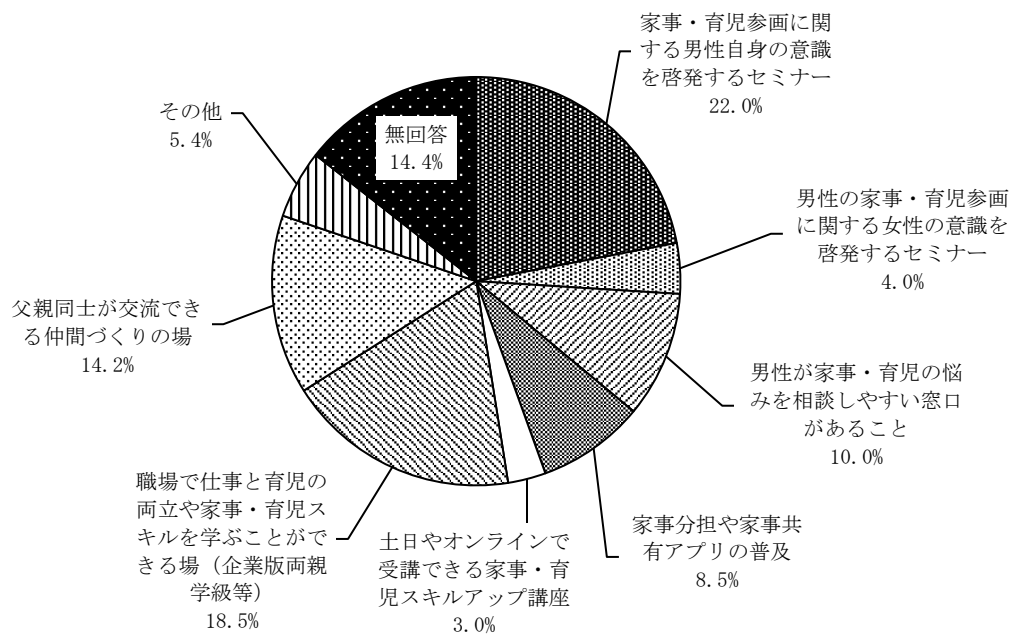
すべての広域市町村圏で「9時間以上」が最も高くなっている。



問20 男性の家庭や地域への参画を進めるために、どのような取組があったら良いと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。(ひとつだけ○印)

「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が 22.0%と最も高く、次いで「職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）」18.5%、「父親同士が交流できる仲間づくりの場」14.2%と続いている。

《 総 合 》



【性別】

男女とも「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が最も高くなっている。

【年代別】

18歳～24歳、30歳～34歳、35歳～39歳では「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が最も高く、25歳～29歳では「職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）」が最も高くなっている。

【広域市町村圏別】

高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、幡多広域圏では「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が最も高く、嶺北広域圏、高吾北広域圏では「父親同士が交流できる仲間づくりの場」が、高幡広域圏では「職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）」が最も高くなっている。

- 家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー
- 男性の家事・育児参画に関する女性の意識を啓発するセミナー
- 男性が家事・育児の悩みを相談しやすい窓口があること
- 家事分担や家事共有アプリの普及
- 土日やオンラインで受講できる家事・育児スキルアップ講座
- 職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）
- 父親同士が交流できる仲間づくりの場
- その他

